

# マチごとゼロカーボン市民会議 報告書

2023 年 3 月

所沢市  
マチごとエコタウン推進課

# マチごとゼロカーボン市民会議（第5回）での対話を踏まえて作成した「所沢市の将来像」



# マチごとゼロカーボン市民会議 報告書

## -目次-

第1章. 背景・目的.....	1
1. 背景-国内外の気候市民会議の現状-.....	1
2. 開催趣旨・目的.....	2
2-1. 開催趣旨.....	2
2-2. 目的.....	2
第2章. マチごとゼロカーボン市民会議の進め方.....	3
1. 実施体制.....	3
2. 参加者の抽出方法.....	3
3. 会議概要.....	6
4. 各会議の記録.....	9
4-1. 第1回.....	9
4-2. 第2回.....	13
4-3. 第3回.....	19
4-4. 第4回.....	25
4-5. 第5回.....	32
第3章. 投票結果.....	40
第4章. まとめ.....	49
1. 成果について.....	49
1-1. 当初の目的に対する成果.....	49
1-2. その他の効果.....	50
2. 課題について.....	51
3. まとめ.....	52
第5章. 講評（早稲田大学 平塚基志氏）.....	53
参考資料.....	56
資料1. 無作為抽出した市民への案内状.....	57
資料2. 参加意向調査のアンケート結果.....	61
資料3. グループワークの結果.....	64
資料4. 投票結果（年代別）.....	131
資料5. 投票結果（地区別）.....	144
資料6. 投票項目の詳細と自由記述一覧.....	158



## 第1章. 背景・目的

### 1. 背景 - 国内外の気候市民会議の現状 -

2015年、国際社会は地球上の平均気温の上昇を産業革命以前に比べ2℃より充分低く抑えるというパリ協定に合意し、今世紀後半の早いタイミングでの脱炭素社会実現に向け大きく舵を切った。

脱炭素社会への転換は、エネルギー供給のあり方にとどまらず、産業構造や都市空間・交通システム、ライフスタイルなど、市民の生活に大きな影響を与えることから、その方策や優先順位などについて幅広い視点で検討すること、また市民の理解と参画を得て進めることが必要となる。このため欧州では、2019年ごろから国レベル・自治体レベルで「気候市民会議」が開催されるようになってきた。

気候市民会議とは、無作為抽出などによって社会の縮図となるよう選ばれた数十名～百数十名からなる市民が、地球温暖化対策などについて話し合い、その結果を国や自治体の政策形成に活用するものである。その先駆けとなったフランスの気候市民会議では、149の提案が出され、うち約60の提案をもとに気候・レジリエンス法が成立（2021年8月）、他の提案も既存の法律の見直しや予算化などで検討が行われた。またイギリスでは気候非常事態宣言を行った多くの都市が気候市民会議を開催し、気候行動計画を策定するという動きがみられている。

日本においては、欧州のこのような動きを捉え、2020年11月から12月に北海道大学等による研究プロジェクトとして「気候市民会議さっぽろ2020」が、2021年5月から10月に民間主導による「脱炭素かわさき市民会議」が開催されるなど、市民の参画による気候変動対策と推進の新たなアプローチ方法として関心が高まりつつある。

所沢市は2020年11月に2050年までのゼロカーボンシティ実現を表明し、2022年から所沢市環境審議会（以下、「審議会」という）において「マチごとエコタウン推進計画」の改定の議論を開始するスケジュールだったことから、このプロセスに市民の意見を取り入れる方法として気候市民会議の開催を検討し、2022年8月から自治体主催としては国内初の「マチごとゼロカーボン市民会議」を開催することを決定した。

## 2. 開催趣旨・目的

### 2-1. 開催趣旨

地球温暖化の影響は熱波や豪雨、干ばつなどの形で地球全体に表れている。2019年の台風19号では所沢市内でも多くの被害が出て、各所に避難所が開設され、約900名の市民が避難する事態となった。このような自然災害は今後も益々増えるとされており、私たちの生活を脅かす事態になりかねない。

地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出を抑制するためには、一人ひとりが当事者としてこの問題を捉え、何をすべきか、何ができるかを考えていくことが重要である。

「まちごとゼロカーボン市民会議」は、選出された市民の皆様に、ゼロカーボンシティの実現に向け、市民生活に関する課題や対策について話し合っただく場として開催した。

### 2-2. 目的

参加者一人ひとりが地球温暖化問題を自分事として捉え、議論することで、問題意識を共有するとともに、会議結果を所沢市まちごとエコタウン推進計画の改定及びゼロカーボンシティ実現に向けた施策に繋げることを目的とする。

## 第2章. マチごとゼロカーボン市民会議の進め方

### 1. 実施体制

主催：所沢市

協力：早稲田大学人間科学学術院

（早稲田大学の協力について）

所沢市は、市内にキャンパスを置く早稲田大学人間科学学術院（以下「早大」）が保有する知的財産をまちづくりの資源として活かし、豊かな地域社会を創造するために、官学連携協定を締結している。早大の持つ知見を活用して、会議をより有意義なものとするとともに、会議の結果を早大と共有し、その成果を市の施策に反映することで、環境分野を始めとした各分野において市民へのフィードバックが図られるよう、早大の協力のもと、市民会議を開催した。

### 2. 参加者の抽出方法

無作為に抽出した4,500名の市民に「マチごとゼロカーボン市民会議」への参加案内を送付した。（資料1 P57参照）送付に当たっては、先行事例である「気候市民会議さっぽろ2020」及び「脱炭素かわさき市民会議」の参加希望状況において30代以下の参加希望率が低かったことを鑑み、30代以下が多くなるよう年代で傾斜配分し4,500名を抽出した。その結果、587名から返信があり、うち、参加希望の111名から、性別・年代・居住地区・生活の中での温暖化防止への取組状況・市のゼロカーボン施策の認知度などを考慮し、49名の参加市民を選出した。第1回開催後、参加者から諸事情により今後の参加が難しい旨の申し出があったため、繰上げ追加の調整を行い、最終参加市民は51名となった。

51名の構成としては、年代別の参加希望の割合も勘案して参加人数を決定したため、19歳以下は市の人口構成における割合が18.1%のところ、参加者の年齢構成では21.6%と、若年層の割合が高くなっている。年齢以外の項目については、概ね市の縮図といえる範囲となった。また、「地球温暖化対策への取組」については、アンケートの回答者398名と参加者の割合がほとんど同一となる結果となった。（表2-1から2-5並びに図2-1参照、資料2 P61参照）

表 2-1 年齢構成

年齢	人数	割合	市全体の割合
19以下	11人	21.6%	18.1%
20-29	7人	13.7%	12.1%
30-39	9人	17.6%	13.2%
40-49	7人	13.7%	17.1%
50-59	9人	17.6%	17.0%
60以上	8人	15.7%	23.0%
合計	51人	100.0%	100.4%

表 2-2 性別

性別	人数	割合	市全体の割合
男性	27	52.9%	49.4%
女性	24	47.1%	50.6%
合計	51	100.0%	100.0%

表 2-3 居住地区

	人数	割合	市全体の割合
東	16	31.4%	31.7%
西	20	39.2%	34.7%
中央	15	29.4%	33.6%
合計	51	100.0%	100.0%

※居住地区は図 2-1 のとおり、11 ある行政区を東、中央、西で分けした。

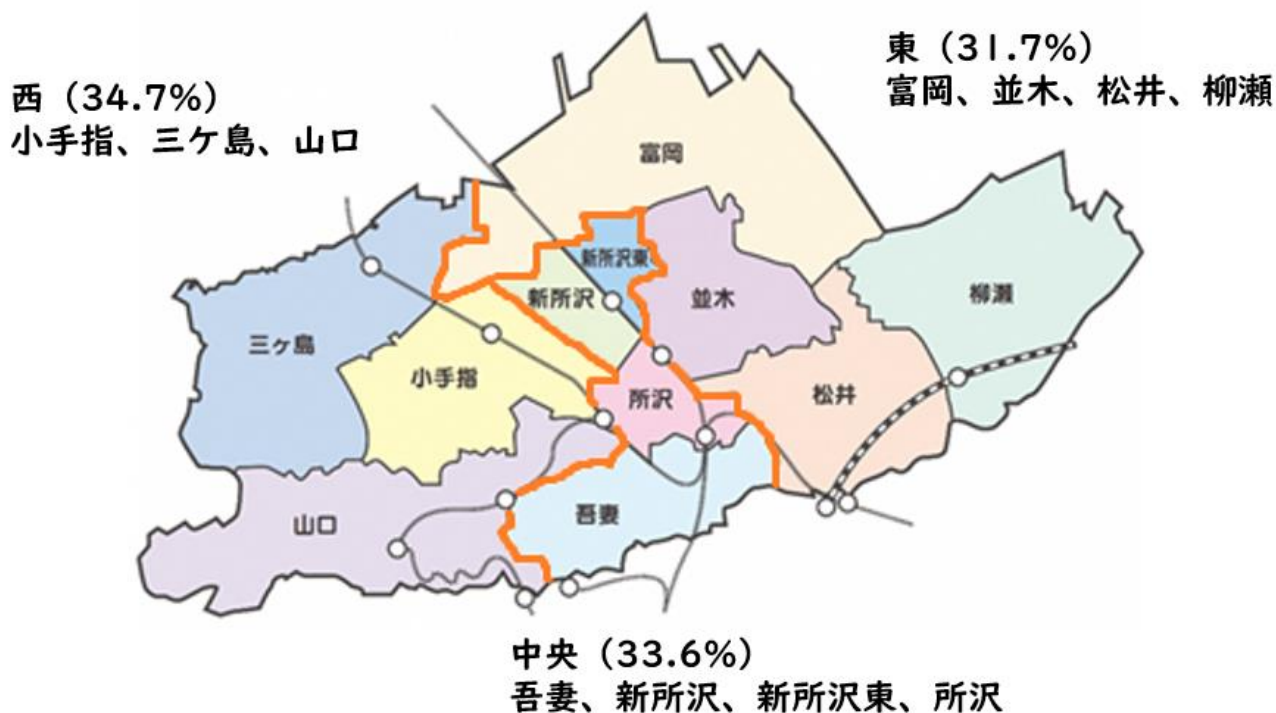


図 2-1 居住地区の分け方 ※ ( ) 内の数値は総人口に対する割合



表 2-4 意向調査票アンケート問Ⅱ（資料 2 P61 参照）への回答状況

問 2 これまでの生活において、地球温暖化対策に取り組んできましたか？

	人数	割合	回答者全体の割合※
はい	41	80.4%	80.2%
いいえ	10	19.6%	19.8%
合計	51	100.0%	100.0%

※回答のあった方398人を母数とした数値です

表 2-5 意向調査アンケート問Ⅰ（資料 2 P61 参照）への回答状況

問 1 2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするため、所沢市では様々な取組みを行っています。次のことについて、あなたが知っていることの文頭の□に✓をつけてください（✓はいくつでも）。なお、全て知らない場合には「全て知らないの」の□に✓をつけてください。

選択肢	人数	割合	R3年市民意識調査の回答結果※
市がゼロカーボンシティ宣言を表明していること	16	31.4%	11.0%
ところざわ未来電力が供給する環境負荷の少ない電力を公共施設で使用していること	10	19.6%	9.8%
ところざわ未来電力が、家庭向けに電力を販売していること	6	11.8%	6.9%
毎月25日を「RE100の日」として本庁舎等の使用電力を再生可能エネルギー100%にしていること	1	2.0%	3.2%
メガソーラー所沢やフロートソーラー所沢を設置し、市域へ再生可能エネルギーの普及を行っていること	11	21.6%	12.8%
家の断熱リフォームや太陽光発電設備、電気自動車等を導入する際の補助制度があること	13	25.5%	23.8%
全て知らない	24	47.1%	55.6%

※5,000人に送付し、2,437人が回答

### 3. 会議概要

会議は8月から12月まで毎月1回、日曜日の午後1時から午後5時に開催した。第2回から第4回にかけて話し合う6つのテーマについては、初回の対話結果をもとに参加者の承認を得て決定した。司会は平塚基志准教授（早稲田大学人間科学学術院）が行い、全5回のテーマと話題提供者は表6のとおりとした。

グループワークは、あらかじめ性別や年齢のバランスを考慮して分けられたグループで実施した。各グループにはファシリテーター（市職員）とサブファシリテーター（早稲田大学学生）を一人ずつ配置し、議論の進行をサポートした。なお、テーマ1からテーマ6に関する議論は、以下のように進行した。

#### 【テーマ議論の進め方】

- ① 専門家や実践者、市担当部局からの情報提供
- ② グループワーク

（テーマ1～5）

- STEP1 生活の中や地域で取り組んだ方が良いと感じる取組
- STEP2 実施するにあたっての課題
- STEP3 課題への対処方法

（テーマ6）

- STEP1 地域のステークホルダー（関係者）
- STEP2 複数のステークホルダーの連携で実施できるアイデア

- ③ 全体共有

グループワークは基本的に付箋紙と模造紙を使用して行い、①個人ワーク、②グループ内でのシェア、③アイデアの整理とグルーピングの順で進行した。



表 2-6 全 5 回のテーマと話題提供者

日程	内容	話題提供者（敬称略）
第 1 回 8 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催趣旨・目的</li> <li>・ 話題提供 「気候変動の現状と脱炭素の必要性」 「ゼロカーボンシティ実現に向けた所沢市の現状」 「カーボンフットプリントからみた所沢市の脱炭素型ライフスタイル」</li> <li>・ グループワーク「ゼロカーボンを実現するために普段の生活で取組んだ方がよいこと」</li> <li>・ 第 2～4 回で議論するテーマを決定</li> </ul>	<p>所沢市マチごとエコタウン推進課</p> <p>江守正多（国立環境研究所） 所沢市マチごとエコタウン推進課</p> <p>小出 瑠（国立環境研究所）</p>
第 2 回 9 月 25 日	<p>テーマ 1 『商品選択からゼロカーボンを考える』</p>	<p>渡部厚志（地球環境戦略研究機関） 中ノ理子（イオン株式会社） 日橋忠洋（所沢市環境推進員） 所沢市資源循環推進課</p>
	<p>テーマ 2 『食・農からゼロカーボンを考える』</p>	<p>横沢正幸（早稲田大学） 渋谷正則（OEC マルシェ株式会社） 所沢市農業振興課</p>
第 3 回 10 月 23 日	<p>テーマ 3 『エネルギーからゼロカーボンを考える』</p>	<p>松原弘直（環境エネルギー政策研究所） 神藤年三（所沢市自治連合会役員） 所沢市マチごとエコタウン推進課</p>
	<p>テーマ 4 『住まいからゼロカーボンを考える』</p>	<p>外岡 豊（埼玉大学） 上田マリノ（所沢市マチエコアンバサダー） 所沢市マチごとエコタウン推進課</p>
第 4 回 11 月 27 日	<p>テーマ 5 『移動からゼロカーボンを考える』</p>	<p>松橋啓介（国立環境研究所） 井原雄人（早稲田大学） 所沢市都市計画課</p>
	<p>テーマ 6 『地域での連携からゼロカーボンを考える』</p>	<p>島田幸子（環境パートナーシップ会議） 神谷一彦（県立所沢高校）</p>
第 5 回 12 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投票結果の共有</li> <li>・ 話題提供『里山の利用等』</li> <li>・ グループワーク「所沢市の将来像」</li> <li>・ グループワーク「対策アイデアの整理」</li> </ul>	<p>所沢市マチごとエコタウン推進課</p> <p>平塚基志（早稲田大学）</p>

### 【グループワークの結果】

第4回終了後、6つのテーマに関するグループワークの結果から、「進めたい取組」「推進のための具体的な対策」「複数のステークホルダーの連携で実施できるアイデア」について事務局で整理を行い、テーマごとに5件程度、計28件の項目（設問）を作成した。そして28の設問に対し、参加市民の賛同度合および優先度を表明していただく投票を行い、その結果（速報）を第5回で共有した。（第3章及び資料4 P131、資料5 P144 参照）

さらに第5回のグループワークでは、居住地区をもとに構成されたグループ（東〔富岡、並木、松井、柳瀬〕、中央〔吾妻、新所沢、新所沢東、所沢〕、西〔小手指、三ヶ島、山口〕）で、各地区の特性を考慮しながら以下の2点について議論した。

- ① 「所沢市の将来像について」※
- ② 「対策アイデア（28項目）の整理」について

※これまでのグループワークの結果をふまえ早稲田大学で土台のデザインを作成

第5回終了後、議論の結果とその経緯を取りまとめ、参加市民の意見を聴取したうえで「マチごとゼロカーボン市民会議報告書（速報版）」を作成し、令和5年2月の審議会に提出した。



## 4. 各会議の記録

### 4-1. 第1回

■日 時 2022年8月21日（日）13:00～17:00

■場 所 所沢市役所 市庁舎高層棟8階大会議室（話題提供者・江守氏はオンライン参加）

#### 4-1-1. プログラム

13:00	20分	開会 藤本市長よりご挨拶 所沢市より趣旨説明	
13:20	15分	チェックイン	グループ内で他己紹介
13:35	35分	「所沢市の好きなところ・魅力だと思ふところ」を話し合おう	グループをまたいで“所沢”を考える（ワールドカフェ）
14:10	10分	休憩	
14:20	55分	話題提供1 江守正多氏より	「気候変動の現状と脱炭素の必要性」 質疑応答
15:15	10分	話題提供2 所沢市マチごと エコタウン推進課より	「ゼロカーボンシティ実現に向けた所 沢市の現状」
15:25	20分	話題提供3 小出 瑠氏より	「カーボンフットプリントからみた所 沢市の脱炭素型ライフスタイル」
15:45	10分	休憩	
15:55	60分	グループワーク	「ゼロカーボンを実現するために普段 の生活で取り組んだ方がよいこと」
16:55	5分	チェックアウト・閉会	連絡事項など

#### 4-1-2. 記録

##### (1) 開会・市長挨拶・趣旨説明

はじめに、藤本市長による開会挨拶を行い、続いてマチごとエコタウン推進課より会議の趣旨、目的及び会議の構成や進め方等の説明を行った。

##### (2) チェックイン（他己紹介）

まず各グループ内で2人1組になり、4つ折りにした用紙に「①ニックネーム、②所沢在住歴、③最近のマイブーム、④（市民会議の）招待状が届いてどう感じたか」の4点を書き込んでパートナーに自己紹介し、次にグループ内で相互にパートナーを紹介した。

##### (3) “所沢”を考える

参加者間の交流とグループワークの練習を兼ねて、



「所沢市の好きなところ・魅力だと思うところ」をテーマとしたグループ討議をワールドカフェ形式で実施した。①各グループでの意見出し、②グループを移動しての情報交換、③元のグループでの意見共有の3つのステップで行い、最後に2つのグループから全体へ向けた発表を行った。

#### (4) 話題提供1 「気候変動の現状と脱炭素の必要性」(江守正多氏)

「気候変動の現状と脱炭素の必要性」をテーマとして、国立環境研究所の江守正多氏より話題提供を行った。

初めに、地球温暖化の要因と、CO<sub>2</sub>の濃度の変化やその他の温室効果ガスの排出状況について解説し、次いで国際社会の約束である、パリ協定での目標について説明した。そして、地球温暖化の影響や被害の見込みを示し、温暖化の影響はCO<sub>2</sub>を大量に排出してきた先進国よりも、発展途上国や将来世代により深刻な被害をもたらすという状況を解説した。最後に、世界のエネルギーは再生可能エネルギーを急激に伸ばし、化石エネルギーを削減していく必要があること、日本の排出削減目標は個人の我慢では達成できないことを示し、脱炭素化の実現のためには社会の大転換を起こす必要があることを訴えた。

話題提供の後の質疑応答では、「所沢市への影響」や「世界と日本の温暖化対策への考えの違い」、「私たちができること」などの質問があった。時間の関係で会議の中で回答できなかった質問については、後日文書にて回答した。

#### (5) 話題提供2 「ゼロカーボンシティ実現に向けた所沢市の現状」(所沢市マチごとエコタウン推進課)

ゼロカーボンシティ実現に向けた所沢市の現状について、マチごとエコタウン推進課より情報提供を行った。これまでの市の政策とゼロカーボンシティ達成の道筋や所沢市域のCO<sub>2</sub>の排出状況を解説し、市内の再エネ施設と地域還元の仕組みや、地域新電力事業(ところざわ未来電力)の現状を紹介した。

#### (6) 話題提供3 小出 瑠氏

カーボンフットプリント(製品やサービスの原料調達から製造、運搬、販売、廃棄までのすべての段階におけるCO<sub>2</sub>等の温室効果ガス排出量)からみた所沢市の脱炭素型ライフスタイルをテーマとして、国立環境研究所の小出瑠氏より情報提供を行った。

初めに日本のカーボンフットプリントとセクター別排出量の概要が示され、次いで埼玉県 averages 例としてさいたま市のデータを用いて解説した。さらに、脱炭素型ライフスタイルの4つのアプローチとその選択肢の例を挙げ、削減効果が大きい脱炭素アクションのイメージを「住居、移動、食、消費財・レジャー」の4分類で具体的に示した。最後に、市民の脱炭素アクションを広げていくためには、地域の様々な主体による環境整備が必要で、そのためには行政・自治体の取組が重要であることを説明した。

#### (7) グループワーク

話題提供を受けて、グループごとに「ゼロカーボンを実現するために普段の生活で取り組

んだ方が良いこと」をテーマとする意見交換を行い、下記のような意見が示された。

**〔ごみの削減に関すること〕**

- ものを大切にし、不要な物は買わない
- ゴミの分別をする
- ペットボトルからマイボトルへ
- スーパーでリユース容器を活用する
- 3Rの推進

**〔移動に関すること〕**

- 電気自動車を購入しやすくする
- 空いている駐車場でカーシェアを拡大する
- 徒歩や公共交通利用で貯まるポイント制度の導入
- 自転車道を整備する
- テレワークを推進する

**〔農業や食に関すること〕**

- 食べ残しをなくし、フードロスを削減する
- 農産物など、地元のものを購入する
- 地産地消を促す専用マーケットの提供と低価格化
- 期限の近い割引商品を選択する
- 高校も毎日給食にして地産地消を推進する

**〔省エネに関すること〕**

- 省エネ家電への買い替え
- 便座の保温機能を廃止
- ひとつの部屋で、みんなで過ごす
- エコ住宅（窓ガラスの断熱構造、遮光カーテン使用など）
- 家庭の電力見直し窓口の設置

**〔再エネに関すること〕**

- 自宅にソーラーパネルを設置する
- 市内の小中学校の屋上やプールにソーラーパネルを増築する
- ソーラーパネル設置費用に補助する
- 太陽光パネルの小型化を進め、設置しやすくする

**〔その他〕**

- みどりを守る
- 自身のカーボンフットプリントを知る
- こどもに対するゼロカーボン、及びその他エコ関連教育
- 選挙の投票でアクションする

(資料3 P63 頁参照)

## (8) 講評

グループワークの結果発表を受け、小出氏より講評を行った。

発表では様々な分野の取組が網羅されていた。個人単位での取組や普及啓発だけでなく、設備導入の促進やモノのシェアリングなど、社会システムを変えるという視点が入っていた。こうした観点を取り入れていくことがゼロカーボンの実現に繋がる。

市全体や社会全体で取組が普及するためには、それぞれが取り組むメリットが必要な場合や、無意識的にできた方がよい場合、あるいは自覚的にやらないといけない場合などがある。自分の家族や職場や学校を思い浮かべ、皆が無理なく脱炭素に取り組める方法を考えられたらよい。

取組の優先順位も重要である。2050年脱炭素を考える際、所沢市の状況を踏まえ、そもそもどのように生活の質やニーズを脱炭素で満たしていくことができるか、様々な手段を考えていく必要がある。電気自動車（EV）を例にとれば、EVの購入だけでなく、自転車の利用、テレワーク、EVのシェアリングなどを検討することが考えられる。

日本ではカーボンフットプリントが表示されていることが少ない。表示を目にして考えることで行動が変わり、世の中をどうしていくか議論する場面ができる。所沢市で先進的な取組が始まるとよい。

## (9) 次回以降のテーマ

グループワークの発表内容に基づき、司会の平塚氏より、次回以降の会議で取り上げるテーマの案として以下を示した。

「太陽光発電等（再エネ）」「省エネ家電・住宅（住まい）」「公共交通機関の利用（移動）」  
「消費・廃棄・農作物の工夫（消費・食・農）」「カーシェア・ライドシェア（地域での連携）」  
「その他/里山の利用・普及啓発等」

参加者からは特に追加や異論はなく、この案を踏まえて次回以降のテーマを事務局で整理して準備を進めることが了解された。

## (10) チェックアウト・クロージング

グループワークのチェックアウトでは、1人1言の感想を共有した。会議全体のクロージングでは、次回に向けた事務連絡のほか参加者アンケートを実施した。

## (11) 閉会





## 4-2. 第2回

■日 時 2022年9月25日（日）13:00～17:00

■場 所 所沢市役所 市庁舎高層棟8階大会議室

### 4-2-1. プログラム

13:00	10分	開会 第1回の振り返り	
13:10	10分	チェックイン	参加者の紹介
13:20	30分	テーマ1 『商品選択からゼロカーボンを考える』 話題提供 1 渡部厚志氏より 2 中ノ理子氏より 3 日橋忠洋氏より 4 所沢市資源循環推進課より	1 モノの購入・利用とCO <sub>2</sub> 2 商品での脱炭素の取組み 3 もったいない市の取組みについて 4 ごみ減量・CO <sub>2</sub> 削減を考える
13:50	10分	休憩	
14:00	60分	テーマ1 ワーク	グループでアイデア、課題、解決策を話し合い、全体にシェア (発表：偶数番号の4グループ)
15:05	10分	休憩	
15:15	25分	テーマ2 『食・農からゼロカーボンを考える』 話題提供 5 横沢正幸氏より 6 渋谷正則氏より 7 所沢市農業振興課より	5 農業・食に関する影響・適応・緩和 6 食と人とを笑顔でつなげる 7 所沢市の農業
15:40	60分	テーマ2 ワーク	グループでアイデア、課題、解決策を話し合い、全体にシェア (発表：奇数番号の4グループ)
16:40	10分	チェックアウト・閉会	1人1言感想

### 4-2-2. 記録

#### (1) 開会・趣旨説明・振り返り

はじめに、第1回市民会議の振り返りを行い、第1回終了後にスライドを用いて参加者から寄せられた意見や要望を共有した。続いて会議の目的や今後の進め方を再確認した。

#### (2) チェックイン（自己紹介）

第2回から新たに加わった参加者がいることから、



グループ内での自己紹介として、用紙に「①ニックネーム、②最近の良かった出来事、③身近で感じる気候変動の影響」の3点を書き込み、グループ内で共有した。

### **テーマ1『商品選択からゼロカーボンを考える』**

1つ目のテーマは「商品選択からゼロカーボンを考える」とし、①商品選択とカーボンフットプリント、②商品の供給側から、③使用者・消費者側から、④行政の取組という流れで話題提供を行い、続くグループワークで、ゼロカーボンへのアイデアや、それを実施する際の課題と課題への対策について話し合う構成とした。

#### **(3) 話題提供1「モノの購入・利用とCO<sub>2</sub>」(渡部厚志氏)**

「モノの購入・利用とCO<sub>2</sub>」をテーマとして、公共財団法人 地球環境戦略研究機関の渡部厚志氏より話題提供を行った。

カーボンフットプリント(以下、「CFP」)を取り上げ、埼玉県に暮らす人のCFPを減らす行動を紹介した。また、家電、スマートフォン、衣服などの身近なもののCFPを例に挙げ、CFPを減らすための買い方・使い方・捨て方の工夫を排出が多い段階ごとに図示した。

さらに、CFPを減らすための地域の取組例として、リユース容器を用いた宅配サービス「Loop」、地域共通のリユース容器「Megloo」(鎌倉市)、近所での物の貸し借りのプラットフォーム「Rentastic!」、資源活用を軸とした地域活性化(南三陸町)等を紹介した。

最後に、①需要側の気候変動緩和とは行動の変化だけではないこと、②社会規範と嗜好を変えながら、同時にサービスの提供方法を再構築することが排出量とアクセスの削減に繋がること、③変革は社会的・技術的・制度的な変化を通じて起こることを強調した。

#### **(4) 話題提供2「商品での脱炭素の取組み」(中ノ理子氏)**

「商品での脱炭素の取組み」をテーマとして、イオン株式会社 環境・社会貢献部の中ノ理子氏より話題提供を行った。

スーパーマーケットという消費者に近い業態の1事例として、イオングループの取組である①PB(プライベートブランド)商品、②食品廃棄物削減、③プラスチック使用量削減の3つの取組を紹介した。①に関しては、持続可能な商品調達のため、グローバル基準に基づく第三者認証を取得した商品を販売していることやトレーサビリティの確保及び消費者への透明性の高い情報発信を挙げた。また、健康・環境への配慮から、肉や乳製品等を植物性の素材に置き換えた商品を展開していることも紹介した。②に関しては、規格外商品の販売及び加工、最新の包装技術を活用した商品の鮮度保持、消費者への呼びかけ等を挙げた。③に関しては、使い捨てプラスチックの削減・素材の切り替え・回収を軸とした具体的な事例を紹介した。

続いて、顧客(消費者)から寄せられた声として、商品の容器や包装、PB商品や資源循環に関する意見を示し、消費者の声が企業の取組を後押しすること、一方そのような消費者はまだ一部であることなどを紹介した。

#### **(5) 話題提供3「もったいない市の取り組みについて」(日橋忠洋氏)**

「もったいない市の取り組みについて」をテーマとして、所沢市環境推進員（吾妻地区環境推進員協議会副会長）の日橋忠洋氏より話題提供を行った。

「もったいない市」とは、ゴミ減量を目的とし、再利用できる古着・古布・陶磁器類を持ち寄って必要な人に再配布するイベントである。平成9年に開始し、市内11地区で実施されている。

不用品の配布・再活用は「3R」のうちリデュースとリユースに関連し、また残った陶磁器等をもとに専門業者が「人口砂」を製造することはリサイクルに関連する。このことから、「もったいない市」の実施がごみの増加を抑制し、ごみ焼却に起因するCO<sub>2</sub>の排出を減らすことに貢献していることを紹介した。

#### (6) 話題提供4「ごみ減量・CO<sub>2</sub>削減を考える」（所沢市資源循環推進課）

「ごみ減量・CO<sub>2</sub>削減を考える」をテーマとして、所沢市資源循環推進課より話題提供を行った。

初めに、所沢市のごみ排出量は、市民の意識や事業者の工夫や地域の協力等もあって減少傾向にあるが、食品ロスと容器包装プラスチックごみの削減が課題であることを説明した。次に利便性と環境負荷のバランスを考えた暮らしへシフトすることの必要性を伝え、課題解決のためのヒントとして、商品選択と暮らしの工夫の例を挙げた。最後に、市民会議の参加者に向けて、柔軟な発想で活発な意見交換をしてほしい旨を伝えた。

#### (7) テーマ1『商品選択からゼロカーボンを考える』 ワーク

話題提供1～4を受けて、まず司会者が「商品選択からゼロカーボンを考える」というテーマとそれぞれの話題提供の関係を整理して示し、続いてグループ内で意見交換を行った。

ワークは、「①ゼロカーボンへのアイデアを考え共有⇒②取り組むにあたっての課題を考え共有⇒③課題への対策を考え共有⇒④全体共有」という4段階で進めた。

①～③では、「個人ワーク（付箋に記入）⇒グループワーク（共有）」の作業を行い、模造紙に付箋を貼りながら話し合った。①では黄色の付箋、②ではピンクの付箋、③では緑の付箋を用い、意見交換を行った上で各グループの「イチオシのアイデア」を決定した。

#### (8) テーマ1『商品選択からゼロカーボンを考える』 発表

グループワーク後、4つのグループから全体に向け以下のような発表がなされた。（資料3 P71 参照）

- 旬の食材や買い方など色々な情報について、市役所や民間の発信（Twitter等）はあるが、どこで何に参加できるのかなどの情報が分散しすぎていてわかりづらい。市による統括は難しいが、SNSの活用で課題解決できるのではないかな。
- 衣料品のリユースについて、「使い終わったものを他人にあげるだけ」という面が強くなっている。何回使われたのかを示すタグの開発や、リユースに回してもよいのか自分で見極めることが解決策となるのではないかな。
- エコ家電の値段が買い替えのネックとなっていることから、買い替えを促すための補

助金制度が解決策となる。

- 商品のCO<sub>2</sub>排出量が分からないため、「見える化」として、リサイクル材料の割合や産地、商品が陳列されるまでに排出されたCO<sub>2</sub>の総排出量を表示する。
- 販売員の負担やコストがかかる等の課題を解決するため、個々の企業で行うのではなく、統一的なマークや表示規格を作り周知を行う専門の団体を組織する。
- 環境に配慮した商品選択についての認知度向上のため、専用のキャラクター等を用いて発信する。

#### (9) テーマ1『商品選択からゼロカーボンを考える』 講評

発表後、話題提供者の渡部厚志氏と中ノ理子氏より講評を行った。

〔渡部厚志氏〕

一番大事なのは、よかれと思ってリサイクルしたその先に何が起きているかに想像力を働かせること。いいことをしようとした時に悪い影響があるとしたらどうしたらよいのか、今までの仕組みと違うやり方を企業が行うにはどうしたらよいのか、消費者として企業をどう応援するのか、行政には何を願うのか、今までより想像力を広げてできることを考えるきっかけになる。課題から解決策への繋がりは非常に重要なので、持ち帰って考えてみてほしい。

〔中ノ理子氏〕

参考になる、我々にとっては耳の痛い意見もあった。やっていることをもっとしっかり伝えていかないといけない、伝えきれていないことが非常にたくさんあると感じた。渡部氏の話にもあったが、「あちらを立てれば…」というところもある。何が起こるか、非常に広い視野を持って第一歩を踏み出す一日目かと思う。

#### テーマ2『食・農からゼロカーボンを考える』

2つ目のテーマは「食・農からゼロカーボンを考える」とし、①農・食への気候変動の影響、②市民からの話題、③行政の取組という流れで話題提供を行い、続くグループワークではワーク1と同様の進行とした。

#### (10) 話題提供5「農業・食に関する影響・適応・緩和」(横沢正幸氏)

「農業・食に関する影響・適応・緩和」をテーマとして、早稲田大学 人間科学学術院の横沢正幸氏より話題提供を行った。

初めに、気候変動による農業への影響は大きいこと、緩和と適応という対策があることを示した。また、高温による作物の品質への影響の例を紹介し、気候変化による地域収量への影響を解説した。さらに、世界全体における食糧生産への影響について図示した。

続いて、土壌と気候変動の関係として、土壌が「最大の陸上炭素貯蔵庫」となり得ることを示し、併せて生物多様性と気候変動および炭素貯留の関連性について解説した。

問題解決のためには土地利用のあり方を再考する必要があるとし、食料の生産と消費を変えることが気候変動の緩和に貢献する例として、「栄養バランスの取れたカロリー過多で

ない食生活+食品廃棄物の削減⇒温室効果ガス排出を約 1/3 に削減」というシナリオがあり得ること等を示した。

#### (11) 話題提供 6 「食と人とを笑顔でつなげる」(渋谷正則氏)

「食と人とを笑顔でつなげる」をテーマとして、OEC マルシェ株式会社の渋谷正則氏(所沢ローカルファースト事業団団長)より話題提供を行った。

地域まちづくりの課題として①高齢化、②協力体制構築不足、③実働部隊の不足等を挙げ、それらの解決策が必要であるとした。また、ローカルファースト事業団では「共につながり、地域を育てる。」を運営理念として、地産地消や地域でのお金の循環や雇用創出、街の活性化や魅力向上といった好循環を目指していること、地域資源の PR と地域住民との交流を目的とした活動として、イベントや子どもコミュニティ食堂、プログラム開発などを実施していること等を紹介した。

#### (12) 話題提供 7 「所沢市の農業」(所沢市農業振興課)

「所沢市の農業」をテーマとして、所沢市農業振興課より話題提供を行った。

市の農業の概要を説明した後、①地産地消のための取組(直売所ガイドマップや地産地消レシピの発行、直売イベントの実施)、②環境にやさしい農業(生分解性マルチフィルムや緑肥植物)、③土に親しむなど「農のあるまちづくり」を進めていること等を紹介した。

#### (13) テーマ 2 『食・農からゼロカーボンを考える』 ワーク

話題提供 5~7 を受けて、まず司会者が「食・農からゼロカーボンを考える」というテーマとそれぞれの話題提供の関係を整理して示し、続いてグループ内で意見交換を行った。ワークは 1 つ目のテーマと同様に進行した。

#### (14) テーマ 2 『食・農からゼロカーボンを考える』 発表

グループワーク後、4 つのグループから全体に向け、以下のような発表がなされた。(資料 3 P80 参照)

- 若い世代に取組を知ってもらうため、学校における環境教育を強化するとともに、地域の農産物を学校給食へ活用する
- 費用面の課題は国の補助金等でカバーする
- 地産地消とゼロカーボンの関係が浸透していないので、有名なインスタグラマーなどを活用した PR を行い、認知向上に努める
- 地産地消の情報シェアのため、市域の各駅に「野菜スタンド(野菜の販売所)」を設置する
- 農業のイメージアップのため、農業を楽しめるようなコスチュームを作る
- 牛の飼育に起因する CO<sub>2</sub> 排出量の削減の為、頭数管理やロングライフ牛乳(長期保存可能な殺菌・包装の牛乳)製造などの工夫を行う
- 農業従事者不足を解消するため、農業従事者を公務員にし、生産と収支を安定させる

## (15) テーマ2『食・農からゼロカーボンを考える』 講評

発表後、話題提供者の横沢正幸氏と渋谷正則氏より講評を行った。

〔横沢正幸氏〕

個別のアイデア同士の相乗効果もある。結びつけることで効果が倍増する。日本では気候変動対策を楽しみながらやる人の割合が少ないので、そういう人が増えるとよいのではないか。

〔渋谷正則氏〕

地産地消のキーワードが出てきて嬉しく思う。今日は値段等の問題提起や、最終的にゼロカーボンになるための意見が出ていた。食はなくてはならないものなので、前向きに考えることが地域の笑顔や市の未来に繋がる。

## (16) チェックアウト・クロージング

グループワークのチェックアウトでは、1人1言の感想を共有した。全体のクロージングでは、次回に向けた事務連絡のほか参加者アンケートを実施した。

## (17) 閉会



### 4-3. 第3回

■日 時 2022年10月23日(日) 13:00~17:00

■場 所 所沢市役所 市庁舎高層棟8階大会議室

#### 4-3-1. プログラム

13:00	10分	開会・第2回までの振り返り等	
13:10	10分	チェックイン	参加者の自己紹介
13:20	25分	テーマ3 『エネルギーからゼロカーボンを考える』 話題提供 1 松原弘直氏より 2 神藤年三氏より 3 所沢市マチごとエコタウン推進課より	1 ゼロカーボンを実現するための再生可能エネルギーの現状と展望 2 自治会館への太陽光パネル設置への道のり 3 再生可能エネルギーの普及と推進
13:45	10分	休憩	
13:55	60分	テーマ3 ワーク	グループでアイデア、課題、解決策を話し合い、全体にシェア (発表:奇数番号の4グループ)
14:55	30分	テーマ4 『住まいからゼロカーボンを考える』 話題提供 4 外岡 豊氏より 5 上田マリノ氏より 6 所沢市マチごとエコタウン推進課より	4 住まいの対策をどう進めるか 5 ゼロカーボンライフを目指している いろやってみた編 6 スマートハウス化推進補助金
15:25	10分	休憩	
15:35	65分	テーマ4 ワーク	グループでアイデア、課題、解決策を話し合い、全体にシェア (発表:偶数番号の4グループ)
16:40	10分	チェックアウト・閉会	1人1言感想

#### 4-3-2. 記録

##### (1) 開会・趣旨説明・今後の進め方

初めに、第1回と第2回の市民会議の振り返りを行い、参加者から寄せられた意見や要望を共有した。続いて今後の進め方や市民会議の目的、会議結果の反映方法等の再確認を行った。

##### (2) チェックイン(自己紹介)

グループ内での自己紹介として、用紙に「①ニックネーム、②最近嬉しかったこと」の2点を書き込み、グループ内で共有した。

### **テーマ3『エネルギーからゼロカーボンを考える』**

3つ目のテーマは「エネルギーからゼロカーボンを考える」とし、①再生可能エネルギーの現状と展望、②自治会館への太陽光パネル設置の経験から、③行政の取組という流れで話題提供を行い、続くグループワークで、ゼロカーボンへのアイデアや、それを実施する際の課題並びに課題への対策について話し合った。

#### **(3) 話題提供1「ゼロカーボンを実現するための再生可能エネルギーの現状と展望」(松原弘直氏)**

「ゼロカーボンを実現するための再生可能エネルギーの現状と展望」をテーマとして、特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所 理事・主席研究員の松原弘直氏より話題提供を行った。

初めに、再生可能エネルギーのメリットを挙げ、主なエネルギー源のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量を示すことで、長期的なエネルギー転換では、再生可能エネルギーとエネルギー効率化(省エネルギー)だけが将来にわたって持続可能であると説明された。また、「自然エネルギー100%」を目指す国や企業の動きを紹介した。

続いて、世界の再生可能エネルギーの導入状況等を示した上で、日本においてどの再生可能エネルギーを導入するかを考えるために参考となる情報を挙げた。さらに、参加者がより身近に考えるための情報として、埼玉県内の市町村の地域的エネルギー自給率や所沢市のエネルギーフローを図示した。

また、再生可能エネルギーの発電コストや、電力の需給調整の実例、導入適地等の具体的な解説も加え、ソーラーシェアリングと呼ばれる営農型太陽光発電について紹介した。

最後に、再生可能エネルギー100%の未来を目指すために重要となる「知ること・参加すること・考えること・実行すること」を例示して結びとした。

#### **(4) 話題提供2「自治会への太陽光パネル設置への道のり」(神藤年三氏)**

「自治会館への太陽光パネル設置への道のり」をテーマとして、所沢市自治連合会役員・所沢市環境推進員の神藤年三氏より話題提供を行った。

所沢市の町谷自治会館に7年前に太陽光パネルを設置するまでの経緯について、太陽光発電のプラスの側面(売電収入による資産運用、災害時の緊急電源)を理由として修繕費を積極的に活用する方針をとったこと、当初は住民の反応が消極的だったこと、住民の懸念点を解消するための取組(臨時総会での説明)等を説明した。今年に入り、当初の想定より約3年前倒しで初期投資額の回収を達成したことも併せて紹介した。



#### **(5) 話題提供3「再生可能エネルギーの普及と推進」(所沢市マチごとエコタウン推進課)**

「再生可能エネルギーの普及と推進」をテーマとして、所沢市マチごとエコタウン推進課



より話題提供を行った。

初めに、所沢市の太陽光発電利用可能量を挙げ、戸建住宅と遊休農地の割合が高いことを示した。この他、市内の再生可能エネルギー設備の現状を挙げ、設備数や出力数が増加傾向にあることを説明した。

続いて、「メガソーラー所沢」と「フロートソーラー所沢」の概要やソーラーシェアリングの事例を紹介した。また、平成30年に設立した「株式会社ところざわ未来電力」の事業概要と電源構成を図示し、「メガソーラー所沢」と「フロートソーラー所沢」による電力や売電収益の利活用の仕組みを説明した。

#### (6) テーマ3『エネルギーからゼロカーボンを考える』 ワーク

話題提供1～3を受けて、まず司会者が「エネルギーからゼロカーボンを考える」というテーマとそれぞれの話題提供の関係を整理して示し、特に「日常生活で自分事としてできることは？」という視点が大切であることを説明し、続いてグループ内で意見交換を行った。

ワークは、「①ゼロカーボンへのアイデアを考え共有⇒②取り組むにあたっての課題を考え共有⇒③課題への対策を考え共有⇒④全体共有」という4段階で進めた。今回から、取り組む主体が「自分」なのか「他の誰か・組織」なのかを明確にして考え、特に「自分」を重視して検討を深めることを目指した。

①～③では、「個人ワーク（付箋に記入）⇒グループワーク（共有）」の作業を行い、模造紙に付箋を貼りながら話し合いを進めた。①では黄色の付箋、②ではピンクの付箋、③では緑の付箋を用いた。個人のアイデア等を共有する際には、類似するアイデア等があればその都度近くに付箋を貼り、おおまかなグループを作っていく手法を取った。

#### (7) テーマ3『エネルギーからゼロカーボンを考える』 発表

グループワーク後、4つのグループから全体に向け以下のような発表がなされた。（資料3 P89 参照）

- 「株式会社ところざわ未来電力」の認知度が低いため、市の広報の一面に載せる、商品券の発行などの加入メリットを作るのはどうか
- 再エネの普及などの市の施策における資金不足と人手不足を補うために、次世代を担う大学生や中高生などにボランティア活動として市の事業を手伝ってもらい、将来的に活動できるような体制を今から作っていく
- 太陽光パネルの未設置者は費用面の負担が大きいと推察できるため、補助金制度などの情報を発信する
- 再エネ導入や環境にやさしい電気への切り替えなど、多様な課題に対する相談を一挙に引き受ける生活相談窓口のようなものを、市に作ってほしい

#### (8) テーマ3『エネルギーからゼロカーボンを考える』 講評

発表後、話題提供者の松原弘直氏と神藤年三氏より講評を行った。

〔松原弘直氏〕

短時間のうちに自分事として考え、改善策まで生まれて素晴らしい。行政の声掛けで始まったこの議論、行政としてやってほしいことはたくさんあると思う。それは市民の立場としてしっかり意見を言ってもらい、行政の方で計画をきちんと作ってもらおう。以前は電力会社やガス会社に頼ってやらせてもらえばいいという風潮があったが、今は地域で自ら作り出していく時代になりつつある。行政と市民が協働して進めていくこの試みを続けてほしい。

次に、私たちは消費者でもあるので、企業との関係でもできることがある。電力の切り替えや、エネルギーを使って作り出されているものに対し、消費者の立場で色々なことを考え企業にフィードバックしていく。市内の企業と組むなど、どんどんアイデアを出してほしい。「できないこと」を探すのはすぐできる。今は「できる」時代なので、「できること」を真剣に考えて取り組んでほしい。

〔神藤年三氏〕

小中学校での取組に関して、ミヤコタナゴ（魚）への餌やりのボランティアを山口地区で行う動きがある。このように、学校教育の中に自然を取り入れて子供に自然の大切さを教えていくのも大切だ。機会があれば参加してほしい。

#### **テーマ4『住まいからゼロカーボンを考える』**

4つ目のテーマは「住まいからゼロカーボンを考える」とし、①住まいをタイプ別に整理、②住まいでの対策検討・実施の経験、③行政の取組という流れで話題提供を行い、続いてグループワークを行った。

##### **(9) 話題提供4「住まいの対策をどう進めるか」(外岡 豊氏)**

「住まいの対策をどう進めるか」をテーマとして、埼玉大学名誉教授の外岡 豊氏より話題提供を行った。

初めに、気候変動対策に関する概説を行い、とりわけ住宅の省エネと再生可能エネルギーの導入を最速・最大限に推進する必要性があるとした。ただし世界情勢の変動等により、実際の削減方法や実現可能性については非常に見通しが難しい状況であると述べた。

続いて、住宅のCO<sub>2</sub>排出量とエネルギー消費量の長期動向を示し、所沢市における世帯類型別・戸建集合別の住宅のエネルギー消費量を紹介した。温暖な所沢市では暖房の負荷が比較的小さいこと、若年単身世帯が比較的多いこと等の特徴から、世帯CO<sub>2</sub>排出量は全国値より低めであると解説した。

後半では、住宅のライフサイクルCO<sub>2</sub> (LCCO<sub>2</sub>) の観点に基づく選択（戸建か集合か／新築か改修か空き家利用か）を取り上げた。住宅からのCO<sub>2</sub>排出量削減のために望ましい考え方を挙げる一方で、現行の税制や法規がその妨げとなっている現状についても説明した。

最後に、住宅の電力消費の構成（内訳）を示し、節電のために家庭でできること、より効果が高く経費も安い対策、「エコな住宅」を考えるヒント等を紹介した。

(10) 話題提供 5 「ゼロカーボンライフを目指していろいろやってみた編」(上田マリノ氏)

「ゼロカーボンライフを目指していろいろやってみた編」をテーマとして、所沢市マチエコアンバサダーの上田マリノ氏より話題提供を行った。

上田氏自身がこれまでに実践してきた取組を、「すぐできる度」と「影響力」の2つの指標と併せて紹介した。再エネ電気への切り替え、窓の断熱等の具体的な取組の他、モチベーションを保つための方法として、①積極的に情報をとりにいく、②イベントや講座に参加する、③相談できる仲間を作るということも効果的であるとした。

(11) 話題提供 6 「スマートハウス化推進補助金」(所沢市マチごとエコタウン推進課)

「スマートハウス化推進補助金」をテーマとして、所沢市マチごとエコタウン推進課より話題提供を行った。

「所沢市スマートハウス化推進補助金」の概要を説明し、対象となる「エコリフォーム」・「創エネ・蓄エネ機器導入」の要件と交付実績を紹介した。また、補助金の具体的な利用例を挙げて、家庭での省エネ効果(CO<sub>2</sub>の削減効果)や光熱費の節減等のメリットを示した。

(12) テーマ 4 『住まいからゼロカーボンを考える』 ワーク

話題提供 4~6 を受けて、まず司会者が「住まいからゼロカーボンを考える」というテーマとそれぞれの話題提供の関係を整理して示し、続いてグループ内で意見交換を行った。

ワークはテーマ 3 と同様の流れで進行した。



(13) テーマ 4 『住まいからゼロカーボンを考える』 発表

グループワーク後、4つのグループから全体に向け以下のような発表がなされた。(資料 3 P98 参照)

- 所沢市自体が暑いと感じるため、ヒートアイランド現象の解決策として「緑の条例」を作り、道路、集合住宅(壁面・屋上)、戸建住宅などを対象に、都市全体を緑化する
- 中古住宅へのネガティブなイメージを払拭するため、「古民家」などお洒落な言い方にしてみる
- 省エネ行動推進の課題として、知識が不十分、モチベーションの維持や家族間の考え方の共有が難しい等があるため、解決策として「省エネチェックリスト」やエコポイント制度を作り、市の名産品を特典にして地産地消にも繋げる
- 生活のなかでCO<sub>2</sub>排出量を削減するため、できるだけ屋外で過ごし、化石燃料を使わない移動手段(徒歩・自転車)を選択する
- エコなライフスタイルを促進するため、市と企業がタイアップし、徒歩や自転車での移動量に応じてポイントがたまるアプリを作る。さらに再エネ活用施設等を利用するとポイントを加算する仕組みも設ける

#### (14) テーマ4『住まいからゼロカーボンを考える』 講評

発表後、話題提供者の外岡 豊氏より講評を行った。

所沢市は内陸部にあるので寒暖差が大きい。季節移住・地域間交流をしてみてもどうか。

中古住宅について、海外には環境性能が高い住宅は高く売れるという認証制度がある。高く売れる住宅を作り維持するという認識がある。

省エネ行動は皆で考えないといけない。たとえば「所沢方式」の省エネキャンペーンを考えてみてほしい。

住宅のエコリフォームについては建築士会連合会によるアドバイスの動きもある。また、不動産屋でエコな貸家はないかと聞くのもよい。この市民会議をきっかけに、市民が自ら考える市民討論団を作り、所沢方式の取組をぜひ進めてほしい。

#### (15) チェックアウト・クロージング

グループのチェックアウトでは、1人1言の感想を共有した。全体のクロージングでは、次回に向けた事務連絡のほか参加者アンケートを実施した。

#### (16) 閉会

#### 4-4. 第4回

■日 時 2022年11月27日(日) 13:00～17:00

■場 所 所沢市役所 市庁舎高層棟8階大会議室

##### 4-4-1. プログラム

13:00	10分	開会・第3回までの振り返り等	
13:10	10分	チェックイン	参加者の自己紹介
13:20	30分	テーマ5 『移動からゼロカーボンを考える』 話題提供 1 松橋啓介氏より 2 井原雄人氏より 3 所沢市都市計画課より	1 移動のゼロカーボン 2 モビリティによる脱炭素化への選択肢 3 楽しく、そしてエコに暮らそう！
13:50	10分	休憩	
14:00	65分	テーマ5 ワーク	グループでアイデア、課題、解決策を話し合い、全体にシェア (発表:奇数番号のグループ)
15:05	20分	テーマ6 『地域での連携からゼロカーボンを考える』 話題提供 4 島田幸子氏より 5 神谷一彦氏より	4 パートナースhipで取り組む所沢市 マチごとゼロカーボン 5 高校生を地域で活かす！
15:25	10分	休憩	
15:35	40分	テーマ6 ワーク	グループで地域のステークホルダー(関係者)を挙げる、ステークホルダーの連携でできるアイデアを話し合い、全体にシェア (発表:偶数番号のグループ)
16:15	35分	今後の進め方	投票の進め方、とりまとめの説明・協議
16:50	10分	チェックアウト・閉会	1人1言感想

##### 4-4-2. 記録

###### (1) 開会・振り返り・今後の進め方

初めに、これまでの市民会議の振り返りを行い、参加者から寄せられた意見や要望を共有し、続いて今後の進め方や市民会議の目的、会議結果の反映方法等の再確認を行った。

###### (2) チェックイン(自己紹介)

グループ内での自己紹介として、用紙に「①ニックネーム、②所沢市内のおすすめの場所、お店、その他」の2点を書き込み、グループ内で共有した。

###### テーマ5『移動からゼロカーボンを考える』

5つ目のテーマは「移動からゼロカーボンを考える」とし、①移動のゼロカーボン、②モ

ビリティによる脱炭素化への選択肢、③行政の取組という流れで話題提供を行い、続くグループワークで、ゼロカーボンへのアイデアや、それを実施する際の課題並びに課題への対策について話し合う構成とした。

### (3) 話題提供 1 「移動のゼロカーボン」(松橋啓介氏)

「移動のゼロカーボン」をテーマとして、国立環境研究所の松橋啓介氏より話題提供を行った。

初めに、所沢市の1人当たりの年間乗用車CO<sub>2</sub>排出量は、全国平均と比較すると少ないことを説明した。自家用乗用車は、輸送量当たりCO<sub>2</sub>排出量が比較的高い交通手段であることから、なるべく使用を少なくすることが求められる。所沢市は「人口密度が高い・施設等が近い・公共交通が整っている」という都市構造であるため、「移動距離が短くて済む・徒歩や自転車利用が多い・鉄道利用機会が多い」という特徴があるとした。

続いて、脱炭素社会の実現に向けては、ここ10年の傾向や20年先の予測・計画が急激に変化していることを踏まえつつ、大幅削減を前提にバックキャストで社会の構造変化を考える必要があることを図示した。日々の地道な努力の啓発や燃費の良い車の選択等を誘導する制度整備に加えて、「公共交通や徒歩が使いやすいまちにする」・「環境負荷の小さい選択が得をする仕組みにする」といった地域社会への働きかけと、その際の(本会議のような)市民参加が重要であるとした。

また、移動のゼロカーボンにおいては、供給側の対策のみでの大幅削減には限界があり、消費側の対策を組み合わせることで大幅削減が可能になるとした。さらに、欧州の市民会議における政策アイデアの例や、「便利なまち」(移動距離が少なく済む+電気自動車の普及、公共交通で拠点を結ぶ+徒歩・自転車の組み合わせ等)の考え方を紹介した。

### (4) 話題提供 2 「モビリティによる脱炭素化への選択肢」(井原雄人氏)

「モビリティによる脱炭素化への選択肢」をテーマとして、早稲田大学スマート社会技術融合研究機構 電動車両研究所 客員准教授の井原雄人氏より話題提供を行った。

初めに、「モビリティ(移動しやすさ、移動性、移動の仕組み)」と「ヴィークル(乗り物、移動手段)」を定義し、脱炭素を目指すには、前者に関しては乗り物の使い方を変え、後者に関しては乗り物自体を変えていくことになることを説明した。

これに関し、電気自動車で使用する電気が何によって発電されたものかなど、動力源に使うエネルギーの作り方も重要であることを示した。また大人数が乗車できるバスや鉄道について、もし乗り合う人が少なければ、1人当たりのCO<sub>2</sub>排出量は悪化することを示した。

これらを踏まえ、バスについて、①電動化した際の車両1台当たりのCO<sub>2</sub>削減量と②乗合を促進することによるCO<sub>2</sub>削減量を比較した。

最後に、移動に関わるCO<sub>2</sub>削減の方法として、生活習慣の転換、公共交通の利用促進、車両の電源化と性能向上、充電のための再エネの導入促進等を挙げた。

#### (5) 話題提供3「楽しく、そしてエコに暮そう！」所沢市都市計画課

「楽しく、そしてエコに暮らそう！」をテーマとして、所沢市都市計画課より話題提供を行った。

初めに、所沢市の移動と公共交通の課題として、①生活のための移動手段の確保、②公共交通の利便性の向上、③自家用車からの転換と公共交通利用の促進の3点を挙げた。公共交通を使いやすくして積極的に使ってもらうことで環境負荷を減らすという目標を示し、「クルマに依存しない、歩いて楽しいまちづくり」を目指す取組を行うとした。

併せて、所沢市の公共交通について、概要、カバー率、利用者数の推移等のデータを示した。

#### (6) テーマ5『移動からゼロカーボンを考える』 ワーク

話題提供1～3を受けて、まず司会者が話題提供のポイントを整理して示した。話題提供1では「市民、事業者、行政という異なる立場で（&連携で）、そして対策による時間軸を踏まえて」、話題提供2では「移動の対策メニューを見ながら、日常生活で変化できることを見つける」というポイントを確認したうえで、グループ内で意見交換を行った。



ワークは、「①ゼロカーボンへのアイデアを考え共有⇒②取り組むにあたっての課題を考え共有⇒③課題への対策を考え共有⇒④全体共有」という4段階で進めた。その際、取り組む主体が「自分」なのか「他の誰か・組織」なのかを明確にし、特に「自分」を重視して、自身の生活を踏まえて「自分ごと」として考えを深めることを目指した。

①～③では、「個人ワーク（付箋に記入）⇒グループワーク（共有）」の作業を行い、模造紙に付箋を貼りながら話し合いを進めました。①では黄色の付箋、②ではピンクの付箋、③では緑の付箋を用いた。個人のアイデア等を共有する際には、①では各自が順番に付箋をファシリテーターに渡し、ファシリテーターがグループ内にシェアしながら模造紙に貼っていく方法をとった。また、②及び③では各自が付箋の内容を説明しながら直接模造紙に貼っていく形とした。

#### (7) テーマ5『移動からゼロカーボンを考える』 発表

グループワーク後、4つのグループから全体に向け以下のような発表がなされた。（資料P107参照）

- 徒歩移動を増やす上で、歩道が不便という課題があるため、段差など危険な場所を近隣住者から聞き取り、歩道の整備を進める
- 徒歩移動を促すために、ポイントやプレゼントなど報酬を付与する
- 自動車の渋滞回避に向け、交通規制や学校や駅周辺でのマイカー規制などを実施する

- 自転車利用を促進するため、行政は自転車専用レーンの設置や道路の凹凸の補修を行う
- 公共交通機関がより利用しやすくなるよう、電車とバスのスムーズな接続のためダイヤを見直す
- 車は悪者で廃止するというのではなく、家庭で一日だけでも車に乗らない日・公共交通を利用する日を作る
- 道路の整備に関する資金調達にクラウドファンディングを活用する
- 歩いて楽しいまちのために、治安が良くて景色が楽しめるまちにする。また、日替わり・週替わりでイベントが行われたりお店が入れ替わったりなど、飽きが来ない工夫をする
- 大規模マンション群の空いた駐車場などのスペースで、カーシェアリングやシェアサイクルの導入やマルシェの開催を検討しているが、セキュリティ面の課題で住民の理解が得られないため、セキュリティ面の強化・改善を進める

#### (8) テーマ5『移動からゼロカーボンを考える』 講評

発表後、話題提供者の松橋啓介氏と井原雄人氏より講評を行った。

〔松橋啓介氏〕

「(対策のための) お金があまりないだろう」という話があったが、炭素税のような制度が既に検討されていて、そこで集めたお金を一人ずつ一定額配ったり、徒歩に対するポイント付与や電気自動車への補助金に使ったりするなど、使い道(何にお金を払ったらいいか)を決める時に皆さんの意見は参考になる。

歩行者の信号待ちが長い、歩行者が危険だという点は市に対策を頑張ってもらいたい。

公共交通が不便という点について、コミュニティバスに比べて路線バスにはあまりお金が出されていない。海外では自治体が3~7割お金を出している例もある。乗り継ぎしやすくするための対策などを市などが応援していただければよい。

現在ガソリン代が高騰しているが、そこに炭素税が加わったとき、自家用車の乗車距離や回数が減ったりカーシェアが増えたりする可能性がある。また、集合住宅に電気自動車のカーシェアがあれば駐車場がそれほどなくてもよく、建て替えの際にお金がかからずに済むといった政策もできたらよい。

高齢になり運転できなくなった時の議論があまりなかった。ネットスーパーや電動車椅子を使いやすくすることや、安く住み替えできる場所の提供などが今後課題になるのではないかと感じる。

〔井原雄人氏〕

徒歩について、「たくさん歩くと健康になる・医療費が下がる」ということや、「公共交通が発達している都市ほど色々な疾病にかかる割合が低い」という点については、統計的に色々なデータを積み重ねて実証が進められている。歩ける環境を増やすことはCO<sub>2</sub>削減にも健康にもよいし、お金の面でも、医療や福祉の分野に与えるインパクトが大きいので、取り組んでいくとそちらの方から予算が出てくるのではないかと個人的には思っている。



## **テーマ6『地域での連携からゼロカーボンを考える』**

6つ目のテーマは「地域での連携からゼロカーボンを考える」とし、①地域でゼロカーボンを進めるには多様な主体の連携が有効であることの説明と取組事例、②高校生と地域の主体が連携した地域を元気にする取組事例に関する話題提供を行い、グループワークでは、地域のゼロカーボン実現に向けたステークホルダーを挙げ、その連携でできるアイデアについて話し合う構成とした。

### **(9) 話題提供4「パートナーシップで取り組む所沢市マチごとゼロカーボン」 島田幸子氏**

「パートナーシップで取り組む所沢市マチごとゼロカーボン」をテーマとして、一般社団法人環境パートナーシップ会議の島田幸子氏より話題提供を行った。

初めに、「地方環境パートナーシップオフィス（地方EPO）」の紹介を行い、その設立目的である「持続可能な社会の構築」に関連して、持続可能な開発目標（SDGs）について解説した。また、持続可能な地域社会においては、多様な主体による協働取組が地域課題を同時解決することや、サステナビリティへの理解促進が地域資源の循環型利用促進につながるといったイメージを示した。

さらに、取組の始まりはその地域に主体性のある誰かであり、重要なポイントとして、「ひとり」や「ひとつの組織」だけでは絶対に実現できないという点を挙げ、課題・テーマのつながりから「人」を見つけ、パートナーシップや協働取組につなげるプロセスを説明した。

最後に、実践例として熊本県水俣市の「ごみ減量女性連絡会議」、静岡市の「しずおか校庭芝生化応援団」等の4つの取組を紹介した。

### **(10) 話題提供5「高校生を地域で活かす！」 神谷一彦氏**

「高校生を地域で活かす！」をテーマとして、県立所沢高校教諭の神谷一彦氏より話題提供を行った。

初めに、所沢高校のインターアクトクラブの活動例として、地域の森林や河川の保全活動、農業ボランティア、海外の高校との交流など、地域奉仕と国際交流の2つを柱とした活動を紹介した。

また、「総合的な探究の時間」の活動として生徒それぞれが課題を発見して解決に取り組む「マイプロジェクト」の例を紹介した。このほか、同校の同窓会による在校生支援活動「THis（株式会社所沢高校）」も挙げた。

高校生が地域の活動に参加することは、高校生と地域の双方にとってメリットが多い。両者を繋げるためには、社会に開かれた学校づくりと中高生を受け入れる地域づくりの2点が重要であるとし、それぞれのポイントを挙げた。

### **(11) テーマ6『地域での連携からゼロカーボンを考える』 ワーク**

話題提供4・5を受けて、まず司会者が「地域での連携からゼロカーボンを考える」というテーマとそれぞれの話題提供の関係を整理して示し、続いてグループ内で意見交換を行った。

ワークは、「①地域のステークホルダー（関係者）を挙げ共有⇒②複数のステークホルダーの連携で実施できるアイデアを考え共有⇒③全体共有」という3段階で進めた。

①・②では、「個人ワーク（付箋に記入）⇒グループワーク（共有）」の作業を行い、模造紙に付箋を貼りながら話し合いを進めた。①では黄色の付箋、②ではピンクの付箋を用いた。個人のアイデア等を共有する際には、各自が付箋の内容を説明しながら直接模造紙に貼っていく形とした。

## (12) テーマ6『地域での連携からゼロカーボンを考える』 発表

グループワーク後、4つのグループから全体に向け以下のような発表がなされた。（資料3 P115 参照）

- フードロス削減に向けて、SNS とママ友と商店を掛け合わせて何かできるのではないかな
- 行政・企業頼みではなく、「人のつながり」をキーワードに自分たちの周りから変えていけるのではないかな
- 学習塾やスポーツクラブでフードロスや制服の寄付に取り組んでみてはどうか
- 様々な団体の取組を、市役所や公民館の広報を通じて周知していくことで、地域全体が盛り上がるのではないかな
- 太陽光パネル設置会社と西武鉄道や西武バスが連携して、ソーラーパネルカーの「ところタクシー」を開発する
- スポーツジムと太陽光パネル設置会社で発電機能のある施設をつくり、トレーニングが発電に繋がる仕組みを作ってはどうか



## (13) テーマ6『地域での連携からゼロカーボンを考える』 講評

発表後、話題提供者の島田幸子氏と神谷一彦氏より講評を行った。

〔島田幸子氏〕

ワークがうまくいくか、付箋はたくさん出てくるのかと心配していたが杞憂だった。それぞれ地域の中にどんな人がいるのか、その人の強みは何なのかを考え、強みと強みを掛け算することで新しい取組のアイデアがたくさん出ていた。所沢市の中にいる人たちが自ら「マチごとゼロカーボン」に進んでいくために考えることができたのではないかなと思う。

〔神谷一彦氏〕

こんなにステークホルダーがたくさんいて、グループによって出てくる型が違う。それぞれが持っているリソースも違うということが面白かった。

主体性がキーワードになっている。自治体をお願いするのではなく、自分たちで思いついたことをやってみることが大事だ。市もそれを待っているのかとも思う。ぜひ具体化するとよい。

(14) アンケート形式の投票と今後の進め方について

第4回市民会議終了後に、これまでに参加者から出された提案内容（テーマ1～6）に基づき、実施するアンケート形式の投票について、投票の目的、設問の作成プロセス、構成及び回答方法等をまちごとエコタウン推進課より説明した。続いて、第5回目の進め方及び全5回のとりまとめ方針について司会より説明した。

その後、参加者から質問や意見を募ったところ、多数意見があり、いただいた意見は投票項目作成の参考とした。

(15) チェックアウト・クロージング

グループのチェックアウトでは、1人1言の感想を共有した。全体のクロージングでは、次回に向けた事務連絡のほか参加者アンケートを実施した。

(16) 閉会

#### 4-5. 第5回

- 日 時 2022年12月18日（日）13:00～17:00
- 場 所 所沢市役所 市庁舎高層棟8階大会議室

##### 4-5-1. プログラム

13:00	10分	開会・副市長挨拶・ これまでの振り返り	
13:10	15分	チェックイン	参加者の近況シェア
13:25	10分	投票結果の共有 所沢市マチごとエコタウン 推進課より	
13:35	15分	投票結果についての感想共有	
13:50	10分	テーマ『里山の利用等』 話題提供 平塚基志氏より	里山はCO <sub>2</sub> を吸収するのか？地域で里山を 活かすには？
14:00	15分	休憩	
14:15	55分	ワーク1『所沢市の将来像につ いて』	グループで話し合い、全体にシェア
15:10	15分	休憩	
15:25	60分	ワーク2『対策アイデアの整理』	グループで話し合い、全体にシェア
16:25	20分	チェックアウト	1人1言感想
16:45	10分	講評 所沢市長	
16:55	5分	閉会	感謝状の贈呈、参加者アンケート

##### 4-5-2. 記録

###### (1) 開会・副市長挨拶・振り返り

初めに、中村副市長より挨拶を行った。続いてこれまでの市民会議の振り返りを行い、参加者から寄せられた意見を共有した。また、第5回の進め方について、居住地区に応じて割り振られた6つのグループ（東1、東2、中央1、中央2、西1、西2）に分かれ、各地区の特徴を踏まえて対話を行っていくことを説明した。

###### (2) チェックイン（自己紹介）

チェックインとして、グループ内での自己紹介を実施した。用紙に「①ニックネーム、②居住地区の特徴（好きなどころ）、③ちょっと進んだゼロカーボン」の3点を書き込み、グループ内で共有した。

###### (3) 投票結果の共有と感想の共有

第4回市民会議の後に実施した投票（6テーマ・



全 28 施策)の結果について、マチごとエコタウン推進課より説明を行った(資料 4 P131 参照)。

これを受けて、結果についての感想をグループ内で共有した。感想はサブファシリテーターが付箋にメモし、模造紙に貼っていく形とした。

(4) 話題提供「里山は CO<sub>2</sub>を吸収しているのか?地域で里山を活かすには?」(平塚基志氏)

市民会議の最後のテーマである「里山の利用等」について、「里山は CO<sub>2</sub>を吸収しているか?地域で里山を活かすには?」をテーマとして、早稲田大学人間科学学術院の平塚基志氏より話題提供を行った。

初めに、北半球の CO<sub>2</sub>濃度が変動していることを図示し、その理由として森林が CO<sub>2</sub>を吸収する倉庫の役割を果たしていることを説明した。これに関し、所沢市の森林面積は減少傾向にあること、いわば倉庫が満杯に近づいている状況であること、1960~1970 年代と比較すると森林内の太陽光や林床植生などのモザイク構造が減っていること(里山の均一化)などを解説した。

続いて、落葉の利用によるカーボンの貯蔵の事例(武蔵野の落ち葉堆肥農法)について、里山から落葉を持ち出し、堆肥化して農地で活用する場合、里山では CO<sub>2</sub>の吸収と排出の収支が合い、農地では CO<sub>2</sub>吸収を増加させることができることを示した。

最後に、里山が提供している多くのサービス(里山の効用)に関し、生物多様性の保全や地球温暖化対策、地域住民の生活や木材生産などの全ての機能を同時に向上させることは難しく、地域に適したバランスを維持することが重要になることを解説した。

(5) ワーク 1『所沢市の将来像について(マチごとゼロカーボン将来像)』

ワーク 1では、所沢市の将来像について、模造紙に貼られた大判のイラスト「マチごとゼロカーボン将来像案」(図 4-1)を用いて対話を行った。

ワークは、「①将来像案を確認⇒②将来像案への気づきを共有⇒③将来像案の改善を付箋で加える⇒④全体共有」という 4 段階で進化した。

①では将来像のイラストをグループ全員で見ながら、投票項目が反映されているか、これまでの対話の内容が反映されているか等を確認し、②では地区の特徴を踏まえて追加すべき点や困難な点を挙げ、「自分が実際に行うには」という視点からの意見交換を行った。③では、②の意見を反映し、将来像の改善点を付箋で示した。

(6) ワーク 1『所沢市の将来像について(マチごとゼロカーボン将来像)』 発表

グループワーク後、全グループが「地区の特徴を踏まえての改善」を中心に、全体に向けて発表した。

なお会議後、各グループで出された改善点を反映し、図 4-2 の将来像を作成した。

[東地区]

- 将来像案からは教育が欠落しているので、ゼロカーボンに関する教育を補完してほしい
- モビリティの削減が大きなテーマになっているが、東地区では車を無視できない。歩行

者・自転車優先といっても、マナーも含めきちんと教育していく必要がある

- 車に乗る人が白い目で見られると分断につながる。車との共存が大前提にあるべきで、車を使いたい人の意見も併記すべき
- パークアンドライドなどの仕組みを考えてもいいのではないか
- 東地区は住宅街でもなく山があるわけでもない土地柄で、平坦であり、畑やちょっとした森が多い。地域の住民と企業とが協働して畑をうまく利用したり蜂を育てたり、企業の協力のもと工場の屋根に太陽光パネルの設置を推進するという意見が出た
- 乗り物に関しては、空飛ぶ車（ドローン）や自動運転など近未来の乗り物をどんどん推奨する。電動車の普及に伴いマンションに充電施設を設けていくという意見が出た

[中央地区]

- 市街地で色々なお店があり、車を使わなくても生活しやすい地域である
- 自転車が通れる道があまりないため、車が通れない徒歩・自転車専用道路を思い切って増やしてはどうか
- マンションにも充電スタンドがないと電気自動車（EV）に買い替えにくい。（戸建と異なり個人で対応が難しいので）設けるようにしてほしい
- 駅前に野菜スタンドを設けるなど、身近で地域の野菜を買えるようにしてほしい
- ソーラーパネルをカーシェアリングの施設に付け、できた電気をEVで使えるようになるとうい
- 自転車置き場がお店に少ないので増やしてほしい
- 里山を「守ろう」というと後ろ向きな感じがするので、増やす方向で考えていきたい
- 興味がない人でもいつの間にか貢献できる仕組み例として、街中のゴミ箱が必要な場所にあり日常や町に溶け込んでいれば自然に分別・リサイクルに貢献できるようにする
- 地産地消の推進では、地元の有機栽培の野菜などをスーパーで分かるように売る

[西地区]

- 西地区は、ベルーナドーム、狭山湖、お茶などが「点」として存在している。この現状を伸ばしていき、点を「線」で結ぶ将来像にする。現在は線に当たる道路が非常に貧弱であり、車中心の道路なので歩道が狭く、通学路もないような状態である。緑はあるが子育てするための遊び場が少ない。ポテンシャルはまだまだある
- 重要なのは教育である。実際に知る必要があるのは学生だけではないため、学校だけでなく学習塾やスポーツクラブなどに学びの場を広げていく
- 公民館など誰もが使う場所での情報発信が大切である。自主的に情報に接することが教育である
- 一つ一つ・一人一人の取組では効率が悪いので、まとまった行動・取組を積極的に行う
- 広い面積を持つベルーナドームの屋根を全面ソーラーパネルにする
- 駅の利用者向けに朝市や夕市で地元の物を売ると地産地消に貢献できる
- スーパーから遠い団地を対象とした移動スーパーがあると個々人が移動するより効率がよい

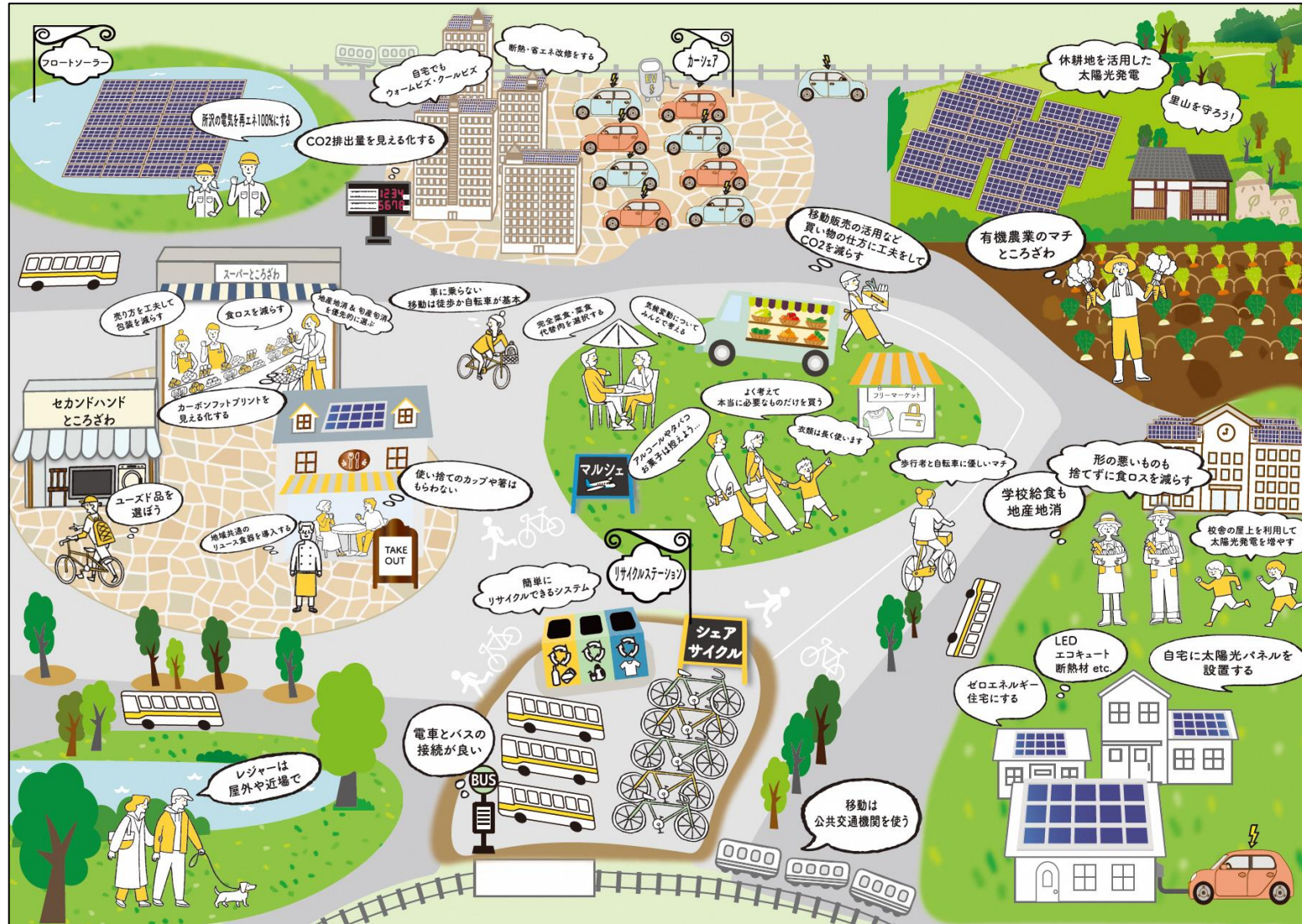


図 4-1 マチごととゼロカーボン市民会議での対話を踏まえて作成したマチごととゼロカーボン将来像(ベース)



図 4-2 マチごとゼロカーボン市民会議での対話を踏まえて作成したマチごとゼロカーボン将来像



## (7) ワーク 2 『対策アイデアの整理』

ワーク 2 では、各自が住む地区でどのように対策を進めていくかについて対話を行った。ここでは模造紙を使って「縦軸：取組時期（中期的⇔今すぐ・既に）」と「横軸：日常生活の変化の大きさ（容易⇔障壁を伴う）」の二軸による四象限図を作り、28 の投票項目（施策）が印刷された付箋をふさわしいと思う位置に貼り付けていく形とした。

ワークは、「①投票した施策案を確認⇒②施策案の重要性について対話⇒③施策案を模造紙に貼る⇒④全体共有」という 4 段階で進めた。

①及び②では特に「それぞれの地区での日常生活」を踏まえた対話を行うことに重点を置き、司会者からも、地区や世代によって考え方の傾向が異なる場合があることを投票結果のグラフを用いて例示した。③では、地区の特徴に関する対話を反映させて全 28 の付箋を優先度の高いと思われるものから模造紙に貼り付けた。



## (8) ワーク 2 『対策アイデアの整理』 発表

グループワーク後、全グループが「地区の特徴を踏まえて重要視する施策」を中心に、全体に向け以下のような発表を行った。（資料 3 P123 参照）

〔西地区 1〕

- 付箋は図の左下（すぐ取り組める・容易）に集中した。リユース・リサイクル商品の促進（施策 2）や緑を増やす（施策 17）など、CO<sub>2</sub> の発生抑制や吸収が基本的コンセプトである
- 図の右上（中期的・障壁を伴う）は再生可能エネルギー関係の意見（施策 10・12・14）で、これにより CO<sub>2</sub> の発生をなるべく抑える
- 最終的には教育が大事である。未来の子どもたちがしっかりと学び、生活の中から CO<sub>2</sub> を少しずつ減らすことで、所沢・世界をよくしていくことになると思う
- 図の左上（中期的・容易）は意見が非常に出にくかった
- 自家用車を使わなくていいまちづくり（施策 20）は、取り組みやすさはあるが非常に壮大ですぐには実現できない。取組は必要だが、最終的なゴールは先になるという意見だった

〔西地区 2〕

- 図の左下（すぐ取り組める・容易）が最も多く、教育を通じた連携（施策 25）、容器包装（施策 1）、リユース・リサイクル（施策 2）などが挙がった
- 省エネ型ライフスタイル（施策 16）、マチごとゼロカーボンを協働で進める体制づくり（施策 28）、自転車・徒歩の移動促進（施策 18）については意見が割れた。車や徒歩移動が多い地域であることも関係している
- 図の左上（中期的・容易）は市民活動促進（施策 13）のみ、右上（中期的・障壁を伴う）

は道路整備（施策 23）、地域の再エネ設備設置（施策 14）となった

[中央地区 1]

- 図の左下（すぐ取り組める・容易）では、食品ロス削減（施策 7）、教育を通じた連携（施策 25）等が挙げられた。このうち地域での連携に関する施策（施策 24・26・27・28）に関して、月 1 回カフェ会を設けて情報共有している自治会もある
- 高齢化で機能していない自治会も多いが、よくやっている自治会から情報がそちらに流れていくとよい
- リユース・リサイクルの促進（施策 2）に関しては、不用品を集めて得たお金をインフラ整備等に充てるという意見が出た
- 図の右上（中期的・障壁を伴う）に関し、まちに緑を増やすこと（施策 17）は簡単そうだが、マンション等では場所が限られるし、壁面緑化も時間がかかるなどで難しいのが現状ではないかという意見が出た

[中央地区 2]

- 28 の施策を一つずつ判断し配置していったところ、右上（中期的・障壁を伴う）には企業や行政の協力が必要で個人では始められないこと、左下（すぐ取り組める・容易）には個人の意識次第ですぐ始められること、という共通点が見受けられた
- 中央地区では徒歩・自転車移動の促進（施策 18）は既によくできている。一方で、CO<sub>2</sub>の「倉庫」となり得る緑を増やす（施策 17）のは、中央では土地に余裕がなく難しいのではないか。これについて、駐車場を芝生にするという意見が出た。現在あるものを有効利用し、今できることから進めていくのがよい

[東地区 1]

- 優先的に取り組むべき項目として、移動と教育・啓蒙に関するものが挙げられた
- 新しく設備を作らなくても呼び掛けによってゼロカーボン達成に近づけるもの、エネルギーに関する市民活動（施策 13）、コミュニティの取組促進（施策 27）、自転車・徒歩での移動（施策 18）やバス利用（施策 19）などが左下（すぐ取り組める・容易）の近くに集まった
- 所沢市の東方面は自動車がないと生活できないのに自動車での移動が不便な所も多い。渋滞や入り組んだ道路などが理由で CO<sub>2</sub>が発生しているため、道路整備により輸送の効率化や移動時間の削減が進むとよい

[東地区 2]

- 図の左下（すぐ取り組める・容易）には、自転車・徒歩での移動促進（施策 18）など個人が意識すれば簡単にできる施策が集まった
- 図の右下（すぐ取り組める・障壁を伴う）は、コミュニティでの取組促進（施策 27）など地域でないと難しいこともある。例えば町の中心に自動車で行く場合、買い物額に応じて無料駐車券をもらえるが、自転車の場合はそれが無い。（駐輪場や無料券の）導入は個人では難しく、インフラや初期費用についてステークホルダーの理解が必要になる
- 図の右上（中期的・障壁を伴う）は関係先と調整しながら年月をかけて理解を進める必

要がある。これに関し、マチごとゼロカーボンを協働で進める体制（施策 28）は非常に大切だが、30 年後（中期的）ではなくできることから始めた方がいいため、「すぐ取り組める」のエリアに置いた。一步踏み出すことが大事である

#### (9) チェックアウト

全 5 回の会議の内容を取りまとめた報告書の作成及び審議会提出に向けた予定等について説明した。その後、グループ内で感想を述べ合い、各地区から 1 名が全体に向けて発表した。

#### (10) 講評（藤本市長）

藤本市長より挨拶と講評があった。概要は以下のとおり。

5 回にわたり色々な提案をいただきお礼申し上げます。去年 1 月頃に市民会議の実施を決めた際、市議会と執行部は環境という共通のテーマに向かい共に前を見て進まなくてはならず、そのためには市民から直接意見を聞いて審議会に提出することで皆の賛同を得られると考えた。

この度集まっていたいただいた皆さんは、最先端の話聞きながら、2030 年～2050 年について自分事として頭を悩ませてくれたことと思う。皆さんからいただいた意見はとても大切な宝物としてこれから審議会に提出、議論され、審議会が提案してくれるルートを通っていくことになる。

私は実はこの会議が終わらないでほしいと思っている。仲間もできたのではないだろうか。ネットワークは非常に大切で、力が溢れてくるし、色々なことが生まれてくるので、できれば仲間を残してほしい。今、市職員は「脱炭素」と「人を中心にしたマチづくり」に向けて皆さんと同じ気持ちで進もうとしている。ぜひこれからも力を貸してほしいし、職員を叱咤激励してほしい。この度の仲間が仲間のままで、もっと大きなうねりになることを切に願っている。

#### (11) 閉会

感謝状の贈呈及び参加者アンケートを実施し、最後に記念撮影を行い全 5 回の市民会議を終了した。

## 第3章. 投票結果

### （投票項目の作成方法）

投票項目は、ゼロカーボンに関する対話から出されたアイデア（グループワークで模造紙に貼られた約2,000枚のポストイット）を再度事務局にて1枚1枚確認し、内容を精査したうえで、テーマ毎に5件程度、計28項目を設問として決定した。各項目の記述はポストイットの言葉を踏襲する形で、なるべく多くの意見を反映できるよう工夫して作成した。（資料5 P144 参照）

### （回答方法）

28項目について「①全く推進すべきでない」から「⑤積極的に推進すべき」までの5段階の意見と「⑥わからない」の6つの選択肢の中から自分の考えに近いものに回答いただいた。また、テーマ毎に最優先と考える施策を1つ選択いただいた。

なお、各設問について自由記述欄を設け、その選択肢を選んだ理由等をご記入いただいた。

### （回答状況）

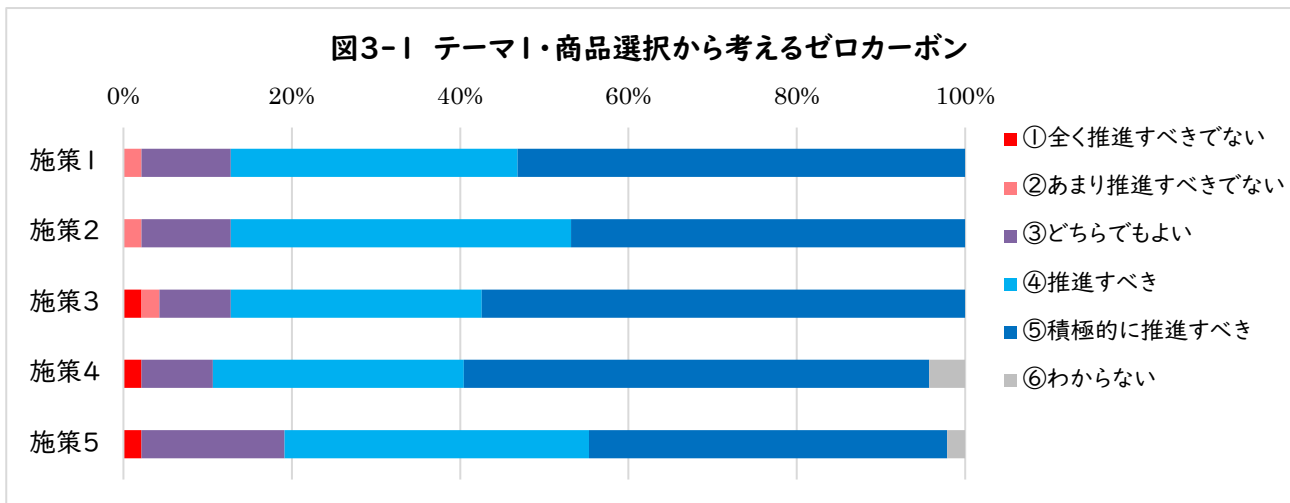
回答者数 47名（内訳：Web 41名・郵送 6名）

（参加者 51名 回答率：92%）

## テーマ1『商品選択から考えるゼロカーボン』

## 最優先施策支持率

施策1	容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する	36.2%
施策2	リユースやリサイクルを促進する	8.5%
施策3	カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する	21.3%
施策4	ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する	23.4%
施策5	所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する	10.6%



テーマ1「商品選択から考えるゼロカーボン」では、施策1「容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する」が最も支持され、施策1に関する自由意見では、選択肢別に下記のような内容が寄せられた。

### [⑤積極的に推進すべきを選択]

- 食品購入が一番身近であり、影響が大きいと思います。
- （ペットボトルが市場に現れたとき、いずれは「問題になる」と思われていたのに現在に至っています）量り売り、詰め替えの選択肢はもともと消費者にあったのだから、市場から消費の選択を無くしただけだから大丈夫！！

### [④推進すべきを選択]

- 関係するキーワードすべてに対して同じ意見ではありません。量り売り・裸売りなどは、現在の生活を考えると非現実的にも思えます。

### [③どちらでもよいを選択]

- 所沢市のみで推進できる事柄では無く、流通される範囲全ての地域に関わることだから。

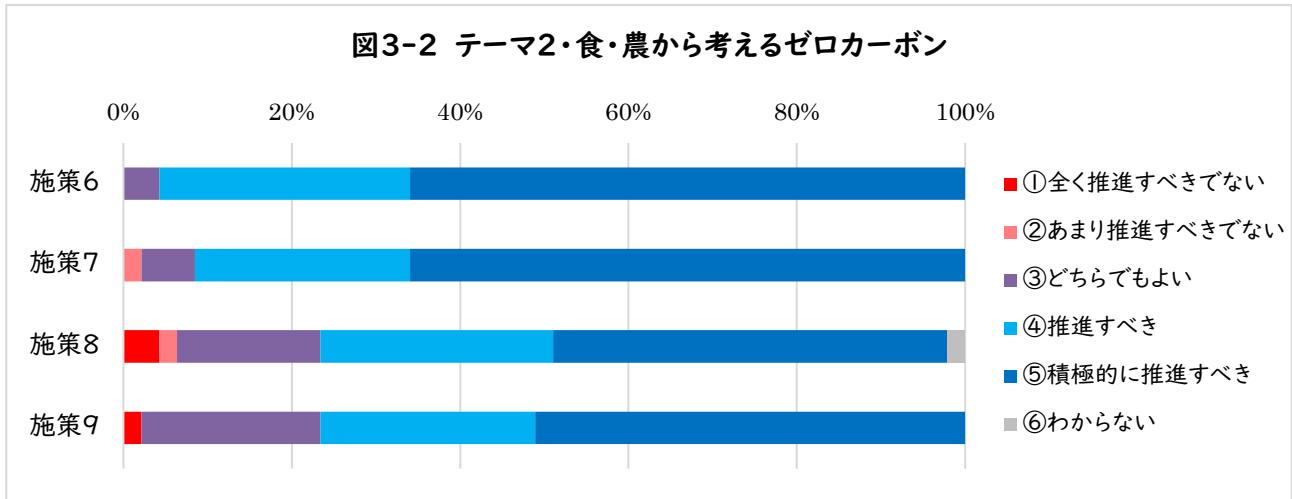
### [②あまり推進すべきでないを選択]

- CO<sub>2</sub>削減効果は小さく、イノベーションにつながる要素も少ないように思える。一方、企業は自社のイメージダウンを避けるために取り組まざるを得ない。企業・消費者双方にとってデメリットの方が大きい施策にみえる。

## テーマ2『食・農から考えるゼロカーボン』

## 最優先施策支持率

施策6	農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する	27.2%
施策7	食品ロスを減らす	42.6%
施策8	ごみの堆肥化と活用	14.9%
施策9	食と農への理解を深める取組を推進する	14.9%



テーマ2「食・農から考えるゼロカーボン」では、施策7「食品ロスを減らす」が最も支持され、施策7に関する自由意見では、選択肢別に下記のような内容が寄せられた。

### [⑤積極的に推進すべきを選択]

- 施策の進め方は、どこで発生している食品ロスに焦点をあてるかによる。塵も積もれば的的な施策で家庭に重点を置くより、まずは1件当たりの食品ロスが大きい事業者側に働きかける方が成果につながりやすいように思える。
- 家族がコンビニで働いているのですが、毎日凄い量の廃棄が出て、そのまま捨ててしまっていると聞いている。賞味期限が切れてしまっているのも再利用も衛生的には厳しいと思っています。規格外野菜は困っていると、JA納入分以外にももう少し稼ぎたい農家さんと企業とかお店とか地域のスーパーとかのお見合い企画とかすれば新しい活用法が生まれるかも。

### [④推進すべきを選択]

- 飲食店での食品ロス削減策は効果大きいと思う。
- コンビニやスーパーですでに実施している。

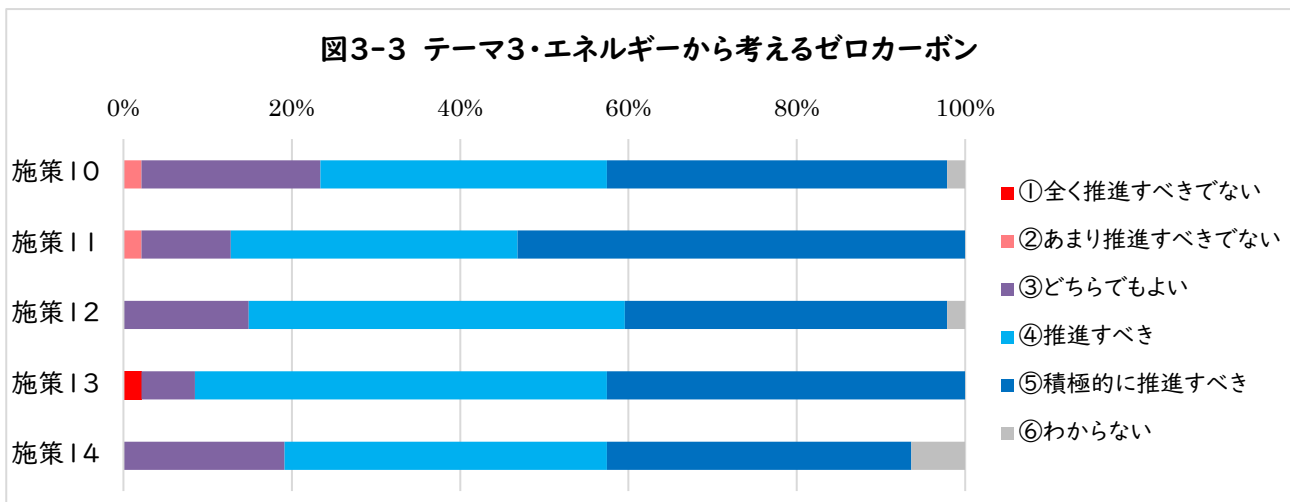
### [③どちらでもよいを選択]

- 主旨は理解するが、推進できるイメージがわからない。やる人はやってる。やらない人はやらない類。

### テーマ3『エネルギーから考えるゼロカーボン』

#### 最優先施策支持率

施策10	家庭向け太陽光発電を促進する	17.0%
施策11	地域における再エネ設備の設置を促進する	40.4%
施策12	再生可能エネルギー比率の高い電力（再エネ電力）への切り替え促進	4.3%
施策13	エネルギーに関する市民活動を促進する	23.4%
施策14	（株）ところざわ未来電力の利用拡大に努める	14.9%



テーマ3「エネルギーから考えるゼロカーボン」では、施策11「地域における再エネ設備の設置を促進する」が最も支持され、施策11に関する自由意見では、選択肢別に下記のような内容が寄せられた。

#### [⑤積極的に推進すべきを選択]

- 今後商業施設などには、太陽光パネルの設置義務化と補助金の検討をするべき。
- 市の施設から始め、所沢市内で影響力のある企業にも参加・協力してもらう。

#### [④推進すべきを選択]

- 義務となると難しいし、誘致が難しくなるのでは。
- 西武グループなど付き合いのある民間企業と上手く話がまとまれば、ぜひ大口設置してほしいと思います。市全体がエコな街という印象になっていくとうれしいです。

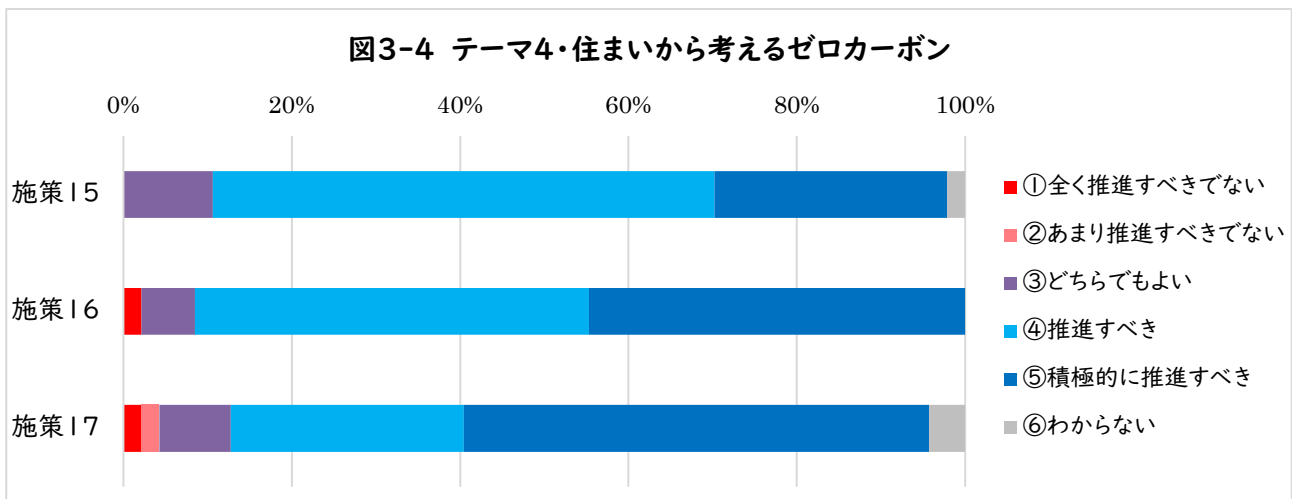
#### [②あまり推進すべきでないを選択]

- 必要以上に再エネ施設が増えたり、生活環境が変わったりする恐れがあるので慎重に事を進めるべき。

## テーマ4『住まいから考えるゼロカーボン』

最優先施策支持率

施策15	機器・設備などの省エネ化を促進する	25.5%
施策16	住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する	27.7%
施策17	まちに緑を増やす	46.8%



テーマ4「住まいから考えるゼロカーボン」では、施策17「まちに緑を増やす」が最も支持され、施策17に関する自由意見では、選択肢別に下記のような内容が寄せられた。

### [⑤積極的に推進すべきを選択]

- 緑を多くすることで、街が変わればいい。公的機関が、どれだけ先陣を切って取組ができるか。
- 課題に「車いす等未舗装道路を利用しづらい方への配慮」とありますが、逆にそこをクリアした未舗装道路を開発できれば、市の印象は格段に上がると思います。やるのであれば半端なものではなく、ぜひ徹底したクオリティの道路を敷いてほしいです。実現すれば住みたい人が増えると思います。

### [④推進すべきを選択]

- 大規模マンション、商業施設を作る際には緑化を義務化する。

### [②あまり推進すべきでないを選択]

- 整備やメンテナンスの頻度、バリアフリーのことを考えると懸念が残る。

### [①全く推進すべきでないを選択]

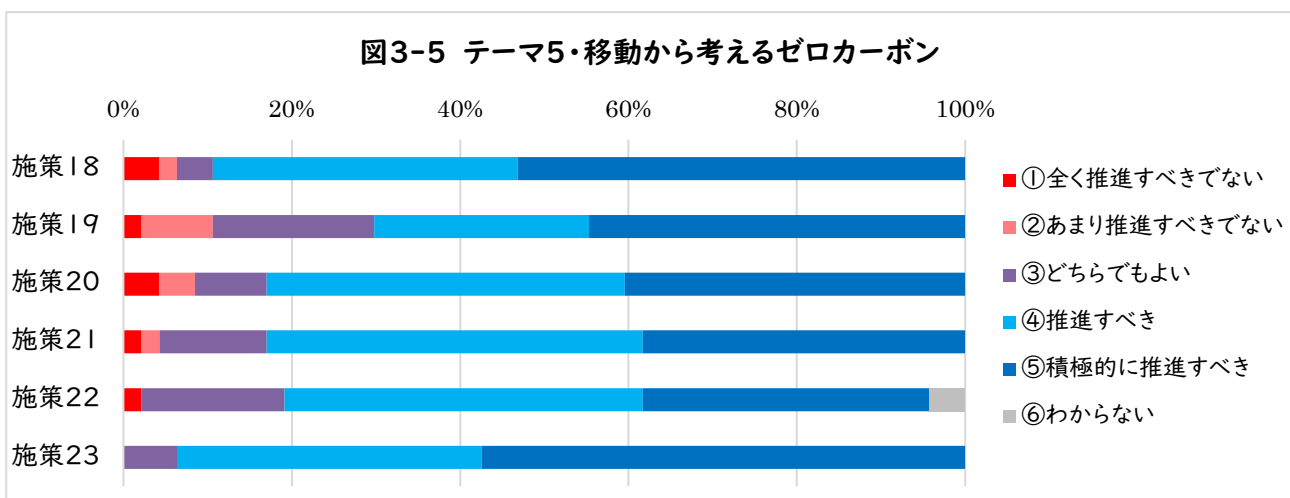
- アスファルトの芝生化は不便なのでやらない方がいい。



## テーマ5『移動から考えるゼロカーボン』

## 最優先施策支持率

施策 18	自転車・徒歩での移動を促進する	17.0%
施策 19	バスの利用を促進する	12.8%
施策 20	自家用車を使わなくてもよいまちづくり	17.0%
施策 21	エコ車両の利用とエコドライブの促進	12.8%
施策 22	輸送の削減と効率化を図る	4.3%
施策 23	自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める	36.2%



テーマ5「移動から考えるゼロカーボン」では、施策23「自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める」が最も支持され、施策23に関する自由意見では、選択肢別に下記のような内容が寄せられた。

### [⑤積極的に推進すべきを選択]

- これはぜひ、推進してもらいたい。ただし、車の利用者にとってデメリットが発生しないよう工夫する必要があると考える。
- クラウドファンディング案件。安全にもつながるし重要。街の魅力も向上する。お金を出します。
- 本当にお願いします！切実にお願いします。道が広がりきれいになれば、家の周りの施策18から22までは連動的に解決すると思う。

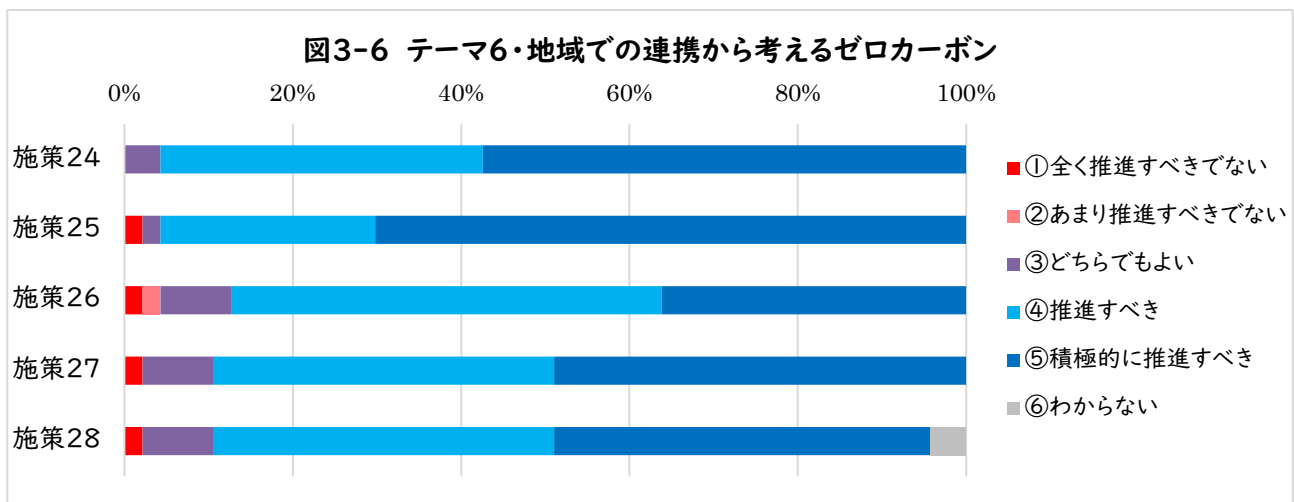
### [④推進すべきを選択]

- 整いつつあると思いますが、安心して歩ける・自転車が走れる 道路作りは今後も続けていく必要があると思います。
- 道路整備と、ゼロカーボンがどのようにつながるのか周知が難しい。

## テーマ6『地域での連携から考えるゼロカーボン』

## 最優先施策支持率

施策 24	地域の連携をまちづくりに生かす	17.0%
施策 25	教育を通じた連携を促進する	38.3%
施策 26	地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する	14.9%
施策 27	コミュニティでの取組を促進する	6.4%
施策 28	まちごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る	23.4%



テーマ6「地域での連携から考えるゼロカーボン」では、施策25「教育を通じた連携を促進する」が最も支持され、施策25に関する自由意見では、選択肢別に下記のような内容が寄せられた。

### [⑤積極的に推進すべきを選択]

- 参加をどうやって促すかが、課題となりそうだが、大人単体では参加しづらい（家族を放っておけない）が、子どものイベントや、行事への参加は前向き捉えられ、近年は参加率も高いと考える。そのあたりに組み込めると良さそう。
- 子どものうちから学習することが、将来に渡りゼロカーボンを推進する最大の原動力と考える。
- 社会の分断や間違った同調圧力の高まりにつながらないように、細心の注意を払う必要がある。

### [④推進すべきを選択]

- 子どもが率先してやることにより大人として恥ずかしい振る舞いが出来なくなり、結果的に大人にも浸透する。

### [①全く推進すべきでないを選択]

- 私が小学生のころ、総合の時間に学んだことはあまり覚えてないので、有効ではないのではないかな。

[全体の集計結果（散布図）]

【横軸：平均点】投票結果の支持度に重みづけをするため、①～⑤の各選択肢に以下のとおり配点して各回答数に乘じ、その合計値を全回答数（「⑥わからない」は除く）で除した数を「平均点」としました。この数値が大きいほど施策に対する全体的な支持度が高いことを示しています（最大値：5.00）。

【配点：①全く推進すべきでない＝1点、②あまり推進すべきでない＝2点、③どちらでもよい＝3点、④推進すべき＝4点、⑤積極的に推進すべき＝5点】

【縦軸：標準偏差】施策に対する参加者の意見（選択）の散らばり具合を示しています。数値が0に近いほど参加市民の選択がまとまっており、数値が大きいほど個々人の選択が分かれていることを意味しています。

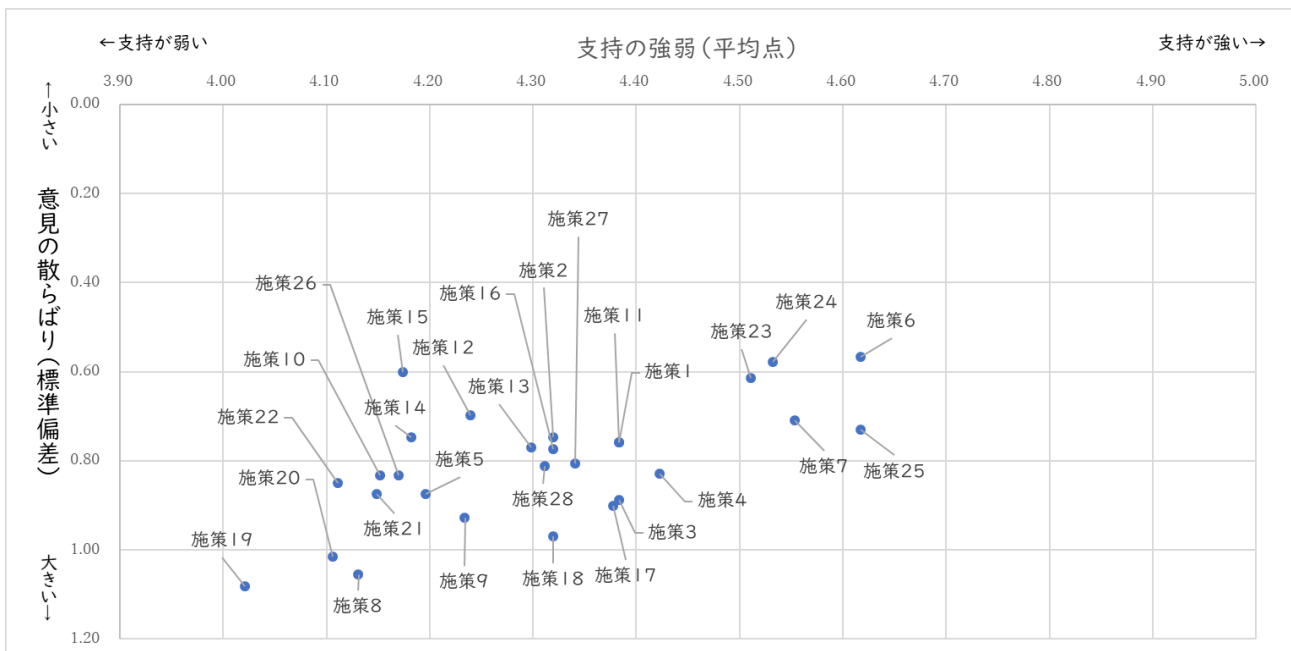


図 3-7 投票結果の散布図

全体では最も支持が強く、意見の散らばりが少なかった項目は施策 6「農産物の地産地消及び旬産旬消を促進する」でした。逆に最も意見の散らばりが大きかった項目は施策 19「バスの利用を促進する」という結果となりました。

(参考：投票項目一覧)

テーマ 1『商品選択から考えるゼロカーボン』

施策 1.容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する

施策 2.リユースやリサイクルを促進する

施策 3.カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する

施策 4.ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する

施策 5.所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する

### テーマ2『食・農から考えるゼロカーボン』

施策 6.農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する

施策 7.食品ロスを減らす

施策 8.ごみの堆肥化と活用

施策 9.食と農への理解を深める取組を推進する

### テーマ3『エネルギーから考えるゼロカーボン』

施策 10.家庭向け太陽光発電を促進する

施策 11.地域における再エネ設備の設置を促進する

施策 12.再生可能エネルギー比率の高い電力（再エネ電力）への切り替え促進

施策 13.エネルギーに関する市民活動を促進する

施策 14.(株)とところざわ未来電力の利用拡大に努める

### テーマ4『住まいから考えるゼロカーボン』

施策 15.機器・設備などの省エネ化を促進する

施策 16.住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する

施策 17.まちに緑を増やす

### テーマ5『移動から考えるゼロカーボン』

施策 18.自転車・徒歩での移動を促進する

施策 19.バスの利用を促進する

施策 20.自家用車を使わなくてもよいまちづくり

施策 21.エコ車両の利用とエコドライブの促進

施策 22.輸送の削減と効率化を図る

施策 23.自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める

### テーマ6『地域での連携から考えるゼロカーボン』

施策 24.地域の連携をまちづくりに生かす

施策 25.教育を通じた連携を促進する

施策 26.地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する

施策 27.コミュニティでの取組を促進する

施策 28.まちごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る

## 第4章. まとめ

### 1. 成果について

#### 1-1. 当初の目的に対する成果

市民会議の目的は「参加者一人ひとりが地球温暖化問題を自分事として捉え、議論することで、問題意識を共有するとともに、会議結果を所沢市マチごとエコタウン推進計画の改定及びゼロカーボンシティ実現に向けた施策に繋げる」こととしており、その目的に対する成果を以下のとおり整理した。

##### (1) 参加者一人ひとりの地球温暖化問題の自分事化と問題意識の共有

当会議は無作為抽出で参加者を募ったことで、参加者の環境に関する知識量や環境配慮行動の実践度については大きなバラツキがあった。環境に関心が高く、普段から情報収集し行動している市民もいれば、関心があまりないまたは全くないという市民も多く参加していた。

しかし、市民会議での話題提供や参加者同士の対話を通して、地球温暖化に対する問題意識を共有することができたものと思われる。事前アンケートでは環境行動を「実践していない」と回答した参加者は19.6%だったのに対し、第5回後のアンケートでは「実践していない」と回答した参加者は0%となり、実践していなかった参加者全員に行動変容がみられた。

また、自由意見でも「全5回をとおしてカーボンニュートラルに理解が深まったため、行動していきたい」など、地球温暖化問題を自分事化する声が多数寄せられ、本目的は達成できたものといえる。こうした市民参加型の会議などが、市民の行動変容に有効であることが分かった。

##### (2) 所沢市マチごとエコタウン推進計画への反映

市は会議結果を「マチごとゼロカーボン市民会議報告書（速報版）」としてまとめ、2023年2月に開催された審議会に提出し、計画への反映に向けた審議がなされたところである。計画改定は2024年3月頃を予定しているが、今後、この報告書をもとに、計画改定への反映について更なる審議がなされる予定である。

市民会議の結果が審議会に提出され、市の計画改定に向けた議題として直接審議されることは、他の自治体で行われた気候市民会議では例のないことであり、全国に先駆けて自治体が主催したことの大きな成果といえる。

##### (3) ゼロカーボンシティ実現に向けた施策に繋げる

市は「所沢市脱炭素社会を実現させるための条例」を令和5年3月に制定した。条例には、市民会議で出された意見を取り入れ、再生可能エネルギーの普及促進、省エネの推進、環境物品への需要の転換など、ライフスタイルの転換について、市・事業者・市民がそれぞれ取り組むべき責務を規定した。

また、この条例の施行にあわせて、令和5年度からは「初期費用ゼロ円太陽光推進補助金」を新たに創設し、家庭等に初期費用ゼロ円で太陽光パネルの設置を促進する補助事業を始め

た。その他、行政だけでなく事業者や市民を巻き込み市全体に新たなムーブメントを起こすことを目的として、事業者の脱炭素経営を促す「(仮称) マチごとゼロカーボン推進事業者連絡会」の立ち上げや、市民啓発のための「ゼロカーボンをテーマとしたシンポジウム」の開催を予定している。

今後、市は会議結果をもとに、ゼロカーボンシティ実現に向けた既存施策の見直しや新たな施策を展開していくこととしている。

## 1-2. その他の効果

「マチごとゼロカーボン市民会議」をとおして、以下のような効果もあった。

### (1) 新たなコミュニティの形成（参加者同士の繋がり）

全 5 回をとおし、回を重ねるごとに参加者同士のコミュニケーションが深まった。会議だけでなく休憩時間の交流により、第 1 回ではグループファシリテーターが促さなければ参加者同士の対話は生まれなかったが、第 5 回では自然と参加者間で対話がなされていた。同じ目的を共有し対話をする中で参加者同士に一体感や繋がりが生まれたものと思われる。

また、会議外の時間に情報交換する様子も見受けられ、環境問題を通じた市民同士の自主的な取組が広がることに期待できるものとなった。

### (2) 職員のファシリテーション能力向上

市民会議では各グループでの対話を促すため、グループ毎に市の職員をファシリテーターとして配置した。全 5 回を通して、職員のファシリテーション能力やコミュニケーション能力の向上が見受けられ、今後、様々な業務において当会議で身に付けた能力を活用できるものとなった。

### (3) 官学連携について

設計の段階から会議の運営についての細部に至るまで、早大と市で協議を重ねて市民会議を開催したことにより、特にグループワークの手法等の会議の進め方や会議結果のとりまとめ方に関して、早大の豊富な経験や知見を活かすことで開催することができた。

今後、市民会議の結果から、早大は更に地球温暖化に関する市民の行動変容について研究を進める予定であり、その研究の成果を市の政策形成に生かしていくことで、市民へフィードバックしていくことも想定している。

今回の市民会議は早大との連携がなければ、成しえなかった事業であり、今後の官学連携のモデルケースとなったといえる。

## 2. 課題について

### (1) 意見の多様性

市民会議を運営するにあたって最も重視したことは、参加者の自由な意見を保証し、多様な意見を引き出すことであった。

参加者には知識に大きな差があったが、知識を有する者の声が大きくなり、知識が少ない者が発言しづらくなる雰囲気支配されてしまうことを懸念していた。参加者の性別、年齢、居住エリア、生活スタイル、家族構成、生活環境といったことだけではなく、知識のない参加者の意見も大切にするといった多様性も重要であると考えていたからである。

自由な発言ができるよう、各テーマの前半に専門家等による話題提供をしたが、参加者によってはその内容が難解であったり、かえって話題提供の内容に発言が引っ張られてしまったりという傾向が見られたのも事実であった。

また、参加者が一つのテーブルで安心して対話できる環境を作ることが最も苦慮した課題であり、現場では司会者とファシリテーターの力量が一番重要であった。

### (2) 意見のとりまとめ

次いで、大きな課題となったのは、会議で参加者から出された意見のとりまとめであった。市民会議に出された意見を審議会に意見を提出することが目的の一つであったが、参加者からは2,000を越える意見が出された。この大量な意見をそのまま「これが市民会議の結果です」と審議会に提出することは現実的ではないことから、そうした意見をテーマ毎にある程度のまとまりに分類したうえで、傾向を出すために、アンケート形式の投票という形をとった。しかし、この分類して傾向を出すことが、少数意見を軽視することにつながるのではないか？というジレンマが付きまとい、分類の仕分けや傾向の出し方も大きな課題であった。

本来、少数意見を含めて多様な意見を尊重することを最も重要な課題と捉えていたことから、本報告書の取扱いに当たっては、多数意見だけでなく、その施策に対して反対するような少数意見にも着目することも重要であると考えた。

### (3) 今後の課題

最も重要な課題は、この市民会議の結果を受けて、今後どのように市の施策を実行していくかということである。

前述したとおり、環境審議会ではこの会議結果をもとに審議がなされ、市の環境基本計画へ反映される予定である。また、市民会議で出された意見を取り入れて「所沢市脱炭素社会を実現するための条例」を令和5年3月に制定したところである。

こうした計画の策定や条例の制定はゴールではなく、地球温暖化対策の第一歩に過ぎない。今回の市民会議の結果を重く受け止め、引き続き市民の声に耳を傾けながら、具体的な施策を実行していくことが最も重要な今後の課題となった。

### 3. まとめ

国内で初めて自治体主催の気候市民会議として開催した「マチごとゼロカーボン市民会議」。前例が少なく試行錯誤の繰り返しであったともいえる。「限られた時間の中で、参加者は自分の考えを発言ができたのか？成熟した対話ができているのか？」といったことを自問自答しながら手探りで全5回を開催してきた。それでも、ほとんどの参加者が脱落することなく、全5回の会議に参加をしていただくことができた。また、第5回終了後のアンケートでは「対話がしやすい雰囲気だった」という設問に対して、「とてもあてはまる：78%」、「ややあてはまる：18%」という結果であったことから、対話のしやすさについては、参加者に一定の満足感があったものと考えている。

また、全5回の会議をとおして、地球温暖化対策を進めていくことに異論を唱えた参加者や、自分や身近な人だけがよければ、あとはどうなってもよいという参加者は皆無であった。そして、参加者すべての人が、自分を含めたあらゆる立場の人が協力しあって地球温暖化対策をしなければならないことを前提に意見交換していたことが印象的であった。今回の市民会議が、あらゆるステークホルダーが連携して地球温暖化対策へ取り組んでいくための大きな第一歩になったと考えている。

最後に、この市民会議が多くの方々に支えられて開催することができたことも書き添える。多忙な中、話題提供者として登壇していただいた研究機関、経営者、民間企業、市民団体の方々に加え、知見や経験をいかして協力していただいた早大の平塚准教授を始めとする学生の方々に感謝申し上げたい。また、仕事や学校があつたり、育児を誰かに頼んだり、なんとか都合をつけて、自分の時間を割いて参加された参加者の方々にも改めて感謝申し上げます。





## 第5章. 講評（早稲田大学 平塚基志氏）

所沢市の「マチごとゼロカーボン市民会議」（以下、市民会議）には、司会として参加しました。しかし、実のところ、市民会議のお話をいただいてから数か月間は、市民会議が意味あるものになるという確信を持たずにいました。もともと欧州で始まった気候市民会議です。資料を読むとボトムアップで気候変動について対話するという意味は分かったのですが、それが個別具体的な対策（政策、施策、行動、その他）にどのようにつながるのかが私には見通せませんでした。つまり、ゼロカーボンにつながる道筋が見えませんでした。一方、従来の気候変動に関する国際合意やそれに基づく国レベルの対策（トップダウン）が効果的に進んでいるという感触もなく、市民会議を通してボトムアップで進めることの可能性を、市民、行政、そして大学で『探っていきたい』と考えるに至りました。

第1回目の市民会議の際、冒頭に以下のように申し上げました。そして、このことは全5回を通して常に意識していました。長いですが以下に記します。

「この『マチごとゼロカーボン市民会議』ですが、気候変動への対策を進めていくことは、参加者の皆さん、日本全国の皆さん、そして世界中の皆さんの共通認識ではないかと思います。一方、その共通のゴールに向けてどのように取組を進めていくかという設計図は、今でも明確ではないというのが実情です。ゴールに向けてどのように進んでいくかについては、男女によって違うかもしれません。職業によっても違うかもしれません。さらに、ゴールへ進もうとするスピードは高校生のような若い方々と高齢者で異なるかもしれません。そういった状況を踏まえて、どのようにゴールに向けて進んでいくかを『対話』を通して考えていくのがこの『マチごとゼロカーボン市民会議』です。とにかく意見を出し合っ、『ゴールにたどり着くまでの設計図の材料を出し合う』ことが会議の目的になります。」

そういう意識で臨んだ市民会議でしたが、全5回の市民会議を通して所沢市のゼロカーボン達成のために対話が進んだこと、そして気候変動への意識が大きく変化したことは模造紙に貼られたポストイットや会場の雰囲気から良く分かりました。私としては、第1回目に申し上げた『ゴールにたどり着くまでの設計図の材料を出し合う』という目的は果たせたのではないかと考えています。

さて、毎回の市民会議において、私は会議中だけではなく会議前や休憩中もお話を伺う機会が多くありました。その中で、とくに印象的だったのは1995年以降に産まれたZ世代と呼ばれる参加者の意見でした。いくつか挙げると、「気候変動への対策は自分ごとでもあり、かつ全員のことでもあることを理解すべき」、「これまでは意見を出す手段すらなかった。市民会議は貴重な機会になった」、そして「お年玉で省エネ家電を買おうと思っている」がありました。また、そうしたZ世代の意見を受けて、「高校生が本気で考えていることに驚いた」や「子や孫といった次世代のための行動が大事」という意見がその上の世代から出たこと、さらに世代を超えて具体的な対策を進める手段について対話が深まったことは想定を超えた成果だったと考えます。一方、「対話の時間が足りなかった」や「配布資料が多く紙がもったいない」という運営面への意見は反省点でした。そして、「居住地によっては移動手段が限定的である。そうした差異を考慮してはどう

か」や「商品を守る側の工夫も必要」という気候変動への対策を進めるにあたっての根本的な課題が浮き彫りになったことは、今後の市民、事業者、行政、大学等のアカデミアへの宿題だと受け止めました。加えて、世代を問わずいただいた意見としては、「継続して市民会議を開催すべき」というものがありました。一朝一夕には進まない気候変動への対策について、これは参加者及び関係者の共通認識だったと思います。

今後は市民会議で対話したことを所沢市のゼロカーボンに結び付ける必要があります。対話から多くのアイデアが出されました。それらを自分ごととして日常生活に取り入れていくこと、すなわち行動変容を進めていく必要があります。2023年度はゼロカーボンに向けた実証研究として次のフェーズに移ります。市民会議を基盤としたゼロカーボンへの取組の深化・面的拡大と一緒に考えていきたいと思えます。

最後に、日本では初めてとなる自治体主催の気候市民会議の開催を決断し、ボトムアップで気候変動への対策を進めることにした所沢市役所マチごとエコタウン推進課の皆さんに敬意を表します。そして、参加いただいた市民の皆さん、話題提供いただいた有識者の皆さん、ファシリテーター補助として参加した早稲田大学人間科学学術院のメンバーに感謝申し上げます。



## 參考資料

気候市民会議を開催します！

# マチごとゼロカーボン 市民会議

## 参加者募集

この通知は無作為抽出で選ばれた  
市民の方だけに送付しています！

ゼロカーボンシティ実現に向けて、一緒に考えませんか？

所沢市は、地球温暖化を食い止めるべく、  
2050年までに地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出を  
実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を表明しました。

ゼロカーボンシティは、市民の皆様と一緒に  
作り上げていくことが大切だと考えています。  
そこで、市民の皆様が話し合っ、  
課題や対策について意見を出す場として、  
「マチごとゼロカーボン市民会議」を開催します。

 会議結果が  
市の政策づくりに活かされる

 地球温暖化に関する  
最新の研究に触れる事で、  
知識を得る事ができる

**日程(全5回)** 8/21日 9/25日 10/23日 11/27日 12/18日 各回13時～17時予定

**会場** 所沢市役所8階大会議室

※新型コロナウイルスの感染状況によって、  
オンライン会議に切り替える可能性があります

参加の条件など詳細は裏面をご覧ください

🔍 マチごとゼロカーボン市民会議 

問い合わせ 所沢市並木1-1-1 所沢市役所環境クリーン部マチごとエコタウン推進課 ☎04-2998-9133

## 開催趣旨

地球温暖化の影響は豪雨等の形で地球全体に表れています。2019年の台風19号では所沢市内でも多くの被害が出て、各所に避難所が開設され、約900名の市民が避難する事態となりました。このような自然災害は今後も益々増えるとされており、私たちの生活を脅かす事態になりかねません。地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出を抑制するためには、私たち一人ひとりが当事者としてこの問題を捉え、何をすべきか、何ができるかを考えていくことが重要です。今回開催する「マチごとゼロカーボン市民会議」は、選出された約30名の市民の皆様にも、ゼロカーボンシティの実現に向け、市民生活に関係する観点から見識を深めていただきつつ、課題や対策について話し合っていたいただく場です。また、会議結果については市の政策づくりに活かされます。予備知識などは必要ありませんので、お気軽にご応募ください。

## 応募方法

参加意向調査票を記入し、下記いずれかの方法でご応募ください。

- ・同封の返信用封筒で返送※切手は不要です
- ・市ホームページまたはQRコードを通じて電子申請



回答期限

7月4日(月)  
(消印有効)

参加を希望しない場合でも、参加意向調査票の回答にご協力をお願いいたします。

※参加意向調査票で頂いた個人情報は厳重に管理され、「マチごとゼロカーボン市民会議」の効果的な運営に限り使用します。また、アンケートについては、個人が特定されないよう統計的に処理した上で、早稲田大学人間科学学術院と所沢市が共同で進める「市民の気候変動に対する行動変容に関する研究」に使用します。

## 参加の条件

- ・本案内を受け取ったご本人（宛名にお名前がある方）
- ・本会議の趣旨を理解し、意欲的に参加していただける方
- ・可能な限り全日程に参加できる方
- ・未成年の場合、会議への参加に親権者の同意を得られる方

※参加謝礼として、各回2,000円分のQUOカードをお渡しします。

## 参加者決定までの流れ

1. 無作為抽出した4,500人の市民に本案内を送付
2. 応募者の中から年齢や性別等を考慮して30名程度の参加者を決定  
※応募しても参加できない場合があります。
3. 当選した方にのみ結果を通知（7月下旬頃）

## 各回の流れ

1. 専門家による講義
  2. グループに分かれて討議
  3. グループ討議の内容を全体共有
- ※会議は原則公開で行われますが、話し合いの妨げにならないよう十分配慮致しますので、ご安心ください。

## 気候市民会議とは

昨今欧州で盛んに実施されている、無作為抽出などによって選ばれた市民が、地球温暖化対策などについて話し合う会議です。会議の中で出合った意見は、政策提言等の形で行政に届けられています。



参加に際してご不安な点があれば、  
お気軽にご連絡ください！



環境に関する知識がなくても参加できる？

専門家が会議をサポート！  
安心してご参加ください



オンライン会議の設備がないのだけれど…

オンライン会議になった場合は、設備がない方のために会場も用意する予定です



主催 所沢市 協力 早稲田大学人間科学学術院

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

## マチごとゼロカーボン市民会議 参加意向調査票

市民会議への参加意向について、各項目の該当する□に✓をつけて、お名前、ご連絡先などをご記入ください。また、アンケートへの協力をお願いします。

**[回答方法]**

- ・同封の返信用封筒で返送※切手は不要です
- ・市ホームページまたはQRコードを通じて電子申請



※QRコードは特許デンソーウェブの登録商標です。

**[回答期限]**

7月4日(月)まで(消印有効)

参加への意向	<input type="checkbox"/> 参加を希望する <input type="checkbox"/> 参加を希望しない <input type="checkbox"/> 迷っている 可能であれば理由をお聞かせください		
ご住所	所沢市		
お名前		性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> その他   年齢   歳
電話番号	※日中に連絡のつく番号をご記入ください。		
学業・職業	<input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> 学生(その他) <input type="checkbox"/> 公務員 <input type="checkbox"/> 農林漁業 <input type="checkbox"/> 製造業 <input type="checkbox"/> 建設業 <input type="checkbox"/> 卸売業・小売業 <input type="checkbox"/> 宿泊業・飲食サービス業 <input type="checkbox"/> 専業主婦(主夫) <input type="checkbox"/> 無職(年金生活を含む) <input type="checkbox"/> その他(      )		
(未成年の場合) 保護者の署名			

※参加意向調査票で頂いた個人情報は厳重に管理され、「マチごとゼロカーボン市民会議」の効果的な運営に限り使用します。また、アンケートについては、個人が特定されないよう統計的に処理した上で、早稲田大学人間科学学術院と所沢市が共同で進める「市民の気候変動に対する行動変容に関する研究」に使用します。

**下記のアンケートにもご協力ください。**

このアンケートは、「ゼロカーボン」に係る基礎調査として実施するものです。お手数をおかけしますが、ご協力をお願いします。質問には、封筒の宛名ご本人様がお答え下さい。

I. 2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするため、所沢市では様々な取組を行っています。次のことについて、あなたが知っていることの文頭の□に✓をつけてください(✓はいくつでも)。なお、全て知らない場合には「全て知らない」の□に✓をつけてください。

<input type="checkbox"/> 市がゼロカーボンシティ宣言を表明していること <input type="checkbox"/> ところざわ未来電力(※)が供給する環境負荷の少ない電力を公共施設で使用していること <input type="checkbox"/> ところざわ未来電力が、家庭向けに電力を販売していること <input type="checkbox"/> 毎月25日を「RE100の日」として本庁舎等の使用電力を再生可能エネルギー100%にしていること <input type="checkbox"/> メガソーラー所沢やフロートソーラー所沢を設置し、市域へ再生可能エネルギーの普及を行っていること <input type="checkbox"/> 家の断熱リフォームや太陽光発電設備、電気自動車等を導入する際の補助制度があること <input type="checkbox"/> 全て知らない	※ 市が出資する地域新電力会社
--	-----------------

II. これまでの生活において、地球温暖化対策に取組んできましたか? ( はい ・ いいえ )

「はい」を選んだ方は裏面の設問Ⅲと設問Ⅳへ、「いいえ」を選んだ方は裏面の設問Ⅴへお進みください。

裏面に続きます

Ⅲ.地球温暖化対策への取組で、あなたが実際に行っている行動を全て選び、該当する□に✓をつけてください。

<input type="checkbox"/> エアコンを適正な温度に設定している	<input type="checkbox"/> 地球温暖化による災害増への可能性も考え、食糧の備蓄等の備えをしている
<input type="checkbox"/> こまめな消灯や待機電力の削減に心掛けている	<input type="checkbox"/> 省エネ性能の高い家電への買い替えを行っている(照明のLED化を含む)
<input type="checkbox"/> 近場への移動は自動車ではなく、徒歩や自転車を利用している	<input type="checkbox"/> その他( )
<input type="checkbox"/> 身近なみどりを守り育てている	

Ⅳ.地球温暖化への対策に取り組んできた理由をお答えください。回答は1~5から選んで○をつけてください。

質問項目	1 まったくあてはまらない 2 あまりあてはまらない 3 どちらでもない 4 ややあてはまる 5 とてもあてはまる				
	a. 子供や孫の世代が地球温暖化によって生活に困らないように(将来世代の幸福のために)	1	2	3	4
b. 地球温暖化に起因すると考えられる自然災害に遭遇した、もしくはその脅威を感じたため	1	2	3	4	5
c. 地球温暖化に取り組むこと(例えばエネルギー消費量を減らすこと)は経済的にも効果的だから	1	2	3	4	5
d. 地球温暖化による自然環境の変化を抑制し、生物の多様性を保全するため	1	2	3	4	5
e. 所沢市が2050年までに「ゼロカーボンシティ」になると表明したため	1	2	3	4	5
f. その他の理由	【自由記述】				

Ⅴ.地球温暖化への対策に取り組まなかった理由をお答えください。回答は1~5から選んで○をつけてください。

質問項目	1 まったくあてはまらない 2 あまりあてはまらない 3 どちらでもない 4 ややあてはまる 5 とてもあてはまる				
	a. 省エネ性能の高い電化製品の購入等、対策には初期投資(費用)が必要だから	1	2	3	4
b. 具体的な対策として何を行えばいいかわからないため	1	2	3	4	5
c. 対策のためにライフスタイルを変えることに、家族や友人の賛同を得られないため	1	2	3	4	5
d. 日常が忙しく、地球温暖化への対策を考える余裕がないため	1	2	3	4	5
e. 対策は1人で行っても効果が乏しいと考えるため	1	2	3	4	5
f. 対策としてゼロカーボンを目指すことについて、科学的に疑問があるため	1	2	3	4	5
g. その他の理由	【自由記述】				

ご協力ありがとうございました。





## 資料2. 参加意向調査のアンケート結果

I 2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするため、所沢市では様々な取組みを行っています。次のことについて、あなたが知っていることの文頭の□に✓をつけてください（✓はいくつでも）。なお、全て知らない場合には「全て知らないの」の□に✓をつけてください。

選択肢	参加者		参加希望者		参加希望なし		迷っている		全回答者※	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
市がゼロカーボンシティ宣言を表明していること	16	31.4%	33	29.7%	79	17.8%	5	15.2%	117	19.9%
ところざわ未来電力が供給する環境負荷の少ない電力を公共施設で使用していること	10	19.6%	16	14.4%	50	11.3%	4	12.1%	70	11.9%
ところざわ未来電力が、家庭向けに電力を販売していること	6	11.8%	12	10.8%	28	6.3%	2	6.1%	42	7.2%
毎月25日を「RE100の日」として本庁舎等の使用電力を再生可能エネルギー100%にしていること	1	2.0%	4	3.6%	19	4.3%	6	18.2%	29	4.9%
メガソーラー所沢やフロートソーラー所沢を設置し、市域へ再生可能エネルギーの普及を行っていること	11	21.6%	18	16.2%	68	15.3%	7	21.2%	93	15.8%
家の断熱リフォームや太陽光発電設備、電気自動車等を導入する際の補助制度があること	13	25.5%	33	29.7%	139	31.4%	14	42.4%	186	31.7%
全て知らない	24	47.1%	55	49.5%	226	51.0%	13	39.4%	294	50.1%

※回答期限終了後に送付されたアンケートも反映しているため、第2章の数字とは異なります。

II これまでの生活において、地球温暖化対策に取り組んできましたか？

「はい」を選んだ方は設問Ⅲと設問Ⅳへ、「いいえ」を選んだ方は設問Ⅴへお進みください。

選択肢	参加者		参加希望者		参加希望なし		迷っている		全回答者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
はい	41	80.4%	94	84.7%	320	72.2%	25	75.8%	439	74.8%
いいえ	10	19.6%	17	15.3%	123	27.8%	8	24.2%	148	25.2%
合計	51	100.0%	111	100.0%	443	100.0%	33	100.0%	587	100.0%

Ⅲ. 地球温暖化対策への取組で、あなたが実際に行っている行動を全て選び、該当する□に✓をつけてください。

選択肢	参加者		参加希望者		参加希望なし		迷っている		全回答者※	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
エアコンを適正な温度に設定している	1	2.0%	86	77.48%	287	64.79%	23	70%	396	67.5%
こまめな消灯や待機電力の削減に心掛けている	0	0.0%	81	72.97%	277	62.53%	23	70%	381	64.9%
近場への移動は自動車ではなく、徒歩や自転車を利用している	6	11.8%	74	66.67%	213	48.08%	19	58%	306	52.1%
身近なみどりを守り育てている	20	39.2%	33	29.73%	99	22.35%	5	15%	137	23.3%
地球温暖化による災害増への可能性も考え、食糧の備蓄等の備えをしている	14	27.5%	45	40.54%	139	31.38%	9	27%	193	32.9%
省エネ性能の高い家電への買い替えを行っている（照明のLED化を含む）	16	31.4%	52	46.85%	177	39.95%	13	39%	242	41.2%
その他	4	7.8%	6	5.41%	21	4.74%	1	3%	28	4.8%

Ⅳ. 地球温暖化への対策に取り組んできた理由をお答えください。回答は1～5から選んで○をつけてください。

※1～5で回答した結果の平均点を集計

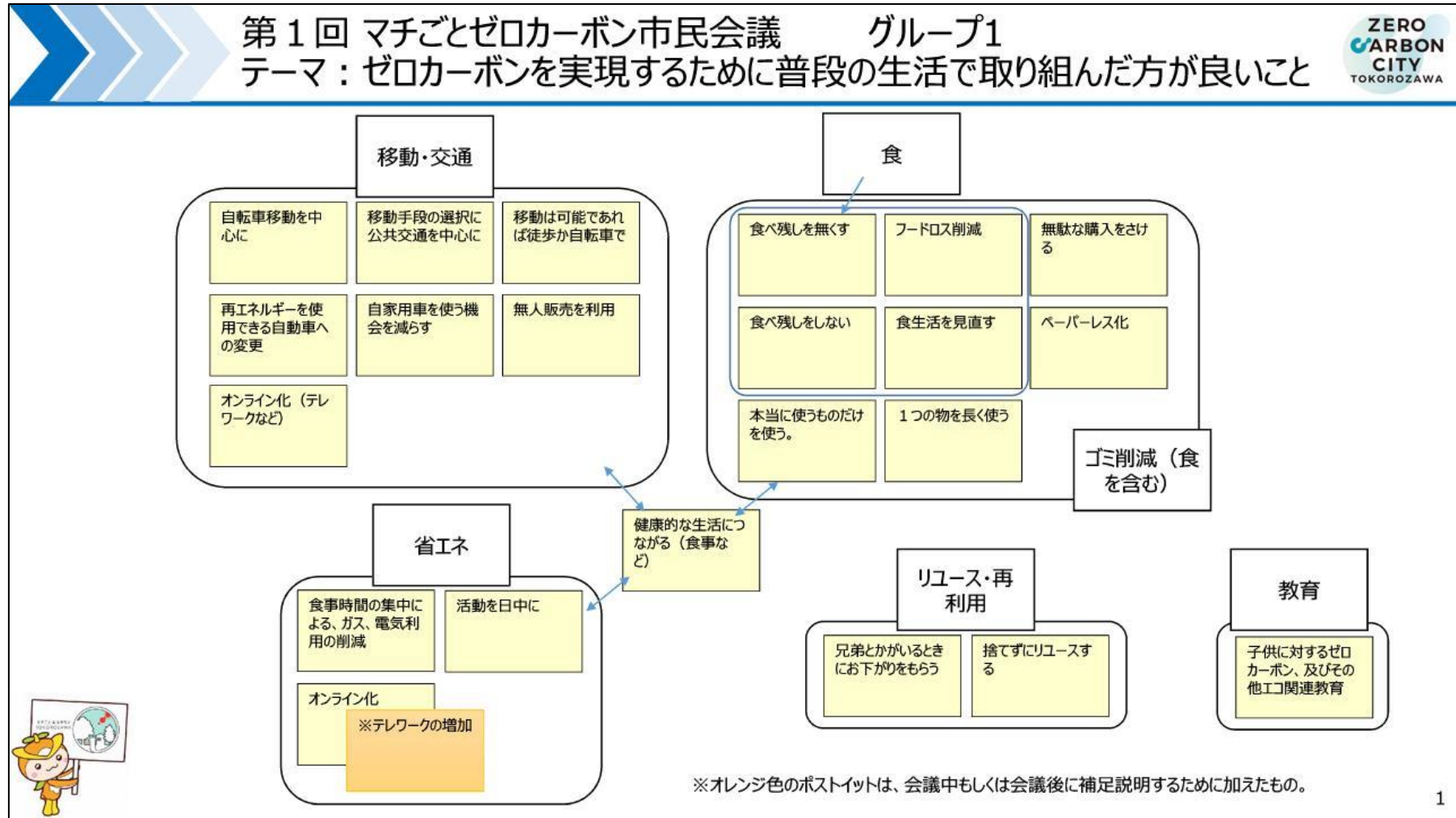
選択肢	参加者	希望者	希望なし	迷っている	全回答者
子供や孫の世代が地球温暖化によって生活に困らないように（将来世代の幸福のために）	4.29	4.11	3.90	4.25	4.09
地球温暖化に起因すると考えられる自然災害に遭遇した、もしくはその脅威を感じたため	3.63	3.68	3.59	3.62	3.63
地球温暖化に取り組むこと（例えばエネルギー消費量を減らすこと）は経済的にも効果的だから	4.15	4.11	3.92	3.96	4.00
地球温暖化による自然環境の変化を抑制し、生物の多様性を保全するため	4.12	4.07	3.80	3.96	3.95
所沢市が2050年までに「ゼロカーボンシティ」になると表明したため	2.34	2.22	2.09	2.52	2.28

V. 地球温暖化への対策に取り組まなかった理由をお答えください。回答は1～5から選んで○をつけてください。

※1～5で回答した結果の平均点を集計

選択肢	参加者	希望者	希望なし	迷っている	全回答者
省エネ性能の高い電化製品の購入等、対策には初期投資（費用）が必要だから	2.50	3.04	3.33	3.45	3.28
具体的な対策として何を行えばいいか分からないため	3.58	3.42	3.43	3.22	3.36
対策のためにライフスタイルを変えることに、家族や友人の賛同を得られないため	2.08	2.00	2.48	2.50	2.33
日常が忙しく、地球温暖化への対策を考える余裕がないため	3.25	3.13	3.45	3.44	3.34
対策は1人で行っても効果が乏しいと考えるため	2.67	2.63	3.06	3.44	3.04
対策としてゼロカーボンを目指すことについて、科学的に疑問があるため	2.09	1.96	2.50	2.44	2.30

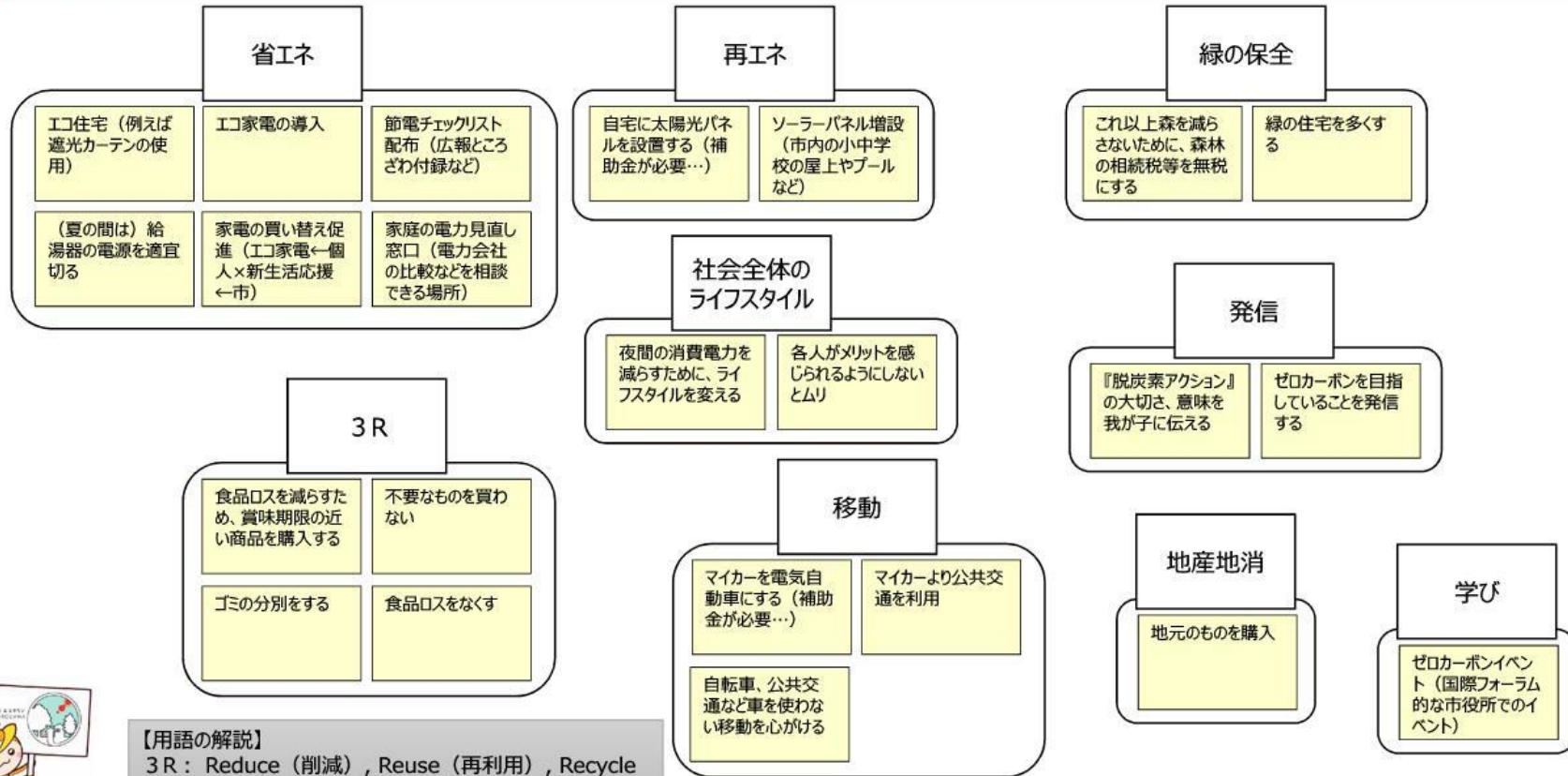
資料3. グループワークの結果



# 第1回 マチごとゼロカーボン市民会議

# グループ2

## テーマ：ゼロカーボンを実現するために普段の生活で取り組んだ方が良いこと



**【用語の解説】**  
3R：Reduce（削減）、Reuse（再利用）、Recycle（リサイクル）という廃棄物削減に関する取組のこと。

# 第1回 マチごとゼロカーボン市民会議

## グループ3

テーマ：ゼロカーボンを実現するために普段の生活で取り組んだ方がよいこと



### 食

お弁当にする（外食を減らす）	フードロスを減らす	手前どりをする ※コンビニなどで賞味期限が近く手前に置いてある食品を優先的に買うことでフードロスを削減すること
ごはん残すな！	お菓子・ジュースを食べない	地産地消を進めたい
飲み会でハシゴをしない	賞味期限と消費期限を区別する（消費期限までは食べる）	割引商品を買う

### 移動・交通

エコカーにする	信号を歩行者優先にする
テレワークにする	自転車・徒歩で移動
自転車に乗ろう	自動車は2人以上で乗ろう

### ゴミ削減

ペットボトルからマイボトルへ	とりあえず安い家具は買わない	捨てるゴミの量を減らす
消費財は使い切る	服を買わない（大量消費しない）	分別ゴミは進めよう
使う必要のないものを集めない		

### 緑

自然（環境）を減らさない	緑のカーテンを導入する
庭の緑を増やす	壁を生垣にする

### その他の意見

従来の気候変動への考えを転換する	気候変動への対策にあたり選択肢をもつ	地元を愛する（それが所沢でのゼロカーボンに繋がる）
電子書籍を利用する（紙の使用量を削減する）	日傘を使う（気候変動への適応）	気候変動の現状や対策の効果についての分かりやすい情報を増やす
		気候変動への対策がおろそかな場合は税金を増やす

※オレンジ色のポストイットは、会議中もしくは会議後に補足説明するために加えたもの。



# 第1回 マチごとゼロカーボン市民会議

## グループ4

テーマ：ゼロカーボンを実現するために普段の生活で取り組んだ方が良いこと



### 節電・節水

こまめに電気を消す

エアコンを27℃に設定する  
→28℃はつらい…

省エネ家電に買い替える

早寝・早起きをする

入浴時間をなるべく家族と合わせる

シャワーを出しっぱなしにせず、桶に水を溜めて利用する

洗濯する回数を週2回までに減らす  
(水道代も節約できる)

### 意識啓発

無意識的なゼロカーボン対策行動を増やす

無自覚→自覚にシフトした行動をする

1人だけではなく、「みんなで」で協力をする

まずは、「ゼロカーボン」とは何かを知る

親近感を持たせることで、対策行動に対する共感を得る

自ら情報を取得し、周囲に知らせることが大切

### 移動

自家用車の使用を控える

買い物をまとめて行い、週に何度も行かないようにする

移動方法を自転車にシフトする

電気自動車を購入する

防衛体力（温度や湿度に対する適応力）を向上させる

### 無駄の削減

フードロス減らす努力をする

長く使える製品を選択する

エコバックをフルに活用する

物を大切に使用する

### 住まい

自宅の屋根を太陽光発電（ソーラーパネル）に替える

窓ガラスを断熱構造にする

### 緑化

緑を増やす



# 第1回 マチごとゼロカーボン市民会議

# グループ5

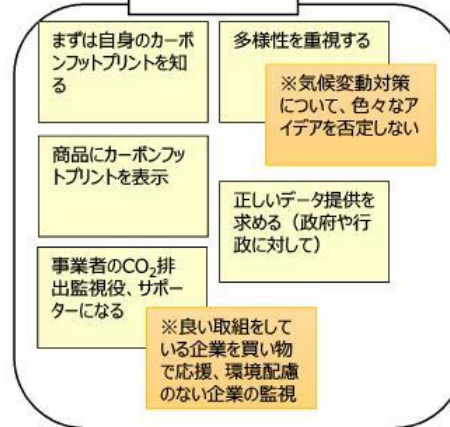
## テーマ：ゼロカーボンを実現するために普段の生活で取り組んだ方が良いこと



### 情報のシェア



### 知識



### 移動



### 生活



#### 【用語の解説】

EV：Electric Vehicle（電気自動車）のこと。

※オレンジ色のポストイットは、会議中もしくは会議後に補足説明するために加えたもの。

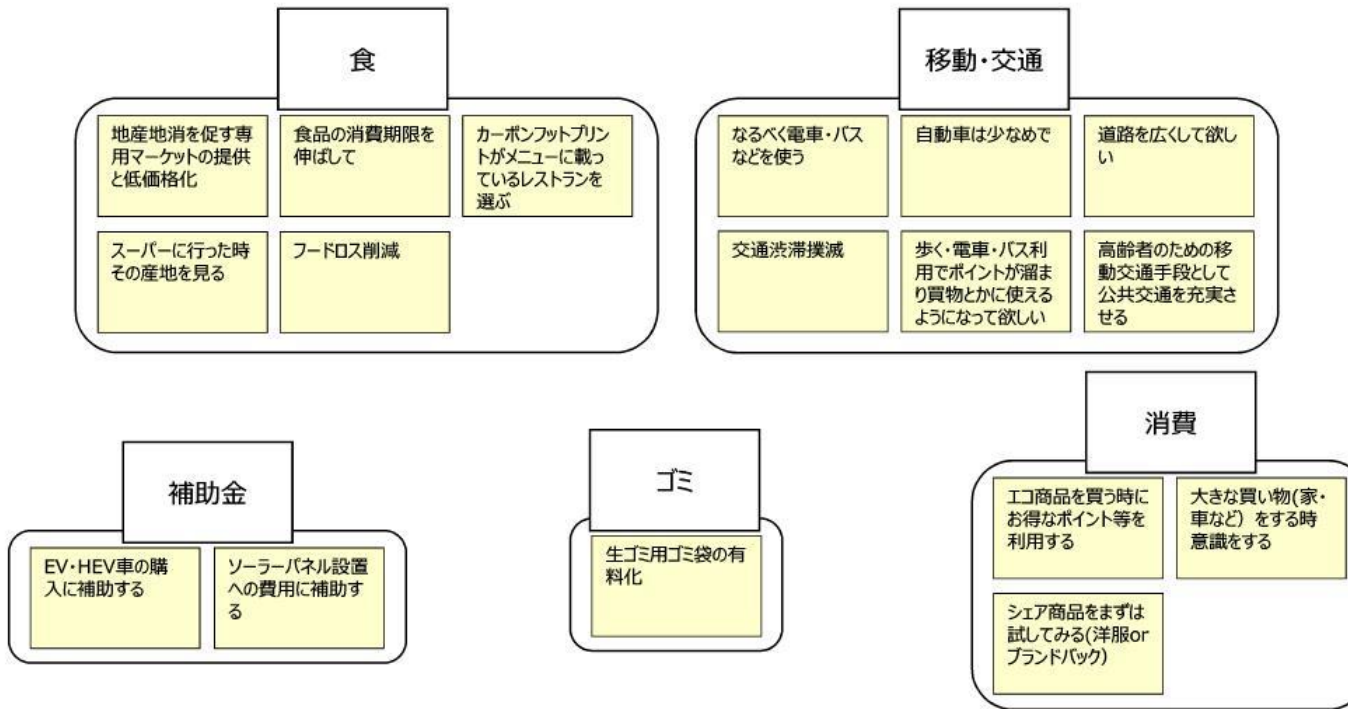




# 第1回 マチごとゼロカーボン市民会議

## グループ6

テーマ：ゼロカーボンを実現するために普段の生活で取り組んだ方が良いこと

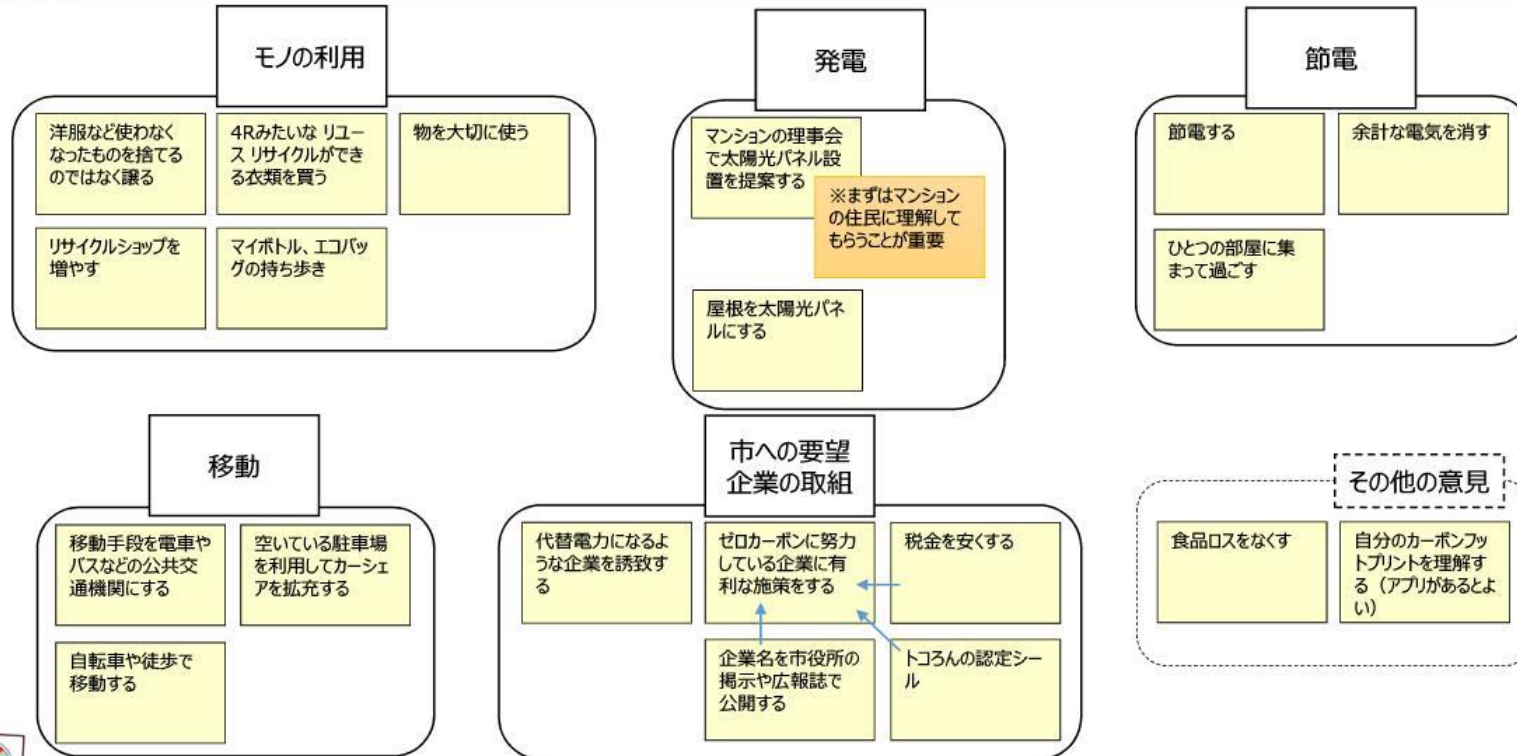


**【用語の解説】**  
EV： Electric Vehicle（電気自動車）のこと。  
HEV： Hybrid Electric Vehicle（ハイブリッド自動車）、すなわち電気とガソリンの両方を使用する自動車のこと。

# 第1回 マチごとゼロカーボン市民会議

# グループ7

テーマ：ゼロカーボンを実現するために普段の生活で取り組んだ方が良いこと

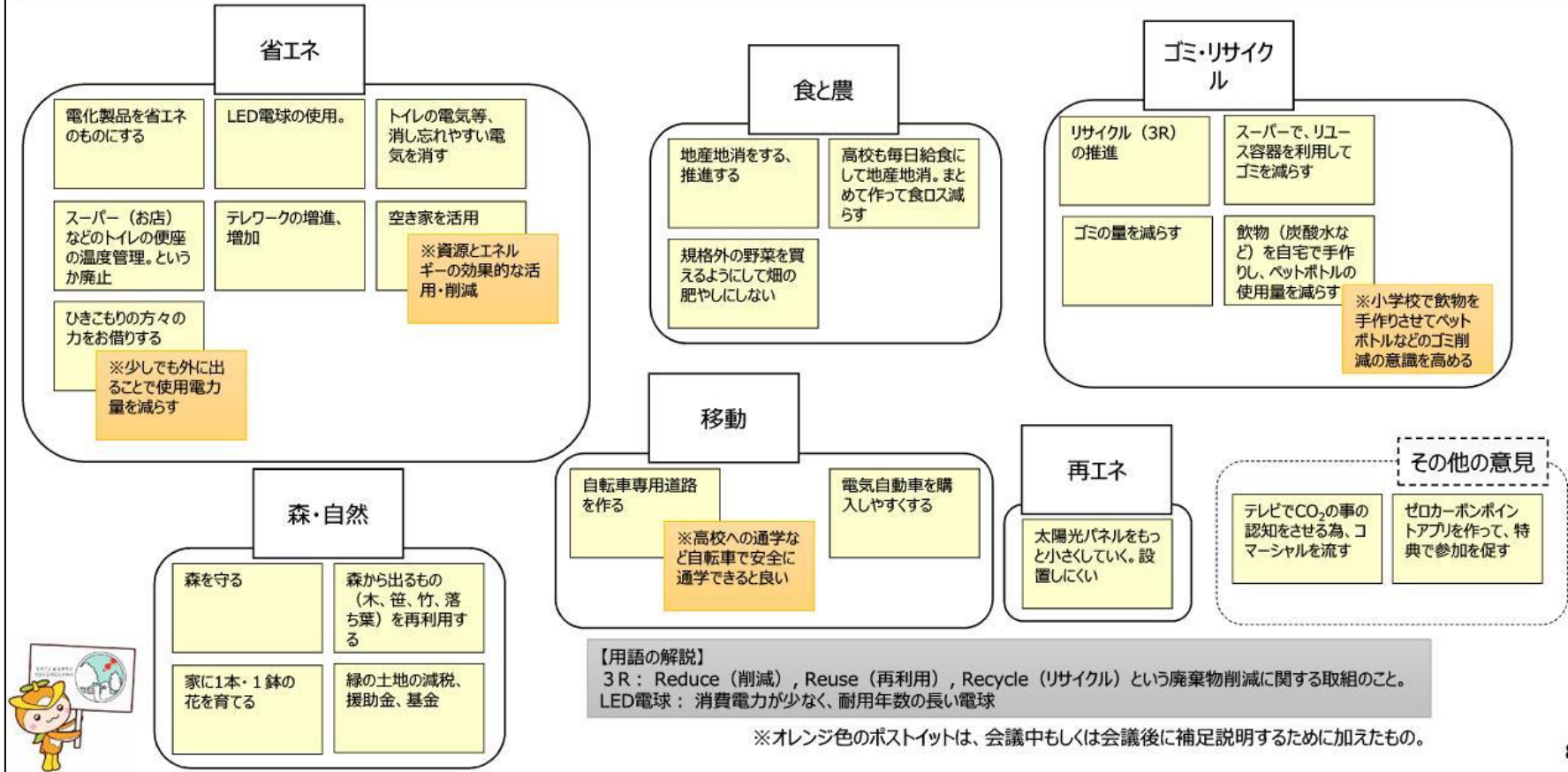


**【用語の解説】**  
4R：Reduce（削減）、Reuse（再利用）、Recycle（リサイクル）にRefuse（断る）を加えた廃棄物削減に関する取組のこと。

※オレンジ色のポストイットは、会議中もしくは会議後に補足説明するために加えたもの。

# 第1回 マチごとゼロカーボン市民会議 グループ8

## テーマ：ゼロカーボンを実現するために普段の生活で取り組んだ方が良いこと



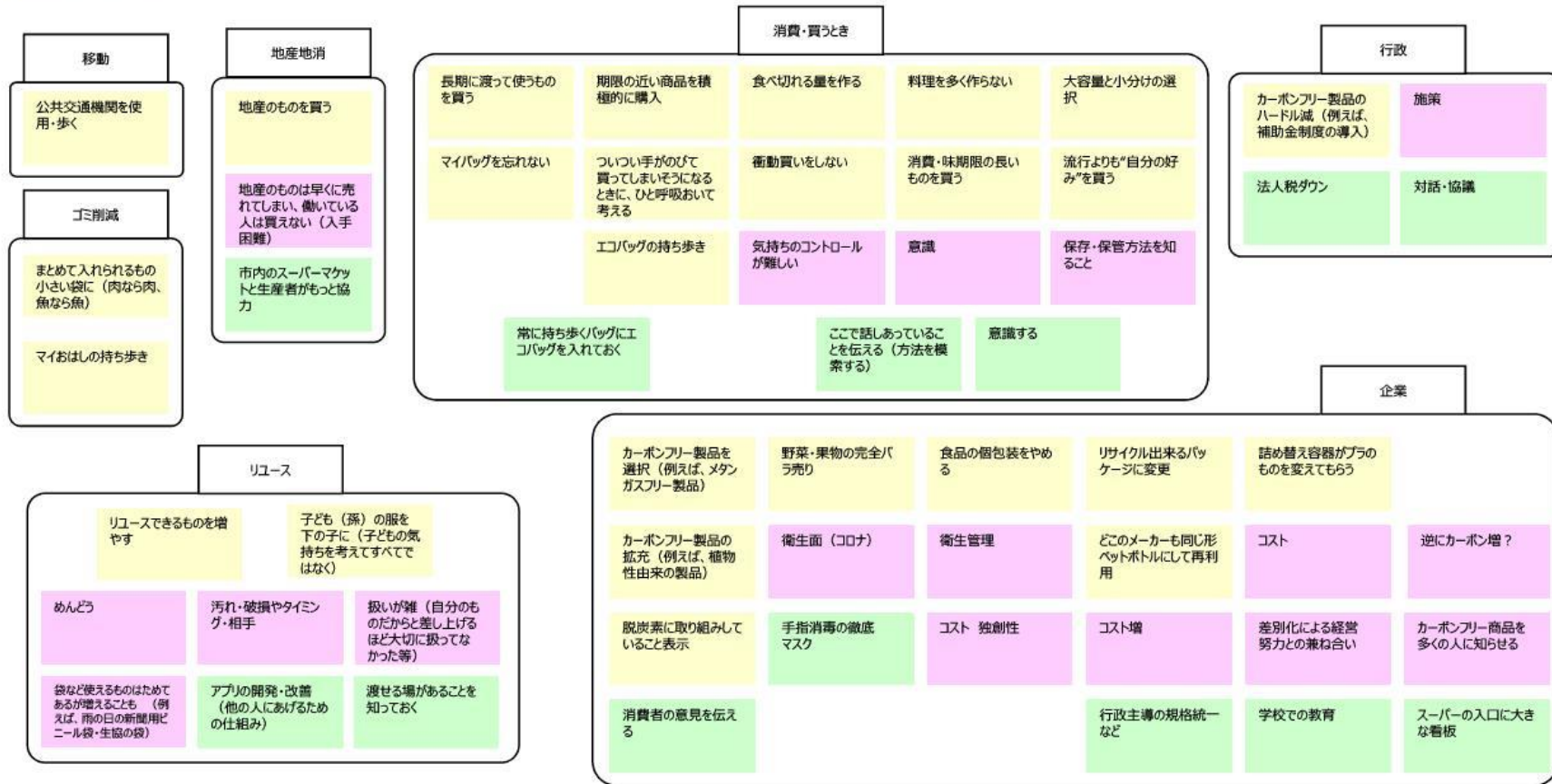
# テーマ：商品選択からゼロカーボンを考える



- ※ 黄色のポストイットは「取り組んだ方がよいこと」を書いたものです
- ※ 桃色のポストイットは「取り組むにあたっての課題」を書いたものです
- ※ 緑色のポストイットは「課題への方法（対策）」を書いたものです
- ※ 柿色のポストイットは、会議中もしくは会議後に補足説明するために加えたものです
- ※ 水色の番号①～③は、グループがイチオシする「課題への方法（対策）」です。発表にあたって優先順位をつけました。議論の進捗状況により、優先順位がついていないグループもあります。

# まちごとゼロカーボン市民会議（第2回） テーマ：商品選択からゼロカーボンを考える

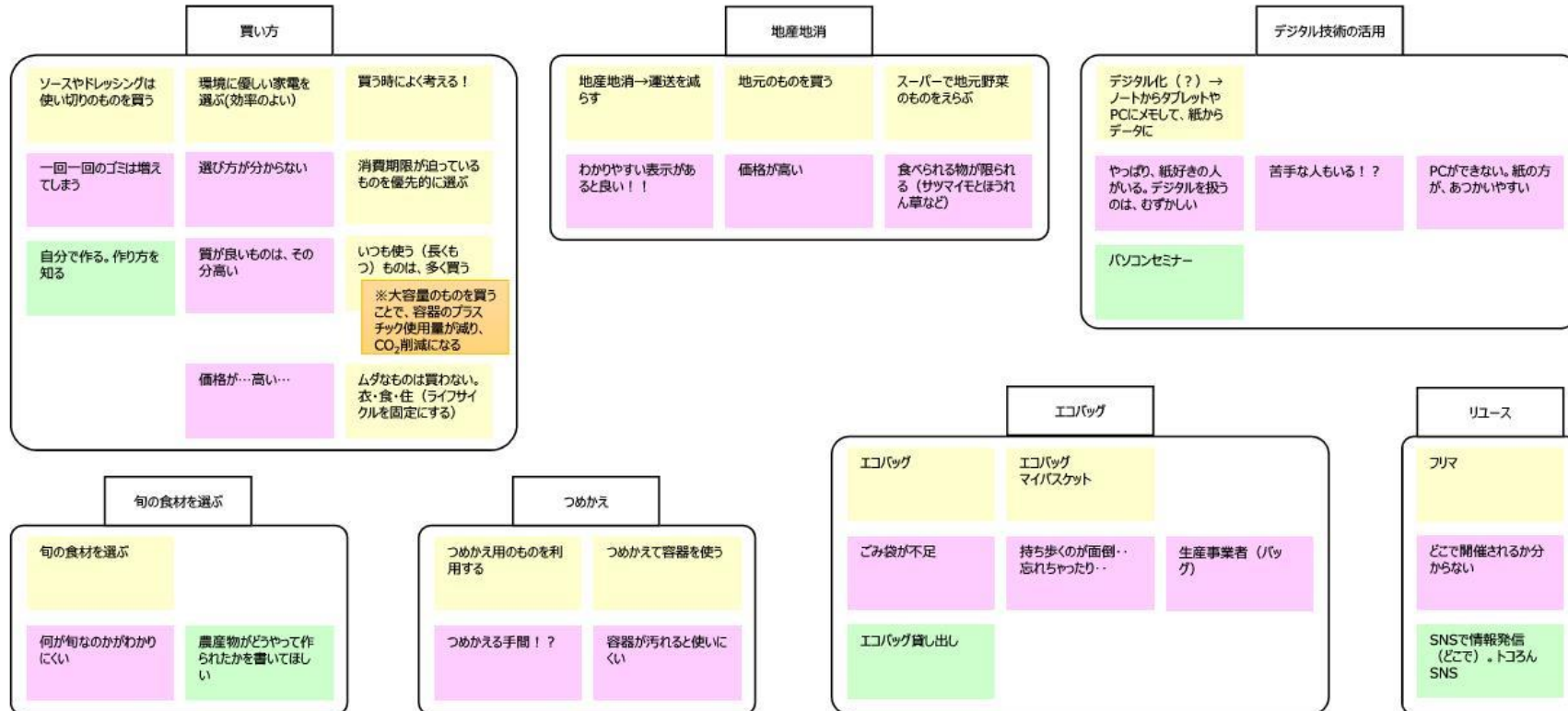
## グループ1



# まちごとゼロカーボン市民会議（第2回）

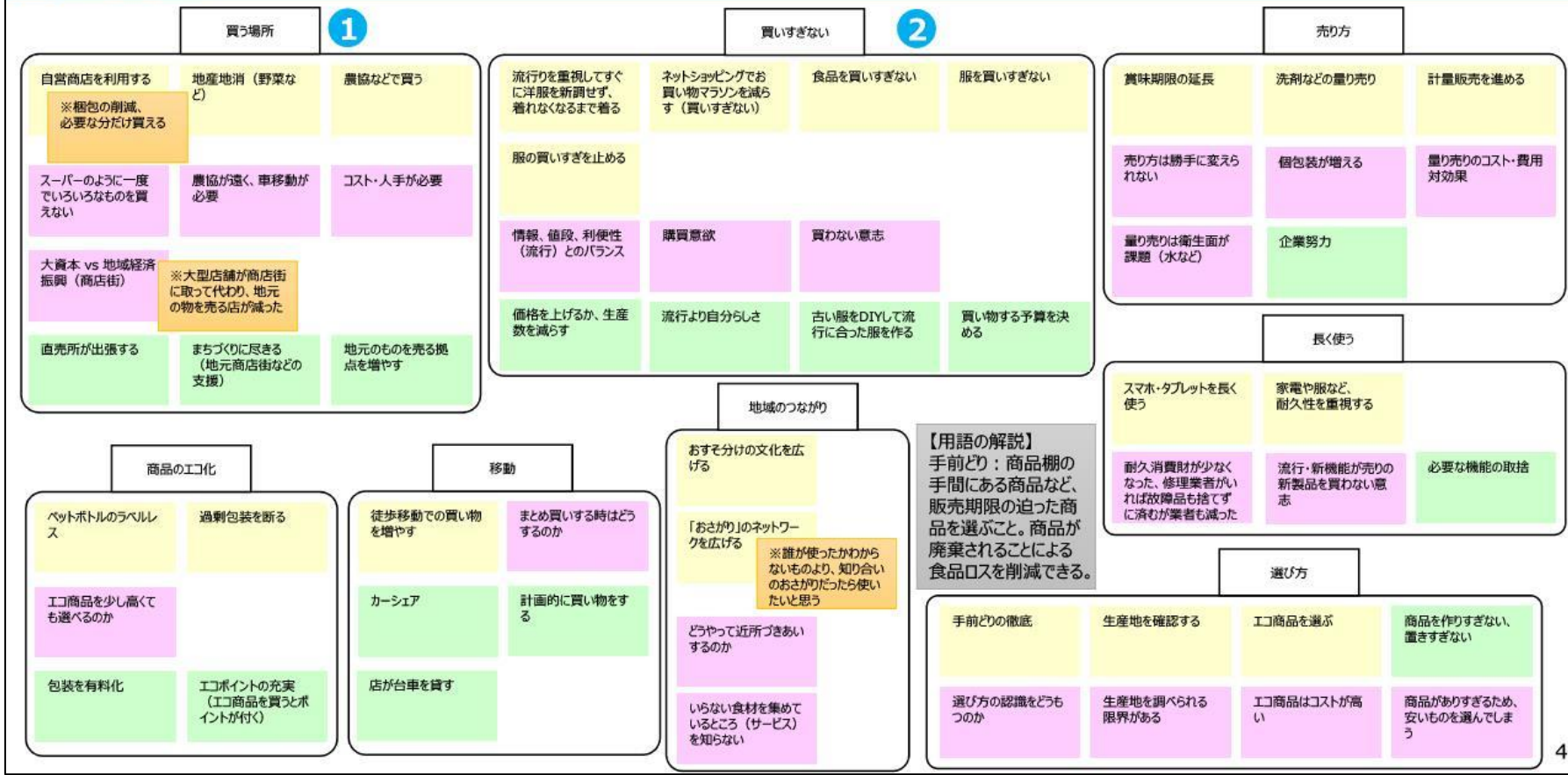
## テーマ：商品選択からゼロカーボンを考える

### グループ2



# まちごとゼロカーボン市民会議（第2回） テーマ：商品選択からゼロカーボンを考える

## グループ3



# まちごとゼロカーボン市民会議（第2回） テーマ：商品選択からゼロカーボンを考える

## グループ4



### リサイクル商品

リサイクル商品を買う	長期間使用できるものを選択する	最後まで使い続ける
中古商品を選択する	途中で新しいものが欲しくなる	使用している途中で無くしてしまう
汚れているものもあるといった、衛生面での課題	アフリカでの服のリサイクル問題。リサイクルって何？	※発展途上国へのリサイクル商品や中古商品の譲渡問題（譲渡先の廃棄処分）
リサイクルタグの開発 <b>1</b>	リサイクル商品であるかどうかを見極めることも大切	先進国が一方的に、中古品（衣類など）を押し付けている現状

### 購入時の工夫

商品購入時の「てまえどり」を実践する	地産地消を意識した購入選択	流行に流されない商品選択
賞味期限が近いものから購入をする	購入したいものが売っていない	商品に対する嗜好も大切にしたい
コンビニと違い、大型店の商品陳列が難しい（棚の奥から陳列ができない）	新しいものが欲しくなる	生ゴミ減少にも限界がある
商品の陳列方法を工夫する	レシピを充実させ、限られた食材で調理する	生ゴミ処理機といった家電の充実

### 必要なものを購入

不要なものを購入しない	本当に必要かどうかを考える	食べ切れる量を選択する
無駄なものを購入しない		目安が分からない
本当に必要最低限で済むのか		目安が分かるように、商品にラベルなどで記入や表示をする
メモをする	整理・整頓を心がける	

### 啓発・教育

取り組みの認知度を高める	市民にどのように広めるのか	学校教育に取り入れる <b>2</b>
地域コミュニティ・家庭・教育の場において、SNSを活用する	情報処理や選択の意識向上を図る	

### 企業の取り組み

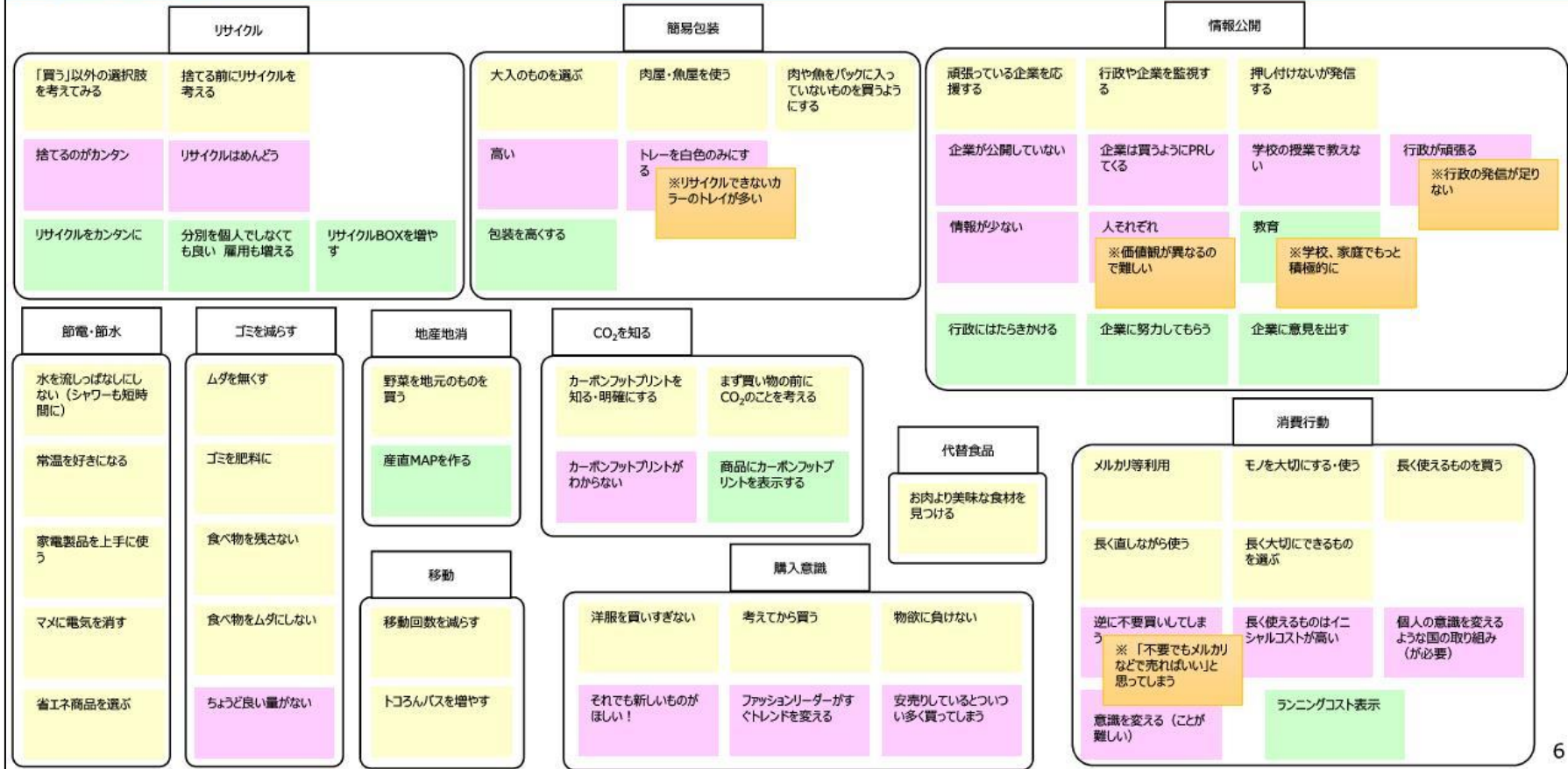
バイオ素材の活用	コストがかかる	利益追求と環境配慮のバランスが重要
デポジットを導入する		

**【用語の解説】**  
手前どり：商品棚の手間にある商品など、販売期限の迫った商品を選ぶこと。商品が廃棄されることによる食品ロスを削減できる。



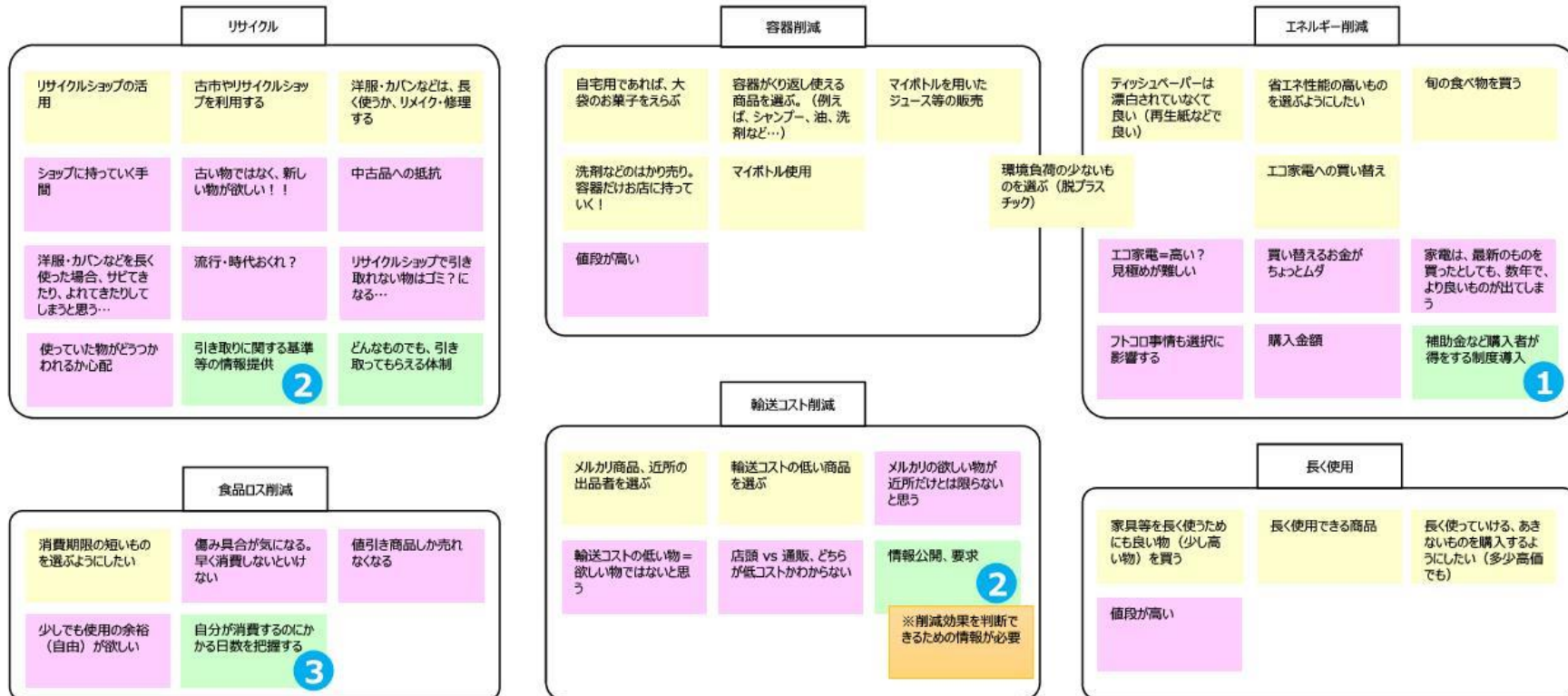
# まちごとゼロカーボン市民会議（第2回） テーマ：商品選択からゼロカーボンを考える

## グループ5



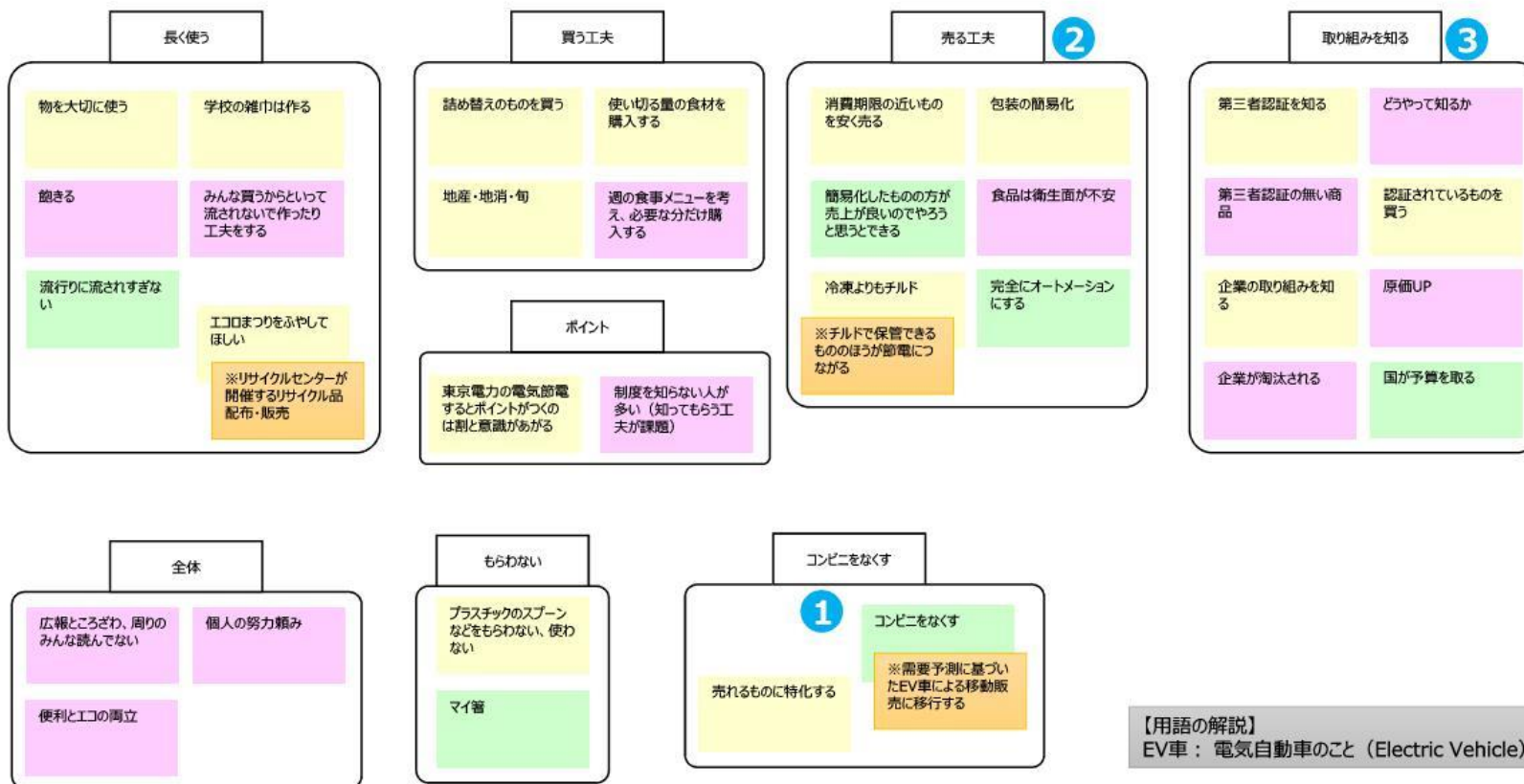
# まちごとゼロカーボン市民会議（第2回） テーマ：商品選択からゼロカーボンを考える

## グループ6



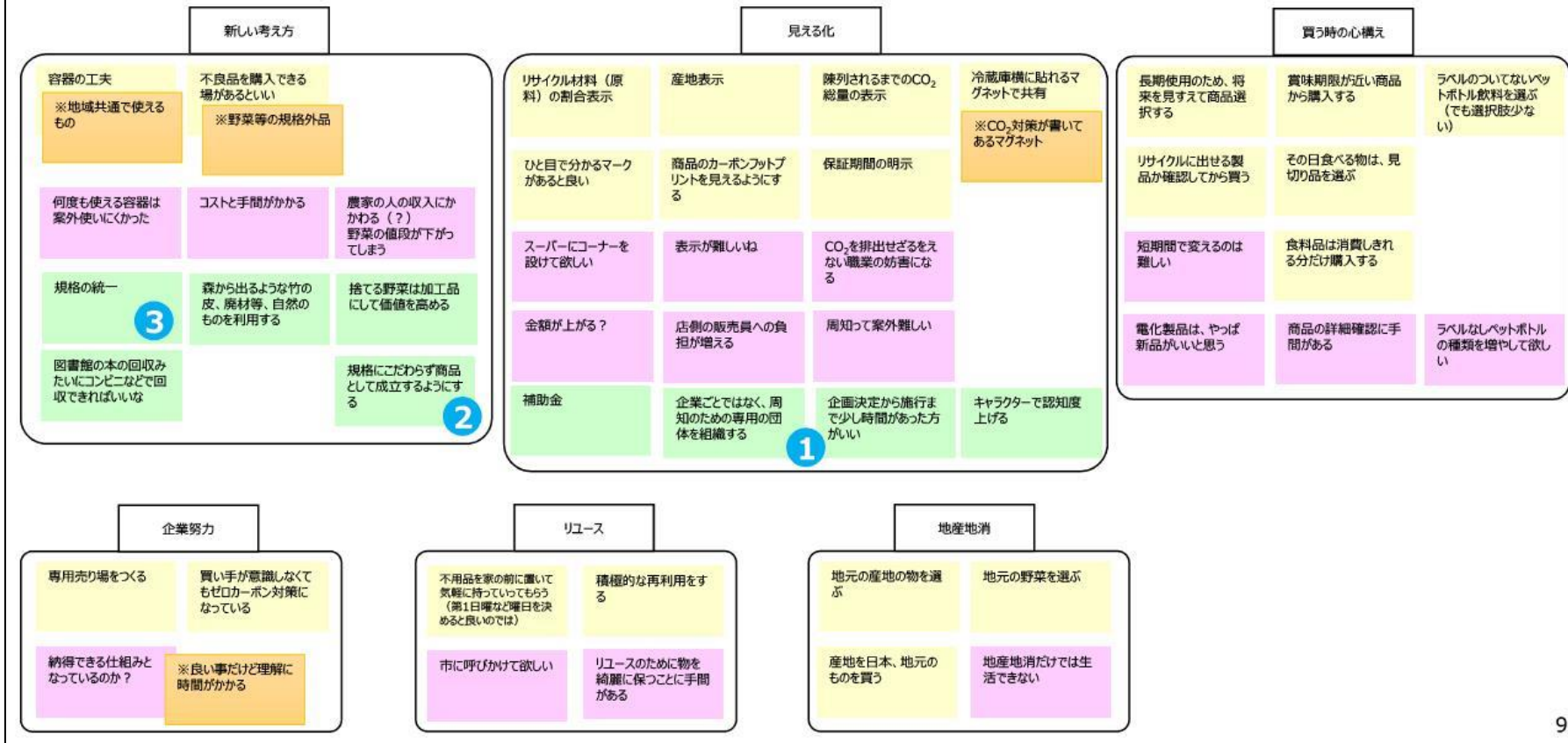
# まちごとゼロカーボン市民会議（第2回） テーマ：商品選択からゼロカーボンを考える

## グループ7



# まちごとゼロカーボン市民会議（第2回） テーマ：商品選択からゼロカーボンを考える

## グループ8



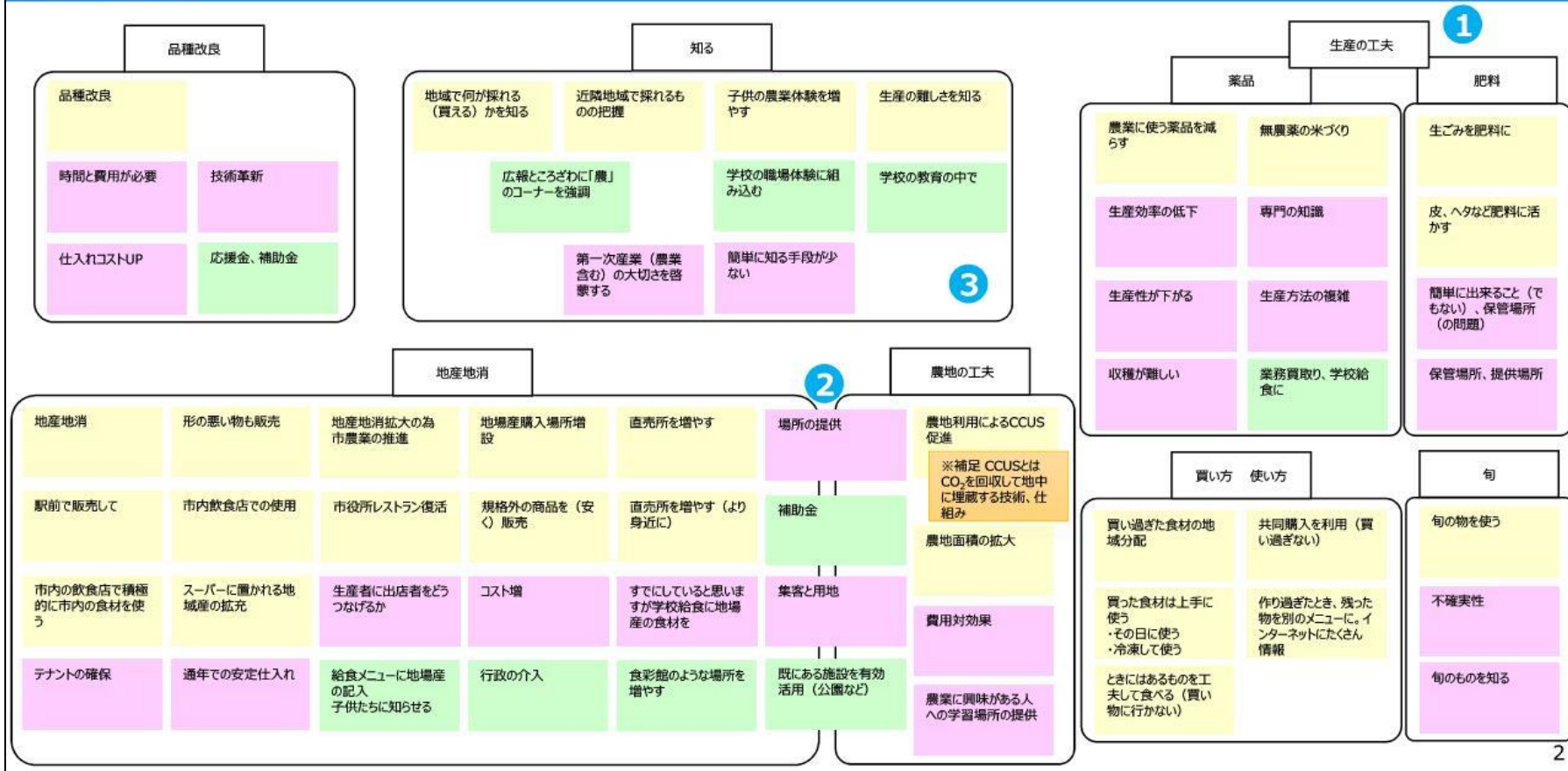
# テーマ：食・農からゼロカーボンを考える



- ※ 黄色のポストイットは「取り組んだ方がよいこと」を書いたものです
- ※ 桃色のポストイットは「取り組むにあたっての課題」を書いたものです
- ※ 緑色のポストイットは「課題への方法（対策）」を書いたものです
- ※ 柿色のポストイットは、会議中もしくは会議後に補足説明するために加えたものです
- ※ 水色の番号①～③は、グループがイチオシする「課題への方法（対策）」です。発表にあたって優先順位をつけました。議論の進捗状況により、優先順位がついていないグループもあります。

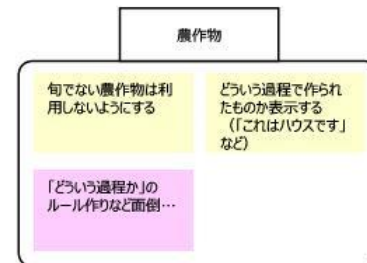
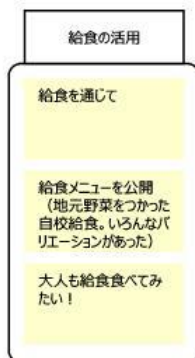
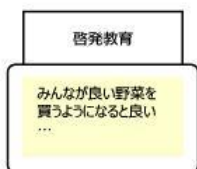
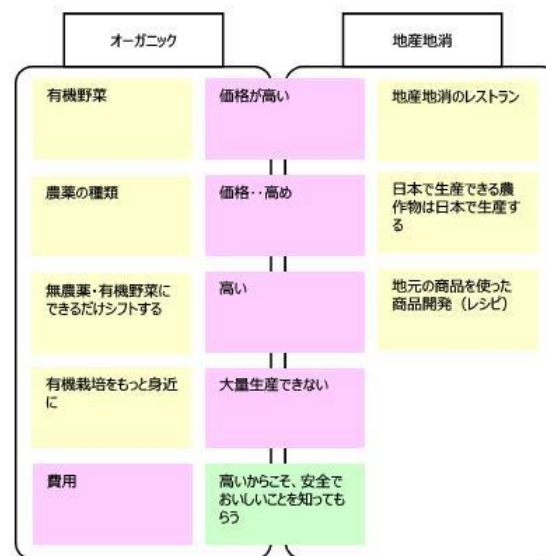
まちごとゼロカーボン市民会議（第2回）  
 テーマ：食・農からゼロカーボンを考える

グループ1



まちごとゼロカーボン市民会議（第2回）  
 テーマ：食・農からゼロカーボンを考える

グループ2



# まちごとゼロカーボン市民会議（第2回） テーマ：食・農からゼロカーボンを考える

## グループ3



### 情報発信 ①

所沢での「にぎやかな取組」をPRする	直売イベントのPR	小学校から所沢の農業にもっと触れる（茶畑しか教わらなかった）
所沢市の新しい取組を市民に認識してもらう		
地産地消がどうゼロカーボンに繋がるのかが分かりづらい	直売イベントなど、イベントでしかなく、単発の行動になる	小学校の協力が得られるのか
小学生にポスターを作ってもらおう	所沢市が標語を募ってPRする	InstagramにPRしてもらおう（行政からの案件として）
イベントを毎週の恒例イベントにする	地産地消がゼロカーボンに果たす役割を全面にPR	西武鉄道にPRをお願いする
口コミを広げる	小学校の社会の授業で地産地消を扱う	保護者会の場でポスターを展示する

### 食品ロス減少 ②

形や色の悪い作物を捨てない	正直カードの普及 ※商品の状態を正直に伝えて、品質の悪い作物を捨てずに販売する	売り手の協力
消費者が買いたくなる策を練る（値下げ、バラ売り）	学校給食の材料にする	

### 土地の利用

市民菜園の普及	空き地の土地活用	土地の持ち主の意志
動物被害が出て農業のやる気なくなる	農業をやりたい人がいるのか	相続で宅地化、耕作放棄地
営農者を募集する		

### 担い手

再雇用で地元の農業を盛り上げる	人手の不足	企業のリスキル、副業制度を活用
-----------------	-------	-----------------

### 入手

所沢産を手に入りやすくする	スーパーで所沢産の野菜を目立たせる	スーパーなどの売り手の協力
売り手側へのメリットを提示する（補助金が出るなど）		

### 土の保全

除草剤を使わない	手間・虫刺されなどの兼ね合い
----------	----------------

### 肥料

落ち葉を集めて肥料にする	コスト・人手をどう集めるか	環境美化活動（町内会・小学校）で落ち葉集めをゼロカーボンの取組みとしてPR	公園にコンテナを置いて集める
--------------	---------------	---------------------------------------	----------------

### 協働

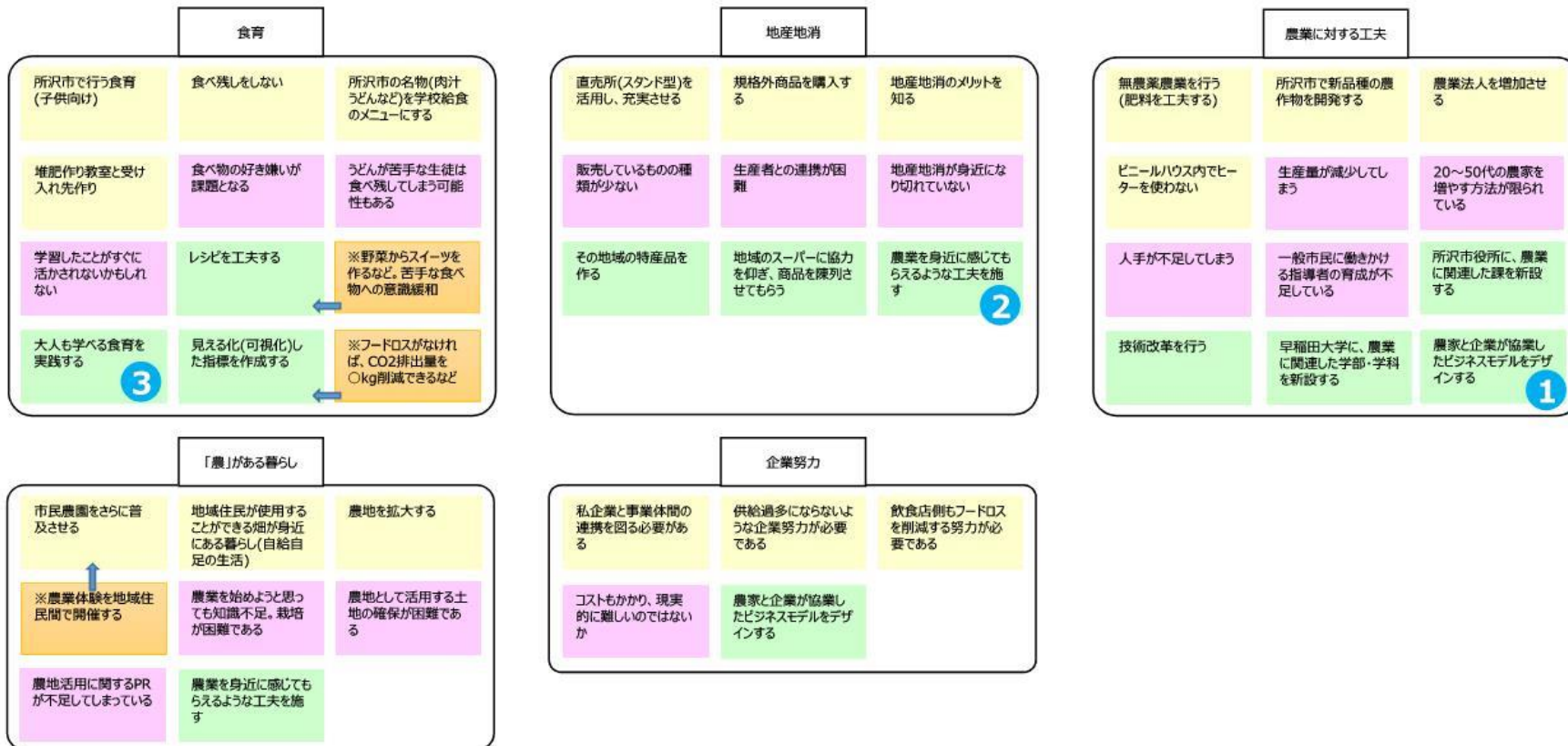
所沢だけではなく、近隣の自治体と協働する	行政間でどんな協力ができるのか
----------------------	-----------------

【用語の解説】  
リスキル：必要なスキルを学び直すこと。



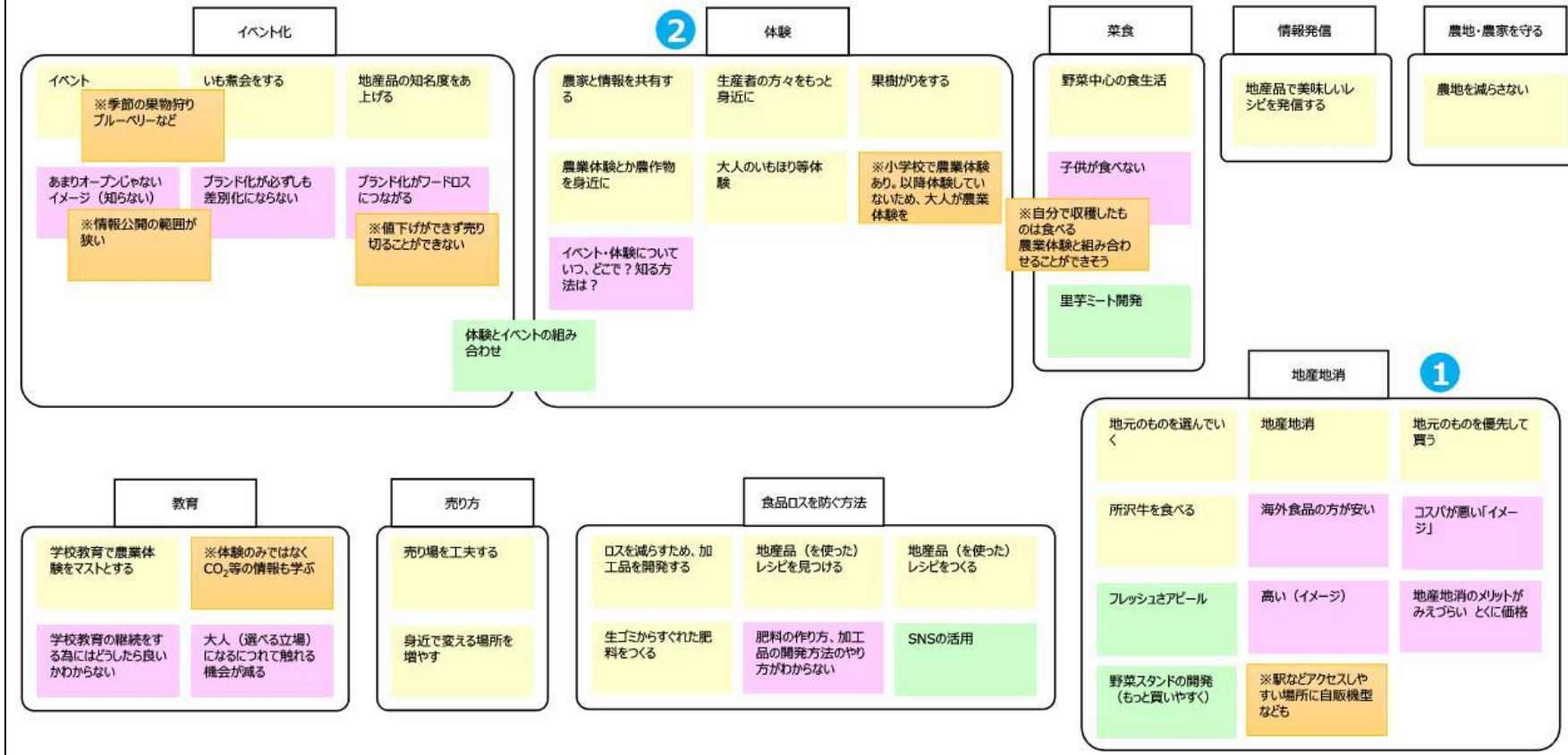
# まちごとゼロカーボン市民会議（第2回） テーマ：食・農からゼロカーボンを考える

## グループ4



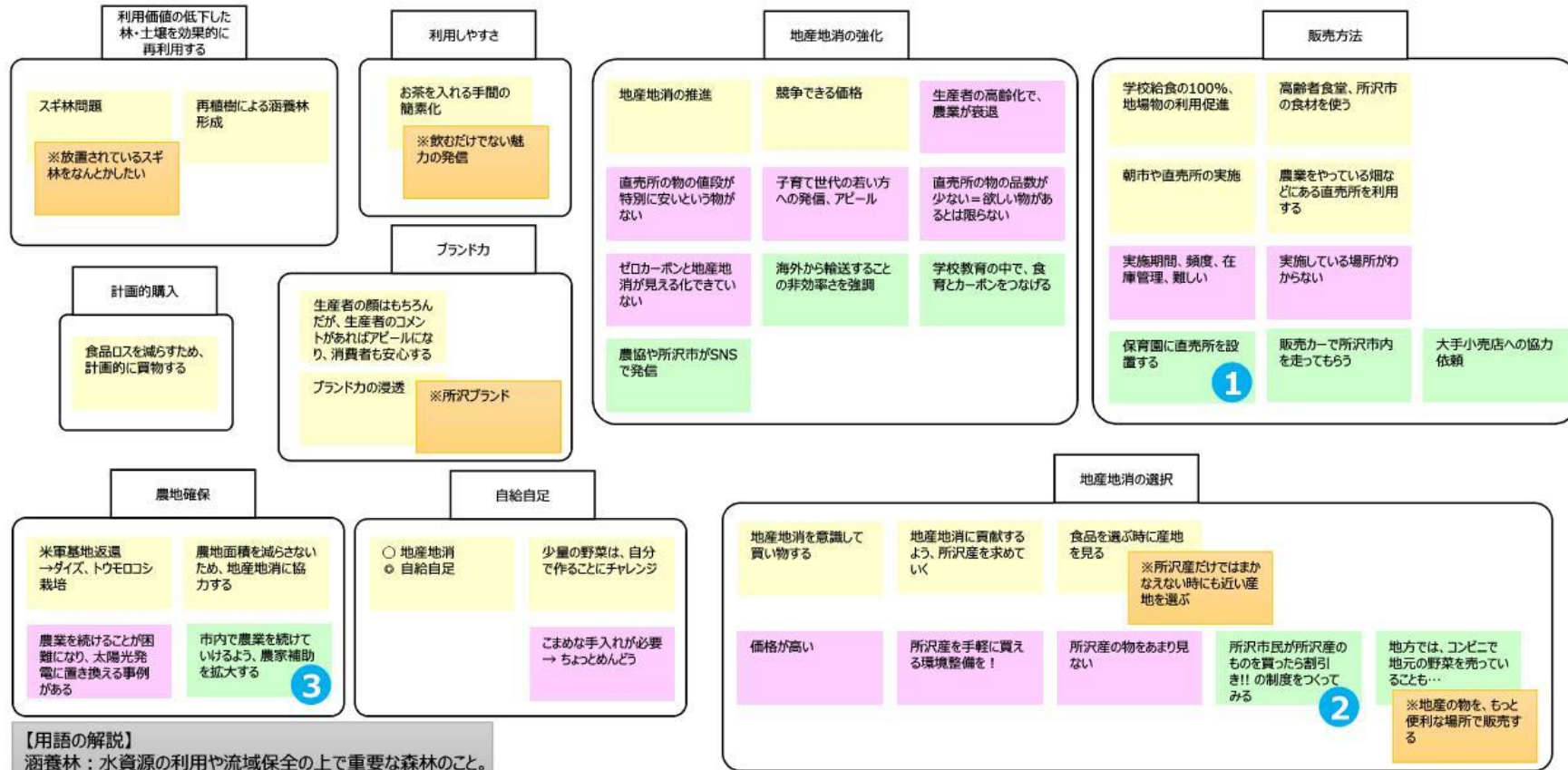
# マチごとゼロカーボン市民会議（第2回） テーマ：食・農からゼロカーボンを考える

## グループ5



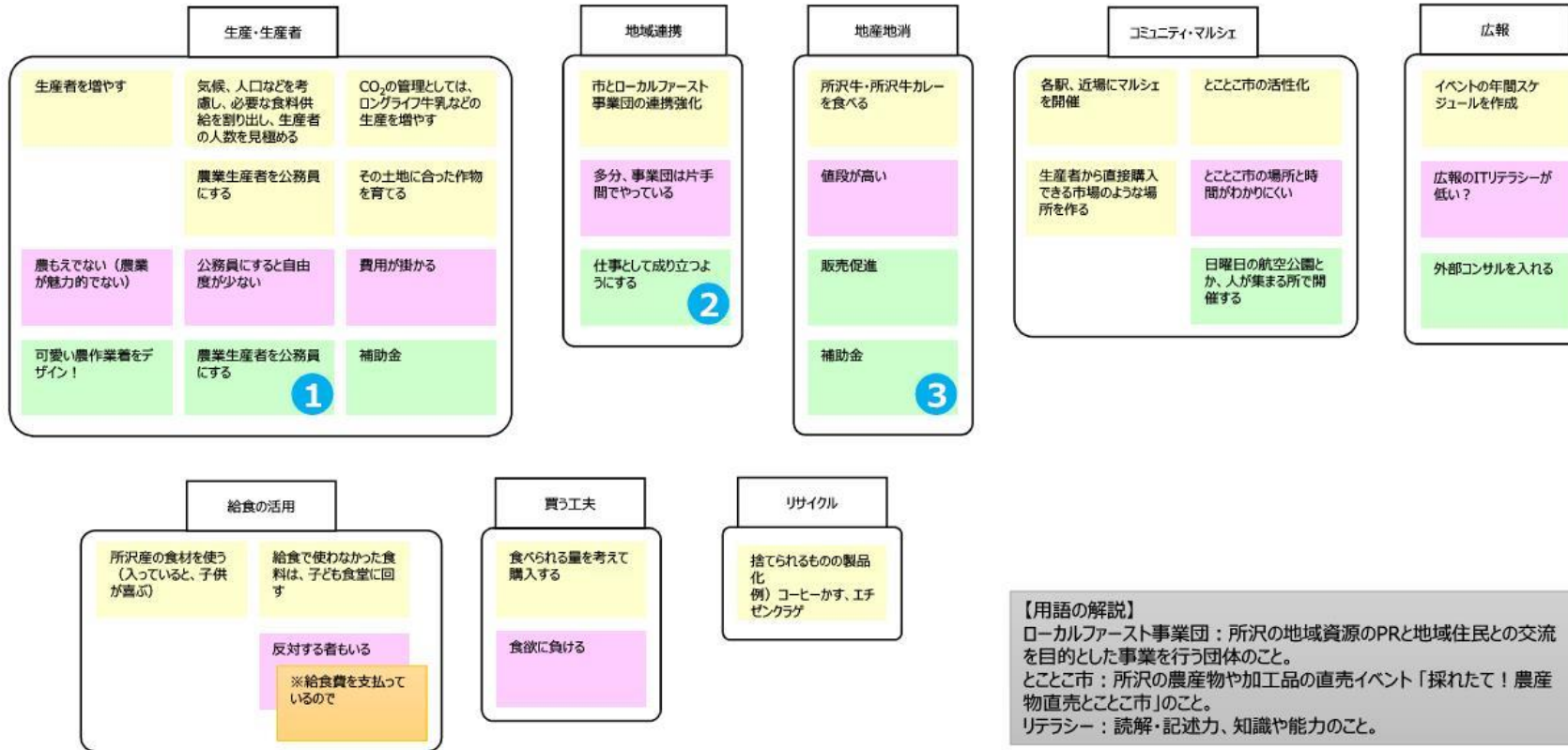
# マチごとゼロカーボン市民会議（第2回） テーマ：食・農からゼロカーボンを考える

## グループ6



# まちごとゼロカーボン市民会議（第2回） テーマ：食・農からゼロカーボンを考える

## グループ7



# まちごとゼロカーボン市民会議（第2回）

## テーマ：食・農からゼロカーボンを考える

### グループ8



#### 農法

環境にやさしい農法を用いる	行政が化石燃料を使わない自然農法を推進する	落ち葉堆肥の利用	よりよい土壌を作る ※炭素を蓄える、生物多様性
販売ルート開拓・周知が必要	自然農法は品質に不安がある	マンパワーが足りない（手間がかかる）	野菜によって肥料が違う
農家さんのお手伝いをするボランティア	収穫物をちょっともらえとしいね	新しい事業として起業する ※人手が足りない農家を集めて新しい事業をする	森・神社など ※個人だと落ち葉の量に限りがあるので

**1**

#### 食ロス回避

安いからといって買すぎない	被害果などを積極的に買う	規格外の野菜を廃棄しない
農家さんの収入が減ってしまう	沢山野菜を選択肢の一つに	
農家の方が困らない値段で買えるといい	忙しいどうしてもキレイな野菜を買ってしまう	

#### 新しい取り組み

不作年の時の為に、農家がローカルネットワークを使いやすくする	※農家さんが生活に困らないようにできる仕組み
不作年は別の場所から買ったほうがいい	

#### 家での取り組み

家庭でコンポスト	※家庭菜園で利用肥料削減、ゴミ削減
虫が出て恐ろしい	家庭菜園をしていないとコンポストもしづらい
公共施設・高層住宅でコンポスト	

#### 広報

広報（市HP）はあまり見ないのでSNSで直売所などの情報が欲しい	野菜の皮も食べた方が体にも環境にも良いと思うのですが農薬が不安	レシピ動画
継続・コンテンツ ※コンテンツの数・充実性を継続できるか？	人気がないサイトだと見る人が少ない	生産者の推しメニュー

**2**

#### 地産地消

地産地消をすすめる	品質が低い商品を『地産地消』でブランド化	何を売ってるかをSNSで広報	直売所を利用する
地元の農産物を出来るだけ購入	地産地消地元の食材を使うお店（飲食店）を利用する	ごまごまとしたリアルタイムの情報を集めるのは難しい...	買い占め・モラル
地元の野菜を食べる	季節で作れる野菜が異なる	SNSは結局見ない人も多い	ムリかもしれないけどスマホ決済のみで支払わないと出れない店舗にする ※買わないと出れない店（オンライン決済利用）
	旬の野菜を利用する	老人の農家が多くなるとSNSが使えない	
	スーパーなどで動画・アナウンスを流してもらおう	一般の人に協力してもらおう	直売会・直売日を設ける

**3**

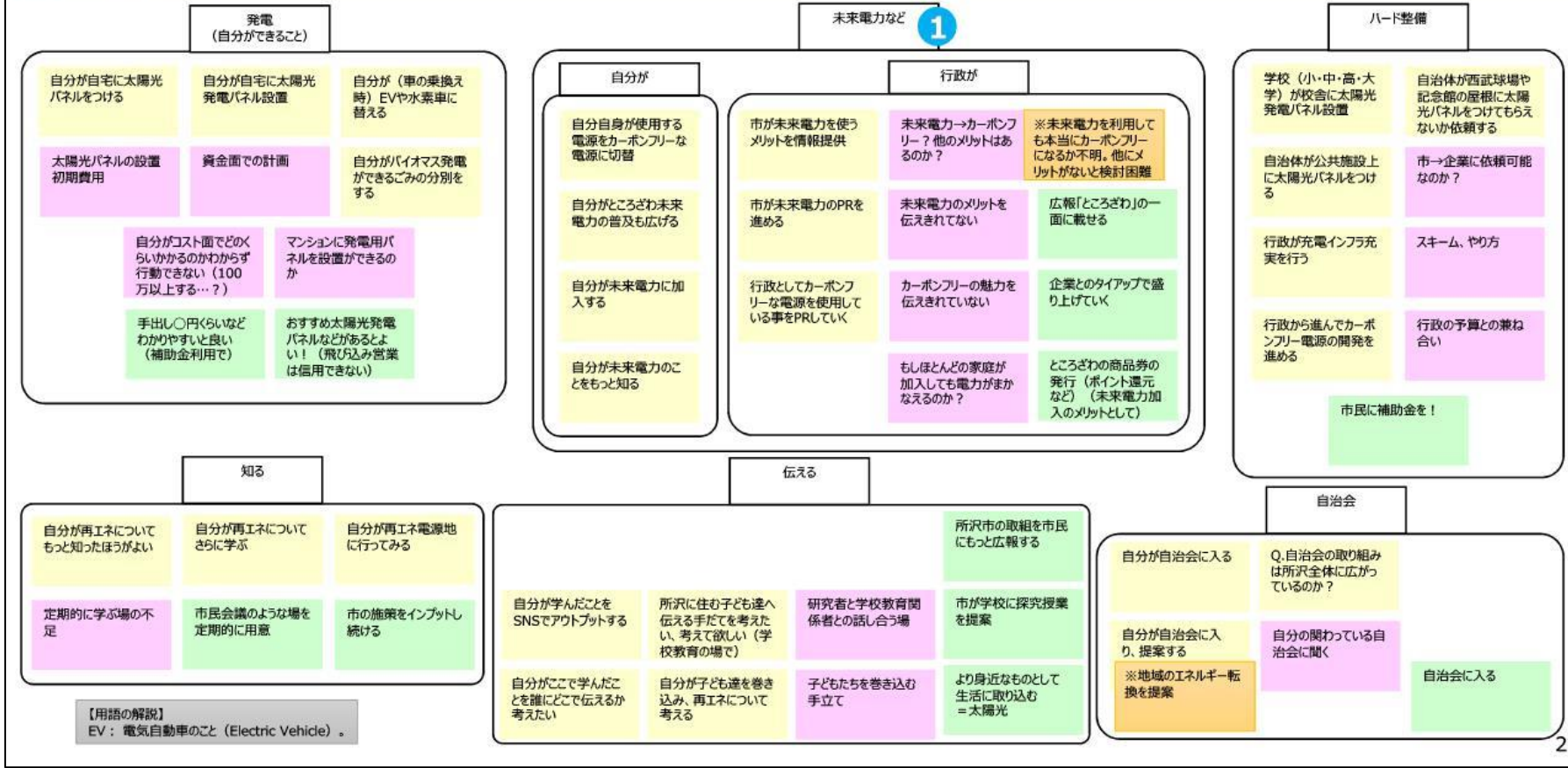
## テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える



- ※ 黄色のポストイットは「取り組んだ方が良いこと」を書いたものです
- ※ 桃色のポストイットは「取り組むにあたっての課題」を書いたものです
- ※ 緑色のポストイットは「課題への方法（対策）」を書いたものです
- ※ 柿色のポストイットは、会議中もしくは会議後に補足説明するために加えたものです
- ※ 水色の番号①は、グループがイチオシする「課題への方法（対策）」です。

# マチごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

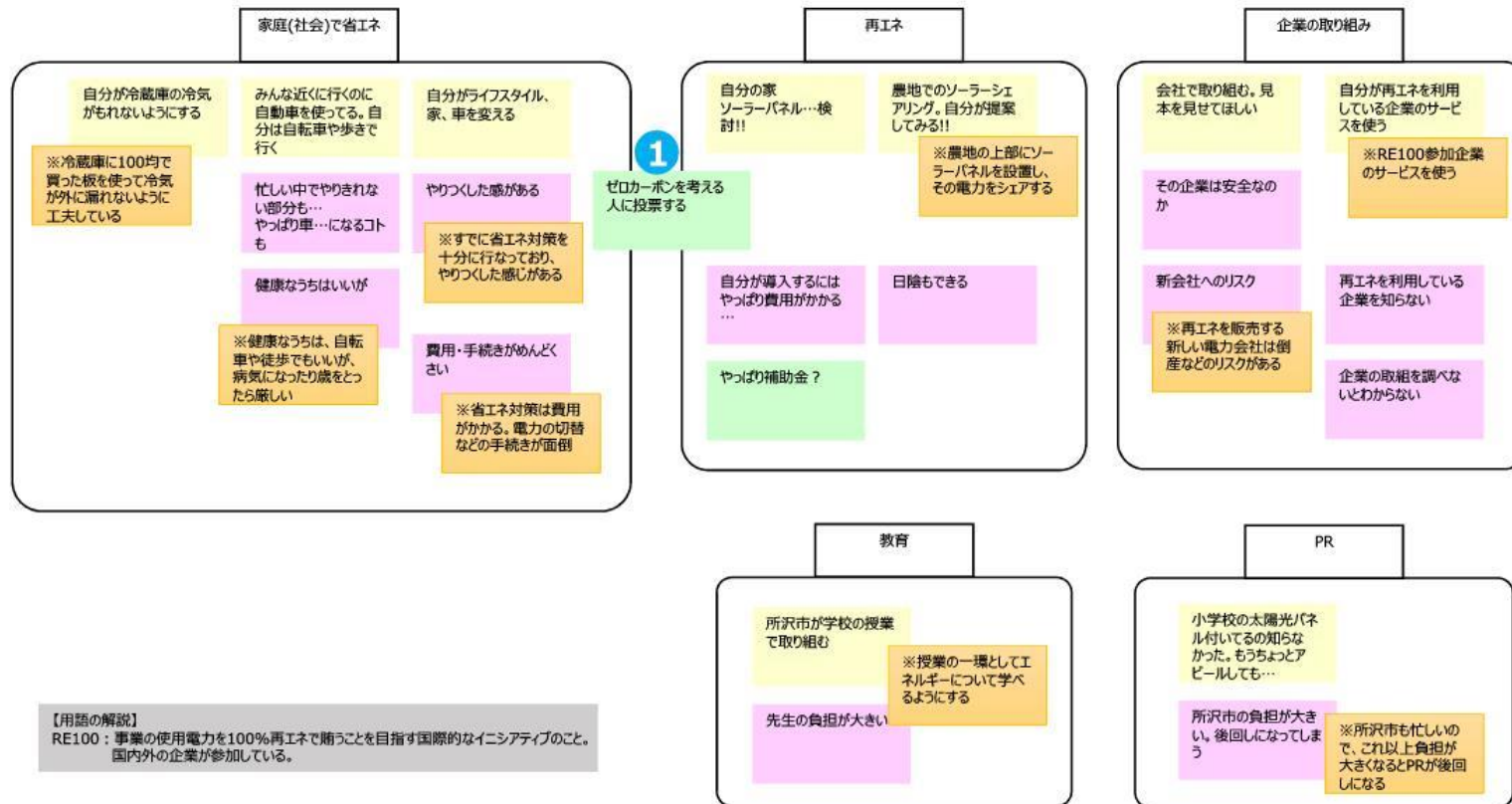
## グループ1



【用語の解説】  
EV：電気自動車のこと(Electric Vehicle)。

# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

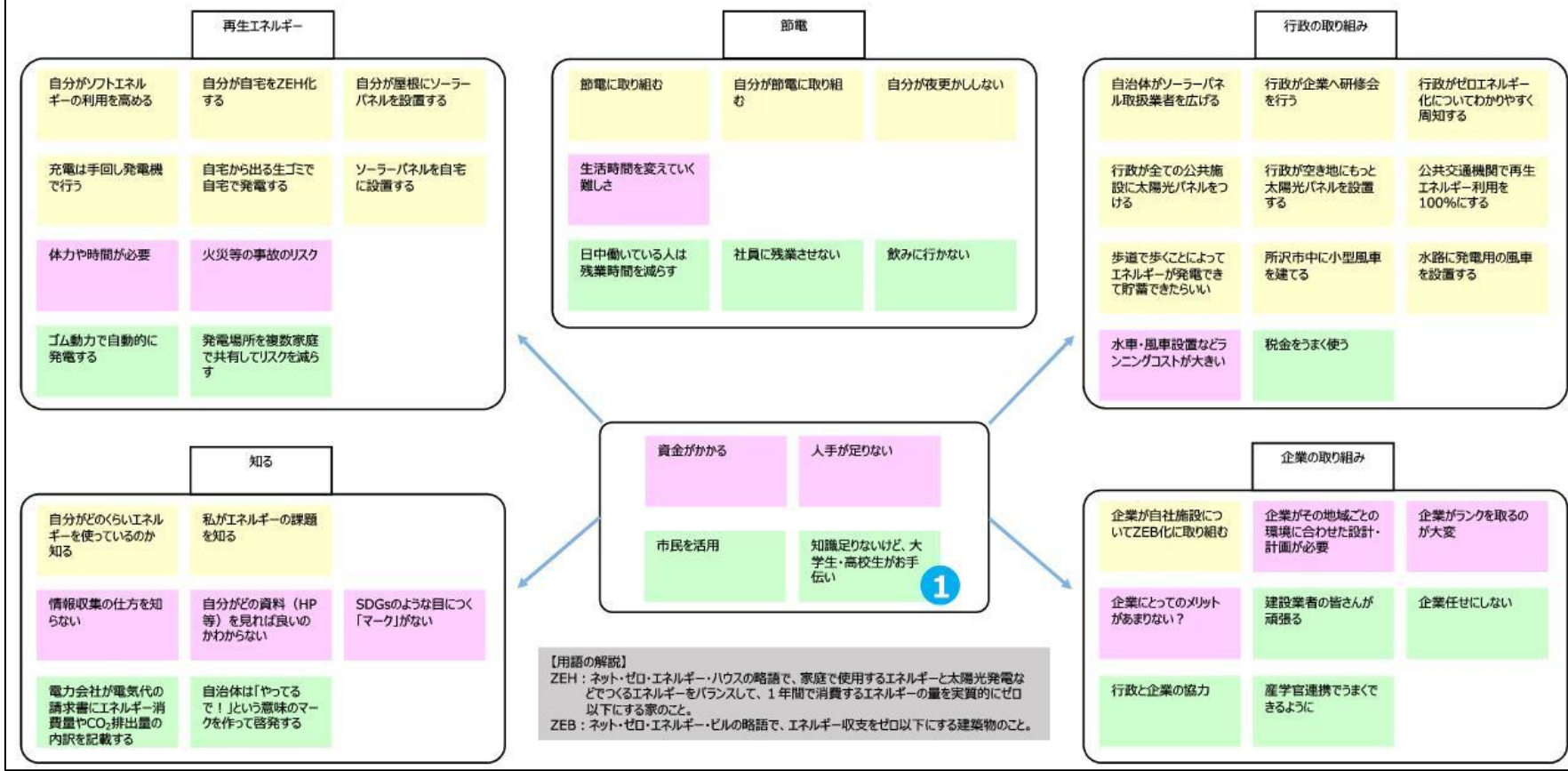
## グループ2





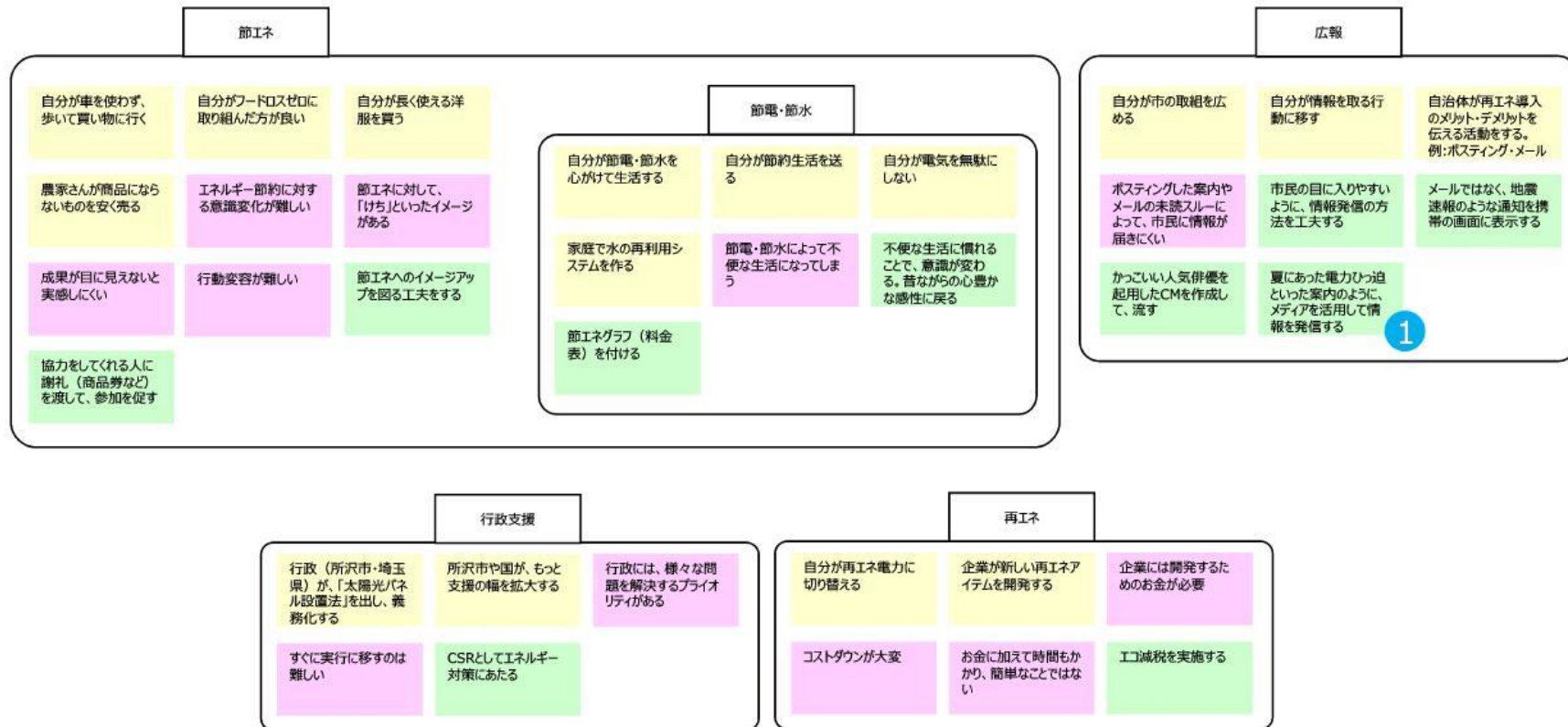
# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

## グループ3



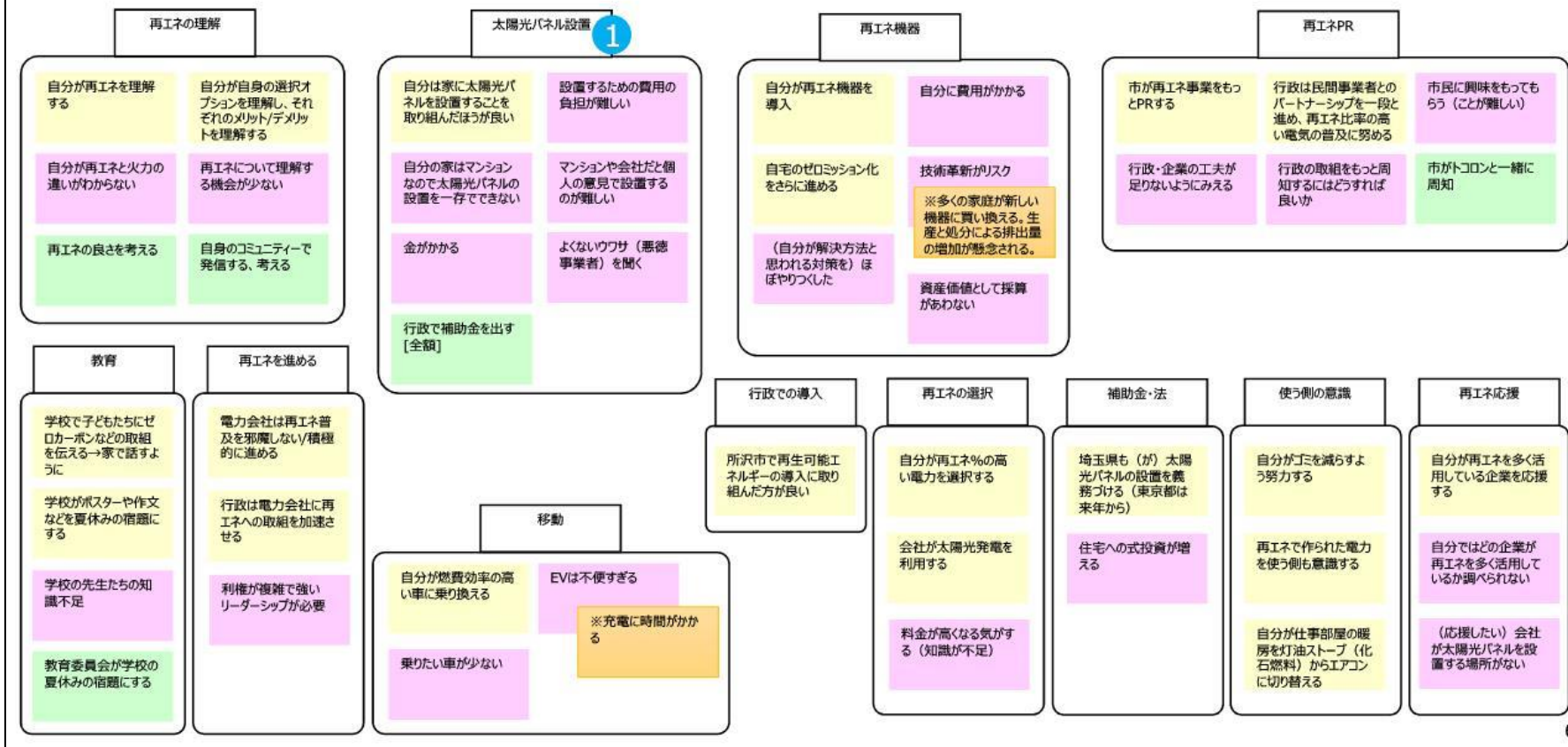
# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

## グループ4



# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

## グループ5



# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

## グループ6



### 自分が知る 1

自分の生活の中で省エネになることを考える	自分がエネルギーのことをもっと知る	知る方法がわからない。ネット？新聞？テレビ？
自分がエネルギーのことにもっと興味を持つ（電気自動車にシフトなど）	自分で、再エネを活用している施設を調べる、利用する！	行政などがインターネットや動画で、情報発信をする ※NHKプラスやYouTube等
自分が地域の活動をよく知る	自分の場合、なんとなくで選ぶことが多い	
（自分）発電量の具体的なイメージを知る	自分の場合、知る機会があまり無さそう…	もっと身近な自治会単位で省エネのことを学ぶ機会をつくる
自分が、家の（自分の）エネルギーについて改めて確認する		身近で再エネに触れる機会を増やすため、利用者の多い施設・遊び場等に再エネを導入する

### 広める

自分がまずは家族と電力（エネルギー）について確認する	小・中学校で再エネについての話を聞く機会を設け子ども達にも将来のことを教えてもらう
自分が、家族とゼロカーボンについて話し合う	電気やガスの購入だけに頼るのは災害時に危険とわかれば、再エネ設備の導入も自分ことになる
自分が、身近な人に未来電力の魅力を広める	例えば、スマホの充電などでもできないと考えれば
自分の場合、人にすすめるほど知識を持っているのが心配…	小学校で、子ども向けに学ぶ機会を設ける ※交通安全教室と同じレベルでやる
自分が、日常の会話や生活の中で話題にすることは難しい…	

### 家でできること

自分で出来ること（費用面）から省エネを実践する（LED、家電の買い替えなど）	自分の場合は、コストがかかる？いや（有利、不利）	再エネ設備（ソーラーパネルなど）の導入は費用面で補助がないと実施が難しい
自分の家の中の設備として、ゼロカーボンに向けてできることは何かを知る	再エネ設備（ソーラーパネルなど）の導入は費用面で補助がないと実施が難しい	再エネ設備（ソーラー）導入に対して5年で導入費用が回収できるレベルの補助金制度がほしい

### 企業を応援する

再エネ化を事業としている企業を応援する（投資）	再エネを事業としている企業の応援に優遇処置（コスト面で）が必要	再エネ事業に取り組んでいる企業の株式購入に一定の補助金を導入してほしい
再エネを利用している施設が自分の希望に沿ったことを提供してくれる…？		配当に税金の控除などの優遇措置もあればよい

### 集合住宅

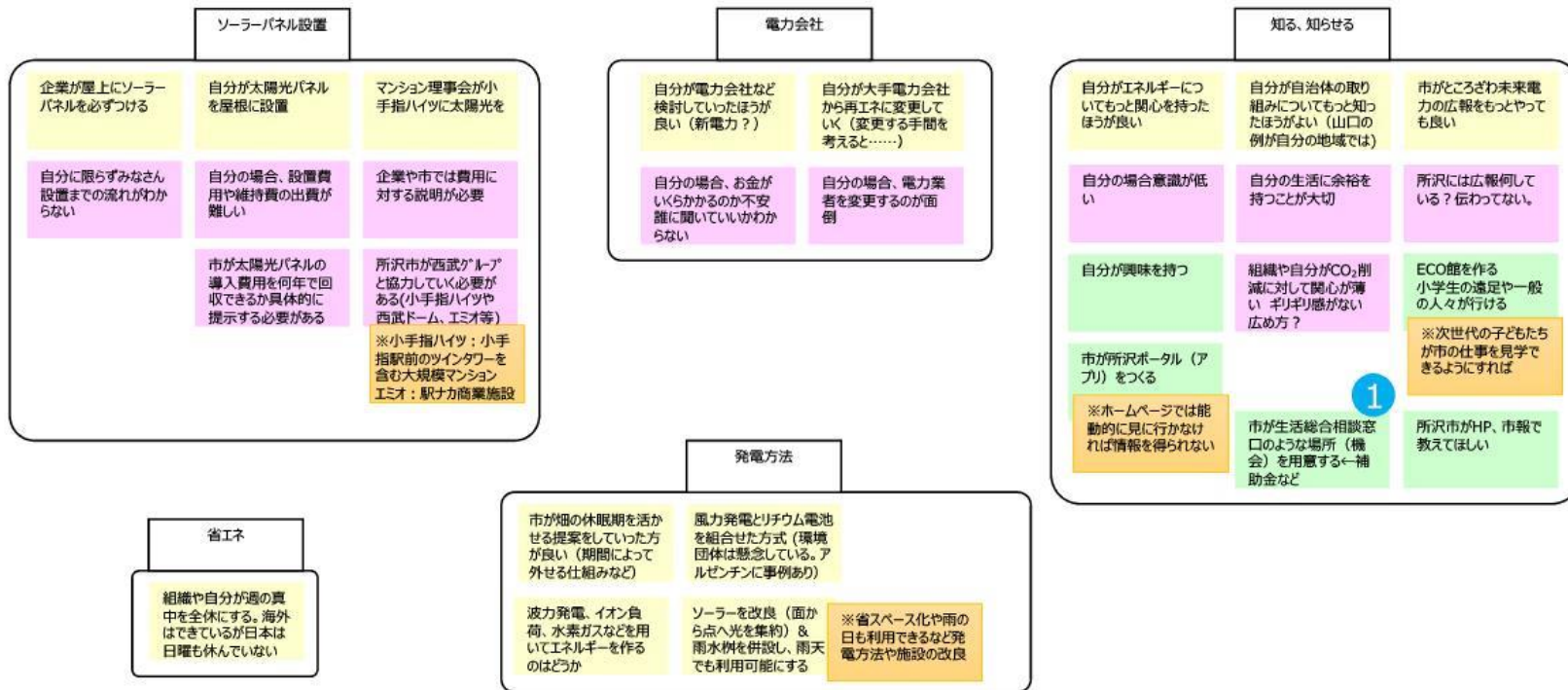
アパート、シェアハウス等でパネル設置	再エネは、発電効率に疑問がある	トラブル（故障など）のとき、自分も周りも大変
マンションの組合が、出来ることを総会の議題としてあげる	集合住宅は、管理会社との規約がおりネグになる	自治会やマンションの成功事例を発信してほしい

### 遊休地の活用

（市・民間など）遊休地の活用をさらに	空き家問題などは、権利関係が複雑	遊休地を再エネのために活用する場合、市や民間から土地権利者へ何かメリットを設けてほしい
	費用の回収に時間がかかる	

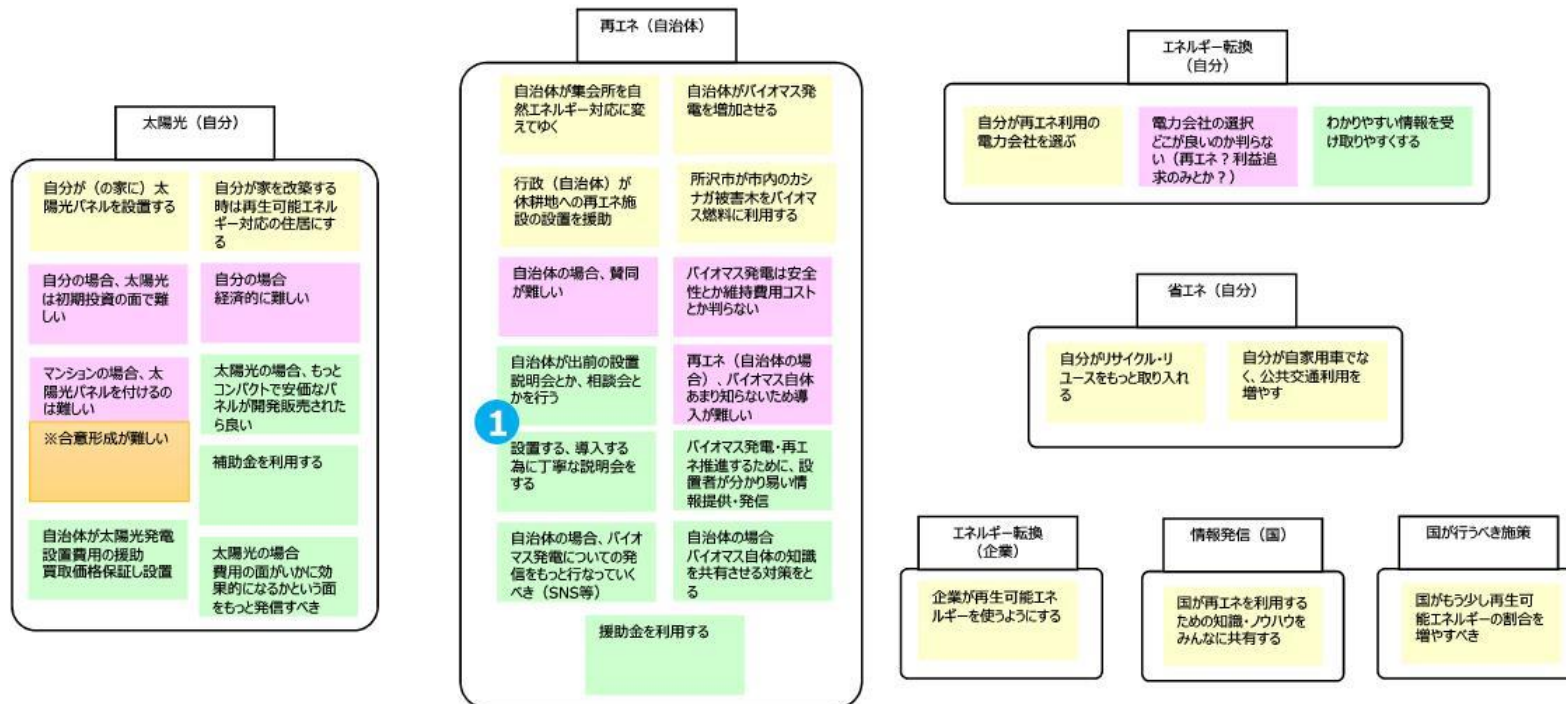
# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

## グループ7



# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：エネルギーからゼロカーボンを考える

## グループ8



【用語の解説】  
カシナガ被害：カシナガキクイムシが媒介するナラ面によって、ナラやカシなどの樹木が枯れる被害のこと（「ナラ枯れ」として知られる）。

## テーマ：住まいからゼロカーボンを考える



- ※ 黄色のポストイットは「取り組んだ方がよいこと」を書いたものです
- ※ 桃色のポストイットは「取り組むにあたっての課題」を書いたものです
- ※ 緑色のポストイットは「課題への方法（対策）」を書いたものです
- ※ 柿色のポストイットは、会議中もしくは会議後に補足説明するために加えたものです
- ※ 水色の番号①は、グループがイチオシする「課題への方法（対策）」です。

# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回）

## テーマ：住まいからゼロカーボンを考える

### グループ1



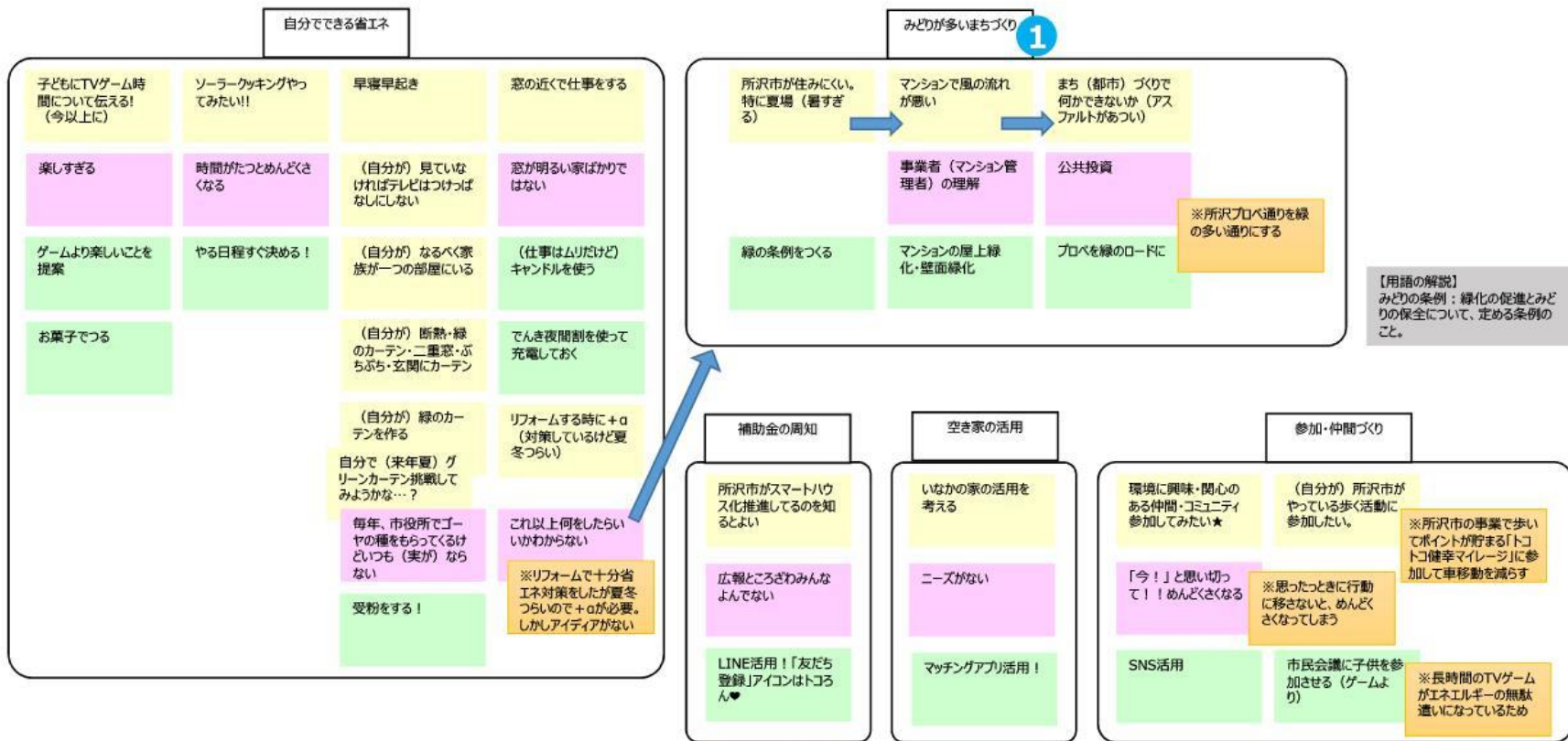
エネルギーの切替			省エネ				行動		
自分がエコキートを自宅につける	自分が使用する電源をカーボンフリー電源に切替	自分が再エネ電気に替える	自ら使用するエネルギーの抑制	自分がしていることこまめに電気を消す、窓にプチプチシートを貼る	自分が家のカーテンをつけたり、プチプチシートで空気を入れないようにする	自分が湯たんぼや衣服で寒さ対策の工夫	自分が天気の良い日はビクニックする	自分がソーラーキッチンに挑戦してみたい！（子どもと一緒に）	自分がソーラーキッチンをする
自分がエコリフォームについて検討してみる	コスト（初期費用など）	費用（エネ切替）	自分が暖房の利用をしているエネルギーを考える	エアコンはほとんど使わない	自分がヒートテックなどを着る	服が増える	自分が家庭菜園をする	自分が外で過ごす	自分がイベントなどに参加する
自動計算のようなものを展開しコスト・初期費用を知る	国、県、市が補助金拡大	行政による補助金	個人の問題は全体の問題である	手間がかかる手入れが必要	個人による生活スタイルの違い	面倒だと思いがち	やり方が分からない	適切な方針が分からない	家族の理解が必要
第三者による評価をする			目標を決める、数字を出す	何をするとどのくらいCO <sub>2</sub> を出すか教えて欲しい	生活スタイルについて家族会議する	場所の確保が必要	寒い時は図書館など公共施設を利用	市がソーラーキッチンを推す	行政がソーラーキッチンをしていい場所を表示する
知る		伝える		企業		行政			
自分が情報を積極的にインプットする	家庭での対策を知ること、知らせること	自分がインプットしたものをアウトプットする場をつくる	住宅メーカー、不動産業者、建築業者など企業がエネルギーの視点から顧客へ説明	企業努力が必要	市が企業とタイアップして環境施策を盛り上げる	行政による個人が積極的に実行に移行するような制度設計	人件費などコストがかかる	中高生や有志のボランティアを募る	
何を知れば良いか分からない	#ハッシュタグ○○などキャッチーなものを考えて調べてみる	アウトプット場の不足	行政による義務化が必要	企業との温度感と顧客の体感に差がある	費用対効果の問題	行政が冬でも公園など外での活動をおすすめ（提案）する	商店街の方もお店を出して良いなどとする		
学校で（小・中・高など）年齢にあった省エネのことを伝える	自治会の回覧板を活用（して情報を載せてもらいたい）	ゼロカーボン会議の内容を市民フェスティバルで広報する	市が環境にやさしい企業を発信する		行政が説明資料作成	市がより環境政策を発信する	市が環境都市宣言をする	移住促進課をつくる	
		自分がSNSで発信			国全体の支援	行政が自宅購入を検討している人へ（エコ）情報を提供する	転入する人にお知らせする		



# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回）

## テーマ：住まいからゼロカーボンを考える

### グループ2



【用語の解説】  
みどりの条例：緑化の促進とみどりの保全について、定める条例のこと。

# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：住まいからゼロカーボンを考える

## グループ3



### 節電

私が家の中で家族みんなと同じところにいる or 外出する	自分が自宅にいないように外出を多くする	自分がテレビを何気なくつけることをやめる	照明は必要最低限の明るさで
冷えそうな日には早めにシャッターを開める	エアコンをあまり使わない	つい長時間使ってしまうもの（エアコンなど）には切タイマーをつける	日中の自然光を使う
自分が電気をつけっぱなしにしない、夏場は給湯の電源を切る	窓開けて換気	夜は早めに明かりを消す	寒い日はフリースと半纏で乗り切る
冬の休日は布団で過ごす	自分がグリーンカーテンを作る	ある程度の我慢が必要	高多湿の日本の気候へのシーズン対策
管理が面倒	視力が悪化するかもしれない	精神的負担がある	熱中症になりやすくなる
家族の協力・理解	部屋に仕切り板を立てて個人の空間を確保する	1つの部屋でも仕切りを活用して複数人過ごせる部屋に	市民会議で学んだことを家族と話し共有
照明から始めよう	大量の吸湿剤を部屋に置く	虫対策は虫取りリボンで	1
			節電を楽しむ（目に見える数値目標などで）

### エコ住宅

エコキュートにする	オール電化にする	戸建なのでリフォーム（二重窓、エコキュート）を行う	自分が「エコ住宅」設備の充実へ
自分が業者を選ぶのが難しい	自分が補助金の支給時期に合わせてスケジュール立てが必要	改修費がかかる	改造にお金がかかる
認定業者を所沢市に出してもらおう	企業や行政が旅行プランのように業者の比較サイトを作る	蓄電池の利用	住宅密集地こそ緑比率を高く
電気を使わないように冷やし手段（打ち水など）をする	日陰を作る（すだれ、樹木）	給湯器に広告をつけて値段を下げてもらう	

### 食・調理

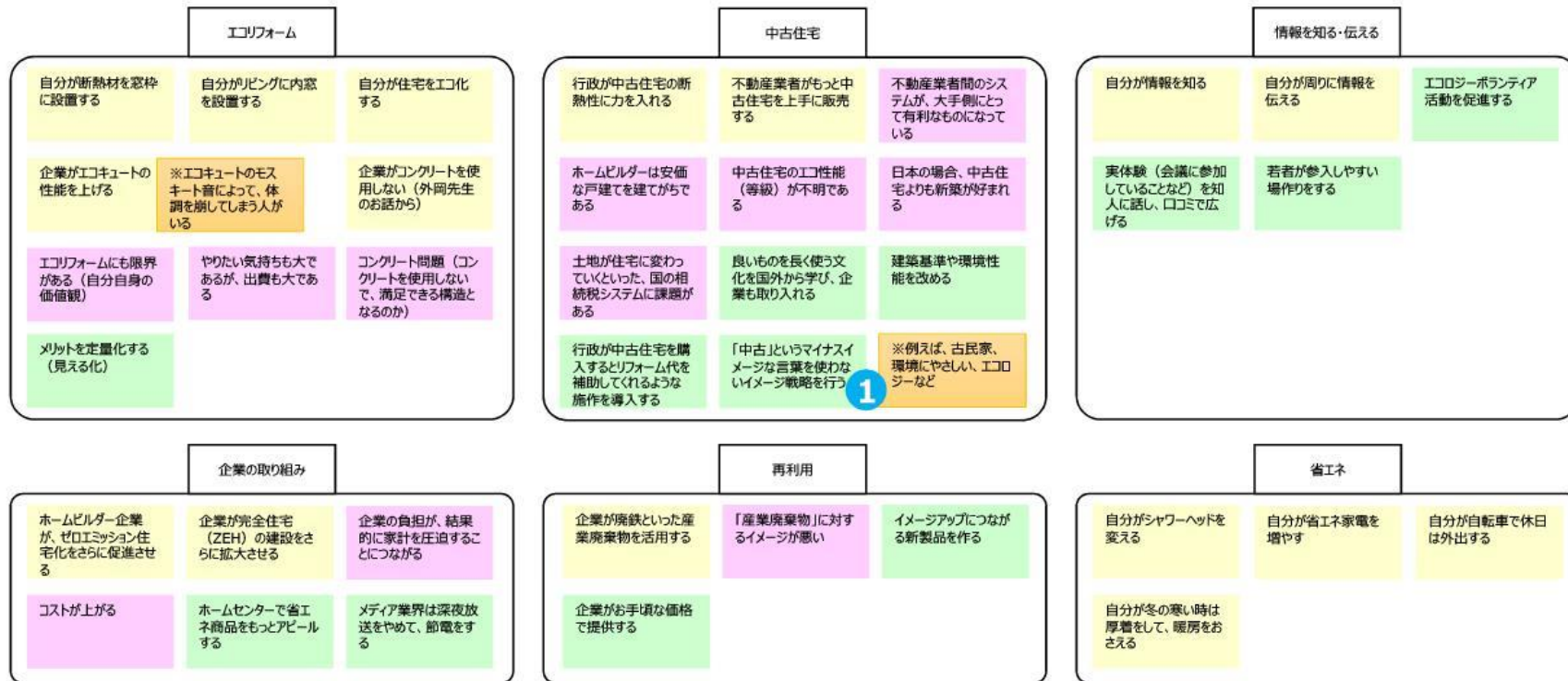
自分が調理時間を短くする	時短調理	効率の良い調理順序に取り組む
食べ残しをしない、生ゴミを減らす	好きな料理が作れなくなる	調理家電をうまく使う

### 行政・企業の取り組み

企業や役所の方々が施設をエコ化する（環境対策）	企業は照明をセンサーにして人がいるところだけを照らす
-------------------------	----------------------------

# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：住まいからゼロカーボンを考える

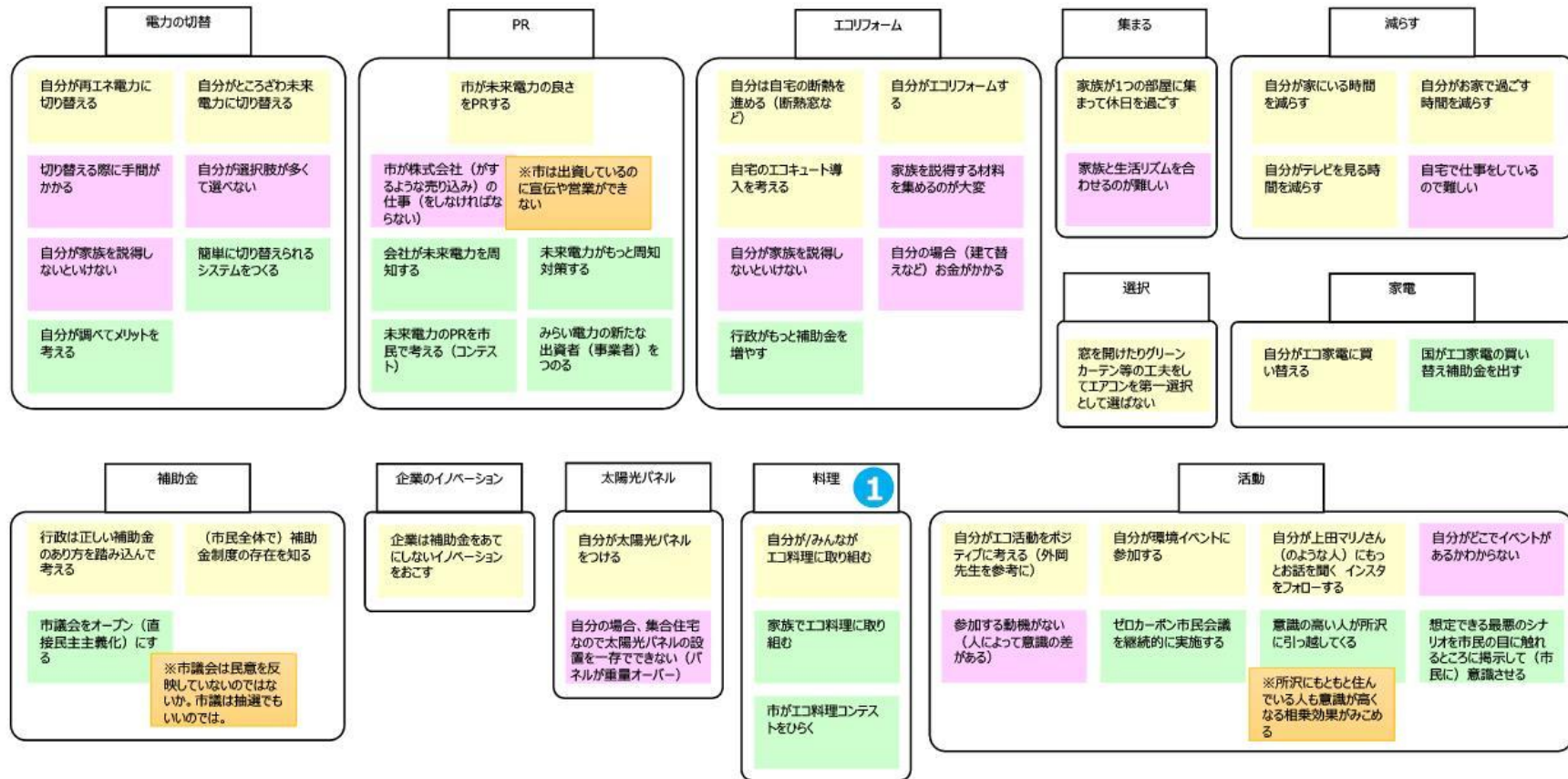
## グループ4



【用語の解説】  
ZEH：ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略語で、家庭で使用するエネルギーと太陽光発電などをつくるエネルギーをバランスして、1年間で消費するエネルギーの量を実質的にゼロ以下にする家のこと。

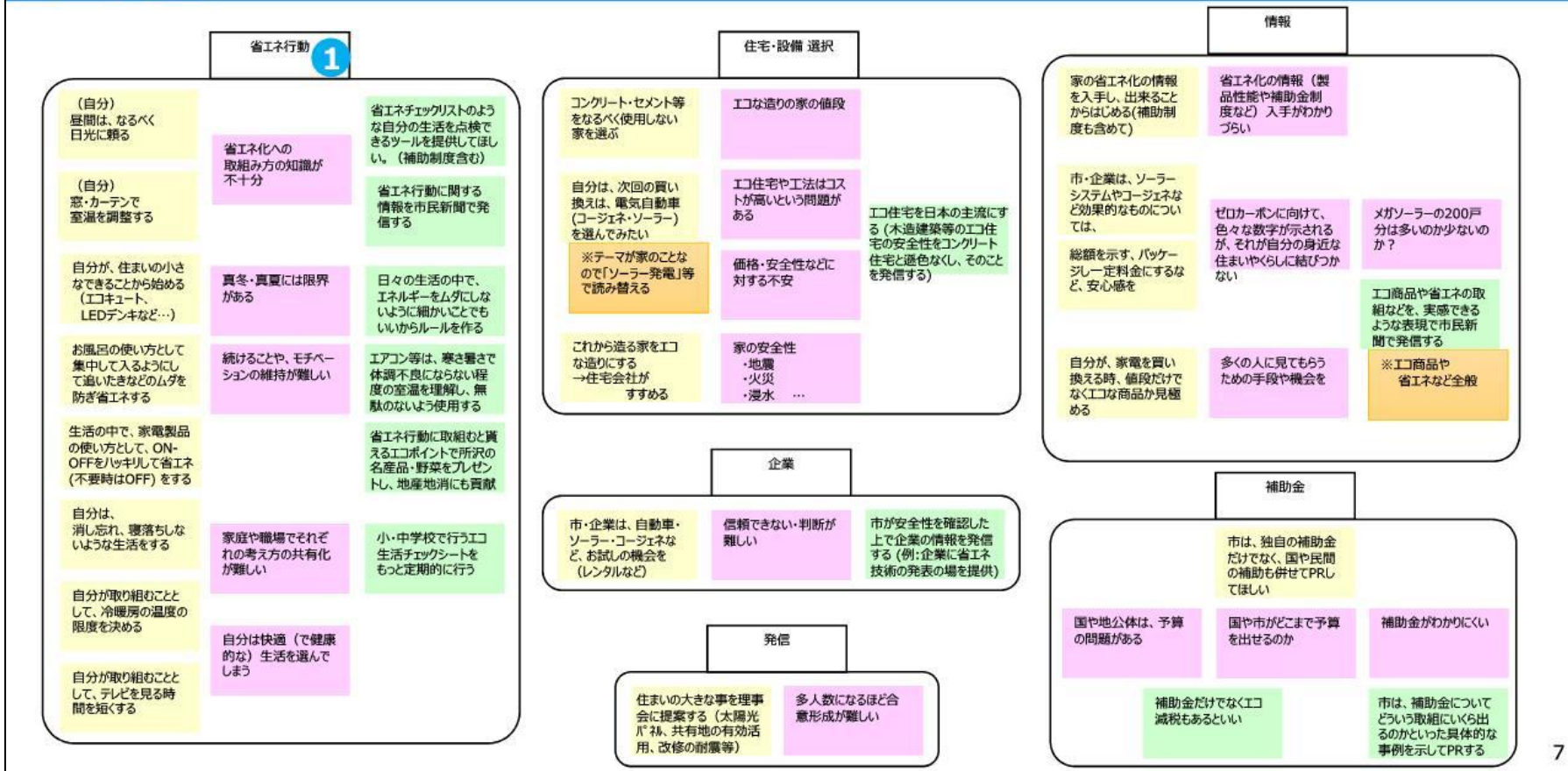
# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：住まいからゼロカーボンを考える

## グループ5



# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：住まいからゼロカーボンを考える

## グループ6



# まちごとゼロカーボン市民会議（第3回） テーマ：住まいからゼロカーボンを考える

## グループ7



### ライフスタイル

自分が風呂に入る時、長時間入らない。追い焚き機能を使わない	自分がテレビの視聴時間を減らす	市が車ありきの市民の生活を見直してほしいが「ドレール設置などで自転車ライフをサポート
自分が家にいる時に電気を使わずに寝るようになる	家族が仲良くする ※家族が仲良く同じ部屋で過ごすことで省エネ	自分がこのまま車なしの住まい、暮らしを続けていきたい
自分が5分のできるであれば電力会社を変えてみる	お風呂の追い焚きと時間がたつてからのお湯入れとどっちがエコ？	駅に近い場所であれば難しい
排出量の計算ツールのようなものがあったら達成感がないとそこで終わる	まず、家族との情報共有をする	子供が学校で学んだことを家族に伝える

### まちづくり コミュニティー

お年寄りや若い人が住む街をつくる	市が引っ越し応援を勧めたほうが良い暮らし方を合わせた住まいを
シルバニアファミリーとコラボし、お年寄り用のエコ+バリアフリー住宅	組織が空き家を再生して、一大エコリフォームタウンを作る
ガウディのゲル公園のような若い人用のエコ+デザイン化された住宅	※ゲル公園：世界遺産に登録されたスペインの都市公園。元々はエコに配慮した庭園住宅。

### リフォーム 家づくり 1

自分が市の補助金を発信していたほうが良い（友人がリフォームを検討しているので）	自分がマンションの会で補助金利用のリフォームを提案していきたい	自分がマンションの中でできる対策を探していきたい	市が見積もり表やカンタン計算チャートを作る	ホームページなどからの情報発信があれば
自分がリフォームするときにエコを重視した断熱を意識する	自分がリフォームや将来の住まいについて、エコ視点を忘れないようにしたい	自分がエコリフォームを考え、取り入れる	マンションでは補助の制度の恩恵を受けにくい	
自分がエコリフォームをする場合、費用や持続年数が心配	エコで新しいものに変えるとしても、すぐに買い替えては効果が薄い	戸建てとマンションで情報や支援に格差がある	マンション全体でできれば効果は大きいはずだがハードルが高い	マンションには制度上の制約に加え、理事会や管理組合の意見調整の難しさがある

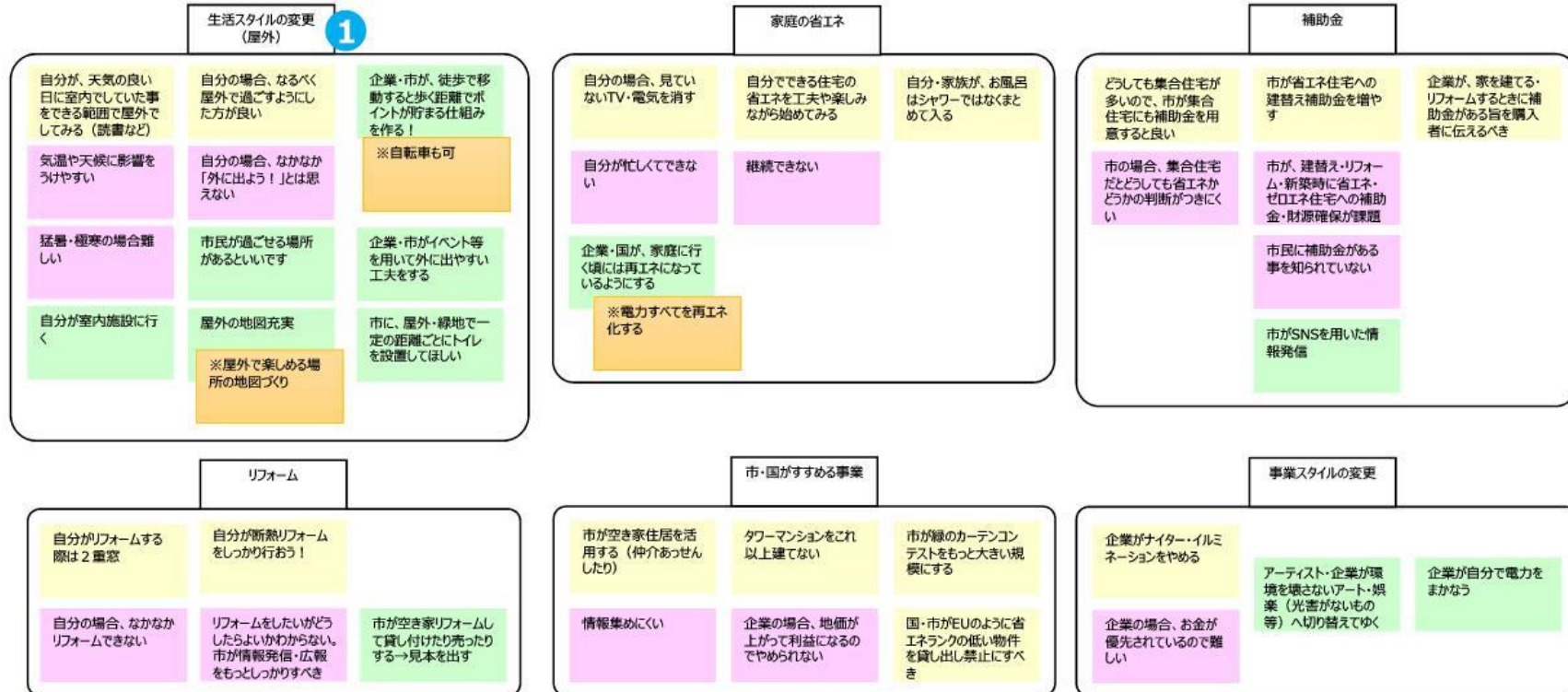
### 市の取り組み

市がエコな暮らしのきっかけを増やしたほうが良い（市のイベントでソーラーカーキック体験）	石油、鋼鉄、化学などCO <sub>2</sub> を出して働いている会社から税金をとる（CO <sub>2</sub> 、インフレ、貧困対策）	行政が積極的にエコ化を進める	市が、職員が（エコリフォームやソーラーパネルなどを）まず導入する	市がマンションの補助金予算取ってください	市がLEDへの変更など細かい部分も助けてほしい（ハードでなくソフト）
市がエコ用の資金源を増やしたほうが良い（エコで作ったお金だけでは追いつかない？）	市がブランディングのビジョンを詰めていったほうが良い（数値目標はあっても具体的な事例が乏しい）	市が率先してHPで発信してほしい 市報に実践報告を載せてほしい	お金のことなので、もっと詳しく知りたい	今日インスタフォロー	市全体に対するエコの取り組みができているか見届ける委員会を作る（街灯はLEDで22時に消灯など）
	ふるさと納税の使いみちとしてエコに使う	他の市に比べて弱いので、休耕地から返礼品を生産するなどする	募金（あるところからもらう）	所沢出身の有名人などから	

# マチごとゼロカーボン市民会議（第3回）

## テーマ：住まいからゼロカーボンを考える

### グループ8



## テーマ：移動からゼロカーボンを考える



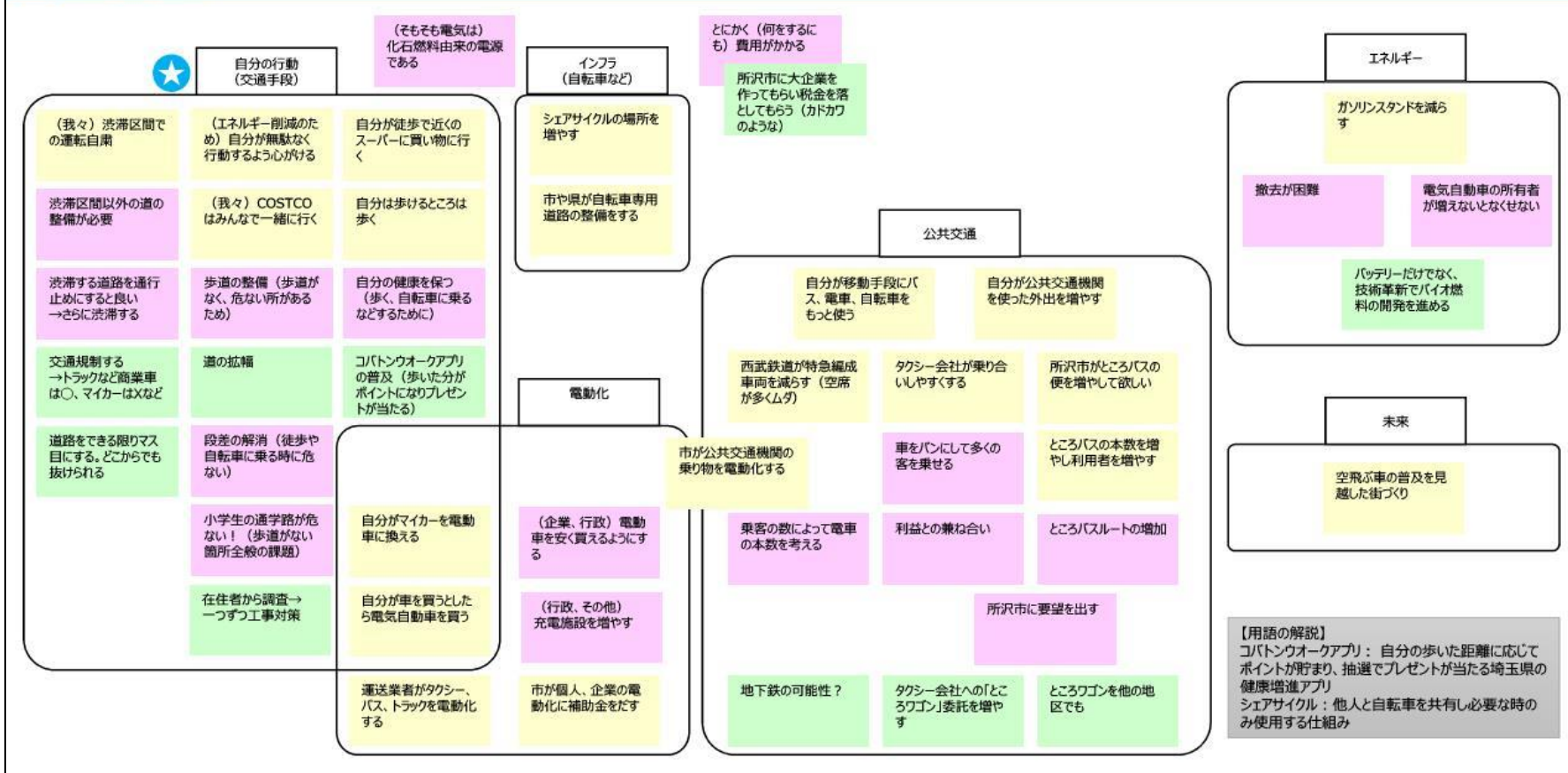
- ※ 黄色のポストイットは「取り組んだ方がよいこと」を書いたものです
- ※ 桃色のポストイットは「取り組むにあたっての課題」を書いたものです
- ※ 緑色のポストイットは「課題への方法（対策）」を書いたものです
- ※ 柿色のポストイットは、会議中もしくは会議後に補足説明するために加えたものです
- ※ 水色の☆印は、グループで最も対話が深まった（イチオシ）「課題への方法（対策）」です。進行状況によりイチオシのないグループもあります。



# まちごとゼロカーボン市民会議（第4回）

## テーマ：移動からゼロカーボンを考える

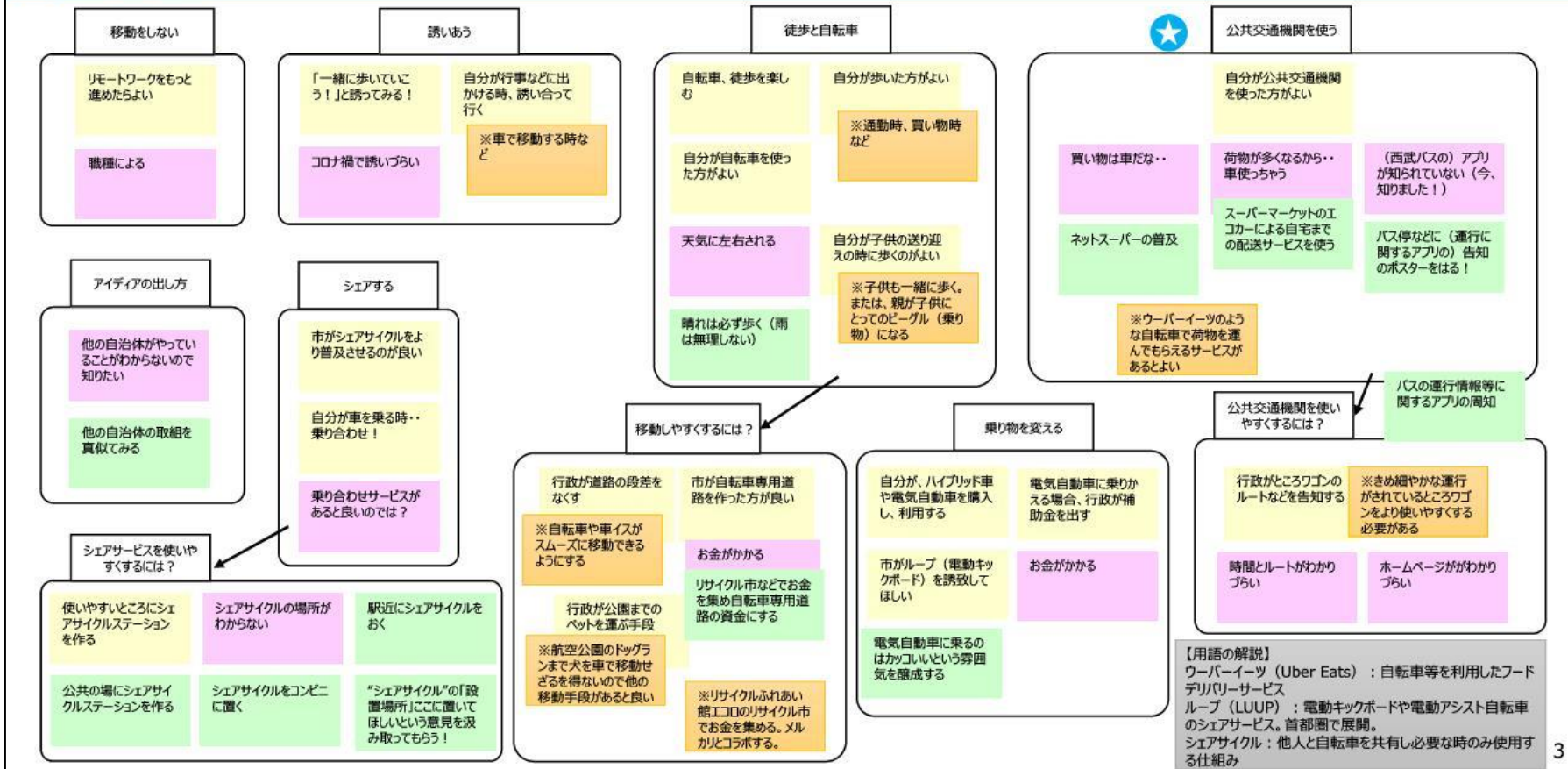
### グループ1



# まちごとゼロカーボン市民会議（第4回）

## テーマ：移動からゼロカーボンを考える

### グループ2



# まちごとゼロカーボン市民会議（第4回） テーマ：移動からゼロカーボンを考える

## グループ3



### 徒歩・自転車での移動促進

歩ける範囲の目的地へは歩いて移動する	自分が徒歩移動する	自分が徒歩・自転車で移動する
自分が自転車を活用していく	自分が近所に楽しみを見つける（車を利用して目的地に行かなくて済む）	家族がコンビニに車で行くのをやめる
自分が駅の近くに引越す（駅や他の目的地に歩いて行くため）	行政がシェアサイクルを進める	
体力が落ちた時に徒歩移動は大丈夫なのか心配	家族が徒歩やバス・電車の移動を嫌う（バスや電車の時間に合わせる必要があるため）	自転車のマナーが悪い人がいる（安心して自転車に乗れない）
シェアサイクルを知らない人が多い	家から駅が遠すぎて徒歩移動できない	
行政が自転車も免許制にする（自転車マナーを向上させるため）	行政がSNSやポスターで自転車マナーを啓発する	行政がシェアサイクルについてPRする
自分の体力に合わせて引越す場所を決める（目的地へ歩いて行くため）	自分が家族と所沢駅での買い物はバス移動にする	行政がシェアサイクルについてPRする

### 公共交通機関での移動促進

自分がゼロカーボンに繋がる交通手段について考える	自分と家族がマイカーを使わない	自分が公共交通機関の利用を促進する
行政による公共交通機関利用助成（公共交通機関を無料・低額で利用できる）	バス会社がバスの運行本数を増やす	公共交通での移動を中心とした移動で予定を立てる
利用者にとっての公共交通機関の不便利（駅までのアクセスや時間を合わせること）	行政・民間にとって利用促進策を行う資源不足	運行本数を増やすことでその分エネルギーを使うので省エネでなくなる可能性
運行本数を増やして利用者が増えるかは不明	自分がバスの時間を待てない	企業がバス1台の大きさを小さくして運行本数を増やす分消費エネルギーを抑える
自分がバスロケーションシステムをうまく活用する	企業が電車とバスの乗り継ぎをスムーズにできる時刻表にする	オランダ・ドイツなど官民連携による公共交通機関利用促進を参考にする

### 歩きやすい歩道の整備

自分が歩道について発信する（歩道が狭い、危険など）	行政が歩きやすい歩道にして徒歩移動を増やす	道路管理者が道路を渡りやすくする（歩行者の青信号時間を長くする）
行政が歩道を歩きやすく作り直す	歩道がでこぼこで歩きづらい	自転車を活用するには段差のない道路が必要
歩道を拡大するための用地をどう確保するか	歩道の拡充には電柱の地中化が必要	
行政が水道管工事などの後に歩道を綺麗に舗装する	電柱の地中化は歩道拡幅で実現できる	

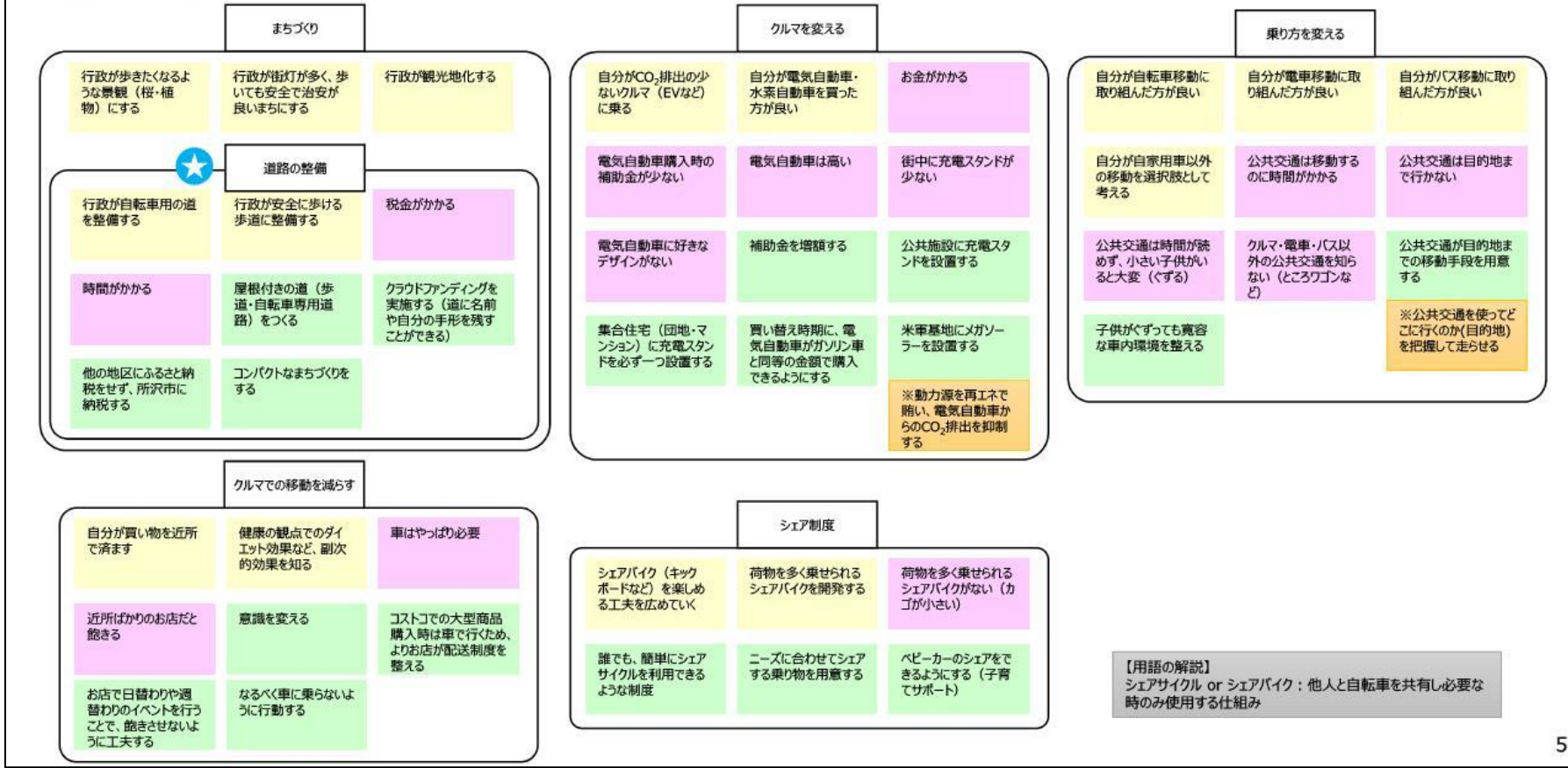
### その他

自治体は「エコ街づくり」を頑張してほしい	自治体がまちなかに公共駐車場を作る	※町の中心部は車が通らない歩行者中心の空間にする
自宅から公共駐車場まで距離のある街に住みたい人がいるのか	自転車利用を中心としなくても魅力があるまちづくりをする	

【用語の解説】  
シェアサイクル：他人と自転車を共有し必要な時のみ使用する仕組み  
バスロケーションシステム：バスの運航管理者がGPS等によって車両の位置情報を取得し、バス停や携帯電話で運行状況や到着予定時刻等の情報を利用者に提供するサービス

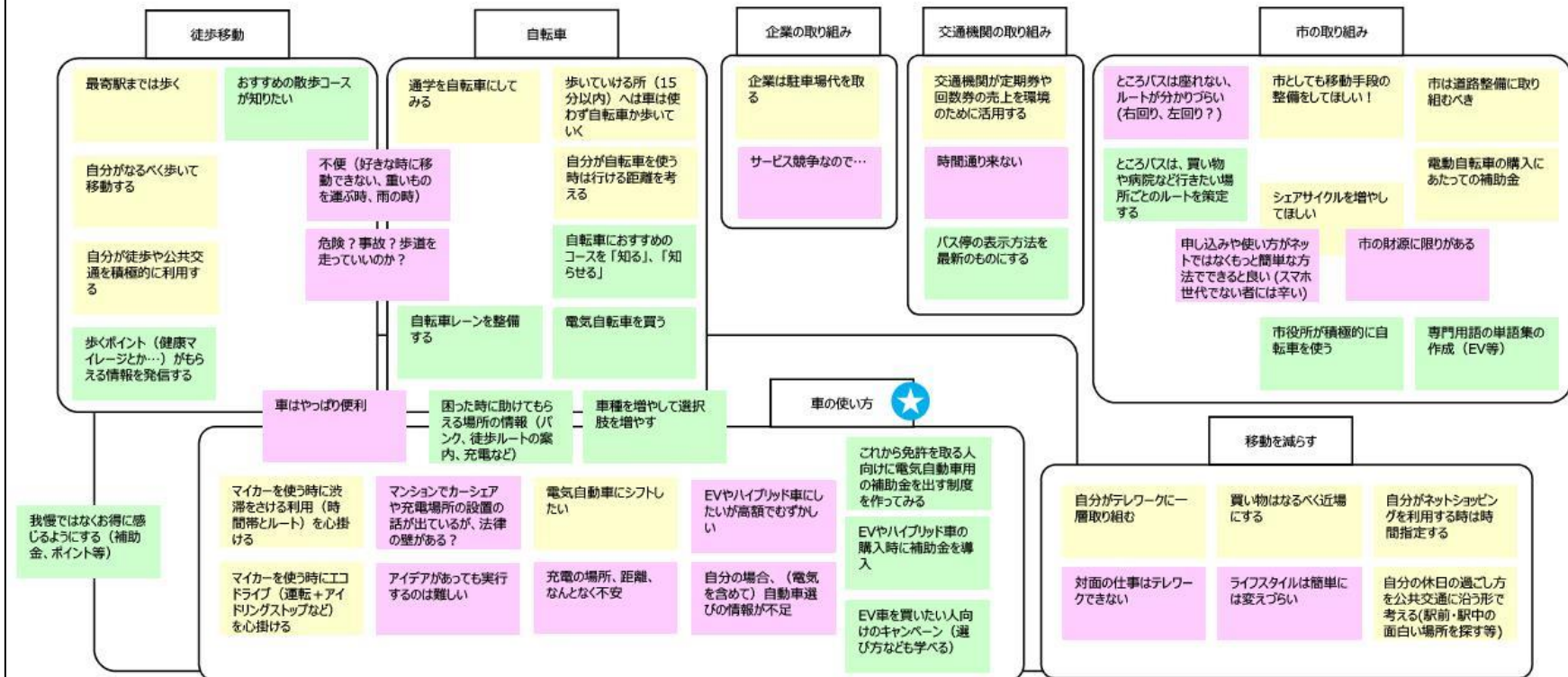
# まちごとゼロカーボン市民会議（第4回） テーマ：移動からゼロカーボンを考える

## グループ5



# まちごとゼロカーボン市民会議（第4回） テーマ：移動からゼロカーボンを考える

## グループ6



【用語の解説】  
シェアサイクル：他人と自転車を共有し必要な時のみ使用する仕組み

# まちごとゼロカーボン市民会議（第4回） テーマ：移動からゼロカーボンを考える

## グループ7



### 市の施策

所沢市が自転車専用道路を増やす	ところバスの周知のために一日乗り放題を実施する	ところバスをもっと簡単に利用できないか？ スマホで位置を検索できるなど
自転車専用レーンがある所も車の路駐がみられる。ガードレールがないため危ない	シェアサイクルを初めての街で利用したが、料金や使いやすさにもっと工夫がほしい	位置がわかると便利
車を通りにくくするために広場をつくる	返却する際の手間（返却場所が空いていないことも）や、すぐに高くなる料金	返したい場所に返せないことがある
所沢、狼山、飯能の三市でガソリン車を廃止する	自分がシェアサイクル自転車に乗り慣れていないのであぶない	市が全ての道を歩けるように整備してほしい（登校中の子供の安全を！）
電気自動車の重さに道路が耐えられるのか	シェアサイクルの料金見直し（高い場合）や使い方を誰にでもわかるよう表示する必要性	市にはエリアごとのランクという課題がある
特典として市がエコスコアを設け、環境にやさしい交通手段の利用者の税金を安くする	シェアサイクルは市のイベントやおまつり、学校の授業などで体験などをして使い方を周知	郊外エリアの道路整備の優先度が低く設定されている？ 地域ごとに車種も異なるからか
		ガードレールの無い細い歩道が多い。人命第一に、そうした場所を歩きたくないから市が優先的に整備する

### ライフスタイル

在宅ワークで家での冷暖房費が発生する学校などで在宅ワークを行うべきか	自分が車のない生活を続けていたほうが良い
自分が在宅ワークを導入する	自分が（マンション理事会が）カーシェア、シェアサイクルを導入する
自分や家族が同じ日にテレワークし、同じ日に外出する	マンション内の使われていない駐車場を活用する
自分が人口密度の高い地域を選んで住み続けたほうが良い	カーシェア、シェアサイクルをマンションに導入するとセキュリティに課題がある（住民の声もある）
	利用をICカード制としてセキュリティを強化する
車を持たない世帯へ市の交通機関を安く利用できるバスがあると良い	※免許返納者には期限付きでところバスの利用等への支援がある
小売業界が移動型スーパーを運用する	コンビニ業界が商品の搬入頻度をへらす
	現状1日に数回のペースで補充されており、必要性に疑問

### 公共交通

車を持っていないので移動は徒歩か自転車か公共交通のみです	自分や家族が旅行の際に旅行地まで電車で向かい、目的地でレンタカーに乗り換える	自分が公共交通を積極的に利用する	自分がところバスやところワゴンに詳しくなったほうが良い（人に教えられるので）
	ところバスはバリアフリースタッフ同乗などターゲットを絞り、西武バスと住み分ける	所沢市のバスは使い勝手が悪い	所沢市がところバスを燃料電池車に変えたり、運行情報をスマホで検索できるようにして利便性を高める

### 徒歩・自転車

雨の日は自転車移動が難しいので、ところバスの本数を増やす	自分には道を知るために時間を割くことが難しい	所沢魅力マップを住民から募集して一大プラットフォームを作ることによって歩行者を増やす
自分が歩ける道を探していたほうがよい安全、道路沿いに店がある等	自分が魅力的な散歩ルートを見つけたい	
自分が自転車で行ける範囲を広げていったほうが良い（抜け道を覚えるなど）	徒歩ルートには危険な道が多いことが課題	
自転車置き場が駅の近くに多くあれば駅まで車で送り迎えするのが減るのでは	高齢者の再雇用先として（有人の）自転車置き場を整備する	電動自転車は便利だが電池が切れると不便

【用語の解説】  
シェアサイクル：他人と自転車を共有し必要な時のみ使用する仕組み  
カーシェア：登録をした会員同士で車を共同で使用するための仕組み

# まちごとゼロカーボン市民会議（第4回） テーマ：移動からゼロカーボンを考える

## グループ8



### インフラ整備

市、国が歩道を整備する	市がところバス乗り場を増やすと良い	市がところバスの本数をもう少し増やすと良い
市、県、国が自転車道や歩道を作った方がよい	場所の確保が難しい	車両、人員の確保が難しい
予算があるか	ところバス乗り場で道が狭いと渋滞になってしまい難しい	利用者を増やすのが難しい
土地の問題で道路を広げるのは難しい	予約制やどこでも乗れるようにする	公共交通機関を使いづらい人もいる
	※タクシーのバス版的な感じ	※ベビーカー利用者や高齢者、障がい者などでも使いやすくしてほしい
	企業と連携する	情報共有
	※西武バスとところバスで乗り場を重複させる	※ところバスが走る時間やルートなどを共有する
	利用者アンケートとかで需要を調査してみても対策する	条件を満たした方に無料バスを与える
		※車を持たない人、障がい者、駅から遠い人、免許返納者など

### まとめて行う（移動）

自分が車を使う用事は一度にまとめて行うようにする	自分が用事をまとめて行動するようにする	企業は物品の輸送をまとめて行った方がよい
家族が多いと「一度に」が結構難しい	機能（病院、行政、買い物…）がバラバラに分布している	
働き方改革で休日を増やし、用事をまとめて行えるようにする	市が相続のタイミングで土地を確保する	駐車場が多いので減らす
		※空き家が駐車場になることが多いので市のまち整備に活用する

### CO<sub>2</sub>を出さない移動手段

自分が遠出の外出は電車で移動した方がよい	自分が歩く	自分が自転車を使った方がよい
電車の場合、移動先と時間が限られる	自分のちょっとした外出は徒歩で行った方がよい	荷物が多いと難しい
疲れている時は難しい	少し速いと楽しくて車を使ってしまおう	天候によって左右されるので難しい
時間に余裕を持たせる	自分の体力・気力を鍛える	雨対策付自転車（後付けキットでも可）を開発する

### そもそも論

自分が健康に気をつける
※歩いたり自転車に乗ったりするには健康であることが必要だから
体力づくりのイベント・場所を増やす

### 施策

市や企業がカーシェアやサイクルシェアを拡大・充実する
衛生的に不安がある
ガソリンスタンドにカーシェア用の洗車機を設置する

### 乗り物自体を変える

企業が自転車タクシーみたいなのを作った方がよい	市や公共機関がバスを水素バスに切り替える
人力のため、つらい。速くは行けず難しい	近くのスーパーまでとか1km範囲とかにする
浅草の人力車のシステムを参考にする	

## テーマ：地域での連携からゼロカーボンを考える



※ 黄色のポストイットは「ステークホルダー（関係者）」を書いたものです

※ 桃色のポストイットは「ステークホルダー（関係者）の連携で実施できるアイデア」を書いたものです

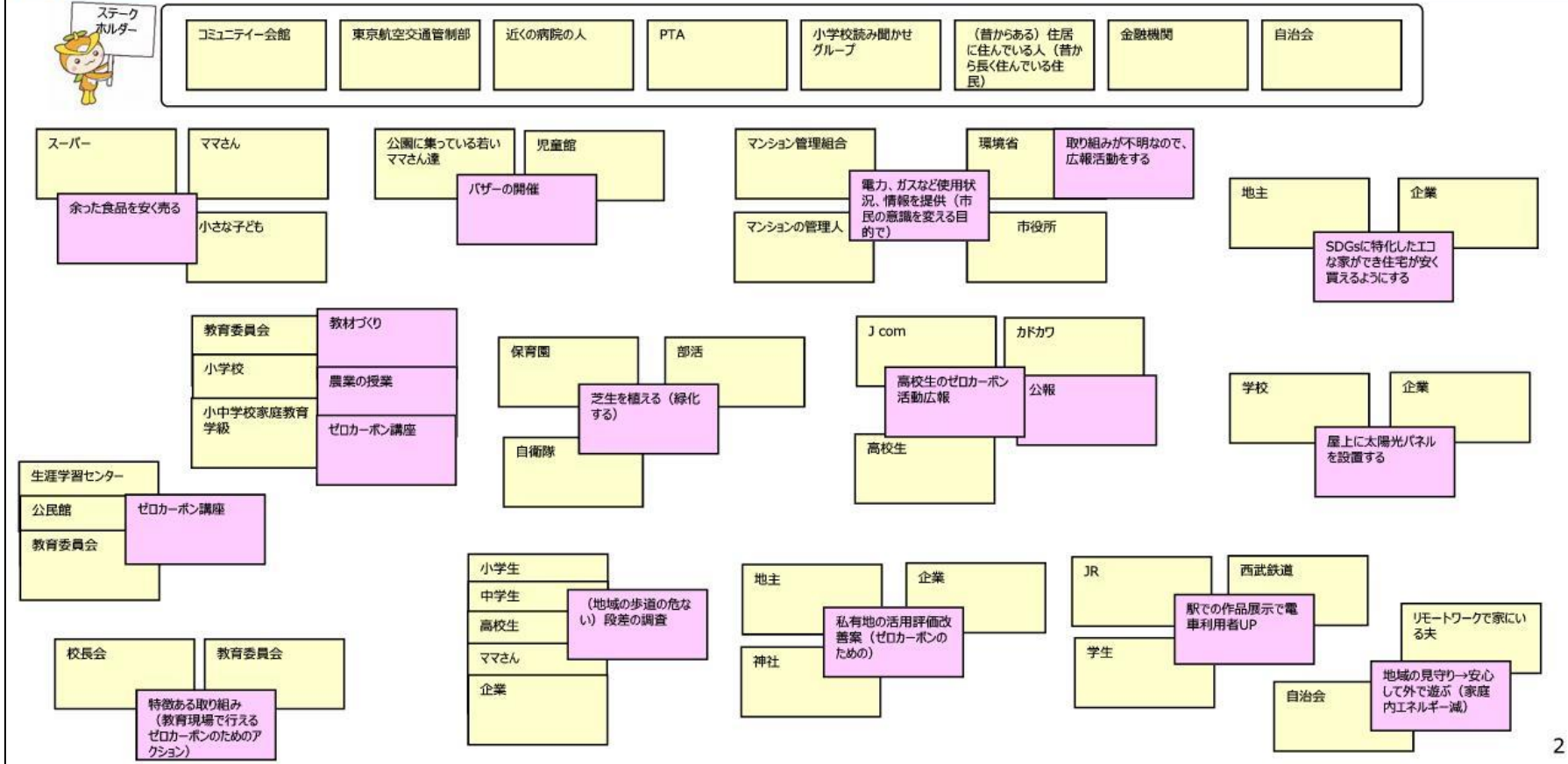
※ 柿色のポストイットは、会議中もしくは会議後に補足説明するために加えたものです

※ 水色の☆印は、グループで最も対話が深まった（イチオシ）「課題への方法（対策）」です。進行状況によりイチオシのないグループもあります。



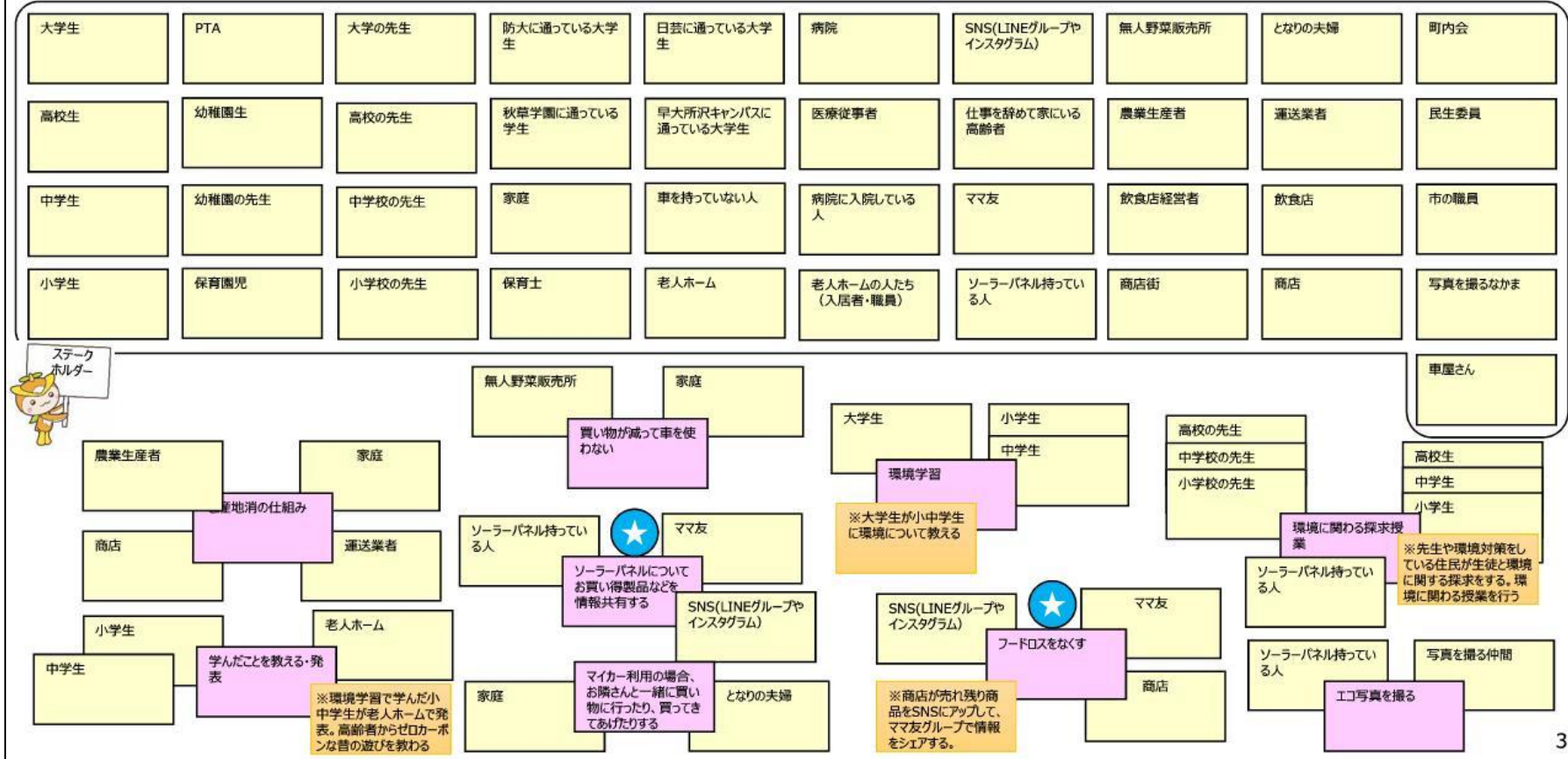
# まちごとゼロカーボン市民会議（第4回） テーマ：地域での連携からゼロカーボンを考える

## グループ1



まちごとゼロカーボン市民会議（第4回）  
 テーマ：地域での連携からゼロカーボンを考える

グループ2



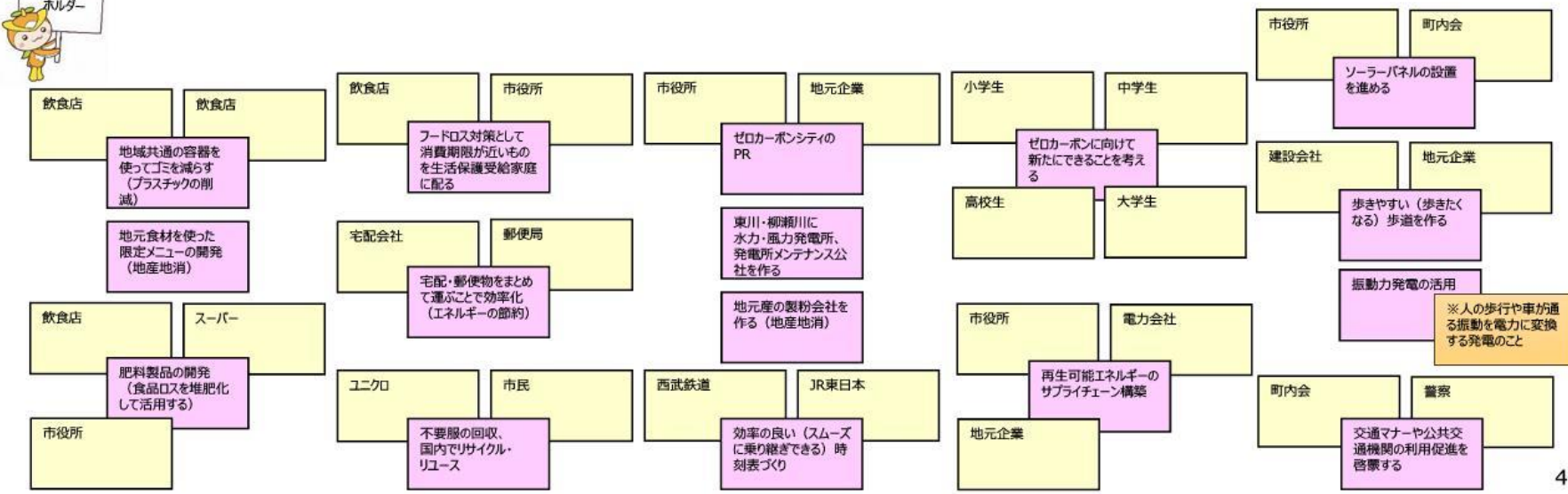
# まちごとゼロカーボン市民会議（第4回）

## テーマ：地域での連携からゼロカーボンを考える

### グループ3



スーパーの会社	紙袋製造業者	ダンボールメーカー	西武鉄道	建設会社	市役所	市民	高校生	園児	老人会
ファミリーレストラン	ファストフード店	ユニクロ	JR東日本	宅配会社	警察	大学生	中学生	町内会	老人ホーム・ デイサービス
パン屋さん	だんご屋	地元企業	自動車学校	大工さん・ 植木屋	消防署	郵便局	小学生	公民館	電力会社

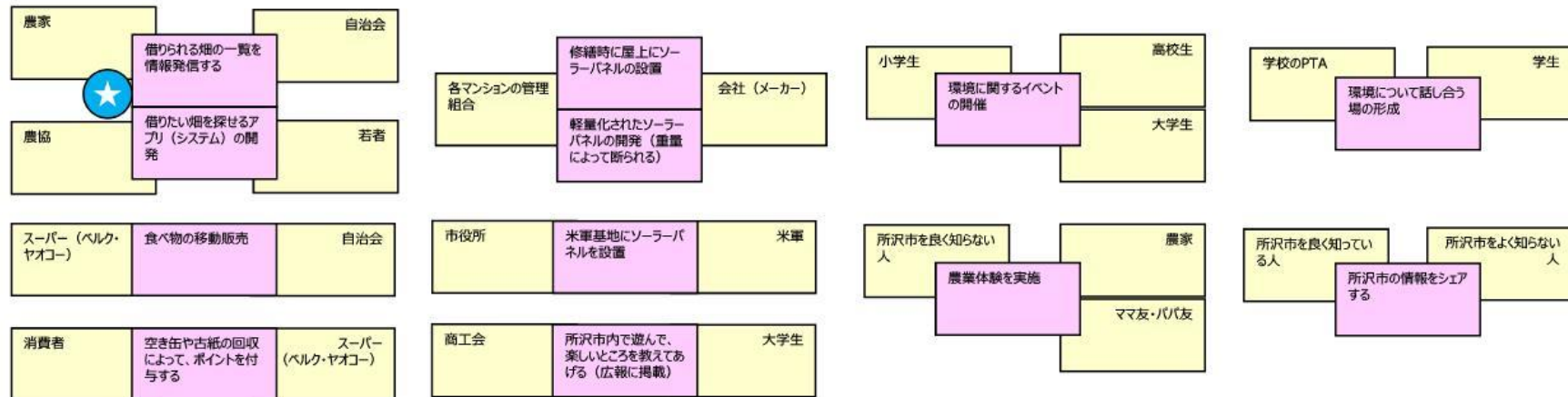


# まちごとゼロカーボン市民会議（第4回） テーマ：地域での連携からゼロカーボンを考える

## グループ5

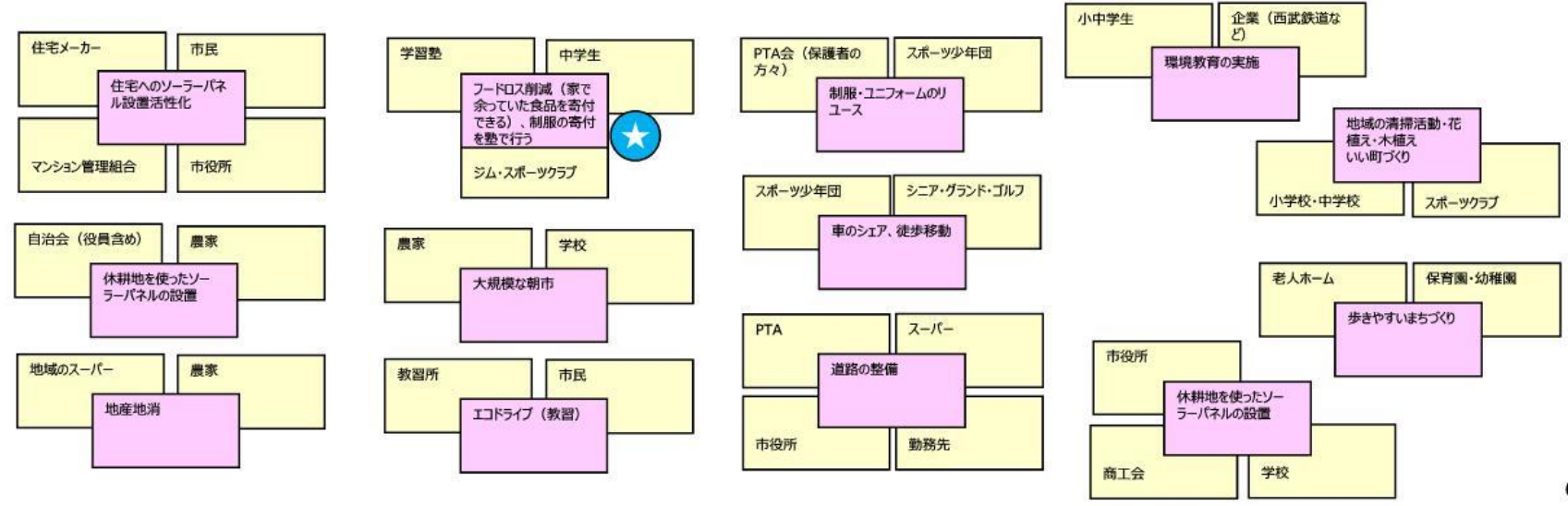


自治会	商工会	学校のPTA	小学生	中学生	高校生	大学生	学生	農家	交通安全協会
消防団	会社（メーカー）	国	市役所	米軍	各マンションの管理組合	スーパー（ベルク・ヤオコー）	ママ友・パパ友	所沢市を良く知っている人	所沢市を良く知らない人
市外在住で所沢市で働く人	若者	農協	消費者						



# まちごとゼロカーボン市民会議（第4回） テーマ：地域での連携からゼロカーボンを考える

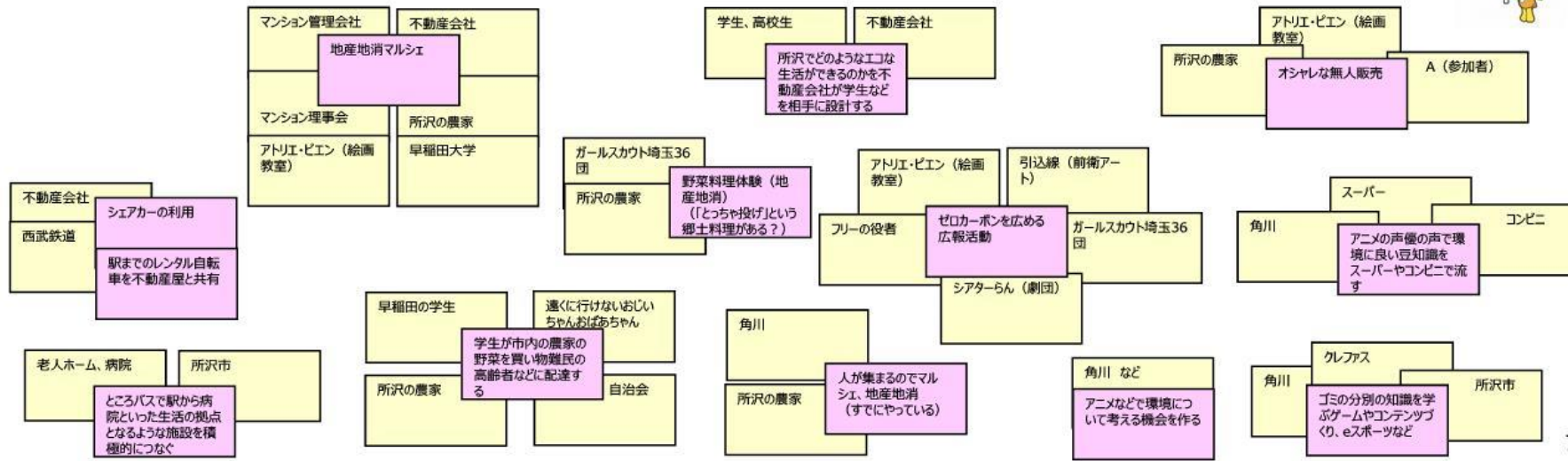
## グループ6



# まちごとゼロカーボン市民会議（第4回）

## テーマ：地域での連携からゼロカーボンを考える

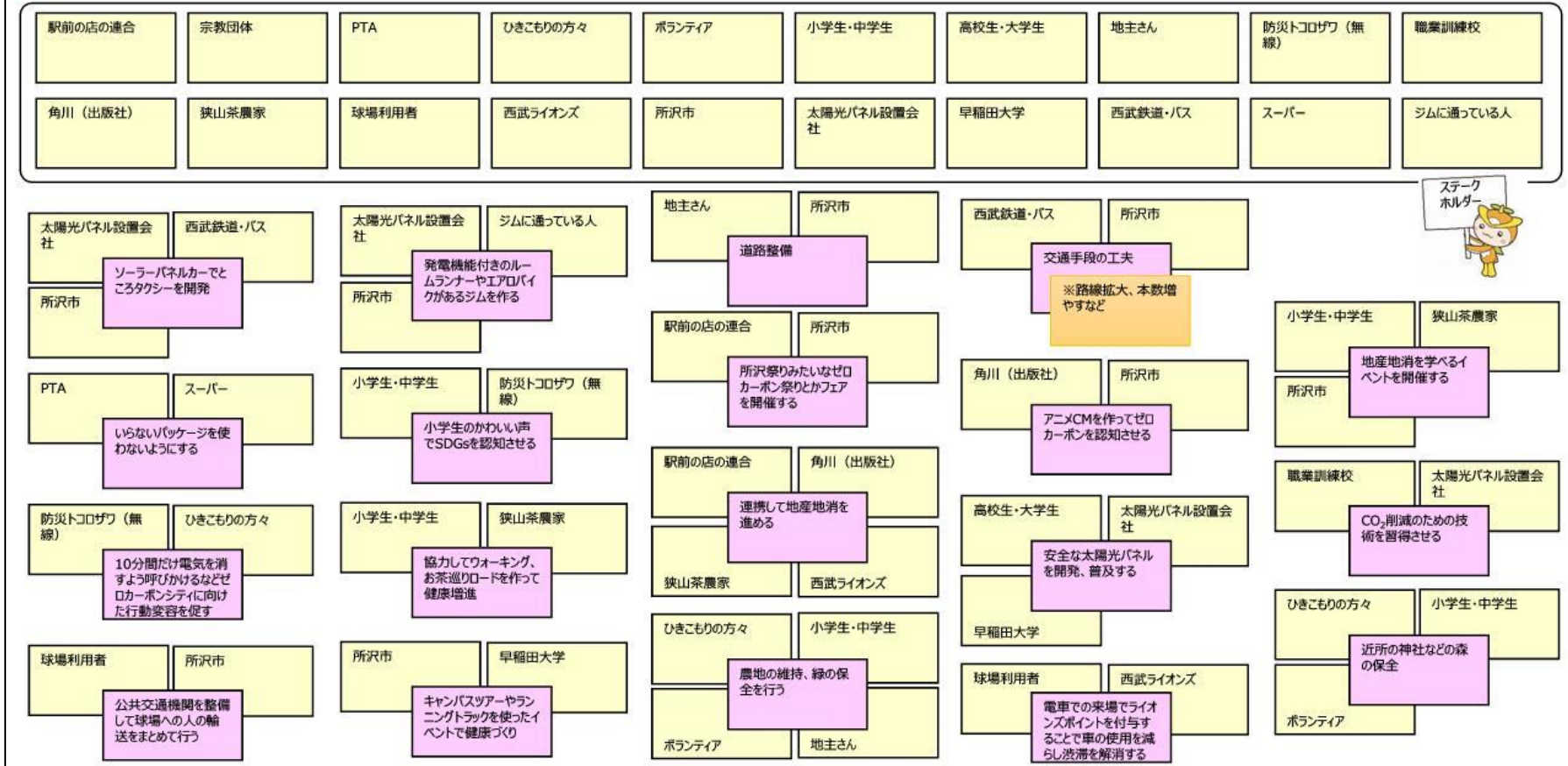
### グループ7



# マチごとゼロカーボン市民会議（第4回）

## グループ8

### テーマ：地域での連携からゼロカーボンを考える



## テーマ：対策アイデアの整理



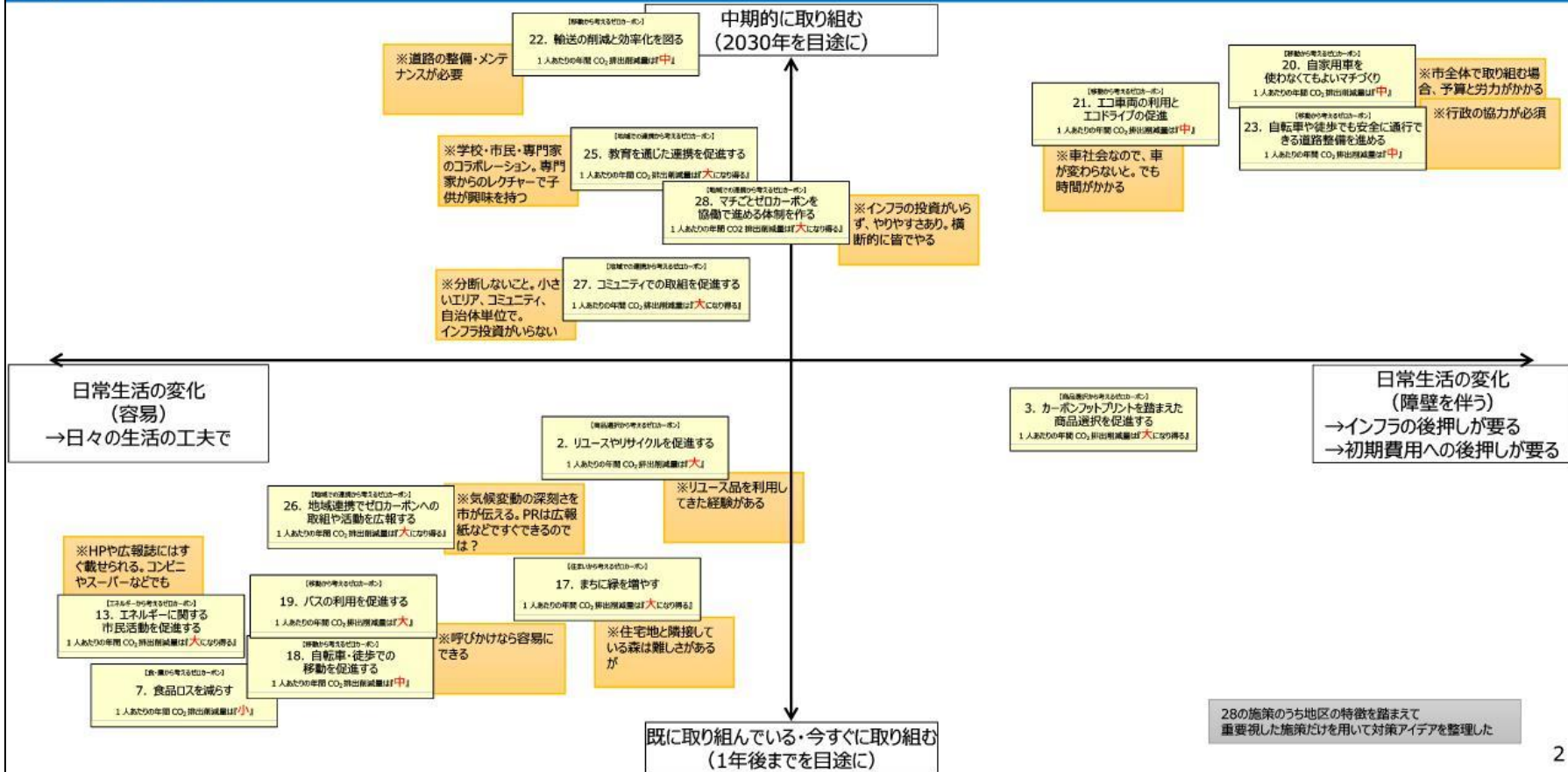
※ 黄色のポストイットには第4回目までに整理したゼロカーボンに向けた28の施策が書かれています。それらを地区の特徴を踏まえながら、難易度（横軸）、そして時間（縦軸）で整理したものです。それぞれのポストイットには、1人あたり年間CO<sub>2</sub>排出削減量として、「小」（おおよそ200kg以下）、「中」（おおよそ200～500kg）、「大」（おおよそ500kg以上）と書かれています。なお、「大になり得る」は日常生活への浸透したいとしました。

※ 柿色のポストイットは会議中もしくは会議後に補足説明するために加えたものです。



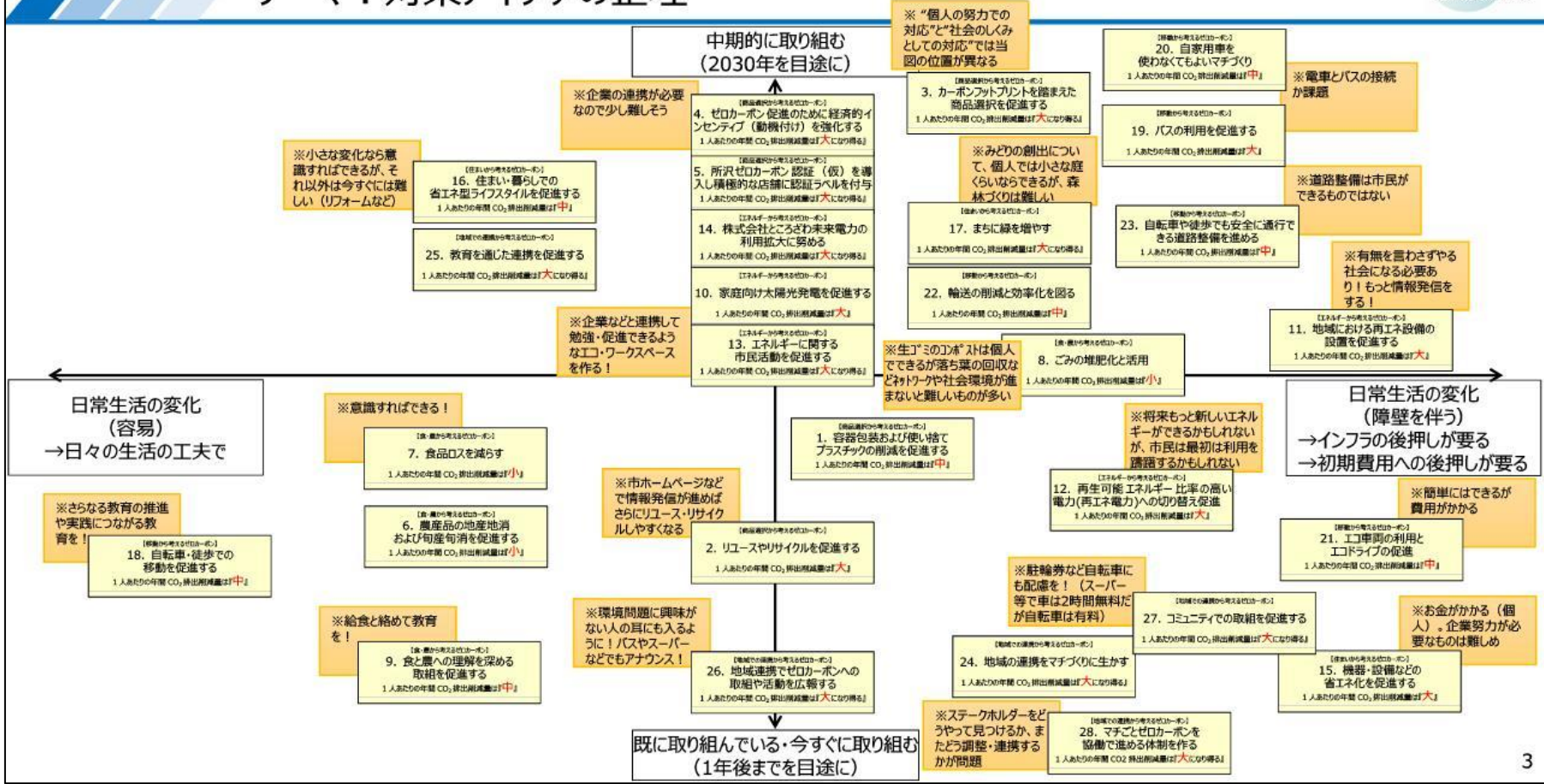
# まちごとゼロカーボン市民会議（第5回） テーマ：対策アイデアの整理

## 東1グループ



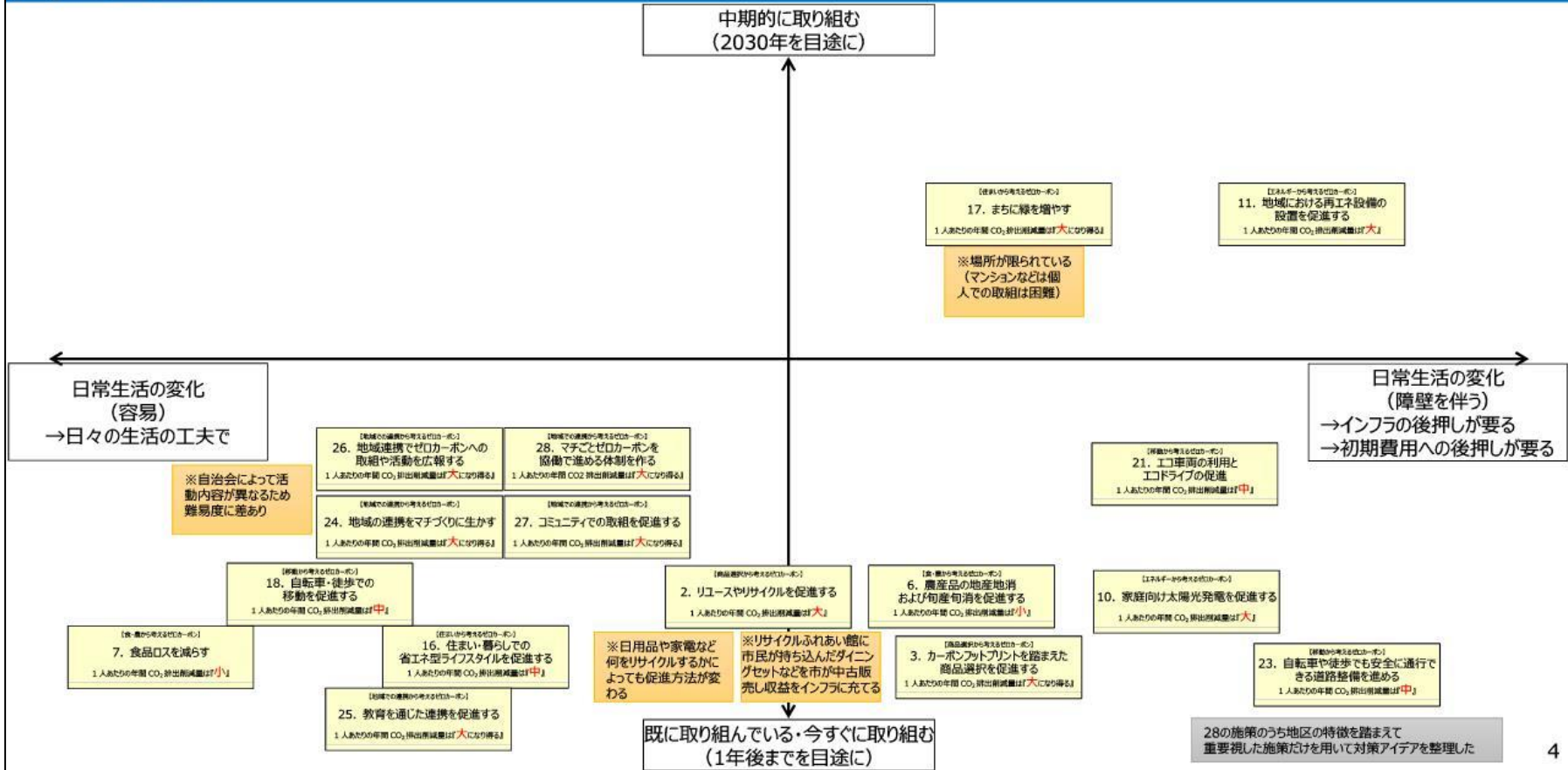
# まちごとゼロカーボン市民会議（第5回） テーマ：対策アイデアの整理

## 東2グループ



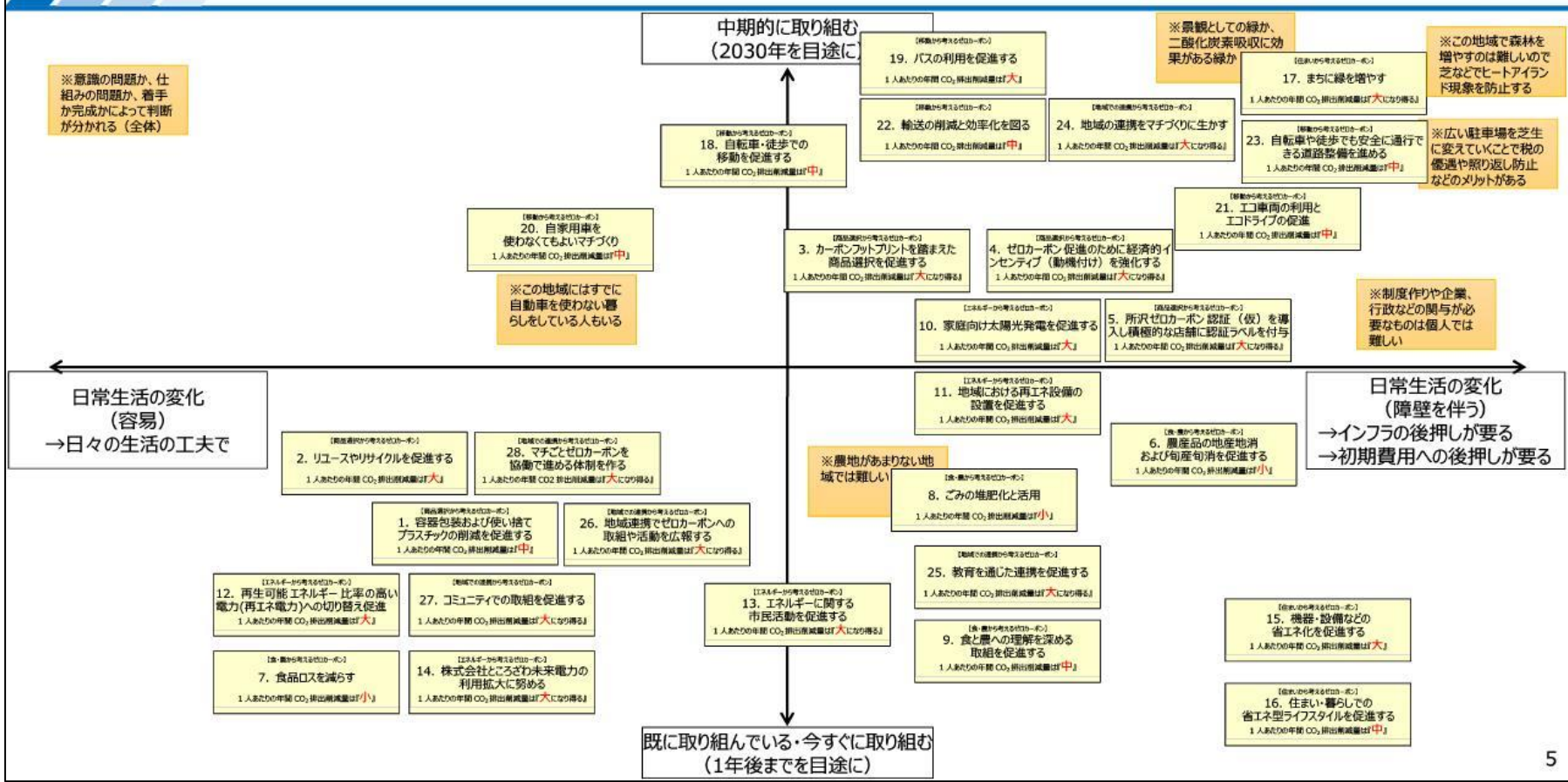
マチごとゼロカーボン市民会議（第5回）  
 テーマ：対策アイデアの整理

中央1グループ



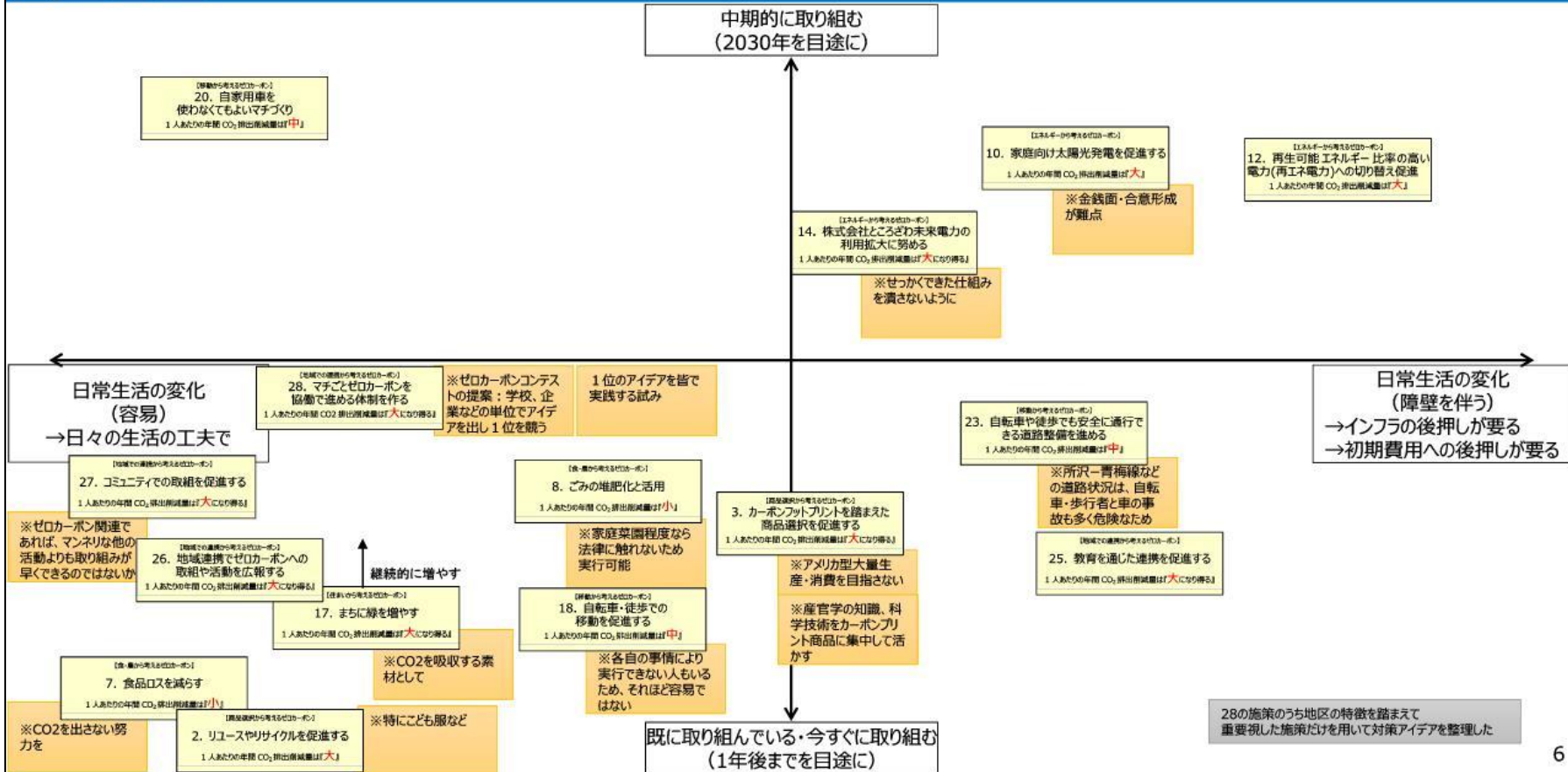
# マチごとゼロカーボン市民会議（第5回） テーマ：対策アイデアの整理

## 中央2グループ



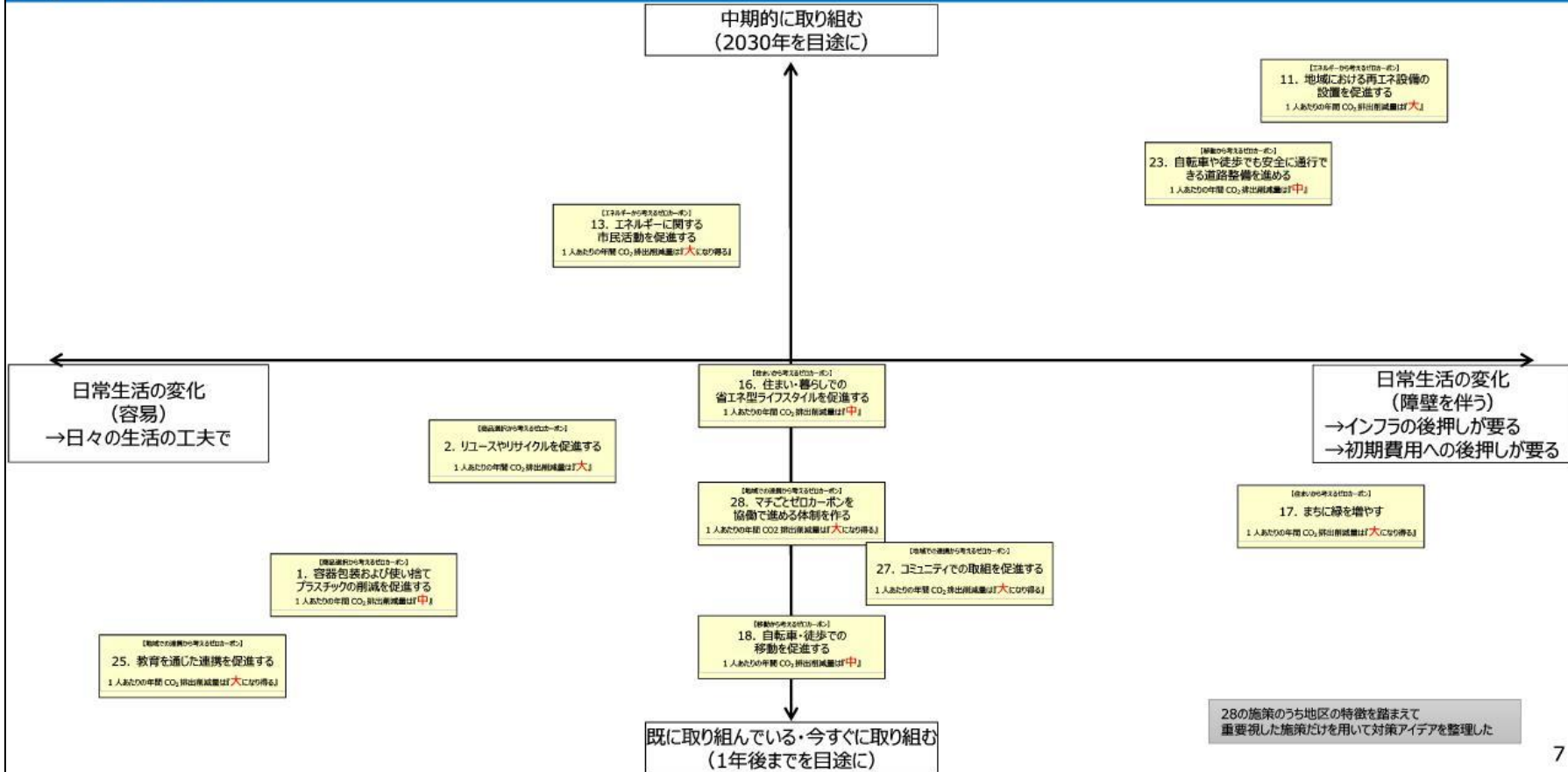
# まちごとゼロカーボン市民会議（第5回） テーマ：対策アイデアの整理

西1グループ



まちごとゼロカーボン市民会議（第5回）  
 テーマ：対策アイデアの整理

西2グループ

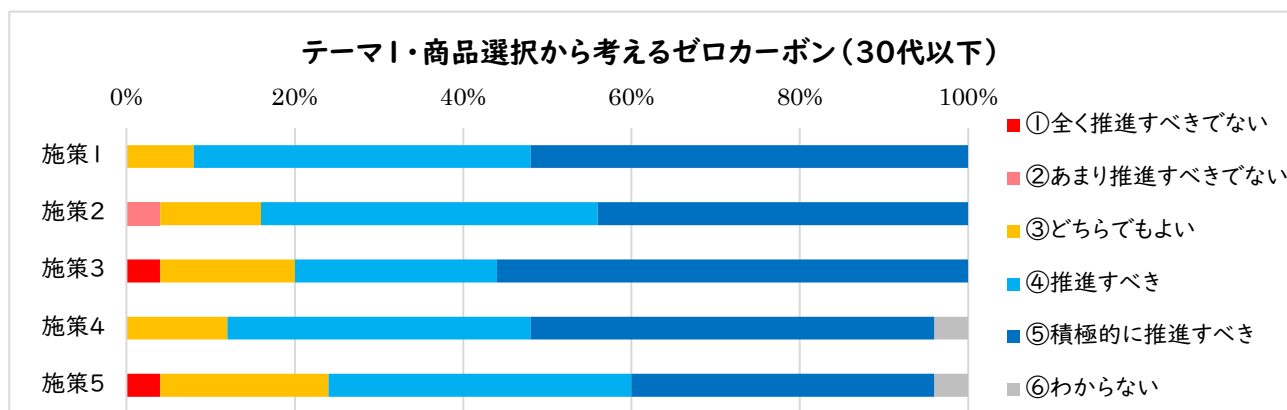
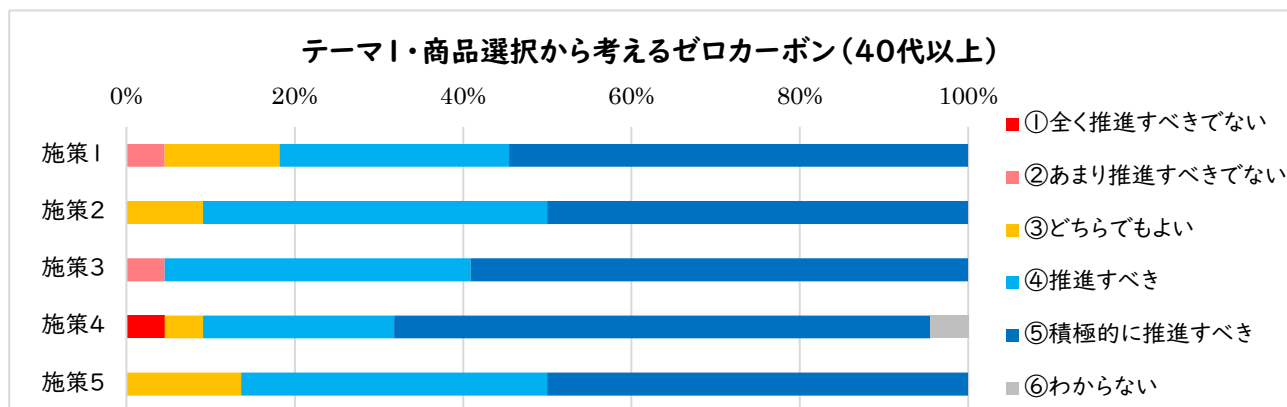


## 資料4. 投票結果（年代別）

回答頂いた47名を「30代以下（25名）」と「40代以上（22名）」の2グループに分け、それぞれ集計した投票結果は以下のとおり。

### テーマ1『商品選択から考えるゼロカーボン』

- 施策1 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する
- 施策2 リユースやリサイクルを促進する
- 施策3 カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する
- 施策4 ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する
- 施策5 所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する



ほとんどの施策について「30代まで」よりも「40代以上」の方が積極的な評価を行っている。特に施策2及び施策3にその傾向が強い。

- 施策 1 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する
- 施策 2 リユースやリサイクルを促進する
- 施策 3 カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する
- 施策 4 ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する
- 施策 5 所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する

**テーマ1『商品選択から考えるゼロカーボン』の施策のうち、最優先すべきと考える施策の投票結果**

施策	1	2	3	4	5
得票数 [30代以下]	9票 (36.0%)	1票 (4.0%)	6票 (24.0%)	7票 (28.0%)	2票 (8.0%)
得票数 [40代以上]	8票 (36.4%)	3票 (13.6%)	4票 (18.2%)	4票 (18.2%)	3票 (13.6%)

ほとんどの施策について「30代まで」よりも「40代以上」の方が積極的な評価を行っている。特に施策2及び施策3にその傾向が強い。



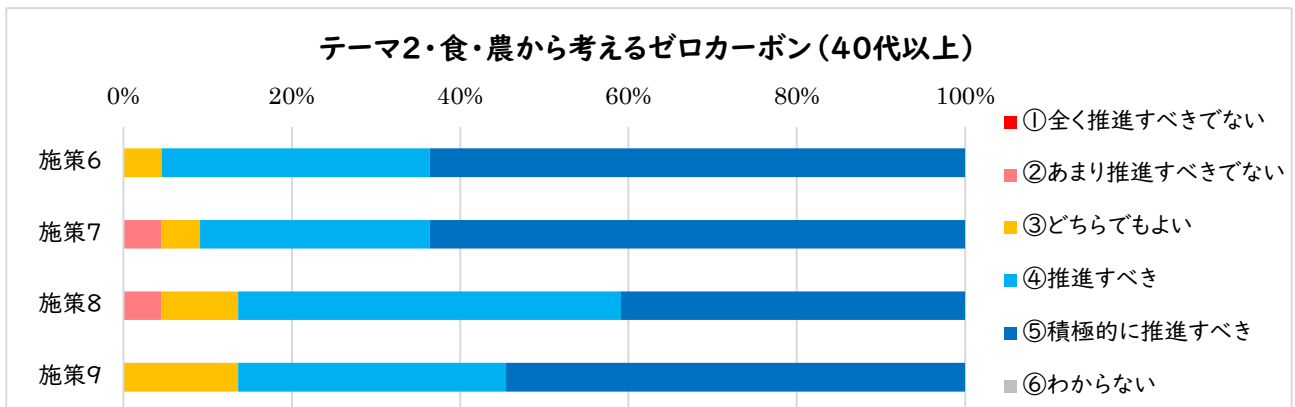
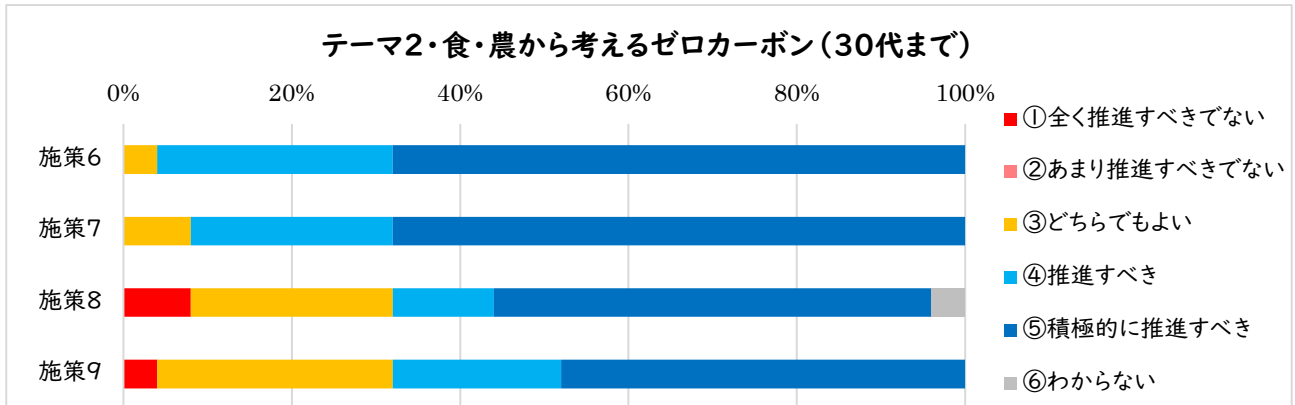
## テーマ2『食・農から考えるゼロカーボン』

施策6 農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する

施策7 食品ロスを減らす

施策8 ごみの堆肥化と活用

施策9 食と農への理解を深める取組を推進する



施策6 農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する

施策7 食品ロスを減らす

施策8 ごみの堆肥化と活用

施策9 食と農への理解を深める取組を推進する

**テーマ2『食・農から考えるゼロカーボン』の施策のうち、最優先すべきと考える施策の投票結果**

施策	6	7	8	9
得票数 [30代以下]	8票 (32.0%)	11票 (44.0%)	2票 (8.0%)	4票 (16.0%)
得票数 [40代以上]	5票 (22.7%)	9票 (40.9%)	5票 (22.7%)	3票 (13.6%)

施策8、施策9については「30代まで」の方に消極的傾向がみられ、意見のちらばりも大きい。特に施策8については、最優先施策の投票数も低く、「40代以上」の投票数とも大きく異なっている。

### テーマ3『エネルギーから考えるゼロカーボン』

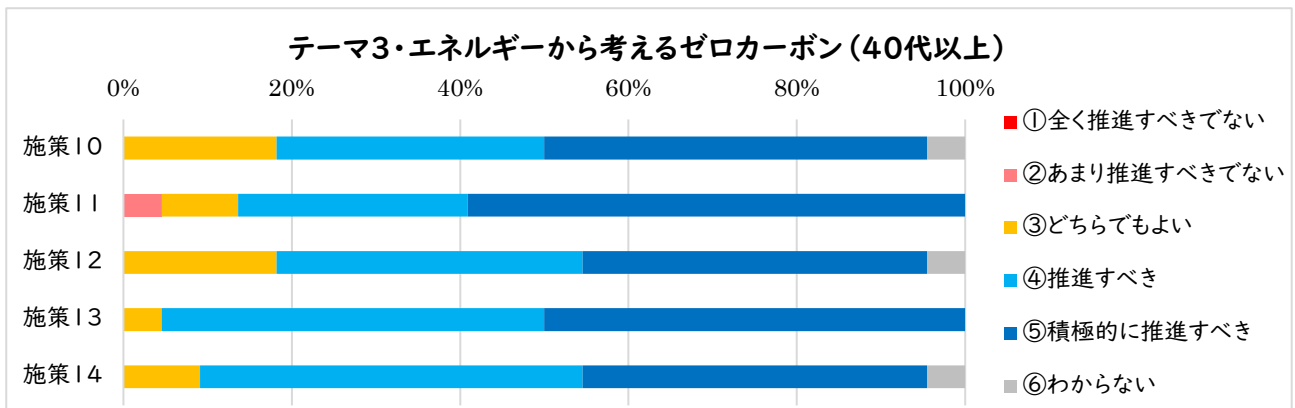
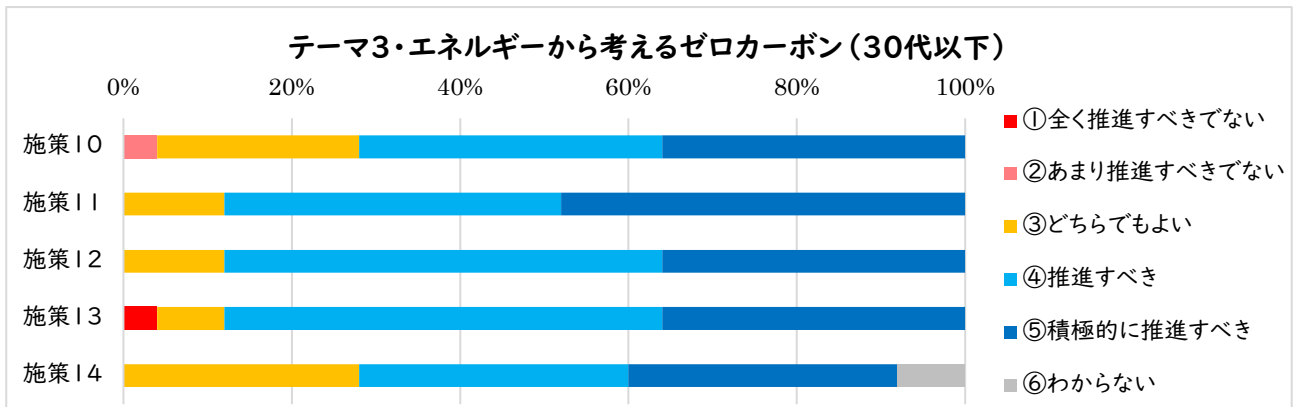
施策10 家庭向け太陽光発電を促進する

施策11 地域における再エネ設備の設置を促進する

施策12 再生可能エネルギー比率の高い電力（再エネ電力）への切り替え促進

施策13 エネルギーに関する市民活動を促進する

施策14 (株)ところざわ未来電力の利用拡大に努める



施策 10 家庭向け太陽光発電を促進する

施策 11 地域における再エネ設備の設置を促進する

施策 12 再生可能エネルギー比率の高い電力（再エネ電力）への切り替え促進

施策 13 エネルギーに関する市民活動を促進する

施策 14 (株)ところざわ未来電力の利用拡大に努める

### テーマ3『エネルギーから考えるゼロカーボン』の施策のうち、最優先すべきと考える施策の投票結果

施策	10	11	12	13	14
得票数 [30代以下]	5票 (20.0%)	9票 (36.0%)	2票 (8.0%)	6票 (24.0%)	3票 (12.0%)
得票数 [40代以上]	3票 (13.6%)	10票 (45.5%)	0票 (0.0%)	5票 (22.7%)	4票 (18.2%)

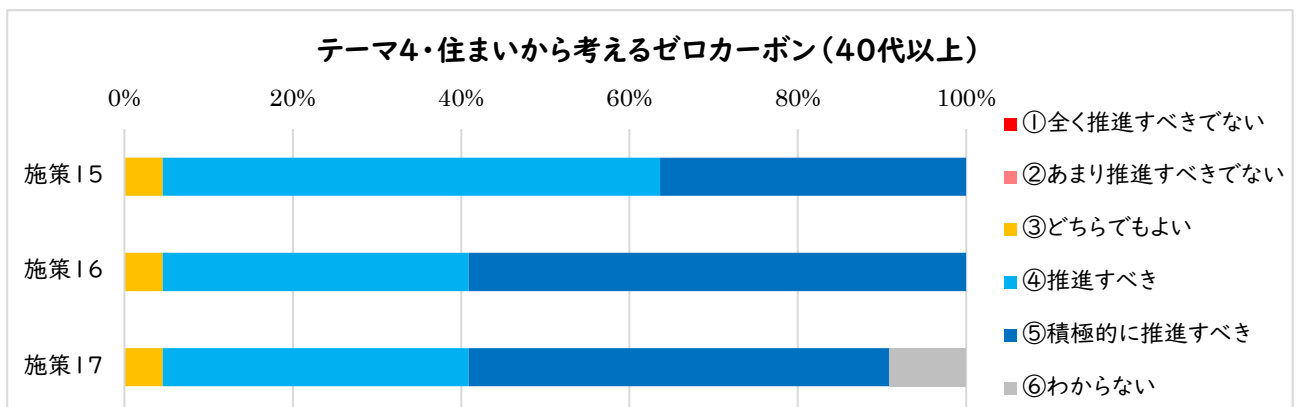
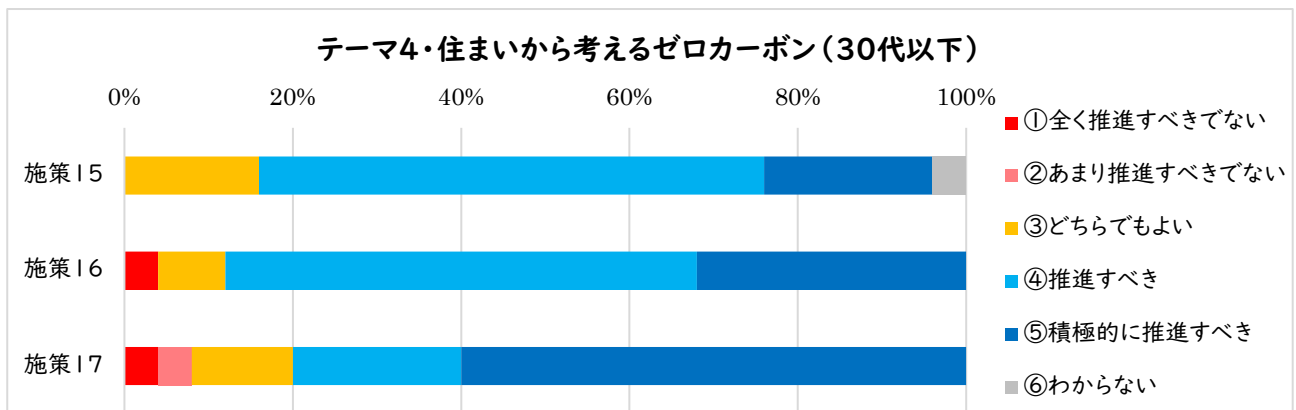
施策 10、施策 13、施策 14 については「30代まで」よりも「40代以上」の方が積極的な評価を行う傾向が強い。最優先施策の投票数については、年代ごとの大きな違いは見られないが、施策 12 については、「40代以上」の投票数が 0 票という結果となった。

## テーマ4『住まいから考えるゼロカーボン』

施策15 機器・設備などの省エネ化を促進する

施策16 住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する

施策17 まちに緑を増やす



施策 15 機器・設備などの省エネ化を促進する

施策 16 住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する

施策 17 まちに緑を増やす

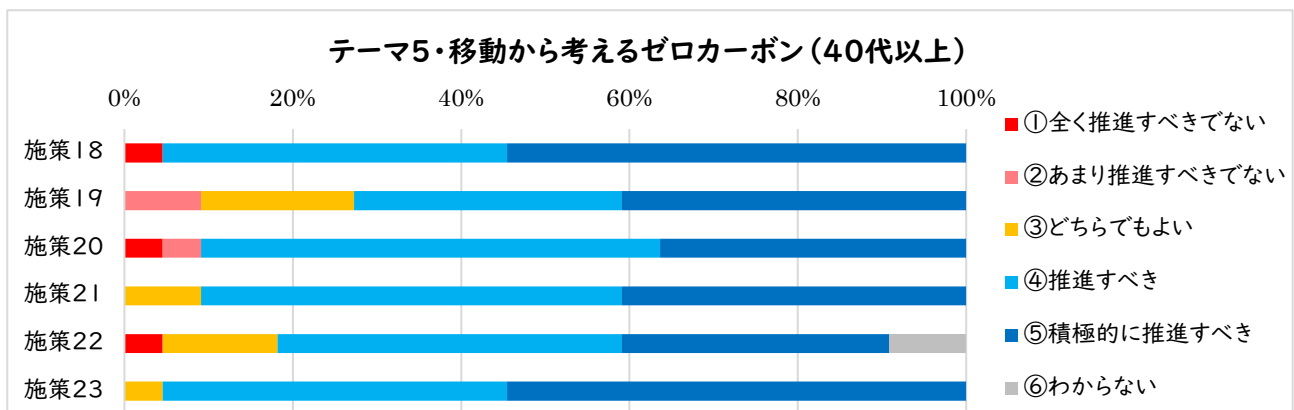
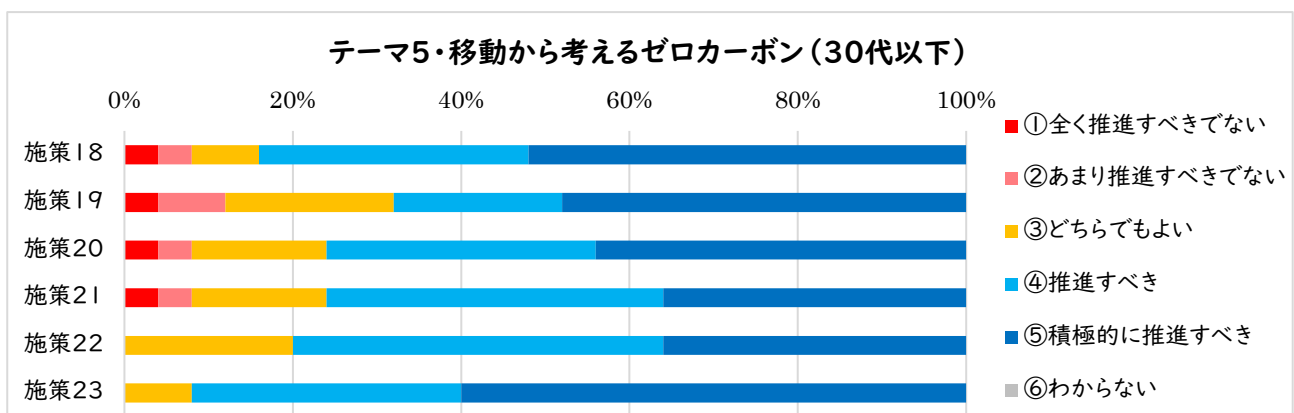
**テーマ4『住まいから考えるゼロカーボン』の施策のうち、最優先すべきと考える施策の投票結果**

施策	15	16	17
得票数 [30代以下]	4票 (16.0%)	8票 (32.0%)	13票 (52.0%)
得票数 [40代以上]	8票 (36.4%)	5票 (22.7%)	9票 (40.9%)

すべての施策において「40代以上」の方が積極的な評価を行う傾向が強い。対して「30代まで」は、施策17については優先施策の投票数が一番多くなっているものの、意見のちらばりも最も大きい。

## テーマ5『移動から考えるゼロカーボン』

- 施策18 自転車・徒歩での移動を促進する
- 施策19 バスの利用を促進する
- 施策20 自家用車を使わなくてもよいまちづくり
- 施策21 エコ車両の利用とエコドライブの促進
- 施策22 輸送の削減と効率化を図る
- 施策23 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める



- 施策 18 自転車・徒歩での移動を促進する
- 施策 19 バスの利用を促進する
- 施策 20 自家用車を使わなくてもよいまちづくり
- 施策 21 エコ車両の利用とエコドライブの促進
- 施策 22 輸送の削減と効率化を図る
- 施策 23 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める

**テーマ5『移動から考えるゼロカーボン』の施策のうち、最優先すべきと考える施策**

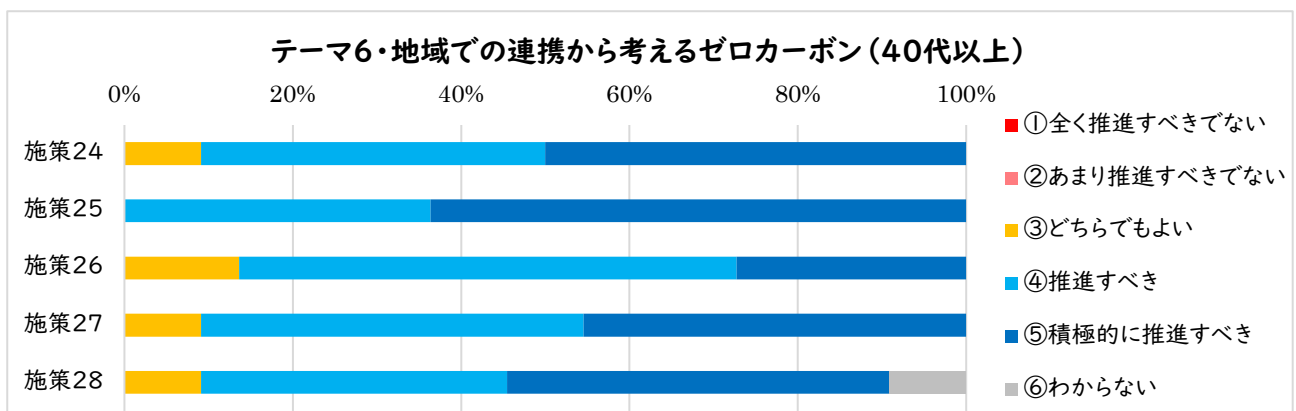
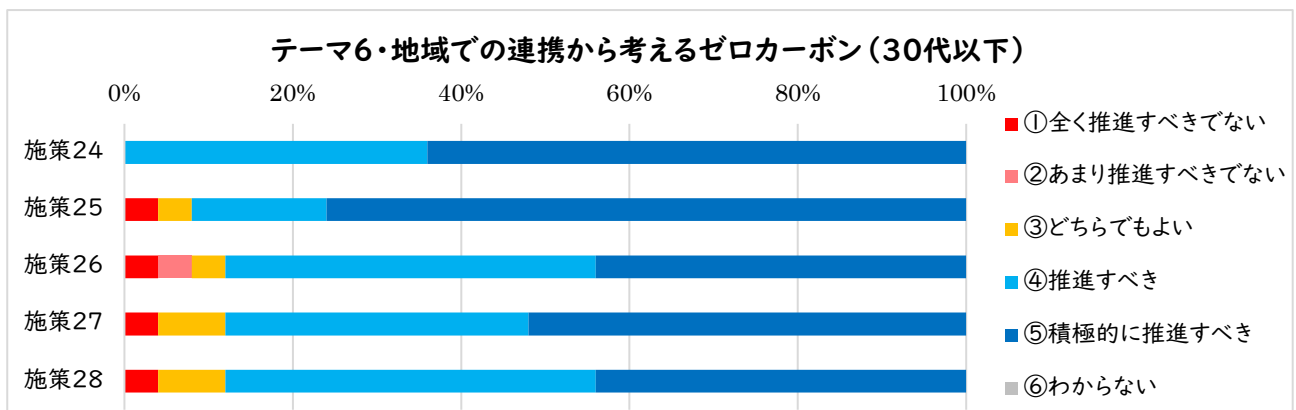
施策	18	19	20	21	22	23
得票数 [30代以下]	3票 (12.0%)	4票 (16.0%)	4票 (16.0%)	3票 (12.0%)	0票 (0.0%)	11票 (44.0%)
得票数 [40代以上]	5票 (22.7%)	2票 (9.1%)	4票 (18.2%)	3票 (13.6%)	2票 (9.1%)	6票 (27.3%)

施策 20、施策 21 については「30代まで」が「40代以上」と比較して若干消極的な評価を行っている。優先施策の投票数は年代別の回答傾向に大きな差はみられなかったが、施策 22 については「30代まで」の投票数が 0 票という結果となった。



## テーマ6『地域での連携から考えるゼロカーボン』

- 施策24 地域の連携をまちづくりに生かす
- 施策25 教育を通じた連携を促進する
- 施策26 地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する
- 施策27 コミュニティでの取組を促進する
- 施策28 まちごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る



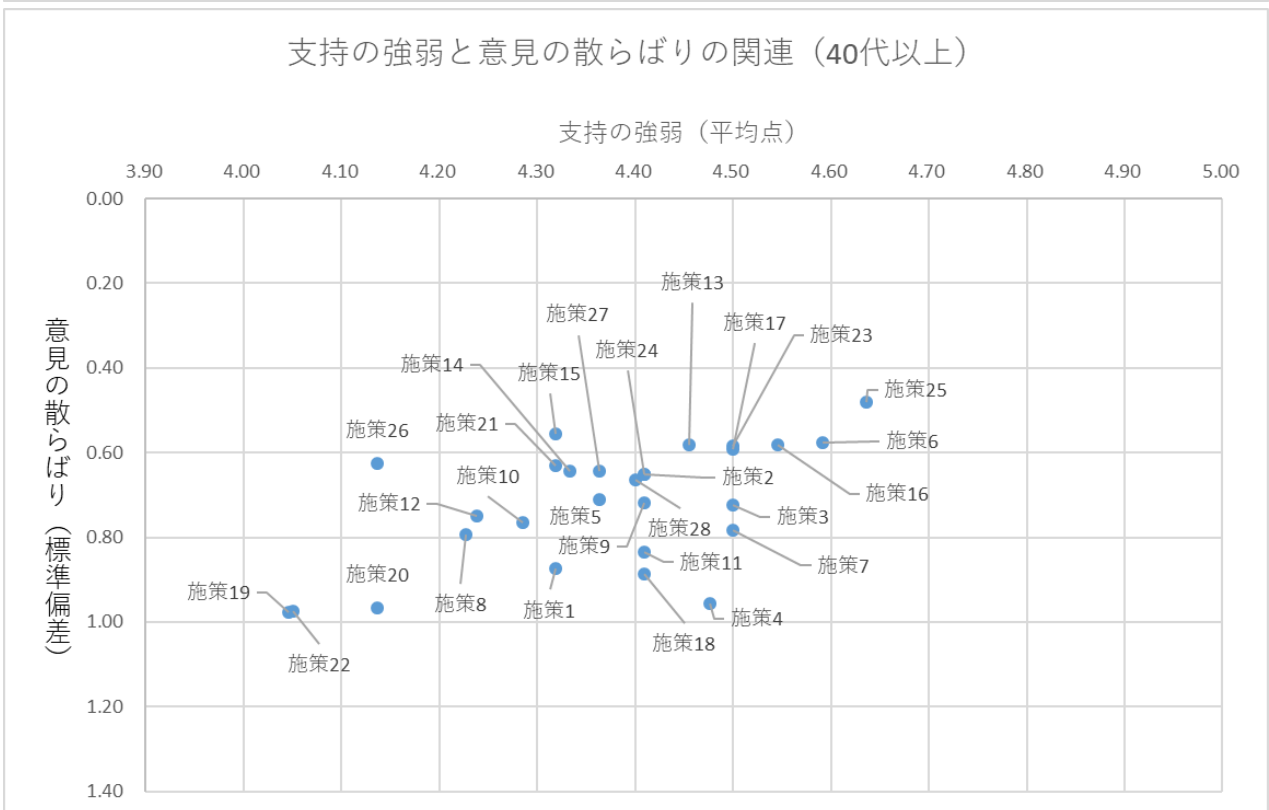
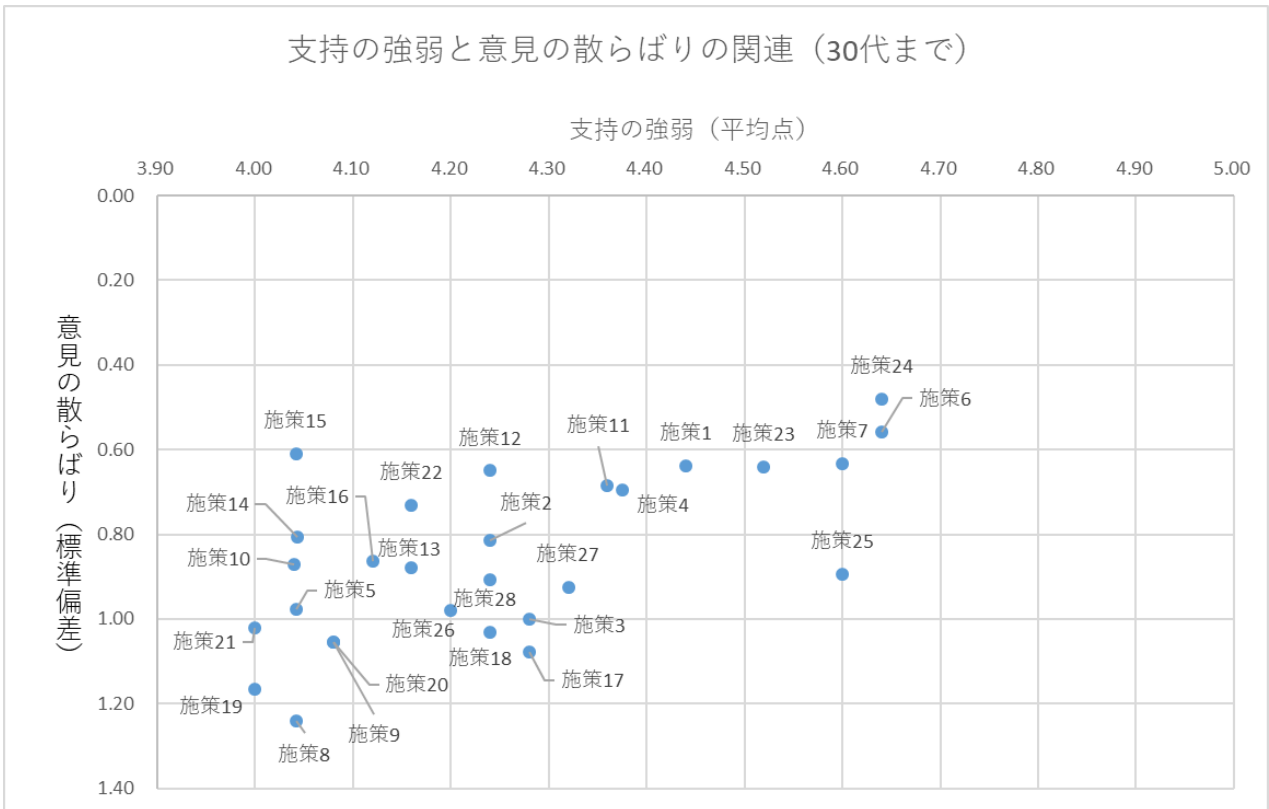
- 施策 24 地域の連携をまちづくりに生かす
- 施策 25 教育を通じた連携を促進する
- 施策 26 地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する
- 施策 27 コミュニティでの取組を促進する
- 施策 28 まちごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る

**テーマ6『地域での連携から考えるゼロカーボン』の施策のうち、最優先すべきと考える施策**

施策	24	25	26	27	28
得票数 [30代以下]	5票 (20.0%)	9票 (36.0%)	6票 (24.0%)	3票 (12.0%)	2票 (8.0%)
得票数 [40代以上]	3票 (13.6%)	9票 (40.9%)	1票 (4.5%)	0票 (0.0%)	9票 (40.9%)

施策 24 は「30代まで」が施策 24 は「40代以上」がそれぞれ全員推進すべきと回答している。  
 施策 26、施策 28 については、最優先施策の投票数が年代別で大きく異なっている。

[年代別の集計結果（散布図）]



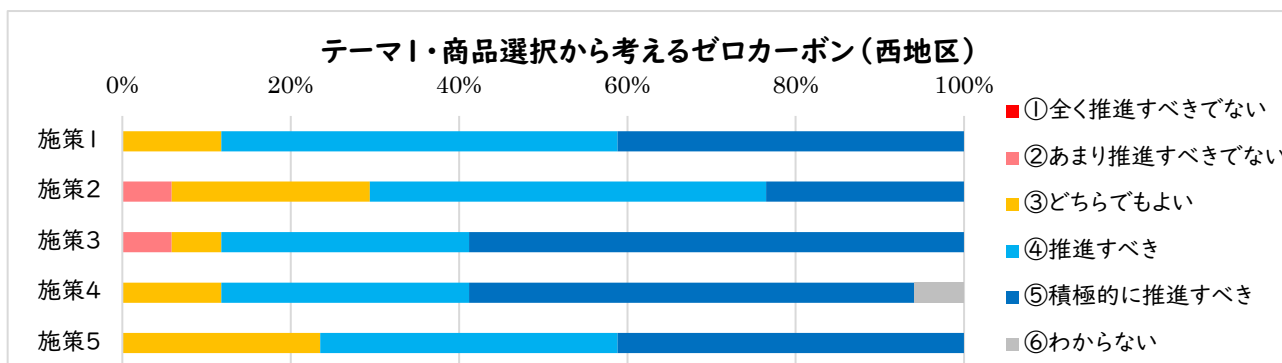
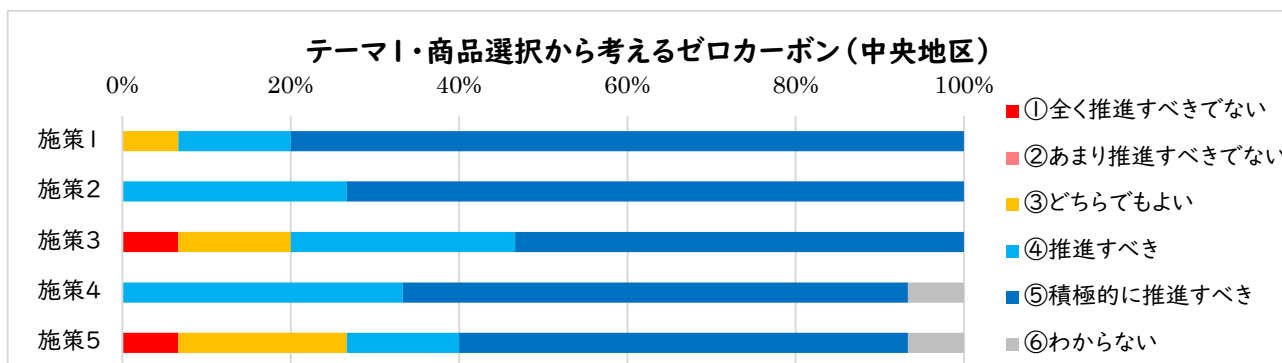
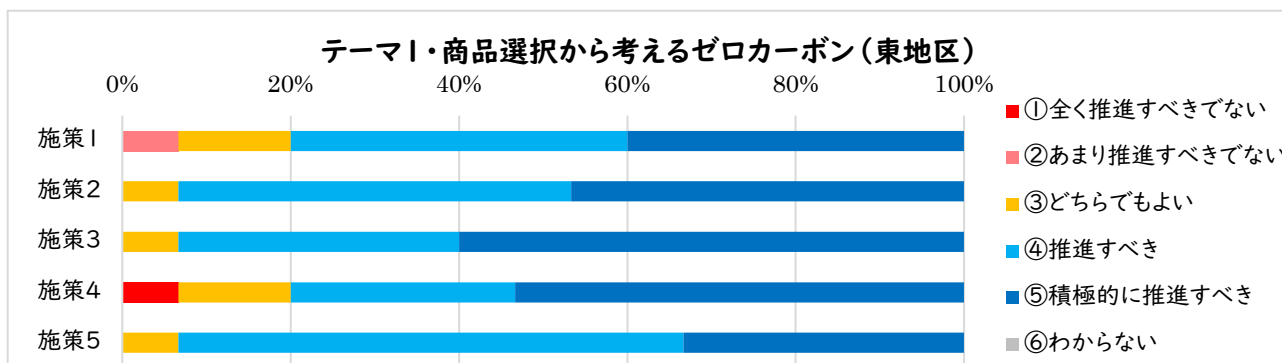
「40代以上」については、意見の散らばりがあまりなく、全体的に積極的に評価している。対して「30代以下」は、意見の散らばりが非常に大きく、特に移動分野にその傾向が強い。

## 資料5. 投票結果（地区別）

回答頂いた47名を、「東地区（15名）」、「中央地区（15名）」、「西地区（17名）」の3グループに分け、それぞれ集計した投票結果は以下のとおり。

### テーマⅠ『商品選択から考えるゼロカーボン』

- 施策1 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する
- 施策2 リユースやリサイクルを促進する
- 施策3 カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する
- 施策4 ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する
- 施策5 所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する



東地区では施策4が、中央地区では施策3、施策5に意見の散らばりがみられるが、西地区には意見の散らばりはみられない。また、中央地区では施策2、施策4に対して全員が推進すべきと回答した。

施策1 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する

施策2 リユースやリサイクルを促進する

施策3 カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する

施策4 ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する

施策5 所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する

**テーマ1『商品選択から考えるゼロカーボン』の施策のうち、最優先すべきと考える施策の投票結果**

施策	1	2	3	4	5
得票数 〔東地区〕	7票 (46.7%)	1票 (6.7%)	3票 (20.0%)	3票 (20.0%)	1票 (6.7%)
得票数 〔中央地区〕	6票 (40.0%)	2票 (13.3%)	2票 (13.3%)	3票 (20.0%)	2票 (13.3%)
得票数 〔西地区〕	4票 (23.5%)	1票 (5.9%)	5票 (29.4%)	5票 (29.4%)	2票 (11.8%)

最優先施策の投票としては各地区ともに施策1の投票数が多く、西地区については票が割れる結果となった。

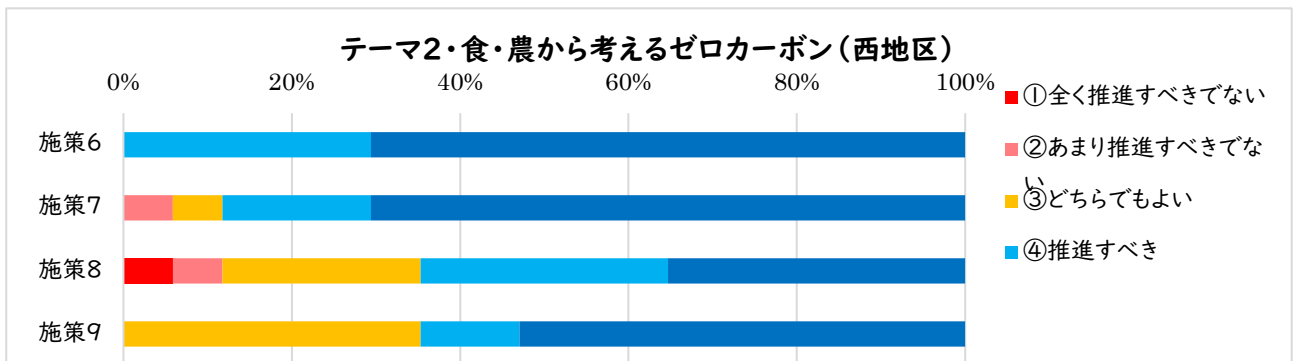
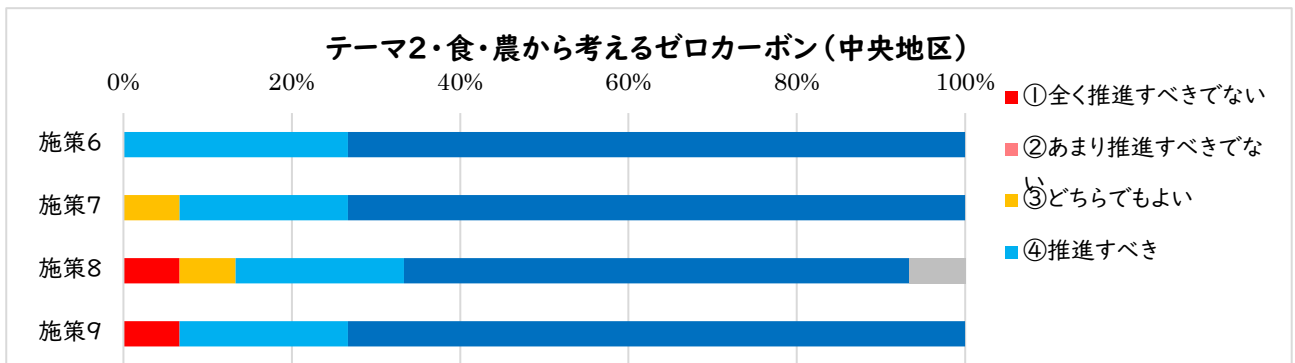
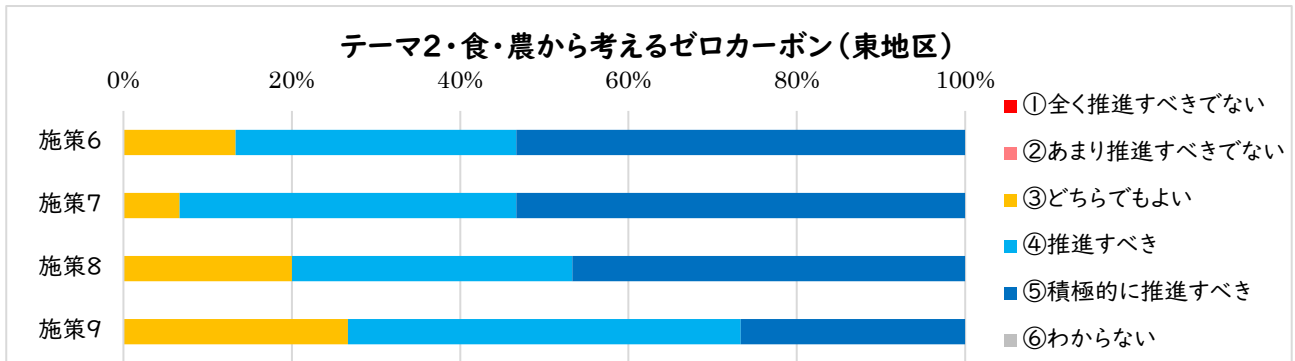
## テーマ2『食・農から考えるゼロカーボン』

施策6 農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する

施策7 食品ロスを減らす

施策8 ごみの堆肥化と活用

施策9 食と農への理解を深める取組を推進する



中央地区、西地区では施策8に意見の散らばりがみられるが、東地区には意見の散らばりはみられない。また中央地区、西地区は共に全員が施策6を推進すべきと回答した。

施策 6 農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する

施策 7 食品ロスを減らす

施策 8 ごみの堆肥化と活用

施策 9 食と農への理解を深める取組を推進する

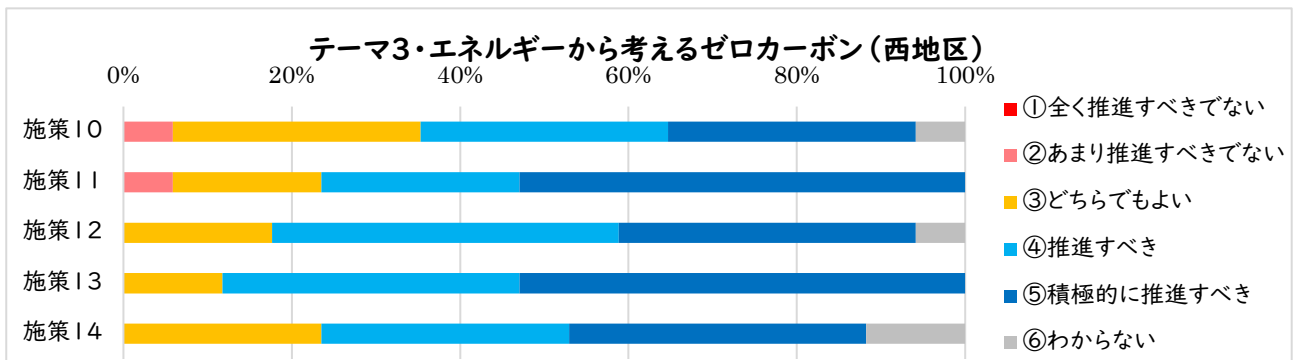
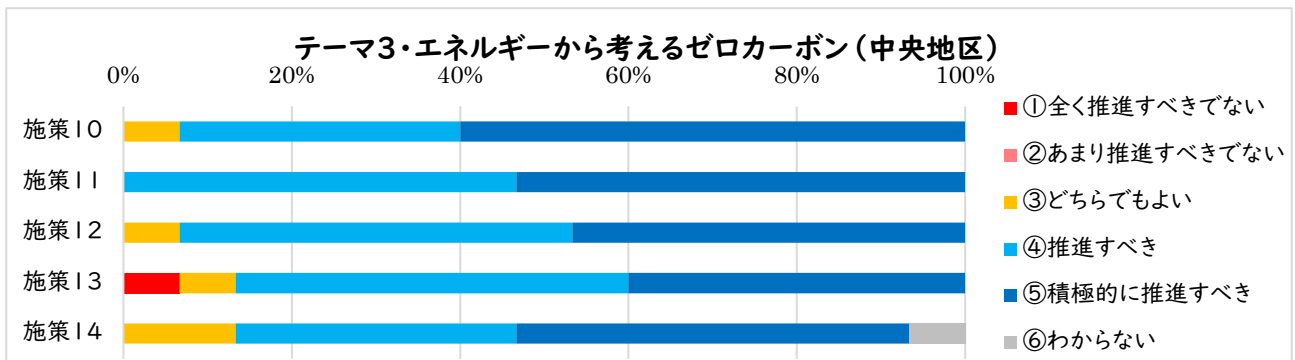
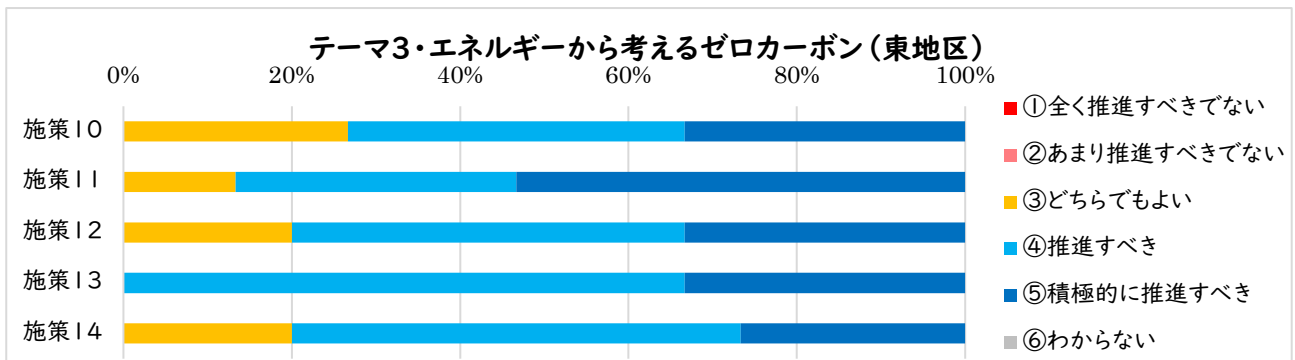
**テーマ2『食・農から考えるゼロカーボン』の施策のうち、最優先すべきと考える施策の投票結果**

施策	6	7	8	9
得票数 〔東地区〕	2票 (13.3%)	8票 (53.3%)	3票 (20.0%)	2票 (13.3%)
得票数 〔中央地区〕	5票 (33.3%)	6票 (40.0%)	1票 (6.7%)	3票 (20.0%)
得票数 〔西地区〕	6票 (35.3%)	6票 (35.3%)	3票 (17.6%)	2票 (11.8%)

最優先施策の投票としては各地区ともに施策7の投票数が高く、施策6については唯一意見のちらばりがみられなかった東地区のみ投票数が少ない。

### テーマ3『エネルギーから考えるゼロカーボン』

- 施策10 家庭向け太陽光発電を促進する
- 施策11 地域における再エネ設備の設置を促進する
- 施策12 再生可能エネルギー比率の高い電力（再エネ電力）への切り替え促進
- 施策13 エネルギーに関する市民活動を促進する
- 施策14 (株)とところざわ未来電力の利用拡大に努める



各地区ともに大きな意見のちらばりはみられない。また東地区は施策13を、中央地区は施策11を全員が推進すべきと回答した。



施策 10 家庭向け太陽光発電を促進する

施策 11 地域における再エネ設備の設置を促進する

施策 12 再生可能エネルギー比率の高い電力（再エネ電力）への切り替え促進

施策 13 エネルギーに関する市民活動を促進する

施策 14 (株)とところざわ未来電力の利用拡大に努める

### テーマ3『エネルギーから考えるゼロカーボン』の施策のうち、最優先すべきと考える施策の投票結果

施策	10	11	12	13	14
得票数 〔東地区〕	2票 (13.3%)	8票 (53.3%)	1票 (6.7%)	3票 (20.0%)	1票 (6.7%)
得票数 〔中央地区〕	4票 (26.7%)	5票 (33.3%)	0票 (0.0%)	2票 (13.3%)	4票 (26.7%)
得票数 〔西地区〕	2票 (11.8%)	6票 (35.3%)	1票 (5.9%)	6票 (35.3%)	2票 (11.8%)

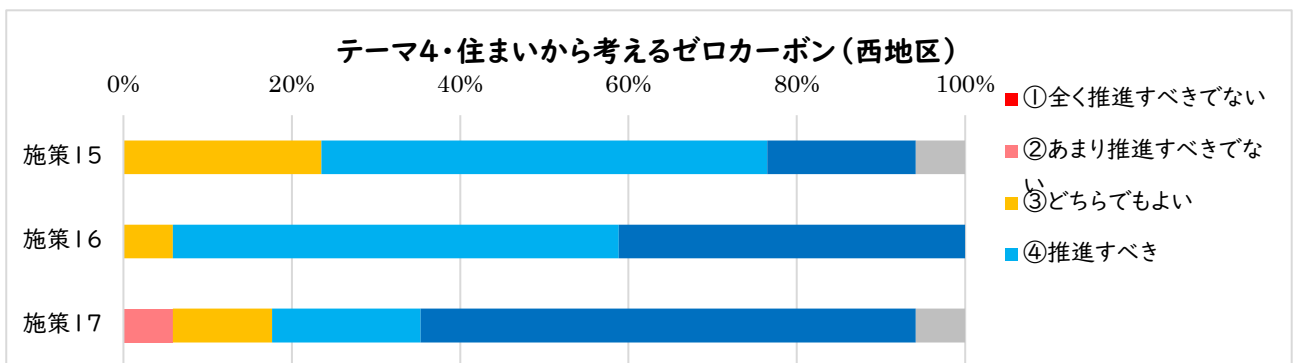
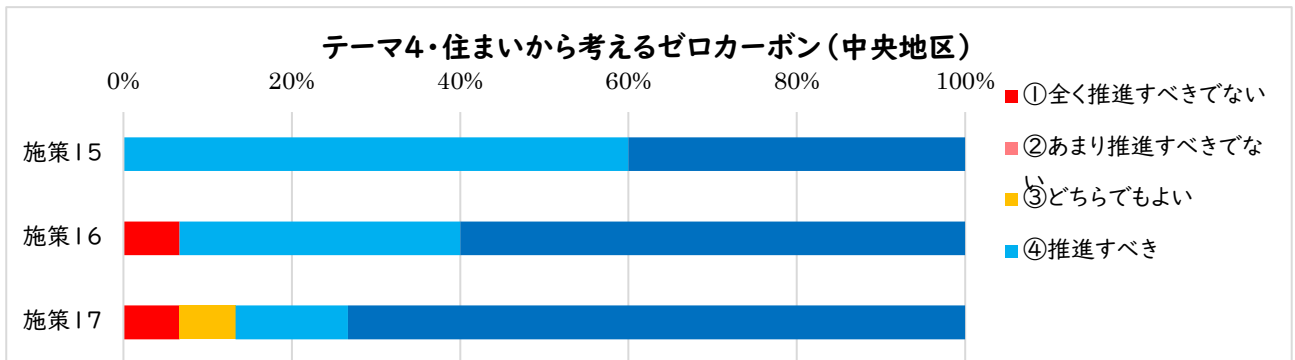
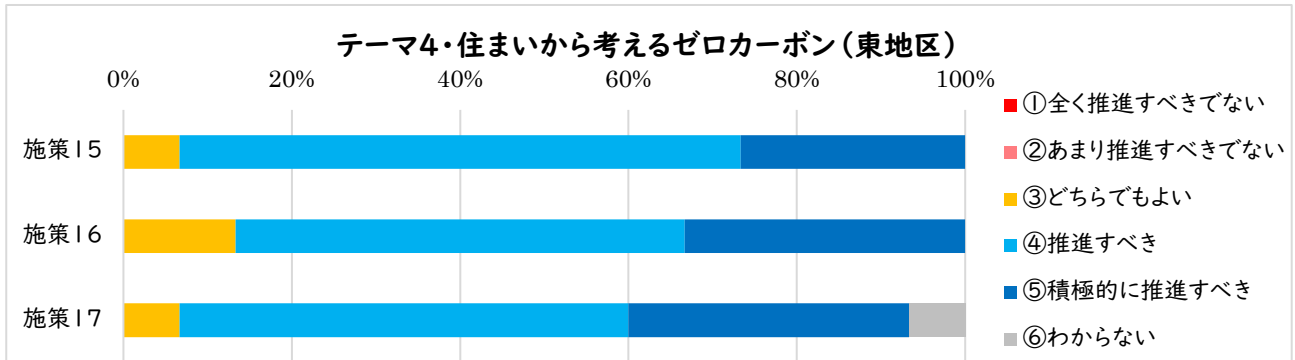
最優先施策の投票としては各地区ともに施策 11 の投票数が高く、東地区については施策 13 を全員が推進すべきと回答したにもかかわらず、投票率は 20% だった。

## テーマ4『住まいから考えるゼロカーボン』

施策15 機器・設備などの省エネ化を促進する

施策16 住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する

施策17 まちに緑を増やす



各地区ともに大きな意見のちらばりはみられない。また東地区は施策15を全員が推進すべきと回答した。

施策 15 機器・設備などの省エネ化を促進する

施策 16 住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する

施策 17 まちに緑を増やす

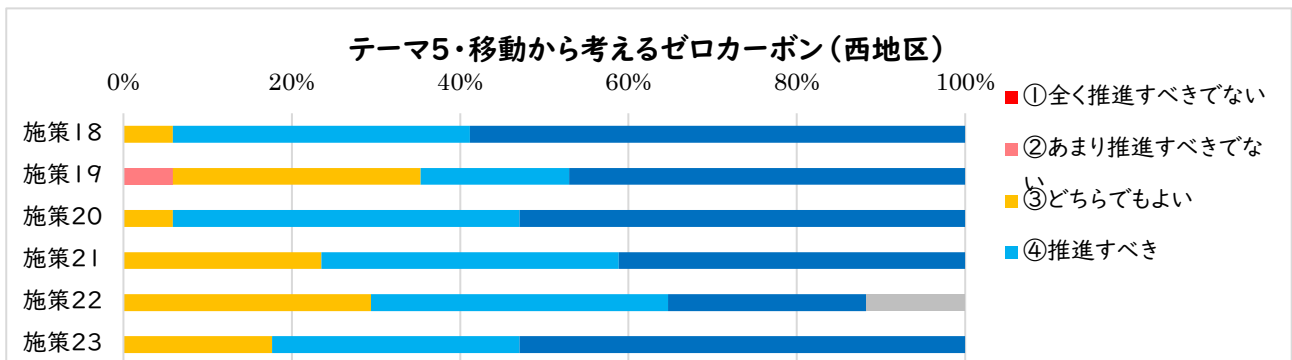
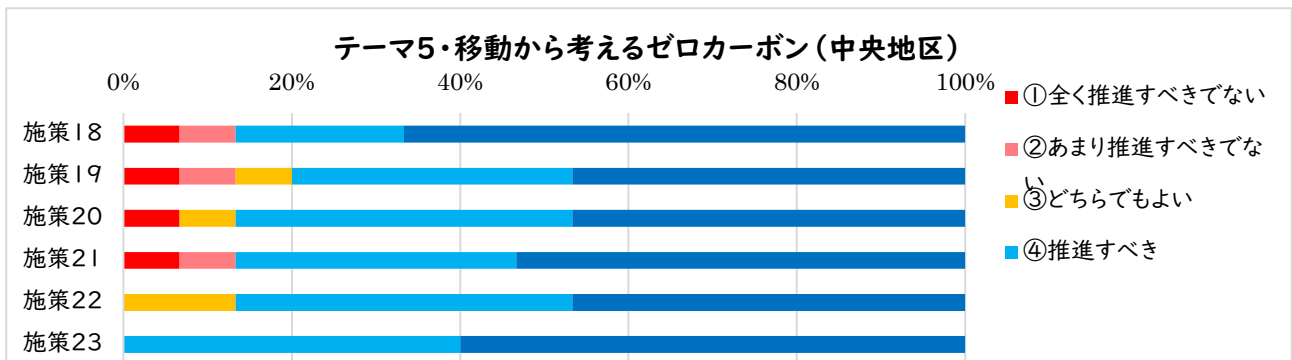
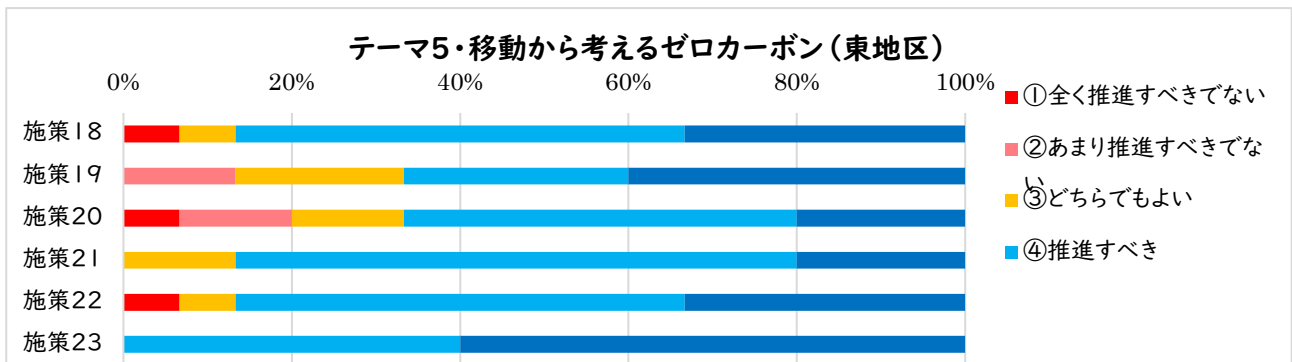
**テーマ4『住まいから考えるゼロカーボン』の施策のうち、最優先すべきと考える施策の投票結果**

施策	15	16	17
得票数 〔東地区〕	3票 (20.0%)	6票 (40.0%)	6票 (40.0%)
得票数 〔中央地区〕	4票 (26.7%)	5票 (33.3%)	6票 (40.0%)
得票数 〔西地区〕	5票 (29.4%)	2票 (11.8%)	10票 (58.8%)

最優先施策の投票としては各地区ともに施策 17 の投票数が高く、西地区については他 2 地区と異なり施策 16 の投票率が 20%未満だった。また東地区、中央地区は各施策の投票数の差が小さいが、西地区のみ投票数の差が大きい。

## テーマ5『移動から考えるゼロカーボン』

- 施策18 自転車・徒歩での移動を促進する
- 施策19 バスの利用を促進する
- 施策20 自家用車を使わなくてもよいまちづくり
- 施策21 エコ車両の利用とエコドライブの促進
- 施策22 輸送の削減と効率化を図る
- 施策23 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める



東地区は施策18、施策19、施策20、施策22に、中央地区は施策18、施策19、施策20、施策21に、西地区は施策19に意見のちらばりがみられ、他テーマに比べ各施策に対する意見の散らばりが最も大きい。また中央地区は施策23を全員が推進すべきと回答した。

- 施策 18 自転車・徒歩での移動を促進する
- 施策 19 バスの利用を促進する
- 施策 20 自家用車を使わなくてもよいまちづくり
- 施策 21 エコ車両の利用とエコドライブの促進
- 施策 22 輸送の削減と効率化を図る
- 施策 23 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める

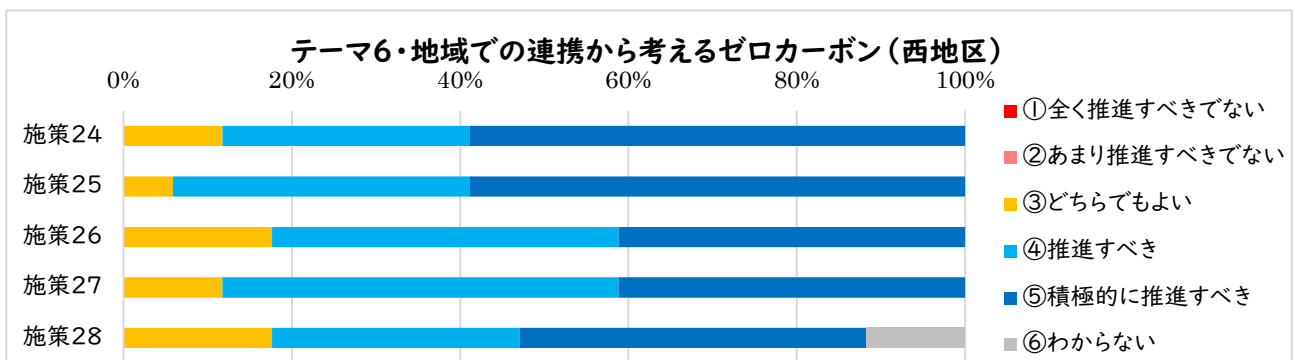
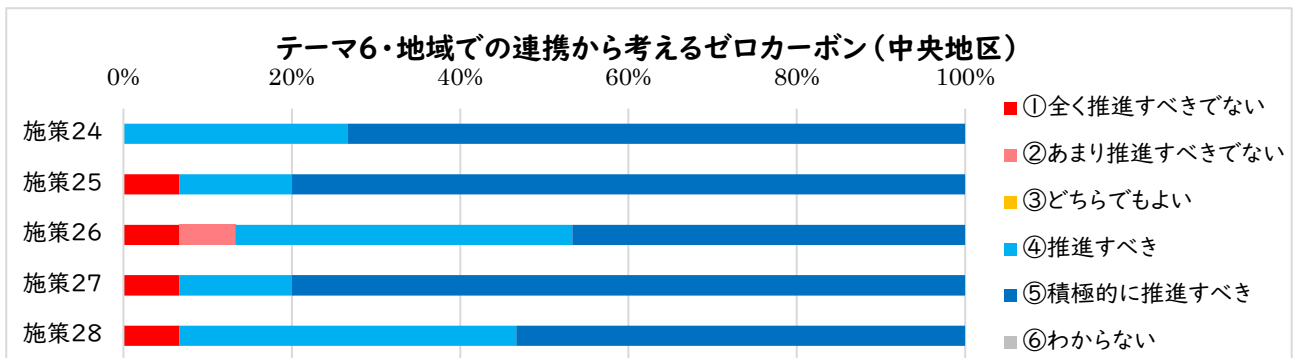
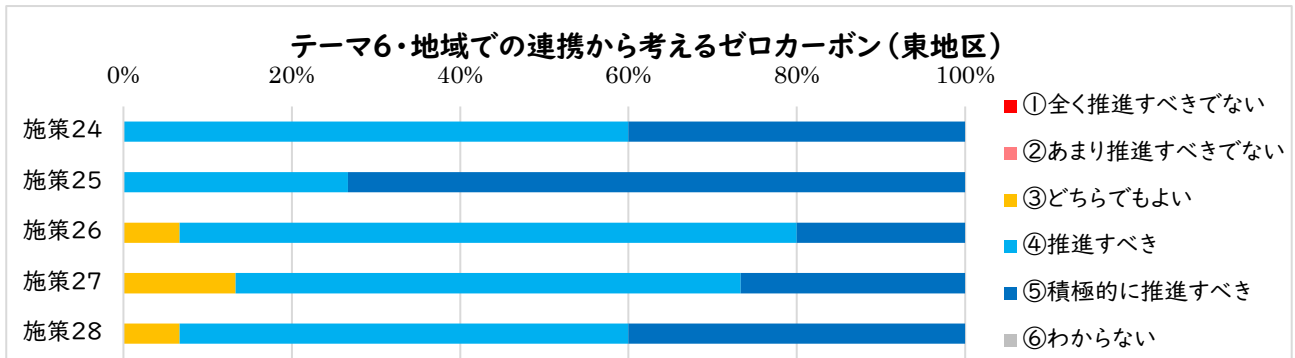
**テーマ5『移動から考えるゼロカーボン』の施策のうち、最優先すべきと考える施策の投票結果**

施策	18	19	20	21	22	23
得票数 [東地区]	1票 (6.7%)	3票 (20.0%)	2票 (13.3%)	0票 (0.0%)	2票 (13.3%)	7票 (46.7%)
得票数 [中央地区]	4票 (26.7%)	1票 (6.7%)	3票 (20.0%)	2票 (13.3%)	0票 (0.0%)	5票 (33.3%)
得票数 [西地区]	3票 (17.6%)	2票 (11.8%)	3票 (17.6%)	4票 (23.5%)	0票 (0.0%)	5票 (29.4%)

最優先施策の投票としては各地区ともに施策 23 の投票数が高く、東地区は施策 21 が、中央地区と西地区は施策 22 の投票結果が 0 票だった。

## テーマ6『地域での連携から考えるゼロカーボン』

- 施策 24 地域の連携をまちづくりに生かす
- 施策 25 教育を通じた連携を促進する
- 施策 26 地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する
- 施策 27 コミュニティでの取組を促進する
- 施策 28 まちごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る



中央地区のみ意見のちらばりがみられ、消極的な意見も中央地区に唯一みられる。また、施策 24 を東地区と中央地区全員が、施策 25 は東地区全員が推進すべきと回答した。

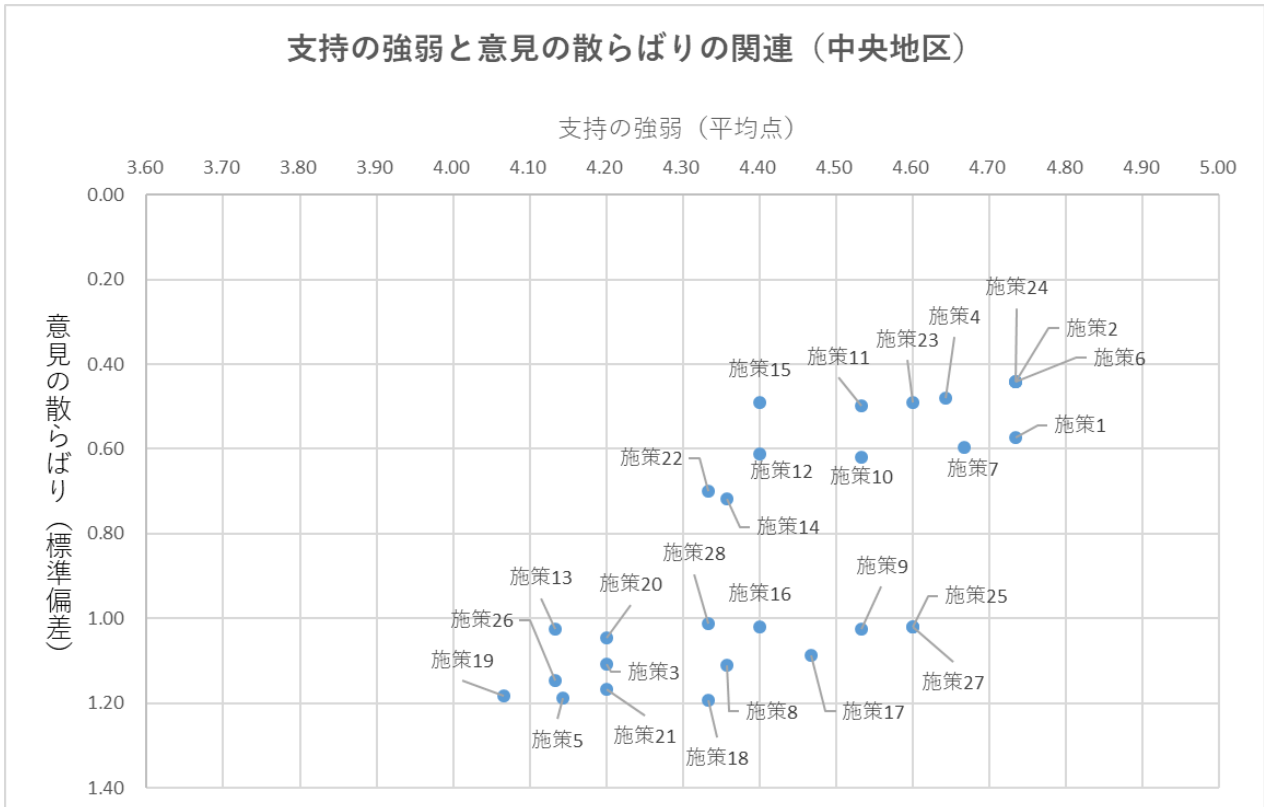
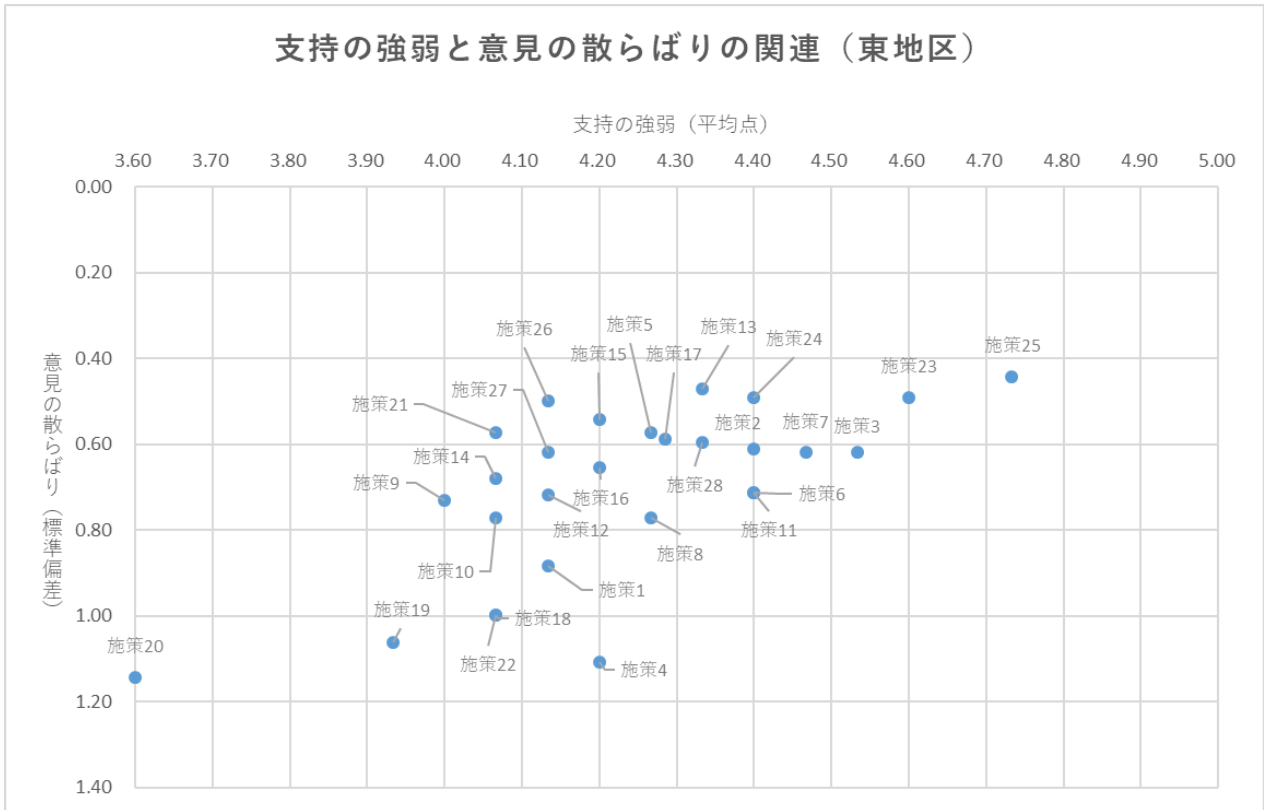
- 施策 24 地域の連携をまちづくりに生かす
- 施策 25 教育を通じた連携を促進する
- 施策 26 地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する
- 施策 27 コミュニティでの取組を促進する
- 施策 28 マチごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る

**テーマ6『地域での連携から考えるゼロカーボン』の施策のうち、最優先すべきと考える施策の投票結果**

施策	24	25	26	27	28
得票数 〔東地区〕	1 票 (6.7%)	6 票 (40.0%)	3 票 (20.0%)	0 票 (0.0%)	5 票 (33.3%)
得票数 〔中央地区〕	4 票 (26.7%)	5 票 (33.3%)	1 票 (6.7%)	3 票 (20.0%)	2 票 (13.3%)
得票数 〔西地区〕	3 票 (17.6%)	7 票 (41.2%)	3 票 (17.6%)	0 票 (0.0%)	4 票 (23.5%)

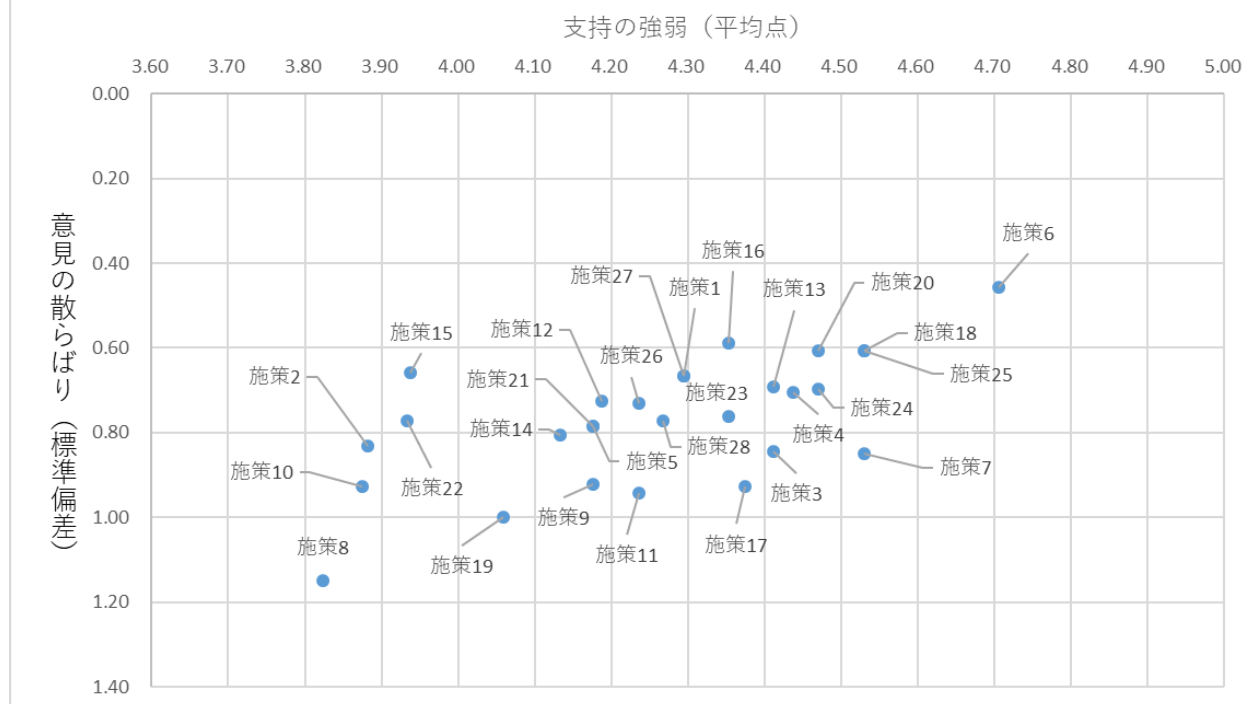
最優先施策の投票としては各地区ともに施策 25 の投票数が高く、中央地区のみ施策 27 へ投票している。

[地区別の集計結果（散布図）]





## 支持の強弱と意見の散らばりの関連（西地区）



散布図については、下記のとおり地区毎に違いがみられた。

東地区は、平均点のほとんどが 4.00 から 4.50 の間に収まっており、平均点の差が小さいものの、施策 20「自家用車を使わなくてもよいまちづくり」だけ極端に点数が低い。そして標準偏差が 1.00 以上の施策は 4 施策と各施策の意見の散らばりは大きくない。

中央地区は、全ての施策が平均点 4.00 以上と全体的に点数が高い。但し、施策による意見の散らばりの有無が顕著にみられる。突出して傾向の異なる施策はない。

西地区は、施策毎の平均点が幅広く散らばっており、突出して傾向の異なる施策はない。そして標準偏差値が 1.00 以上の施策は施策 8「ごみの堆肥化と活用」だけであり、最も意見のちらばりが少ない

## 資料6. 投票項目の詳細と自由記述一覧

### テーマ1『商品選択から考えるゼロカーボン』

#### 施策1. 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する

商品を購入する際、プラスチックなどの容器や包装がない、もしくは少ない商品を選択する。また、マイボトルの利用などの日常生活の工夫に加え、商品を購入する際にはレジ袋を使わない。事業者等は地域共通のリユース容器を繰り返し使えるような仕組みを作る。

選択	自由意見
②あまり推進すべきでない	C02削減効果は小さく、イノベーションにつながる要素も少ないように思える。一方、企業は自社のイメージダウンを避けるために取り組まざるを得ない。企業・消費者双方にとってデメリットの方が大きい施策にみえる。
③どちらでもよい	マイバッグ、マイボトルの作成時にかかる環境負荷は考慮されているのか。裏ではこれらが大量廃棄されている実態はないのか。
③どちらでもよい	所沢市のみで推進できる事柄では無く、流通される範囲全ての地域に関わる事だから。
④推進すべき	レジ袋については、自宅で小さいサイズのゴミ箱にセットするなど、活用している人も多いと思います。必ずしもゴミになっていると言えないレジ袋よりも、使い捨ての包装などにフォーカスした方が良いのではないのでしょうか。 またマイボトルやマイ箸のユーザーは、持参による割引等もメリットとして数えている可能性が高いため、そういった市のイベントを開催することで普及するのではないかと思います。
④推進すべき	マイボトルのも市役所に行って初めて知ったので、量り売りなどをする場合無印とかナチュラルローソンみたいな行ったらある場所が明確だといいです。
④推進すべき	自分でできることを行い、抵抗感のある裸売りなどは市民の意識改革が必要。
④推進すべき	自分の欲しい商品が、必ずしもそういった簡易包装やリユース対応になっているとは限らない。生産者側の理解と協力も、必要
④推進すべき	事業者の協力が重要。過剰包装をやめる。衛生面を保てる程度の包装に留めて欲しい。意識して買い物していてもプラスチックゴミが多く出てしまう。
④推進すべき	みなさん今も実施されていると思うので継続する
④推進すべき	関係するキーワードすべてに対して同じ意見ではありません。量り売り・裸売りなどは、現在の生活を考えると非現実的にも思えます。
⑤積極的に推進すべき	実際前から行っているが、結局は継続になり、変化がないと思う
⑤積極的に推進すべき	レジ袋は便利なので、マイバッグなどの代替手段を充実させたい
⑤積極的に推進すべき	共通リユースボトルを個人経営の商店でも参入しやすくしたり、返却をしやすくしたりしていると普及しやすくなるのではないのでしょうか。

⑤積極的に推進すべき	ラベル削減効果としては、ラベルに使用するプラスチックの削減に加えてラベル製造に掛るコスト低減にも繋がるメリットがあると考える。
⑤積極的に推進すべき	ごみをなるべく減らしていく試みは大切であると考える
⑤積極的に推進すべき	小分け包装は食品の長期保存と必要な分だけ都度購入、食べられる事から、食品ロスの削減といった観点では優れているのかも知れませんが、包装ゴミが大量に発生するデメリットがあり、全てとは言わないが、衛生面での懸念が少なく比較的長期保管が可能な食品などは量り売りや詰め替えによる販売を検討すべきと考えます。
⑤積極的に推進すべき	食品購入が一番身近であり、影響が大きいと思います。
⑤積極的に推進すべき	大量消費時代のため、小売が効率的に出来る仕組みが必要。近場のスーパー等で出来ると便利と思います。
⑤積極的に推進すべき	衛生上夏場は避ける
⑤積極的に推進すべき	必要な分を買う事でフードロスの削減、ごみを減らすことで焼却による二酸化炭素排出削減と埋め立てによる自然環境への影響減少
⑤積極的に推進すべき	(ペットボトルが市場に現れたとき、いずれは「問題になる」と思われていたのに現在に至っています) 量り売り、詰め替えの選択肢はもともと消費者にはあったのに、市場から消費の選択を無くしただけだから大丈夫！！

## 施策2. リユースやリサイクルを促進する

商品をそのまま繰り返し使用している「リユース品」や、リサイクル原料を使用している「再生品」を意識し、このような商品を積極的に選択する。不要になったものはすぐに捨てず、リユースやリサイクルが可能かどうか確認し、可能であれば積極的にリユースやリサイクルに回す。また、前提として商品を購入する際には、まずそれが本当に必要なものか、また長く使うことができるものかを十分検討することを心掛ける。事業者や行政は、リユースやリサイクルの仕組みや回収場所などの情報を発信し、簡単にリユースやリサイクルに取り組めるような環境づくりに取り組む。

選択	自由意見
③どちらでもよい	コロナ禍でなければ推していききたいけど、どうしても誰が使ったかわからないので怖い。もったいない市とかも分類や保管場所が大変そうなので、できれば…くらいならできそうではある。
④推進すべき	市が主催するフリーマーケット等が増えると良いのかなと思いました。
④推進すべき	サーマルリサイクルという名目で燃やされないようにする必要があると思う。
④推進すべき	物を長く使うことには賛成。一方で手間やトラブルのリスクを考えると中古品売買には手をなかなか出せない。
④推進すべき	布製品と電化製品は分けて考えるべき。中古電化製品は時に火災の原因となる。
④推進すべき	リサイクルショップ、フリーマーケット、市の取り組みなど、ツールは多くなってきていると感じるが、商品の耐久性、保証期間の課題がある。
④推進すべき	基準を設けてまずはリサイクル、リユースできそうなカテゴリのものを試験的に引き取りと販売ができる場（店舗？）をつくる。やってくれそうなNPOを探す。
④推進すべき	中古家電等は、その原材料を次に使う事に重きをおくのか、中古家電ゆえに二酸化炭素排出量が多く、効率が悪くなってしまふこととも考えられるので、その見極めが大切。
④推進すべき	電化製品は安全面を考えると個人間でのやり取りではなく専門業者が回収しメンテナンス後特定の場所で販売する方が安全を担保してもらえる安心感が出る
④推進すべき	スーパーなどでも、トレーやペットボトルのリサイクルはかなり定着していると思います。ポイントが付くことでより積極的に取り組みしていると考えます。
④推進すべき	実施している方もいられる。ただ、フリマなどクリーニング済みのものと出店の際にいわれることあり。その時の経費も考慮するとどうか。
⑤積極的に推進すべき	ヨーロッパみたいに、消費者に対して何かしらの還元があると、もっとたくさんの方が行ってくれると思う
⑤積極的に推進すべき	使用済みの容器を洗ってから捨てることはリサイクルにも衛生にもよい

⑤積極的に推進すべき	<p>所沢市の中央エリア(所沢駅～新所沢駅～小手指駅あたり)にはリサイクルショップが複数店舗あり、航空公園でも定期的にフリーマーケットが開催されています。いずれも徒歩か自転車で行ける距離なので頻繁に利用しています。</p> <p>リユース・リサイクル品の購入は「他の商品と比べて品質が許せるか」「新品と比べて価格が適正か」の2点が判断基準だと思います。そのため1つの商品や1つの店だけでは消費者とのマッチングが難しいというのが現状ではないでしょうか。徒歩圏内で複数の店舗や商品が比較できる、複数の店舗をまわってそれぞれの店で商品話し合い足すことができる、という環境が市内全域に整えば、より多くの方がリユース・リサイクル品の購入率を上げられると思います。</p>
⑤積極的に推進すべき	メルカリなどのフリマアプリ等で自由に売り買いできる時代になっているので、進めるべき
⑤積極的に推進すべき	<p>販売側も容易にリユース、リサイクルが可能で、中古品であっても安心して利用出来る様にメンテナンスサービスなどの仕組みを検討してほしい。</p> <p>また行政もそのような仕組みを行う企業に対する優遇措置を行うなど検討が必要。</p>
⑤積極的に推進すべき	情報発信面でも課題があると思います
⑤積極的に推進すべき	再生したほうがコストがかかる時がある
⑤積極的に推進すべき	中古の服や家具の活用、必要な人に譲る→この商品世界においては、メディア(雑誌)が「新しい」ものとして流行させすぎたツケが回っていますね。服もカバン(バッグ)も机も自転車も・・・もともとは直して使っていくものなのです。
⑤積極的に推進すべき	まずは悪質な事業者を排除する仕組みが欲しい。質が高く健全な事業者が馬鹿をみないことが重要だと考える。
⑤積極的に推進すべき	月に1回、市の古着・古布回収の日があるが、その日に出したものがリサイクルされていることをもっと広報した方が良いと思う。コロナの後、現在、地域によっては、廃品回収のときに古着・古布回収をしていない地域もある。すると、月に1回の古着・古布回収に出さずに燃やせるごみに出している家庭が結構あるように思います。

### 施策3. カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する

行政と事業者等が連携して、商品のカーボンフットプリントやリサイクル原料の割合などの「見える化」を進め、キャラクターなどを使って認知度の向上を目指し、商品のパッケージや売りにわかりやすく表示する。消費者は輸送距離の短いもの、保存や販売にかかるエネルギーが少ないもの、カーボンフットプリントが小さい商品やサービスを選択・購入するよう努める。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	どう頑張っても魚の地産地消はできない
④推進すべき	まず、「カーボンフットプリント」という言葉の認知度を高める必要があると思います
④推進すべき	「見える化」は必要ですが認知から購入まで直結しにくいと思います
④推進すべき	身の周りにあるものに表示されることで認知してもらえようになると考えます。知らなかったことを知ってもらう為の機会になると 생각합니다。
④推進すべき	カーボンフットプリントの説明や何故かをただし書きにする
④推進すべき	地域住民全体にカーボンフットプリントに意味が伝わっているかどうか疑問である。表示したところで意味が伝わらないと表示した意味がない。わかりやすい言葉に変えられないか？ 子育て世代や働いている家庭で、冷凍食品は避けられないと思う。避けるというよりは上手に使う方法を提示することはできないか？
⑤積極的に推進すべき	生産者と消費者が繋がりやすくするために市内インターネット掲示板的なものや農産物直売所の在庫品目登録・確認システムがあると地元農産物を買うやすい。
⑤積極的に推進すべき	市内の畑の面積や農家の数を考えると「地産の商品が少ない」ということはなく、市民全体にその存在が伝わっていないのではないかと思います。 富岡地区には「彩の祭宴」ができましたが、ああいった施設を富岡地区ではない場所に建てることで、市全体でカーボンフットプリントを小さくしていくことができるのではないのでしょうか。 また、市が結婚祝いに配っている野菜引換券のようなものを他のお祝いにも配ったり(長寿など?)、市が管理する野菜の無人販売所を市内に複数設置するなど、地産地消の経路を市が手助けするだけでも大きな効果があると思います。 過去のダイオキシンのこともあり市が野菜の売り出しに躊躇しているのかもしれませんが、もうそろそろ大丈夫ではないのでしょうか。
⑤積極的に推進すべき	消費者には選択肢のひとつとして情報開示すべき。既に海外でも進んでいる例がある。
⑤積極的に推進すべき	最近テレビでも昼夜問わず流れてるので、定着させちゃうなら今だと思う。
⑤積極的に推進すべき	視覚情報に勝る情報はない。カロリー表記と似たように表示していくとよい。
⑤積極的に推進すべき	CO2の見える化は多くの人々が理解しやすいと思います。
⑤積極的に推進すべき	カーボンフットプリントと言われて、どれだけの人が共感してくれるかが課題。わかりやすく表現するのと、小売企業の協力が必要。

⑤積極的に推進すべき	商品選択のときに、カロリーや原材料をチェックするように、カーボンフットプリントが当たり前になるような社会になるといい
⑤積極的に推進すべき	「カーボンフットプリント」という概念すら無い人も多いので、これをどんどん分りやすく広げないとね。
⑤積極的に推進すべき	小売事業者のバリューチェーン全体に及ぶ大きな取り組みながら、案外と「棚割り」や「POP 広告」といった現場での小さな工夫が消費者にとって分かりやすく、売上面にも好影響を与えると思う。

#### 施策4. ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する

日常生活でカーボンフットプリントが小さい商品の購買を促進するため、そうした商品にポイント付与するシステムを導入する。行政は事業者がカーボンフットプリントの小さい商品を優先できるよう助成し、CO2の削減と事業者による利益追求の両立を促進する。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	日常生活の購買行動におけるポイント付与については、既存のポイントサービスを活用の方がよい。また、ポイント付与の原資は増加する売上高が与えられる仕組みでないと継続性が担保できないため、ポイント及びシステム構築の費用負担は悪手にみえる。まずは、大企業がカーボンフットプリントと消費者へのポイント付与を紐づける仕組みを構築し、ロールモデルとなつて欲しい。
③どちらでもよい	ポイント及びシステム構築については、パン屋のようなスタンプカード方式か、DAISOのようなシールを集める方式にすれば、デジタルと比べて費用を抑えられるのではないのでしょうか。 ところんの万歩計のようなシステムもかわいらしく楽しいですが、より多くの方が小さく気軽に始められる取り組みとして、多くの人に馴染んだ方法を取ってほしいです。
③どちらでもよい	ポイント制にするとしたら、自分がよく利用するポイントに変換できないと魅力がない。
④推進すべき	最初は助成する必要があるかもしれないが、助成に依存しないよう期限をつけるべき。
④推進すべき	万人に受けるとは思えないし、自分も興味はないが、一定数こういったものに反応する層がいることを理解する。
④推進すべき	今結構お店でもゼロ・カーボン目指してるみたいな商品はちよくちよくあるので、その商品自体にプラスポイントとして店のポイントとして付与できるように店に補償すれば可能かなとも思う。
④推進すべき	ポイントは管理が煩雑になる可能性があり有効性に欠けるかも。
④推進すべき	意識付けになりますが、費用面の課題解決が難しそうに思います。
④推進すべき	海外からの輸入品を買う事で日本国内の温室効果ガスは減らせると思うが世界的に見たら本末転倒である。
④推進すべき	そのポイントを何に使うのか、はっきり明記する必要がある
⑤積極的に推進すべき	もう少しコストを下げる
⑤積極的に推進すべき	カーボンフットプリントの基準を定め、基準より低い商品の販売に成功している小売店に減税や補助金の措置を行う。市民ひとりひとりの協力も大切ですが、集団としての商品選択に影響を与えるには制度の変化が不可欠だと思います。
⑤積極的に推進すべき	利用促進に当たっては制度を如何に簡略化させるかも必要と考える。
⑤積極的に推進すべき	近場スーパーが、ポイント付与すると便利。また、参加する小売企業のメリットがあれば、より多くの企業が参加されるのでは。



⑤積極的に推進すべき	ゼロカーボン推進の行動を起こすことになるのでポイント付与で知らず知らずのうちに購買している動きがゼロカーボン推進への行動に繋がると考えます。
⑤積極的に推進すべき	カーボンフットプリントがいずれ必要なくなる時代がくるまで負担体力のある企業は商品化するでしょう。そのためには「必要性」をリードする行政のアピールがなければね
⑤積極的に推進すべき	行政が費用負担を判断すればすぐにでも可能。地域（通貨）ポイントにもなればより広がりが望めると考える
⑥わからない	有効ではあるが、財源の問題は難しいと思う
⑥わからない	社会全体で、カーボンフットプリントについての認知度が低い

## 施策5. 所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する

カーボンフットプリントの小さな商品を多く取り扱っている店、CO<sub>2</sub>削減に努めている会社などに、「所沢ゼロカーボン認証（仮）」を付与し、ゼロカーボンへの取組を促進するとともに、店舗に認証マークなどを掲示し、市民にもゼロカーボンに資する買い物ができるお店等をアピールする。同時に、市民は認証店を積極的に活用する。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	現状、「認証があるから行こう」とは思えない
③どちらでもよい	買い物時に認証店かどうかわざわざ気にすることは少ないと思う。
④推進すべき	所沢市を訪れた他の市の人にも認知してもらえるため魅力的な案だと思います。 すぐに数値的な結果が出るアイデアではなさそうですが、「エコな街」という印象が広まることで将来的に所沢市への引っ越しを考える人が増えるといいと思います。
④推進すべき	面白いし商店街とかあったら盛り上がりそう。
④推進すべき	認証制度は十分に組み立てる準備が整ってからでいいだろう。
④推進すべき	（買い物したくなるような）魅力のある店であることも必要。その辺のアピールも考える
④推進すべき	建設業者などは特に入札資格の加点項目とするのが良いかも。
④推進すべき	小売店舗や市民が認証ラベルにメリットを共感できるか鍵ではないかと思えます。
④推進すべき	認証マークだけではなくそのお店で購入したらポイントを付けるなど購買意欲を満たせる施策が必要
④推進すべき	本当に可能なら、是非やって欲しい。
④推進すべき	CO <sub>2</sub> 削減の意識が市民にも広がっていった時に効果を発揮する取り組みだと思いました。認証マーク掲示を見て興味を持ってもらう、知ってもらう導入になるとも思いました。
⑤積極的に推進すべき	所沢はゼロカーボンシティを目指す街なので、アピールポイントともなり良いと思う
⑤積極的に推進すべき	認証マークは、わかりやすいが、価格の点で購買につながるか難しい
⑤積極的に推進すべき	認知度が低い
⑤積極的に推進すべき	費用も軽微で進めることが可能
⑥わからない	こういったことに対応できるのはキャッシュが豊富な大規模事業者が多く、中小事業者が取り残されないかの懸念。

## テーマ1 『商品選択から考えるゼロカーボン』の施策の優先度

選択	自由意見
1. 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する	市民が1番身近にゼロカーボンを考えることができると思ったため。
1. 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する	洗剤やシャンプー、リンスなどは生活必需品だと思うので、量り売りにすると容器削減に繋がると思います。
1. 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する	取り組みやすいものからやることで市民の意識も変わる
1. 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する	全国的に見て1.が最も広まっていると考えたから。
1. 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する	効果が市民の目に見えるため、他への波及効果も高そう
1. 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する	自宅に出るプラスチックゴミの多さを日々実感しているため。(卵のパックなど勿体ないと思いながら処分している。)
1. 容器包装および使い捨てプラスチックの削減を促進する	ごみを減らすことで回収車の運転時間と焼却を減らせ結果的に温室効果ガス削減に繋がる
2. リユースやリサイクルを促進する	業者や企業に対して努力を促す施策は、淘汰される社会を容認してしまう。自然な流れでゼロカーボンを目指す事ができなければ、仕事を失う人達を大量に生み出す危険がある。
2. リユースやリサイクルを促進する	プラスチック製品を使わずに生活することは不可能だと思う。その中で少しでも環境への負担を減らせるリサイクル・リユースは有効ではないかと思った。
3. カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する	無いものを作って用意したり、あるものを無くしていくよりも、「あるものを活用する」(流れを変える)ことのほうが優先度が高いと考えたからです。 1...あるものを無くす 2...あるものを活用する 3...あるものを活用する 4...無いものを用意する 5...無いものを用意する
3. カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する	初期費用として始める前にエコ商品の原価に投資して、安めに提供させ馴染ませてから、普通の値段にしたら良いと思う。コンビニでも高くなっても結局買っているし、刷り込みは大事。

3. カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する	まずは今あるものをより活かしていくことを優先するべきだと思う。新しいものを作るのはその後で良いかと思う。
3. カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する	説明することで感心が高まる
3. カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する	選択肢を2つ並べた時に選択の結果が数値化されるのが良い。他は効果が不透明。
3. カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する	カーボンフットプリントの浸透からゼロカーボンの意識に繋げ他の項目へ波及を期待。
3. カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する	課題は多いが、より多くの商品が近場のスーパーで選択できるようになればいいかと思います。
3. カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する	他の施策より問題点が少ない。啓蒙活動効果が先行すると思うが、事業者と消費者にとって当たり前の行動になれば、大きな削減効果につながると思われる。
3. カーボンフットプリントを踏まえた商品選択を促進する	カーボンフットプリントの知名度をもっとあげるためにはこれが一番良いと思う。ただ高いと手に取ることは今の世の中ないので！もう少し値段調節が必要
4. ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する	生活とそのために利用する店舗が一体となる取り組みに意味を持たせる必要があるのではないのでしょうか。
4. ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する	CO2 の見える化を意識してもらうためには、動機づけにより関心をもってもらう必要があると思う。
4. ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する	単に輸送コストを抑えられるだけでなく、日本全体の交通渋滞の緩和などにも寄与できる点で、カーボンフットプリントの概念を踏まえた商品販売・購入は重要だと思います
4. ゼロカーボン促進のために経済的インセンティブ（動機付け）を強化する	CO2 削減の事を知る→意識する（理解する）→行動に移すのが理想と思いますが、行動する→知る→意識する。とにかく行動する。市民の一人でも多くの人が行動起こせることが大切だと考えたからです。（不便さを感じず、すごく努力を必要とせず行動できる）
5. 所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する	日常生活のなかで認証ラベルのお店を沢山目にするようになれば、老若男女問わずゼロカーボンに対する意識が変わると思うから。
5. 所沢ゼロカーボン認証（仮）を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する	認証ラベルはわかりやすく、誰にでも取り組める

5. 所沢ゼロカーボン認証(仮)を導入し積極的な店舗に認証ラベルを付与する	認証マークで市民の意識向上につながり、一定の支持が得られればポイント付与システムにも拡大できるのではないか
---------------------------------------	---

## テーマ2『食・農から考えるゼロカーボン』

### 施策6. 農産物の地産地消及び旬産旬消を促進する

地産地消及び旬産旬消により CO2 排出量を軽減できることを理解し、地元の旬な農産品を購入するよう努める。また、直売所を増やし、地元の野菜に触れる機会を増やすとともに、学校給食に地元野菜を取り入れ、周知啓発に努める。

選択	自由意見
④推進すべき	農産品を増やせる見込みがあれば良いと思います
④推進すべき	今度グランエミオでやるやつも楽しみにしていますし、グランエミオ三階の地産地消の食べ放題のどこめっちゃ美味しかったです。お弁当も。
④推進すべき	なかなか、農家と小売店舗との連携が恒久的に出来るか。また、農家の生産性が年間で安定した供給出来るか。
④推進すべき	物流や保管に関わる CO2 を削減できるし、給食の食材に使うことで子供と親との会話から学べる機会になる
④推進すべき	道の駅のようなものを目指せばいいのでは
⑤積極的に推進すべき	直売所はありがたいものの遠いため、増えると嬉しい
⑤積極的に推進すべき	マルシェなど、街の活性化にもつながる。ゼロカーボンの取り組みの中でも前向きでオシャレ。後ろ向きな施策が多い中、オシャレなことは非常に重要。
⑤積極的に推進すべき	所沢の子どもたちにも周知ができて良いと思う。
⑤積極的に推進すべき	どこで行われてるかわからない。人が集まる航空公園などでやれば良いと思う。
⑤積極的に推進すべき	駅に野菜スタンドを設置して会社帰りに買えるようにしてほしい。
⑤積極的に推進すべき	所沢市農産物直売所ガイドマップを駅等の人が集まる場所にもおいて知ってもらうことも大切でしょう。
⑤積極的に推進すべき	学校給食などの大口買取について、農家からの直接購入を市が補助することは、地産地消問題だけでなく農家の後継者問題にも良い影響を及ぼすのではないのでしょうか(農家になろうと考える若年層にとって、市が取引先になってくれる地域は魅力的だと思います)。また市内の各所に市営のマルシェなどがあると市民の生活が直接豊かになるのでうれしいです。特に駅から離れたエリアやバス通りが少ない地域など、車が無くても食材が手に入るようになると、老人や学生などが所沢に住みたくなると思います。
⑤積極的に推進すべき	地産地消は理にかなった方法。農地開発や農産物開発は新たな雇用や業種を生み出す。また、農地からの二酸化炭素吸収も見込まれる。
⑤積極的に推進すべき	学校給食に取り入れる事により、食育とゼロカーボンの両方が子供の時から取り組める
⑤積極的に推進すべき	学校給食、他公共施設などで積極的活用、スーパーで地元作物と仕入れ作物では値段に差があるので運送費がかからない分同じか安く販売してほしいふるさと納税の返礼品として使用することも考える

⑤積極的に推進すべき	「安定供給」という問題があるけど、大量に消費していける学校給食やレストラン、道の駅、ふるさと納税返礼品など、消費分野の（開拓で）消費流通の構造をつくりだせたらよいか
⑤積極的に推進すべき	スーパーで特設コーナーを取り組んでいる店舗が増えてきたように思う。消費者にそのことの意味が伝わるような形で販売するとより効果が上がるのではないか、と思う。
⑤積極的に推進すべき	直売所はスーパーの駐車場などで適宜実施するのがいいと思います。また、東北地方のコンビニには、コンビニの商品と並んで地元の野菜が販売されている店舗もあったので、そのような柔軟さを小売店に要請していくのも一つの手段かと思います。
⑤積極的に推進すべき	どこで、誰が、何を作っているのかが分かるとより買いやすい。
⑤積極的に推進すべき	旬で新鮮な農産品。誰が作ったのか顔も見れたら安心で、輸送で出るCO2も削減
⑤積極的に推進すべき	努力・工夫している農家が報われる仕組みづくりが肝要だが、消費者目線による選別が行われないと継続性が担保されないと考える。

## 施策7. 食品ロスを減らす

食品ロスに関する環境問題について理解し、食料品を購入する際には、すぐに食べるのであれば期限が迫ったものを選択する。また、過剰に購入してしまった食料品は地域で分配する。

選択	自由意見
③どちらでもよい	主旨は理解するが、推進できるイメージがわからない。やる人はやってる。やらない人はやらない類。
③どちらでもよい	これは販売元の利益にもかかわる問題なので、市が介入するのは難しいかもしれないと思いました。 市が一旦買い取って再販売するという形であれば現実的だと思います。(東ハトの商品の扱いなどを見る限り、メーカーの商品は難しいかもしれませんが……)。 東久留米には食品のアウトレットストアがありました。賞味期限の近い食品を販売しています。そういった店舗の所沢市内での出店を市が応援する、というのいいと思います。
④推進すべき	期限が迫ってる物を買って結果的に捨てることになったら意味がない。
④推進すべき	店舗の努力による。「てまえどり」に協力できるような上手な売り方の工夫も必要かな。
④推進すべき	飲食店での食品ロス削減策は効果が大きいと思う。
④推進すべき	規格外として商品に出して欲しい。食品ロスをゼロになる努力は必要
④推進すべき	コンビニやスーパーですでに実施している
⑤積極的に推進すべき	「てまえどり」は現状でも簡単に実践できると思う
⑤積極的に推進すべき	すぐ食べるものは「てまえどり」で十分
⑤積極的に推進すべき	すぐに、今からでも取組めると思います
⑤積極的に推進すべき	子ども食堂にも持って行ったら良いと思う
⑤積極的に推進すべき	消費者の意識が変わらないと事業者がどのような取り組みをしても限界があると思う。
⑤積極的に推進すべき	供給側としては、てまえどりした場合のメリットを需給側に提供することも検討が必要。
⑤積極的に推進すべき	家族がコンビニで働いているのですが、毎日凄い量の廃棄が出て持って帰ってきてるけど食べられずそのまま捨ててしまっていたのですが賞味期限が切れてしまっているのを再利用にも衛生的には厳しいからどうしようかなあと考えています。 規格外野菜は困っているとか、JA 納入分以外にももう少し稼ぎたい農家さんと企業とかお店とか地域のスーパーとかのお見合い企画とかすれば新しい活用法が生まれるかも
⑤積極的に推進すべき	各個人で出来るので、いい取り組みと思います。
⑤積極的に推進すべき	誰にでも取り組める
⑤積極的に推進すべき	コンビニでの手前どり施策を目の当たりにした。一時的なものか現在は目にしないので継続が重要



⑤積極的に推進すべき	レストランに行くと分るけどまあ日本人の食べ方が一番キタナイ。マレーシア、中国、フランス、インド、外国人の食べたお皿はキレイだ。
⑤積極的に推進すべき	食料品の分配は衛生的に安心して行える仕組みが必要だと考えます。
⑤積極的に推進すべき	消費期限の基準をもう少し緩く（長く）してほしいです。個人的に、コンビニのおにぎりや菓子パンにかなり助けられているのですが、期限を少し過ぎただけで破棄される商品が非常に勿体なく感じます。
⑤積極的に推進すべき	施策の進め方は、どこで発生している食品ロスに焦点をあてるかによる。塵も積もれば的なる施策で家庭に重点を置くより、まずは1件当たりの食品ロスが大きい事業者側に働きかける方が成果につながりやすいように思える。
⑤積極的に推進すべき	利用者ひとりひとりが自発的に行動に移すこと可能で、広報・啓発コストもそれほどかからない

## 施策8. ごみの堆肥化と活用

家庭から出る生ごみや落ち葉を使って堆肥を作り、市内での農産品づくりや公園の緑化などに活用する。また、落ち葉を使った堆肥の利用を進める。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	家庭から出た生ごみだと、どんなものが含まれているか精査できないため、危険だと思います。(例えば洗剤が染み込んでいたら……など)。その肥料を使って育てた野菜に、あるいはその肥料で緑化した空間に誰が責任を持つのかということを考えると、相当なコストを割いて本気で取り組まなければならない一大プロジェクトだと思います。そこまでの規模で行うよりも、もっと所沢市の長所を活かしたプランがあるはずです。
①全く推進すべきでない	生産者にあまり手間をかけさせたくはない
②あまり推進すべきでない	取り組むにはハードルが高い
③どちらでもよい	公園にあつたら入れるかもしれないけど、生ゴミを持ち歩くのは厳しい…！！
③どちらでもよい	施策を進めるに当たってのコスト、メリットの可視化が困難。
③どちらでもよい	家庭からの生ごみを収集するのは現実的ではない。食品業者から収集することから考えてみては。
④推進すべき	一般家庭では落ち葉を堆肥にするためのスペースはない。燃やせるごみに出してあるのをよく見る。ゴミ収集に落ち葉の日を設けて堆肥作り業者に依頼することはできないか？
④推進すべき	ルートづくり。堆肥を販売して生産者に還元する
④推進すべき	売電買電が出来るように、売買堆肥ができれば双方にメリットがある。
④推進すべき	コンポストを置く場所と臭いと持っていく手間、出来た堆肥の回収と活用をどうするか考える
④推進すべき	堆肥作りに参加する家庭を意識が相当高い層に絞ることが必要。テクノロジー活用により厳格なゴミの分別を必要としないなら、積極的に推進しても問題ない。
⑤積極的に推進すべき	堆肥活用の技術やアイデアを交換しやすい環境だと広がりやすいと思う。
⑤積極的に推進すべき	農家に協力してもらい落ち葉置き場を作る。
⑤積極的に推進すべき	畜・農⇔里山・公園⇔肥⇔畜・農 (3つの項目が三角形になるような図形を書かれていました・入力三河)
⑤積極的に推進すべき	生産者と体験者(ボランティア)との協力が必要
⑤積極的に推進すべき	落ち葉堆肥の配布や市販より安く販売とかあればいい。
⑤積極的に推進すべき	リン枯渇の問題もあり、堆肥を少しでも利用できる環境の整備はこの先必ず役に立つと思います。
⑥わからない	市民が関われる要素が少なそう。人知れず行われて、市民の関心も集まらず終わりそう。

## 施策 9. 食と農への理解を深める取組を促進する

農業体験イベントや収穫ボランティア体験などの機会を通して農業を学ぶことにより、地産地消や、食べ物を大切にすることを意識の醸成による食ロスの削減を促進する。また、有機農法の効果を理解する。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	有機農法の効果について疑いを持っている
③どちらでもよい	ゼロカーボンにどのようにつながるのか、理解するのが難しい
③どちらでもよい	意欲的でない市民にも情報発信しなければならないので、一般市民対象のイベントは効果が限定的だと思います。企業向けの説明会などを所沢市がオンラインで配信したりして、フィードバックを得られるようにするのが良いと思います。
④推進すべき	子供には必要だと思う。子供の頃、私の通っていた長野県の学校ではもち米を植え育て餅つき大会はとても楽しくいい年した今でも覚えているので、体験からの知識は未来につながると思う。
④推進すべき	川崎市がうまく進めている。広報などでいるも開催している。小旅行なども企画して市民をひきつけている。
④推進すべき	小学校や中学の授業で取り入れて欲しい。
④推進すべき	未成年の方には特に農業体験は貴重だと思います。旬野菜を知る。おいしさを知る。土地をさわる。残さず食べる。
⑤積極的に推進すべき	特にコロナ禍にあって、人と人との繋がりや社会の横糸というものが見えづらくなっている昨今、意義のある行いになると思います。 自分の食べているものがどうやって食卓へ辿り着くのか、自分の住む市にどれだけの野菜が育っているのか、ここ 3 何ほど人々の実感が薄れているのではないのでしょうか。
⑤積極的に推進すべき	これからの世代を生きる子どもたちにこそ農業体験が必要であると思う。自分たちが食べているものがどのようにして作られているかを体験として知ることの意味は大きいと思う、所沢市で学校教育の中に組み込むことも視野に入れて取り組んでほしい。ゼロカーボンを推進する取り組みには大事なことだと考える。
⑤積極的に推進すべき	市内の複数箇所で何回かイベントを開いて参加しやすくする必要があると思う。
⑤積極的に推進すべき	子どもたちの体験活動になり、有効であると感じる
⑤積極的に推進すべき	子どもへの食育にもつながる。イベント化によって前向きな取り組みでイメージが良い。街と自然が融合した所沢の良さが出そう。
⑤積極的に推進すべき	やはり意識醸成が急がば回れで一番の近道となる。ボランティア機会を増やす。
⑤積極的に推進すべき	「農業体験」というとすぐサツマイモを植えましよう風になるけれど、土をだがやしたり、剪定したり、もっともっと面白い世界があるのだ。
⑤積極的に推進すべき	相続で土地を売らざるを得ない人達に対して、農地として市に貸し出しをする事で減免措置などが取れたら画期的。

⑤積極的に推進すべき	学校の授業でもっと取り入れると良い。
⑤積極的に推進すべき	イベントの告知や、農地のレンタルなど、学生に手伝ってもらってインターネットで募集すれば良いと思う
⑤積極的に推進すべき	学校や市民参加型のイベント開催してみるのも楽しそうですね。狭山茶の産地ですが、製法など体験したことがないので。
⑤積極的に推進すべき	農家も消費者（家庭、子供、教育現場）も義務感で取り組むのでは成果は期待できない。当然ながら、まずは事業者である農家がこうした取り組みの必要性を理解し、主体性をもって積極的に取り組むことが重要となる。

## テーマ2 『食・農から考えるゼロカーボン』の施策の優先度

選択	自由意見
6. 農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する	市内にこれだけ農地が広がっているのに、ぜひ市に頑張ってほしいと思います。また「所沢の〇〇」という形で野菜をブランド化するなど、味や品質面での美点も発信し、地元の野菜を買いたくなる仕掛け作りもしてもらいたいです。
6. 農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する	地産地消に取り組むことが他のきっかけになるという可能性もあるため。
6. 農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する	所沢の子どもたちの理解が最も必要だと考えるから。
6. 農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する	オシャレ化、前向き化が重要。
6. 農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する	十分に食事ができない環境下にある方々を救済する事を優先してからでないと、食品ロスに取り組むことはできない。
6. 農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する	環境問題への取り組みであると同時に、市の名産品などでのアピールになると思う。
6. 農産品の地産地消及び旬産旬消を促進する	地元野菜が豊富に販売されることで、多くのCO2削減になると思ったからです。購入者も新鮮なものであれば規格外のものでも購入するし食品ロスにも繋がると考えたからです。
7. 食品ロスを減らす	誰でもできることであるため、ひとりひとりのぶん母数が増えると効果も期待できそう
7. 食品ロスを減らす	この中では取り組むハードルが1番低いと感じたため
7. 食品ロスを減らす	1番身近ですぐに取り組める問題だと思ったから。
7. 食品ロスを減らす	最も効果が上がりそう。具体的にどうやって進めるかの検討がさらに必要かと思います
7. 食品ロスを減らす	規格外野菜の利用が広がると消費者の意識が高まり、食ロス減少や堆肥化への流れにつながっていく
7. 食品ロスを減らす	懸念に感じられる課題がなく、多角的に見ても負担が少ない
7. 食品ロスを減らす	食品ロスを減らすことでごみを減らすことが出来る
7. 食品ロスを減らす	期待できるCO2削減効果が大きく、飴と鞭の両面からの施策が可能であるため。
7. 食品ロスを減らす	一番身近で出来ることだから
8. ごみの堆肥化と活用	この中で8番が1番実現に近いと思ったからです。
8. ごみの堆肥化と活用	どのようなシステムになるのか分かりませんが、ゴミのリサイクルが可能ならば実現して欲しいと思いました。
8. ごみの堆肥化と活用	Win Winの関係を構築すべき
8. ごみの堆肥化と活用	どれも、身近な話題でいい取り組みです。ゴミの再利用が出来ればいいと思います。

<p>9. 食と農への理解を深める 取組を促進する</p>	<p>9. の設問にも記述しましたが、何かに取り組むには理解が必要だと思います。ただ、言われたことをするだけでは長続きしない。理解していれば地道に努力できるし、日常的に苦も無く、普通の生活に活かせると思う。</p>
<p>9. 食と農への理解を深める 取組を促進する</p>	<p>現在、農業に携わっているため。酷暑であった今年も水を浴びながら畑で作業している人たちがいて、その作物が食卓にならんでいることを一人でも多くの人に伝えたり、体験したりしてもらえたらと思う。</p>
<p>9. 食と農への理解を深める 取組を促進する</p>	<p>市民の意識が変われば行動が変わる。広く周知できる活動を優先し行うべき。</p>

### テーマ3『エネルギーから考えるゼロカーボン』

#### 施策10. 家庭向け太陽光発電を促進する

自宅や集合住宅に積極的に太陽光発電設備を導入する。太陽光パネル等の創エネ機器や蓄電池の設置を拡大させるため、市は、経済的支援制度の充実や行政が推奨する業者の紹介、製品開発を促進させる。また、自治会やマンションでの設置の成功事例を発信する。

選考	自由意見
②あまり推進すべきでない	太陽光はまだ課題が多く1番優先するべきとは考えにくい
③どちらでもよい	住むエリアや世帯の経済状況によって、設置の判断は変わってくると思います。 なので市には「設置の推進」というよりも「設置という選択肢の啓蒙」に注力してほしいです。 設置数が増えたかどうかよりも「設置をできる/したい人」の暗数を減らしていくという方針で進めていってもらったほうが、誠実だと感じます。
③どちらでもよい	リチウム電池の問題や屋根の耐久性が解決したらやりたいけど、私が今できるとしたらせいぜい外でのスマホ充電を太陽光のやつで充電するくらいしかできない。
③どちらでもよい	一戸建てだと個人の考えに依存する所が大きい。集合住宅ならばアリかも。
③どちらでもよい	太陽光の業者をきちんと選ばないとトラブルが多い。知り合いで付けないほうが良かったという人が数人いる。
③どちらでもよい	太陽光パネルを設置することは良い事だが節電を進めた方が良いと思う
④推進すべき	自治体が初期費用の負担をしても維持管理に持続的に費用が発生するため、マンションでの合意は容易でないと思う。
④推進すべき	制度を充実させるときはシンプルであればあるほどわかりやすくありがたい。
④推進すべき	マンションではソーラーは無理では
④推進すべき	太陽光をあまり信用していないので市がお墨付きをくれるなら安心。
④推進すべき	太陽光設備の耐久性や部品調達年数が課題。会社でも自然エネルギーを活用しようとしたが、耐久性に課題があり撤廃した。
⑤積極的に推進すべき	費用を考えると難しいと思います。
⑤積極的に推進すべき	資金面は個人により差がある。新築では必須とすることも必要か。
⑤積極的に推進すべき	生活スタイルを変えていくには、地域全体の取り組みが大切
⑤積極的に推進すべき	太陽光パネル業者には悪質なものをあるため、市の手動による対策が必要と考える。
⑤積極的に推進すべき	ただし、行政による補助金制度が家庭における当該設備の価格競争（適正価格への収斂）を妨げている可能性に留意する必要がある。行政が期待しているのは「補助金による導入促進→当該設備の量的拡大による価格低下効果→さらなる普及拡大」だと思うが、本当にその循環が実現しているのか？きちんとした検証が必要である。行政が推奨業者を紹介するのであればなおさらである。

⑤積極的に推進すべき	前家屋に太陽光パネルがつけられたら本当に理想です。
⑥わからない	すでにあるソーラーやら風力（発電模型でも）を中心にかつで 1970～80 年代のソフトエネルギーパス（時代の） 発送を取り込んだエネルギー（といっても電力が中心になるうが）を作ろう「アイデア大賞」イベントを年 1 回くらい開催してもらいたいな



## 施策 11. 地域における再エネ設備の設置を促進する

市域内の公共施設や空き地、商業施設を活用し、太陽光パネルや小型風力発電等の創エネ機器設置を実施する。また、利用者の比較的多い施設・遊び場を中心に太陽光パネルを設置し、身近で再エネに触れる機会を増加させる。再エネを拡大させる手段として、事業者への設置を義務化する。

選択	自由意見
②あまり推進すべきでない	必要以上に再エネ施設が増えたり、生活環境が変わったりする恐れがあるので慎重に事を進めるべき。
④推進すべき	西武グループなど付き合いのある民間企業と上手く話がまとまれば、ぜひ大口設置してほしいと思います。市全体がエコな街という印象になっていくとうれしいです。
④推進すべき	推進すべきではあるけど、これは説明会とか会社に赴いて説明しないとイケなそう。個人や会社でSDGSを何しようかと考えてる人に対して、商工会議所とかで斡旋できたらいいですね。回収率とかの資料とかあったら、確定申告の待ち時間に読んで欲しくなりそう。
④推進すべき	推進となると難しい事業者も出てくるとは思うが、義務ならばやらざるを得ない、となるのか、？ 基準や補助など決めることは沢山あると思うが時間をかけてでもやるべきかもしれない。
④推進すべき	義務となると難しいし、誘致が難しくなるのでは
④推進すべき	これに反対する人はいるのだろうか？
④推進すべき	ぜひ推し進めるべきであるが、特にコストがかかる項目であり、優先順位をよく検討すべき
④推進すべき	商業施設と連携すれば、企業側の方でSDGsに絡めてうまく宣伝してくれると思うので、市民に対して良いアピールになるのではと思う。
④推進すべき	事業者の取り組み事例の紹介。また、取り組んだ事業者のメリットがあればいいと思います。
④推進すべき	大規模マンション、大型商業施設、遊興施設、公共施設が積極的まずやっていただきたい
⑤積極的に推進すべき	どこかに地域での取り組みの話を聞いたが、持ち主はいるが空き家になっている家での太陽光パネルで取り組んで成功している事例があるという。私には可能かどうか分からないが検討課題にしてください。
⑤積極的に推進すべき	他にないような新しい機器を積極的に検討して、自慢できるような設備にすると面白いと思う。
⑤積極的に推進すべき	家庭向けよりは拡大が期待できると思います
⑤積極的に推進すべき	もう、そういう時代の流れになるでしょう
⑤積極的に推進すべき	市としての取り組みをアピールする良い施策となる
⑤積極的に推進すべき	市の施設から始め、所沢市内で影響力のある企業にも参加・協力してもらおう
⑤積極的に推進すべき	今後商業施設などには、太陽光パネルの設置義務化と補助金の検討をするべき

⑤積極的に推進すべき	例えば森林であっても、極相に達したスギ林など炭素吸収能力が低く逆に花粉被害によるデメリットの方が大きいような土地も存在するので、学校などの公共施設の屋上の太陽光パネルや貯水池の発電フローターなどと並んで広い領域で開発の検討が必要だと思います。ただ、森林を切り開く場合は土砂災害のリスクが増加することがあるほか、発電設備そのもののメンテナンス・耐用年数なども考慮する必要があるため、難しい課題になると思います。
⑤積極的に推進すべき	環境問題を意識させる機会を増やすことは有効だと思う
⑤積極的に推進すべき	当該施設設置に適した場所を悪質な事業者を抑えられないように先手を打つことも大切だと考える。
⑤積極的に推進すべき	将来的に市民電力は市が作れたら良い。土地が少ない分、建物に設置する件数が多くほど良いと考えたからです。

## 施策 12. 再生可能エネルギー比率の高い電力（再エネ電力）への切り替え促進

再エネ電力への契約切り替えを促進する。また、再エネ電力への切り替え、再エネ開発・導入に積極的な企業に対し、優遇措置を行う。

選択	自由意見
③どちらでもよい	個人の考えに依存することが大きいので、うまく広まらないのでは。
③どちらでもよい	さほど変わらないのでもっとメリットを感じられる事を教えてほしい 先日も NEWS で電力事業者破綻がやっていたので不安
④推進すべき	月々の出費が具体的にいくらになるか事前には確定しないため、契約時には「なるべく安いところで」と考えるのは自然なことだと思います。私も将来子育て世帯になったら 1 円でも安いところで契約したいと考えます。 再エネ電力の選択を最先端のライフスタイルとして売り出すことが必要だと思うので、西武グループとの提携や、市民フェスティバル等市民イベントでの発信、広告など、イメージ戦略に振って「素敵な生き方」という印象を広めてほしいです。
④推進すべき	電力自由化により促進できそうに見えますが、自由化したからこそ比較が一層難しくなるのではないかと思います。
④推進すべき	企業、住宅どちらも対象？
④推進すべき	一見良さそうに見えるが、現実問題推進できていないことからどこかに課題があるのだろうと想像する。
④推進すべき	安定供給が可能な再エネのみの発電はまだ不可能と思う。安全面、コスト面をよく考える。
④推進すべき	電力自由化のメリットがよくわからないので、踏み込めない。市民の 3 割近く入ったと PR すれば安定、安全な企業と見えそうです。
⑤積極的に推進すべき	コストが、以前から使われているエネルギー源よりも低ければ利用者も多くなる
⑤積極的に推進すべき	こちらへんは自分たち普通の人じゃ対処できないので、頑張っ欲しいなあ。
⑤積極的に推進すべき	前の義務化とどちらかでも良い気がするが、どちらかといえばこちらの方が良い
⑤積極的に推進すべき	再エネ電力の発電コストが大幅に低下した現在、本来は優遇措置を行う必要はないはず。今なお再エネ電力の提供価格が従来型電力の提供価格を上回っていることを是正するための施策を推進することが本筋と考える。
⑥わからない	コスト面で切り替えには不安がある

### 施策 13. エネルギーに関する市民活動を促進する

エネルギーに関する市民活動を促進させるため、情報発信を強化する。情報発信方法の工夫として、スマートフォン等のアプリでのプッシュ通知など、市民が手軽に情報を受け取る仕組みを取り入れる。また、行政が行う環境の取組に、高校生や大学生のボランティアが活躍できる場を作り、市民活動を実践していく人材を育成する。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	実際のところプッシュ通知はそうそう見ない。
④推進すべき	所沢在住アーティストで集めたらやってくれそう。J:COMTVのみさきちゃんのお散歩番組とか好きで視聴しているので、地産地消もそうだけどやりたい人集めて説明会とかしますよーと駅とかグランエミオとかに貼っとけば集まりそう。
④推進すべき	デジタル難民が心配 お年寄りがついていけるか
④推進すべき	情報発信を増やし情報に触れる機会を設ける。市民の意識改革により行動が変わる。
④推進すべき	まずは若年層に狙いを定めてみては。スマホアプリを開発するよりは、授業で取り入れた方が周知するという意味では効果的だと思う。
④推進すべき	エネルギーの取り組みを、何をPRするのが鍵。
④推進すべき	人の力は大きく広がっていくので、インスタ、TickTokでも広がると思います。
⑤積極的に推進すべき	所沢市はベッドタウンとしての利便性が高く、個性的な地域性というものも見えづらいため、地元で育った人でない限り所沢への愛着は形成されづらいのではないかと思います。 個人的には住みやすく大変気に入っていますが、より多くの人々が「自分は所沢に住んでいる」という意識を持てるような発信と、「その所沢ってどんな街？→エコな街」ということが日々の生活の中で少しずつでも分かってくようなきっかけを、市の広報に期待します。
⑤積極的に推進すべき	インターネットが使えない方への対応
⑤積極的に推進すべき	積極的に高校生や大学生のボランティアが活躍する場の設定をするのは良いと思う。これからの時代を生きていくには自分事としてとらえる機会がたくさん必要だと思う。学校等の授業で学ぶだけでは身につかない。体験を通して実感する必要がある。
⑤積極的に推進すべき	関心がある人が手をあげて参加できる場作りは重要。今回の市民会議もその一つ。関心のある人を地道に増やしていくしかない。
⑤積極的に推進すべき	ガラクタを使っても基本的な知識さえあれば電力はつくれる。(例) 駅や学校に『「自転車」で「手回しハンドル」で発電してみよう』なんてモニュメント置いておけばいやがおうでも子どもたちは触れたがるし
⑤積極的に推進すべき	若い世代に所沢市のコミュニティとの関わりがあるのか、課題である
⑤積極的に推進すべき	広報を読んでない人が多い。

⑤積極的に推進すべき	地元高校の取り組みに感動した。全国で様々な成功体験が蓄積されていると思うので、全国の教育者や学生が相互交流する場をつくってあげて欲しい。
------------	--

#### 施策 14. (株)ところざわ未来電力の利用拡大に努める

(株)ところざわ未来電力(以下、未来電力)の利用拡大を推進するため、すでに実施している未来電力の加入メリットの強化を図る。

選択	自由意見
③どちらでもよい	個人の意見に依存するところが大きい。
④推進すべき	所沢まつりがやっぱり一番人が集まるから、ところんとか所沢電気のキャラを踊らせて人気アップしましょ！
④推進すべき	電力の安定供給や運営上の顧客対応が問題ないことをアピールするべき。
④推進すべき	未来電力について知らない人が殆どだと思うので色々なイベントで周知して欲しい
④推進すべき	市民や所沢の企業がどれだけ活用しているか、また利用することで、どれだけメリットがあるのかが、わかりやすくして欲しい。
⑤積極的に推進すべき	広報ところざわ、毎号楽しみに読んでいます。ぜひ特集してほしいです。思い切って価格シミュレーションなどを載せてもらえると、より多くの人に関心を抱くと思います。
⑤積極的に推進すべき	利用拡大には、確信を持ったメリットを広報しないと伝わらない。
⑤積極的に推進すべき	既にあるものはどんどん使うべきだと思う
⑤積極的に推進すべき	ただし、これは完全に事業者の問題。設立の主旨からいえば、絶対に取りこぼしてはいけないターゲット顧客がいて、それだけでフルキャパになっていても不思議でないように思える。株主構成をみると一般家庭や中小事業者向けで実績を持つ企業が見受けられず、少なからず影響しているのかもしれない。素晴らしい取り組みに感じられるだけに、現状の実績は残念に思える。
⑤積極的に推進すべき	是非進めて欲しい
⑥わからない	発電量には余裕があるのでしょうか？
⑥わからない	市としては積極的に取り組みたいところだが、私たちにとってのメリットが不明

### テーマ3 『エネルギーから考えるゼロカーボン』の施策の優先度

選択	自由意見
10. 家庭向け太陽光発電を促進する	各家庭に太陽光パネルを置くことができれば、発電を促進でき、且つそれを市と家庭の両方で使用することができればゼロカーボンに繋がると思ったからです。
10. 家庭向け太陽光発電を促進する	火力発電から自然エネルギーを使って電力を起こすことが大切だと思います。
10. 家庭向け太陽光発電を促進する	今よりも太陽光パネルがつけてて当たり前になっている未来が来たら良いなと思う！ 手の届く価格、
10. 家庭向け太陽光発電を促進する	悪質なソーラーパネルは逆に環境を汚染してしまうため、行政が監視しておいた方が良い
11. 地域における再エネ設備の設置を促進する	個々で対応するというのは難しいかもしれないが地域が連携すれば可能になるかもしれないと思う。
11. 地域における再エネ設備の設置を促進する	企業をうまく使えば宣伝もしてくれなので、費用対効果が高いのではと思う。
11. 地域における再エネ設備の設置を促進する	市民の身近で再エネ設備が増えれば訴求効果も高そう
11. 地域における再エネ設備の設置を促進する	ゼロカーボンだけでなく、防犯や防災、全ての安全安心な生活は、地域全体で取り組むべき
11. 地域における再エネ設備の設置を促進する	初期投資は発生するが効果を発信することで効果が大きいと思われる
11. 地域における再エネ設備の設置を促進する	公共施設での設置推進が最も効率よく大規模に再エネ利用を拡大できると思います。
11. 地域における再エネ設備の設置を促進する	飴を用いた施策は問題点が多いように見える。導入によるメリットが大きくなった今、義務化は大いに賛成できる。
11. 地域における再エネ設備の設置を促進する	市内で自然エネルギーが一番作れるのは太陽光発電だと思うからです。目にしてもらい、知ってもらい、増やしていくことが大切だと考えたからです。
12. 再生可能エネルギー比率の高い電力(再エネ電力)への切り替え促進	私達ではできないからこそ、ここの転換は頑張ってもらいたい。
12. 再生可能エネルギー比率の高い電力(再エネ電力)への切り替え促進	所沢で再エネの状況を逐次公表してほしい。
13. エネルギーに関する市民活動を促進する	「エネルギーに関する市民活動」と一口に言っても多岐に渡りますが……所沢市民の幅の広さを考えると、それに見合った様々な手段で市民活動を促進してもらいたいと考えました。一部の層が取り組みその層を支援する、というスタイルでは、市民同士の熱意に溝ができていくと思います。

13. エネルギーに関する市民活動を促進する	別の視点から。家庭生活を考えると暑さ寒さに対応するためのエネルギーが必要である。杉並の今後の取り組みとして、長い目で見て「住まいの断熱に費用をかけるのが省エネに必要な」と取り組もうとしているということも聞いた。所沢でも検討課題の一つに考えてみてください。
13. エネルギーに関する市民活動を促進する	13 を機にスマホのアプリ等普及によりデジタル難民をなくす
13. エネルギーに関する市民活動を促進する	金銭メリットだけでは根本的な解決にならない。(もちろん、とっかかりとしては効果があると思う。) 関心のある人が関心が継続されるよう、また関心の無い人が関心を持てるような取り組みが重要。
13. エネルギーに関する市民活動を促進する	所沢市はけして再生エネルギー施設を建設することに適した環境では無い。再生エネルギーを使う事よりも、どうやって二酸化炭素を吸収するかを優先して取り組む事が大切。
13. エネルギーに関する市民活動を促進する	近年、エネルギー資源の原材料調達の高騰、自然エネルギーへの転換があるが、いかに市民にわかりやすく説明するか、また共感していただけるか。メリット、デメリットがわかりやすくなればいいと思います。
14. (株)ところざわ未来電力の利用拡大に努める	未来電力についての周知が分かっていないので、もっと認知されたほうがよい



## テーマ4『住まいから考えるゼロカーボン』

### 施策15. 機器・設備などの省エネ化を促進する

戸建住宅と集合住宅の双方でエコ住宅化を促すため、住宅のエコ診断による省エネ機器・設備導入や、中古住宅のエコリフォームを促進する。また、それらの導入効果を見える化し、経済的支援や信頼できる事業者の情報もあわせて発信を行う。同時に、太陽光発電の導入や蓄電池の導入によるエコ住宅化を進める。

選択	自由意見
③どちらでもよい	調べて申請するのが面倒。
④推進すべき	ストレートに設置を補助すると、財源が足りなくなったり特定の事業者との取引になったりと、問題が多いかとは思いますが。 「エコな暮らし」そのものへの関心を助ける、という落とし所で取り組んでほしいです。 どんな機器や設備があるのか選択肢を一覧できる冊子を作って配布したり、事業者を集めて航空公園などでイベントを開いたり、ところんコラボのモデルルームを作ったりなど、「設置までの橋渡し」に力を入れてほしいです。
④推進すべき	我が家は高騰する電気代節約のため冷蔵庫を新しくしただけで30パーぐらい節電したので、これを期にこういう住宅どうですか？？みたいなの見せるとすぐには無理だけどいつかやろうとは思う。今すぐだとという明示し、明るさを絞るとか簡単なことの成功体験をさせ、できる範囲から始めればとっつきはやすいと思う。
④推進すべき	マンションもまきこむ企画を
④推進すべき	是非やってほしいが、どうやっても営利目的になってしまう気がする。(無駄なリフォームの誘発。)
④推進すべき	費用の問題もあり時間はかかると思料。
④推進すべき	費用の面が課題
④推進すべき	エコ住宅、エコ家電ともに、初期投資が多いが、利用するエネルギーが少なくなるのが目に見えてわかれば、市民の共感は得られやすいのでは。
④推進すべき	市から助成金がいただけるのであれば取り入れたい
⑤積極的に推進すべき	テーマ3の記述の書いたが、住宅の断熱を考えることが省エネにつながる、という視点も市民に広報し、そこに初期費用の補助を出すことも考えると良いかと思う。
⑤積極的に推進すべき	設備導入は細かく買い換える必要もないため、比較的楽だと思う。
⑤積極的に推進すべき	ただし、訪問販売事業者の跋扈を助長する安易な補助金政策には断固反対の立場である。

## 施策 16. 住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する

日常生活での節電などに加え、遮光カーテンの導入、植物を利用した緑のカーテン、ソーラークッキングなどを積極的に取り入れることや、早寝早起や日当たりのよい場所での読書（照明はオフ）といったライフスタイルから省エネを促進する。事業者は、エコなモデルハウスを増やしていくことで周知を図り、楽しみながら省エネができるポイント制度等を整備する。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	休日の過ごし方に口を出されたくない
③どちらでもよい	省エネ方法について周知するのは良いが、ライフスタイルは人によって違うので、周知内容には配慮した方が良いと思う。
④推進すべき	実際にはこまめな照明オフが1度のドライヤー利用に負けてしまうなど、具体的な数値を可視化すると、取り組みに疑問を抱いてしまいやる気の継続が難しいと思います。 取り組み項目を9つ並べビンゴにして、揃ったものを送った人に抽選で特典を渡すなど、「最初の1歩」を後押しするような企画を実施してほしいです。様々な方法を「まず全部1回やってみる」ことで、自分の生活に合ったものが継続できると思います。
④推進すべき	諸事情でそういったライフスタイルへの転換が厳しい方も一定数いらっしゃると思うので、同調圧力にはならないようにするべきだと思います。
④推進すべき	イラスト等を使って衆知のチラシ様のもの作成
④推進すべき	やる人はやってる。やらない人をどう仕向けていくか。
④推進すべき	電力会社からスマホに1日の電気料金がライン等で送信されてくると節電を心がけるようになるかも…。そうでないとなかなかマメにコンセントを抜いたりしないので。1日の節電目標をクリアしたらポイントが貰えたらさらにやる気が出ます。
④推進すべき	費用を抑えながら快適に生活する工夫を紹介する施策だけに、予算を抑えた工夫を前面に出して欲しい。
⑤積極的に推進すべき	市民全体に、家族ぐるみで考えられる取り組みが必要。一人ひとりが理解して、納得するには地道な努力がいると思う。簡単なようで、意外と難しい問題だと思う。
⑤積極的に推進すべき	自分たちにできる範囲ではある！ あの資料にあった木材の家羨ましいです！ でもやっぱりおうち系はいくらかかるとかあんまり明示されないので、所沢が目指すモデルハウス住宅街あったら住みたいです。 長期的に見て頂ければと思う。
⑤積極的に推進すべき	楽しみながらできるというのが一番。
⑤積極的に推進すべき	小さな事から誰でも取り組める。それが、ゼロカーボンにつながることを実感できる。
⑤積極的に推進すべき	せっかく市役所でゴーヤの種を配っても育て方がわからない。

⑤積極的に推進すべき	小さいことだが個人でできることを通じ、達成感と自分ごと化による取り組みの継続が見込まれる
⑤積極的に推進すべき	日常生活で、出来るところからの取り組みなので、誰でも出来ることを市民が共感できれば。

## 施策 17. まちに緑を増やす

屋上緑化や壁面緑化、アスファルトから土や芝生の道路に変更することで、ヒートアイランド対策を進め、省エネに繋げる。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	アスファルトの芝生化は不便なのでやらない方がいい
②あまり推進すべきでない	整備やメンテナンスの頻度、バリアフリーのことを考えると懸念残る
④推進すべき	所沢には緑が少ない。市全体を緑でおおう
④推進すべき	ランニングコストがどの程度かが検討課題。
④推進すべき	所沢駅など市民の目に入りやすいところでまずは対策してみては。
④推進すべき	大規模マンション、商業施設を造る際には緑化の義務を行う
④推進すべき	まちに緑を増やすことは大賛成、通常予算のなかで意識して取り組んで欲しい。
④推進すべき	アスファルトを土や芝生だと手入れや不便さも出てしまうと思いますが、アスファルトでも熱くならない材質など。便利さを保持しつつ改善方法があると考えます。熱くならない壁とか屋根があると聞いたことがあります。
⑤積極的に推進すべき	課題に「車いす等未舗装道路を利用しづらい方への配慮」とありますが、逆にそこをクリアした未舗装道路を開発できれば、市の印象は格段に上がると思います。 やるのであれば半端なものではなく、ぜひ徹底したクオリティの道路を敷いてほしいです。実現すれば住みたい人が増えると思います。
⑤積極的に推進すべき	ヨーロッパのように、車よりも歩行者が増えるように、歩きたくなるような綺麗な景観の歩道を整備
⑤積極的に推進すべき	推進会議でも紹介されたが、保育園などの園庭を芝生にする取り組みは良いと思う。 スーパーの駐車場やガソリンスタンドの周りに雑草が生えないようにゴム製のものを敷いているケースもあるが、そこも芝生に変えると良いな、と思っていた。やはり、補助金が必要かもしれません。
⑤積極的に推進すべき	大きい道路の歩道をタータンにしてくれるだけで、体作りをつくるの大好きな所沢民は外に出る。緑化とはちょっと違うけどエコ。越谷の歩道がタータンですごくいい
⑤積極的に推進すべき	鳥獣虫害対策も同時に進める必要がある。
⑤積極的に推進すべき	オシャレな街になるので賛成。お金が無いならクラファンで。お金出します。
⑤積極的に推進すべき	緑が二酸化炭素を吸収する事は誰でもわかる。最近の研究では二酸化炭素を吸収する素材ができる兆しがあり、これからの街作りに応用していく事ができるのではないかな。
⑤積極的に推進すべき	市の施策に取り入れて欲しい
⑤積極的に推進すべき	どこが管理するのかわからない

⑤積極的に推進すべき	緑を多くすることで、街が変わればいい。公的機関が、どれだけ先陣を切って取り組みが出来るか。
⑥わからない	「歩道には落葉樹」というのは昔から変わらないけど、自転車には不便な街づくりをしてもらいたい。自転車は便利だけど、それが街中では便利である必要は全くない？

#### テーマ4 『住まいから考えるゼロカーボン』の施策の優先度

選択	自由意見
15. 機器・設備などの省エネ化を促進する	効果が大きい。
15. 機器・設備などの省エネ化を促進する	費用面さえどうにかなれば効果が大きいと考えられる。
15. 機器・設備などの省エネ化を促進する	長期利用するものほど、環境への配慮が必要になると思う。
15. 機器・設備などの省エネ化を促進する	CO2削減効果が期待でき、うまく制度設計できれば良質な事業者にとってもメリットになるため。
15. 機器・設備などの省エネ化を促進する	CO2を多く削減できると考えたからです。そしてゼロカーボンの意識も高まると思います。
16. 住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する	節電は最も取り組みだと思うから
16. 住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する	個人でできることを通じ、達成感と自分ごと化による取り組みの継続
16. 住まい・暮らしでの省エネ型ライフスタイルを促進する	住まいのゼロカーボン化を目指すには、どうしても市民の善意に頼らざるを得ないので、市で気候変動の恐ろしさを危機感を持って発信して、環境保全に対する積極的な意識と機運を高めていく必要があると思います。
17. まちに緑を増やす	1と2の「促進」の企画は、どうしても民間企業との提携の問題で市のスタンスが問われてしまうと思うので、間接的な後押しをやってもらいたいと考えました。 「まちに緑を増やす」は直接的な街づくりの方針になり得ます。ぜひやってほしいです。
17. まちに緑を増やす	歩道がタータンに…というのは願望ですが、実際分譲地ばかりで緑も減りコンテナ倉庫か駐車場ばかりに変貌してる山口地区は道も狭くトレーニングするところもないので、街に緑を増やすって名目で住みやすくなればなあと。
17. まちに緑を増やす	ゼロカーボンを目指せるということだけではなく、市民の癒やしとなるなど他の価値もあるのではないかと感じたため
17. まちに緑を増やす	緑は大切だがゼロカーボンを推進していくには物足りない気がします。
17. まちに緑を増やす	植物を植えることで省エネと同時にCO <sub>2</sub> の削減にもつながると考えられるため。
17. まちに緑を増やす	まちが変われば人が変わるように思う。 まちを好きになればまちを大切にしようと思えるのでは、！
17. まちに緑を増やす	課題は多いですが目に見える変化が効率的だと思いました

17. まちに緑を増やす	住宅空地、作地の地図をつくり空いているところ、人が集まる場所に全体的に緑をふやす
17. まちに緑を増やす	街をオシャレに。
17. まちに緑を増やす	市が取り組んでいることとして、わかりやすく市民の目にとまるのではないかと思ったから。
17. まちに緑を増やす	無駄な照明を減らしたり、光りが空に広がらないような対応も行ってほしい（生物多様性の回復のため）
17. まちに緑を増やす	緑化が進み、二酸化炭素の減少エビデンスが取れば、モデルケースとなりうる。各地に広がっていく行きやすさという点で、緑化は最も手軽な手段だと思う。
17. まちに緑を増やす	町全体を変えることにより、ゼロカーボンにつながり、結果的に人口増加や他の課題も解決できる可能性がある
17. まちに緑を増やす	狭山丘陵、航空公園など緑が多いが、所沢駅周辺は、無秩序な開発が多く、タワーマンションが乱立していると感じる。法律で決められた緑地にプラスアルファができるように、都市に緑地を増やす努力を。

## テーマ5『移動から考えるゼロカーボン』

### 施策18. 自転車・徒歩での移動を促進する

コンビニエンスストアや公共機関等にシェアサイクルの設置箇所を増やし、シェアサイクルを利用しやすくする。また、徒歩移動を促す「埼玉県コバトン健康マイレージ」のような、市民が歩くことによりポイントを得られる制度を進めるとともに、徒歩自体が楽しくなるような、散歩コース、遊歩道を整備・周知する。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	車の利便性に優らないと思う
①全く推進すべきでない	まずシェアサイクルの設置場所を増やすような施策には断固反対。やるべきことの順番が違えば問題は確実に増え、期待した成果はあがらない。
③どちらでもよい	ポイントの還元先を多彩に用意する必要がある。対応できるのか？
④推進すべき	山口地区は道も歩道も狭くチャリも人もすれ違えないので逆に危ない。イベントでも人も車も渋滞で凄いのではなんとも言えない。
④推進すべき	水辺が心安まるので水辺に作る。東川周辺をもっと活用する
④推進すべき	広報ところざわでも案内されているが、認知度が低い。推進策を別途考える必要あり。
④推進すべき	健康増進はあらゆる点でスケールメリットがある。
⑤積極的に推進すべき	市内の中心部ばかり栄えているような印象を受けます。徒歩での行き来がしやすくなれば、郊外にスモールビジネスの出店応援と銘打って開発ができるなど、活気のある企画にも繋がるのではないのでしょうか。
⑤積極的に推進すべき	シェアサイクルの情報をもっと広める
⑤積極的に推進すべき	なぜ、シェアサイクルが始まったのか知らなかった。今回の推進会議で知った。シェアサイクルの意味が浸透すれば、シェアサイクルを使う使わないに関わらず、所沢の取り組みとして市民の意識が変わるかもしれません。
⑤積極的に推進すべき	信号の変わるタイミングを見直して、危険な横断をしないで済むようにしてほしい。
⑤積極的に推進すべき	現在コバトンのアプリを使っている！ ところんのものも出たら絶対やると思う！ ポイントは地産のものだと嬉しい！
⑤積極的に推進すべき	散歩コース、遊歩道に賛成。健康増進や市外からの人の流入にも効果が見込めそう。
⑤積極的に推進すべき	「歩道」は「しっかり」とつくろう。自転車優先の道路行政で後追いとなってしまう歩道。歩道すらない幹線もある。思いきって一方通行にするくらいの覚悟で歩道を作ってもらいたい。
⑤積極的に推進すべき	自転車に乗れない人や徒歩移動が困難な人への配慮も行ってほしい
⑤積極的に推進すべき	エコと健康は、両方大事
⑤積極的に推進すべき	所沢市内は、自転車、徒歩移動で安全、安心できる道路が少ない。車社会から人社会に出来るようになればいい取り組み。



## 施策 19. バスの利用を促進する

バスの利用を促進するため、便数、ルート数、乗り場を増加し、ルート上であればどこからでもバスに乗れるようにする。また、利用者がバス停の表示板やスマートフォンでバスの位置を把握できるようにする（バスロケーションシステム）と共に、電車に乗り継ぎしやすい時刻表に設定する。さらに、車を持たない世帯や住居が駅から遠い方に、乗車料金を優遇する。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	停車回数が増えると、かえって不便になってしまう
②あまり推進すべきでない	バスが流行らないのは便数が少なく、料金が低いからなのだろうか？バス利用者が自らが享受したいメリットを列挙しているだけにみえる。（バス会社へのクレームのよう。）
②あまり推進すべきでない	バスロケーションシステムやバスと電車の接続は当然のこと。その他の内容は矛盾をはらみすぎている。行政には、利用者の利便性と事業者の収益性の両面からみた落としどころをうまく見出してもらいたい。
③どちらでもよい	うちの地域でところんバス乗ると、老人の足だから若いやつが乗るなよとよく言われるため怖くて乗れない。
③どちらでもよい	使用するバスを電気自動車等の環境に配慮した車両にするとより良いのではないかと思います。
③どちらでもよい	バスに限定する必用はない
③どちらでもよい	バス利用にメリットがあればいいと思います。すみません、所沢市内でバスに年間数回しか乗らないので、コメントが出来ません
③どちらでもよい	所沢市は、他の地方自治体と比較しても格段に交通の便に恵まれていると思います。 バス利用促進は有意義だと思いますが、これ以上のバス増便は不要です。
④推進すべき	ところバスの衆知
④推進すべき	車を持たない世帯への税金優遇があると良い
④推進すべき	お年寄りや病院に行くことが多いので病院、公共施設を中心としたバスの利便性を図る
⑤積極的に推進すべき	所沢市内に住むという生活は、西武鉄道と西武バスにかなり寄りかかっていると思います。駅までの距離やバスの本数が、そのまま生活に響きます。その格差を市が埋めてくれたら、市全体が潤い市内での移動も頻繁になることは間違いありません。
⑤積極的に推進すべき	ところバスの利用乗客の多い時間帯の本数を増やしてほしい。多くの方が使う時間帯には、譲り合っても杖をついた方が座れないこともあります。一日に5本走るとして、時間を5等分にしているコースがありますが、最終時間にはほんのわずかししか乗客がいません。利用者の調査をして考え直してほしいと思います。 最初のうちは車いすの利用も多かったが最近は見かけなくなりました。（理由はわかりませんが）

⑤積極的に推進すべき	バスの運行を開始するならその初日は無料にして皆様に利便性を実感していただいた方がその後の利用者が増えるのではないか。
⑤積極的に推進すべき	ところバスとところワゴンは自家用車、カーシェア以上に効果あり。ところワゴンも再エネ利用車としたいところ。
⑤積極的に推進すべき	車を手放した場合、便数が多ければ地域移動に活用する 是非充実させて欲しい 自家用からバスへ

## 施策 20. 自家用車を使わなくてもよいまちづくり

公共交通の拠点となる駅の周辺に、病院や行政、商業施設などを集め、歩いて用事を済ませられるまちを複数つくる。また街中での渋滞をなくし、歩行者などの安全性を高めるため、市街地には自家用車が入れないようにし、周辺に駐車場を配置する。市は計画的に用地を確保し、まちの整備にいかしていく。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	商業施設をひとまとめにするのは地元の店にとって負担が大きいと思う。
①全く推進すべきでない	西武 HD は所沢駅を 50 万人商圏のまちに育てようとしている。それを実現するためには電車利用者だけではなく自家用車利用者を積極的に取り込む必要がある。自家用車はいずれゼロカーボンになり家庭用蓄電システムの一角を担うようになる。このコンセプトのコンパクトシティは一世代前に考えられたものであり、愛する所沢市には 2050 年を睨んだ新たなコンセプトでまちづくりを進めて欲しい。
②あまり推進すべきでない	駅と自宅との距離が遠い人にはメリットが感じられないのではないのでしょうか
③どちらでもよい	費用がかかりすぎると思う。
④推進すべき	駅から遠い地域を取り残さないようにしてもらいたい。
④推進すべき	ドローンの活用も考える
④推進すべき	イタリアの車が入れないまちづくり事例は参考にしたい。
④推進すべき	所沢市は、航空公園に公的機関が集中しているので、他の自治体から比べて非常に便利である。しかし、街中に 463 号が一車線になり渋滞となり不便。コンパクトシティを目指すコンセプトが必要。
④推進すべき	未来的には理想の市内全てが沿うあるとは難しい 段階を踏む必要があると思う 私が住んでいるところが理想的な街になっています。なので、車を持たず全て自転車と公共機関のみ 散歩にも良い環境です。
⑤積極的に推進すべき	家庭を持ってマイホームを建て車を持つ、という時代ではもうないと思います。独居老人でも障碍があっても収入が低くても 1 人で暮らせる街、というのが今も今後も求められるのではないのでしょうか。駐車場代や税金といった車の維持費を抑えられたら、その分の金額を自由に使いたい、という人は少なくないと思います。実現すれば所沢に住みたい人が増えると思います。
⑤積極的に推進すべき	道路の整備など、長期的な都市計画が必要です。子どもたちの通学路でも危ない所がたくさんあります。
⑤積極的に推進すべき	面白そうだと思うけど利権が絡みに絡み大変そう。ただもうちょいうっすい目で見ると、今会議で分けしてる地区ごとの中にすべてそろえばいいと思うと解決は見える気がする。イオンさん来てほしい…！！
⑤積極的に推進すべき	時間はかかるが是非進めてほしい。街の魅力度もアップする。
⑤積極的に推進すべき	駅前の人だけでよく、市場は駅前から離れてもよいかも

⑤積極的に推進すべき	未来的思考に立てば今から進めていく事だ大切。次世代型移動ツールができれば、自家用車の必要性は下がるのではないか。
⑤積極的に推進すべき	せっかくあるアプリを使いこなせない。
⑤積極的に推進すべき	<p>所沢市は総合的に判断して非常に住みやすく恵まれた環境だと思いますが、自動車の交通に関しては、道路が狭く、渋滞が多く、交差点や信号機の数も多いため、全国的に見ても劣悪な環境であると感じます。人口密集地の宿命でしょうか。</p> <p>ですが、所沢にはその不便さを大いに上回るほどに鉄道とバスのサービスが充実しているので、一般市民には公共交通機関の使用を促すと同時に、駅周辺などの最も混雑するエリアでは商用車以外の自動車の交通規制なども設けてよいと思います。</p> <p>会議中は「気候変動対策は我慢しなければならないというイメージを変えたい」という話もあり、大変素敵な考え方だと思いましたが、環境保全という難題に取り組む以上、必要かつ避けられない市民の「我慢」もあると思います。</p>

## 施策 21. エコ車両の利用とエコドライブの促進

市民は電気自動車、燃料電池車、ハイブリッド車を使うようにし、渋滞を避ける運転やエコドライブを行う。行政は電気自動車、燃料電池車の購入時の補助額を高め、わかりやすく発信する。自動車会社は、豊富なラインアップで電気自動車を販売する。また、社会全体で電気自動車の充電場所を増やしていくとともに、カーシェアも整備していく。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	電力不足が解決しない限り難しいと思う。
③どちらでもよい	渋滞がどうしても発生するから、西武球場辺りから西所沢までは無理なのでツライ。電気自動車は修理が大変だから無理。
③どちらでもよい	国でやろうとしていることは、市でわざわざ取り上げなくても良いのでは。
③どちらでもよい	駅周辺からカーシェアが進んできている。郊外の戸建ては車両がないと不便。エコ車両も、化石燃料エネルギーではなく、自然エネルギーから供給出来るようになればいいので、自然エネルギーのPRもあわせて出来れば。
④推進すべき	他の地域と意識する時の抜け道が何番か通っている関係で、スピードを出す車が多いと感じます。エコドライブはそういった意味でも推進してほしいです。 実際に電気自動車が走っている風景を先に用意することで、自分が持つビジョンも描けると思うので、市の車として「ところんカー」など走らせてほしいです。
④推進すべき	理想的なのは公共交通機関を利用してもらうことでしょうかから、補助を出しすぎるのはあまり良くないのではないかと。
④推進すべき	電気自動車の購入は中国車が安い。何故そうなのか研究すべき
④推進すべき	エコドライブだけでは効果が薄い。電気自動車のコスト減と購入費用補助の組み合わせで導入のハードルを下げていく必要あり。
④推進すべき	公共施設で使う車両は積極的にエコ車両にするべきである
④推進すべき	ただし、現状の購入時補助金とカーシェアの整備には多くの問題点があり、慎重な制度設計と成果の検証が必要。少なくとも今積極的に推進するべきではなく、2025年からアクセルを踏むべき施策だと考える。また、充電場所の増設は喫緊の課題だが、規格は重要であり件数より中身を充実してもらいたい。
⑤積極的に推進すべき	マンションや団地などに充電設備を設置
⑤積極的に推進すべき	車両価格の問題は大きいと思う。
⑤積極的に推進すべき	デザインが気に入るクルマがあれば買います。
⑤積極的に推進すべき	各集合住宅などのインフラ整備に補助金を出してほしい

⑤積極的に推進すべき	<p>例えば私は個人的にはイーロンマスクのテスラ車のような電気自動車にも興味がありますが、リチウムイオンバッテリーの体積当たりのエネルギー効率の悪さ・充電時間・雪面での不便性、そして何より、「バッテリー生産時の環境への負担」「再エネ由来の電気の確保困難」を考慮すると、電気自動車の推進は非現実的かつ時期尚早です。</p> <p>また、ガソリンスタンドは撤去が困難であり、その再開発にも非常にコストがかかります。</p> <p>一方で、バイオ由来の燃料生産も研究が進んでおり、特に下水汚泥を利用した燃料生成は収率もよく、更に従来は海に回収できなかったリンの回収もできるため、実用化が叶えばゼロカーボン化に大きく近づけると思います。</p> <p>私個人としては、欧州諸国に迎合するように電気自動車利用を拡大するのは断固反対です。</p> <p>それよりも、日本の自動車産業が既に持つ高効率のエンジンと、既に複数の企業が参入している下水汚泥燃料化事業を最大限活用し、環境保全に繋げていくのが、我々が選ぶべき道であると強く信じています。</p>
------------	---

## 施策 22. 輸送の削減と効率化を図る

自家用車を使わなくても日常の買い物ができるように、スーパーマーケットはエコな自動車を使った配送サービスを整備する。また近くにスーパーがない地域には、移動スーパーのサービスを行う。コンビニは、搬入回数を減らせるよう配送制度を整える。また、事業者が連携して、宅配物・郵便物をまとめて運べるようにする。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	これは事業者にゆだねる問題で行政が推進する施策ではない。サービスが収益につながらなければ継続性は担保されない。
③どちらでもよい	お店の経営に市が関与するのは難しい問題がいくつか出てくると思うので、積極的に推進するべきとは思いません。 昔コンビニでアルバイトをしていた時、野菜の 100 円セット(箱で野菜を買い店の裏で小分けに梱包します)の売れ行きが好調でした。 市が市内の農家から野菜を買い取り、障がいのある人たちに小分け包装を依頼し、「所沢野菜」と称して市内の店舗に卸すというのはどうでしょうか。
③どちらでもよい	うちの周りは移動スーパーとくしまるがあるから、現存しているシステムです！！かわいい曲流れてる。
③どちらでもよい	推進すべきと思うが、あくまで事業者の取り組みで、市民の関わり方がわからない。
③どちらでもよい	業者の負担が大きいし、市レベルでやれることではないと思う。
④推進すべき	巨大な配送拠点が必要
④推進すべき	必要と思うが実施主体が行政・業者であり初めから個人でできることは少なそう。
④推進すべき	コープなどの活用、高齢者、子育て世代に共感出来れば。
⑤積極的に推進すべき	人材不足。
⑤積極的に推進すべき	大手スーパーと協力してスーパーの少ない地域に移動スーパーを持っていくことで移動の効率化を図る
⑤積極的に推進すべき	公共衛生の観点としても良いと思う。
⑥わからない	現状を見ると、道路がめちゃくちゃな都市づくりすぎる。道づくりして街(まち)なし
⑥わからない	民間事業者等の理解と協力が不可欠で実現できるか不明

### 施策 23. 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める

自転車通行レーン・自転車用道路、歩道の整備を推進し、自転車・徒歩交通の利便性を向上させるとともに、ガードレールや街灯が不足している道路、段差・凹凸の多い道路の整備を進め、交通の安全性を確保する。道路整備の財源とする寄付制度等を創設し、寄付者に特典を付与する。

選択	自由意見
④推進すべき	寄附者を見つけるのが大変では
④推進すべき	無電柱化はぜひ推進してほしい。道路拡幅よりはるかに行きやすい事業と考えられる。
④推進すべき	高齢者ドライバーの事故を予防する為にも、安全な歩道や自転車道は欲しいところ。
④推進すべき	道路整備と、ゼロカーボンがどのようにつながるのか周知が難しい
④推進すべき	毎年のように道路を掘り返しているが、もっと計画的にやるべき。
④推進すべき	整いつつあると思いますが、安心して歩ける・自転車走れる 道路作りは今後も続けていく必要があると思います。
⑤積極的に推進すべき	市内で生活スタイルの差が大きすぎると常々思っています。時間がかかるとは思いますが、ガードレールの設置や歩道の拡張は絶対にしてほしいです。登下校中の小学生に車が突っ込むような悲しい事故は二度と起こってほしくありません。 安心して命を預けられる市=エコ活動に専念できる市、と言えらると思います。市の中心部の生活水準が、市の全体に広がってほしいです。
⑤積極的に推進すべき	20.でも書きましたが、ベビーカーや車いすで通れる歩道が少ないです。
⑤積極的に推進すべき	ホントにお願いします！切実にお願いします。道が広がりきれいになれば、家の周りの18から22までは連動的に解決すると思う。
⑤積極的に推進すべき	ゼロカーボンだけでなく、安全面でも効率的だと思います。
⑤積極的に推進すべき	クラファン案件。安全にもつながるし重要。街の魅力も向上する。お金出します。
⑤積極的に推進すべき	安全、安心した道路整備を望みます。危険な道路が多いと思う。公的機関の投資が多くなるので、優先度を決めてお願いしたい。山口の近辺は人口が少ないので優先度は低いですね。
⑤積極的に推進すべき	狭い道には苦勞をさせられているので、ぜひ推進してほしい。
⑤積極的に推進すべき	これは是非、推進してもらいたい。ただし、車の利用者にとってデメリットが発生しないよう工夫する必要があると考える。



## テーマ5 『移動から考えるゼロカーボン』の施策の優先度

選択	自由意見
18. 自転車・徒歩での移動を促進する	利点も課題も多く悩みました。
18. 自転車・徒歩での移動を促進する	所沢はシェアサイクルできる場所が少ないので、まだまだ増やしてほしい
18. 自転車・徒歩での移動を促進する	誰でも取り組める
18. 自転車・徒歩での移動を促進する	移動は簡単で、誰でも出来るところから取り組みがいいと思います。誰でも、安全、安心で移動出来る取り組みで、皆健康になればいい。
19. バスの利用を促進する	ところバス・ワゴンは導入されていれば個人で出来る最初の行動となり得る。
19. バスの利用を促進する	西武グループや JR とうまく連携して推進して欲しいです。
19. バスの利用を促進する	移動手段がない不安から車が手放せない人も多いと思うからです。バスが便利に使えれば車の必要がない。高齢者も安心だと思います。
20. 自家用車を使わなくてもよいまちづくり	車に乗らなくてもいい生活を目指したいが現実的に考えると車を手放すは難しいと思う。
20. 自家用車を使わなくてもよいまちづくり	福祉の観点からも必要なことだと思う
20. 自家用車を使わなくてもよいまちづくり	何度も言いますが、未来的思考です。未来に生きる人達の為に準備を始めなくてはなりません。
20. 自家用車を使わなくてもよいまちづくり	日本は自動車税が高かったり、高速道路が未だに有料であったりと、現時点で既に自動車に対する冷遇は諸外国よりも激しいと思います。一方で、个体蓄電池やバイオ燃料など、気候変動対策の為に技術への投資は極端に薄弱であり、技術的に欧米や中国など諸外国に取り残されていく状況にあって、これは大変危険であると感じます。 所沢市が他の市区町村に率先垂範するように、駅周辺のマイカー交通規制やバイオ燃料プラントの誘致に取り組んでみるというのはいかがでしょうか。もし成功すれば、交通渋滞による無駄の削減やエネルギー自給率向上に大いに寄与できると思います。
20. 自家用車を使わなくてもよいまちづくり	高齢の親と住んでいますが周りのスーパーがほとんどなくなり、今一番望んでいることだから
21. エコ車両の利用とエコドライブの促進	これから車を買う人になるべく電気自動車を買ってもらえるようにすれば、時間を重ねるにつれてガソリンの使用量を減らせると思います。
21. エコ車両の利用とエコドライブの促進	自分自身が車が好きだから、どうしても車なしの生活はできない、、補助金を充てて購入できる価格であればすぐにでも購入したい！
22. 輸送の削減と効率化を図る	アマゾンが毎日くるのは経費が大変。腐らないのであればまとめて配送もよい

22. 輸送の削減と効率化を図る	AI を活用した効率的な配送ルート設定や、複数の宅配業者が共同した地域別の集配所を設け、協同して配達できるようにする。
23. 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める	安全な生活が送れて初めて、エコな生活を意識できると思います。優先順位として、まず市民の安全を確保してもらえるとうれしいです。
23. 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める	外で走るのもできないほど狭い歩道、人間もすれ違えないし、チャリも、道が狭くて車道は危ない。イベントごとに詰まる渋滞、エコをする前提にすらたどり着けてないので直してほしいです。
23. 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める	安全な道路整備によって 18 番の自転車・徒歩での移動を促進することができるのではないかと思ったため
23. 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める	歩きやすい街なら歩く人が増えるのではないかと思うため。
23. 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める	地球に良い+ヒトにも良い が街の魅力度向上にもつながると思います。
23. 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める	環境もそうだが、交通事故も怖いものである
23. 自転車や徒歩でも安全に通行できる道路整備を進める	内容がシンプルで全ての市民にとってメリットがある施策であるため。

## テーマ6『地域での連携から考えるゼロカーボン』

### 施策24. 地域の連携をまちづくりに生かす

高齢者や小中学生、自治会等が連携して、ゼロカーボンのまちづくりを進めていく。例えば、高齢者や小学生といった交通弱者の意見を反映して歩道や自転車道を整備したり、自治会と農家の連携により貸農園を拡大するとともに、遊休地での太陽光パネルの設置等を進める。

選択	自由意見
④推進すべき	歩道の振動発電は楽しそう。
④推進すべき	貸し農園は自宅近くにあればマンションの方など使用する人は多いと思う
④推進すべき	芝生・緑地化は周囲の砂による汚染が減り洗濯、掃除が減るという間接効果も期待できそう。
④推進すべき	ゆとりのある街づくりになると思う。
⑤積極的に推進すべき	地元の小中学校を出た友人たちが「家賃が安いから」と入間市や飯能市へ引っ越していきます。都心にやや近いという理由で、清瀬や成増も人気です。公立の小中学校を出た子どもが、いざ大人になって他の市で納税しているというのは、市としては痛手ではないでしょうか。 子どもの頃から「所沢市の一員である」という地元意識を育てることで、市民の地域参加が世代交代に合わせて循環していくと思います。
⑤積極的に推進すべき	所沢市民にいつも使う道路をどうしてほしいかの調査を行ってほしい。全体図から都市計画をたて、順次整備に向けてください。 「緑の条例」も良いですね。
⑤積極的に推進すべき	さまざまな人の意見に声が傾けられる、声が大きい人だけでなく、声をあげない人からも意見がもらえる地域が理想。その場作りが重要。
⑤積極的に推進すべき	様々な年代や立場の人の意見が反映されると思う
⑤積極的に推進すべき	地域の連携がどこから出来るか。
⑤積極的に推進すべき	意見の反映は重要だと思う
⑤積極的に推進すべき	素晴らしい考えだと思う。ただし、自治会はボランティア活動なので仕事が増えることを嫌がるかもしれません。行政の旗振りに期待する。

## 施策 25. 教育を通じた連携を促進する

大人から子どもまですべての世代へのゼロカーボンに関する教育を充実する。大学生から小中学生へ、環境活動実践者から学生へ等、ゼロカーボンへの取組を、世代間や属性間で情報交換・教え合うことを促進する。生涯学習推進センターなどで「ゼロカーボン講座（仮）」を開催し理解を深める。また、例えば自動車学校でエコドライブ講習を行う。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	私が小学生のころ、総合の時間に学んだことはあまり覚えてないので、有効ではないのではないかな。
④推進すべき	市全体の積極的な取り組みの姿勢が必要
④推進すべき	学校教育から始めることで、世代的に長く続くのでは。
④推進すべき	子供が率先してやることにより大人として恥ずかしい振る舞いが出来なくなり結果大人にも浸透する
⑤積極的に推進すべき	学校だけで教えていると大人よりも子どもたちの方が詳しいという状況になり、子どもたちは「あんまり頑張ってやらなくてもいいのかな」と感じてしまうかもしれません。 大人も頑張っているよ、という背中を見せるためにも、大人向けの講習を充実させてほしいです。
⑤積極的に推進すべき	小中学校で取り上げる場合は、農業体験などの実際の体験を重視してほしい。また、各学年ごとにわかるように補助教材を作り、活かしてほしい。ただし、机上で学ぶだけでなく、「エアコンの電気はどこから来るのか」みたいな課題を学校図書館などを使って調べ学習してほしい。自分で課題をもって調べることで、しっかり自分事としてとらえる体験を積み重ねて欲しい。地域で世代間交流も大事だと思うが、なかなか難しい。
⑤積極的に推進すべき	子供だけではなく大人もみんなたのしくできそう。エコ・ドライブシュミレーターが駅とか市役所とかゲームセンターでやってエコ・ドライブシール出てくるとかなら楽しそう。車系のゲーム素体なんていっぱいあるからやろうと思えばできる。
⑤積極的に推進すべき	参加をどうやって促すかが、課題となりそうだが、大人単体では参加し辛い（家を放っておけない）が、子どものイベントや、行事への参加は前向き捉えられ、近年は参加率も高いと考える。そのあたりに組み込めると良さそう。
⑤積極的に推進すべき	子どもから学習することが将来に渡りゼロカーボンを推進する最大の効果と考える。
⑤積極的に推進すべき	地球に住めなくなるという危機感を、しっかりか学ばなくてはなりません。子どもの時から学び続ければ、誰でも当たり前のように自然に環境に配慮した生活を送るでしょう。
⑤積極的に推進すべき	社会全体が変わるためには、小さい時からの教育が大切
⑤積極的に推進すべき	会議に子供が参加しても良かった。（中学生～でも）
⑤積極的に推進すべき	ただし、社会の分断や間違った同調圧力の高まりにつながらなよう、細心の注意を払う必要がある。

## 施策 26. 地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する

行政、事業者、自治会、市民が連携して、ゼロカーボンについて啓発・広報する。例えば、行政と出版社が協力してアニメを使ってゼロカーボン活動について啓発・広報したり、自治会やマンションごとの CO2 排出量が見えるように関係者や企業が連携する。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	啓発アニメが面白くなるビジョンが見えない
②あまり推進すべきでない	広告宣伝は楽しいので、安易に進めがちだが、お金がかかる割に効果がみえない。それなら街づくりにお金をかけてほしい。
③どちらでもよい	見える化は悪者を作り出します。気をつけなければならない思考です。
④推進すべき	CO2 の見える化はよいと思う
④推進すべき	今後は当たり前前にゼロカーボンを取り入れていくことであり、メディアの協力は必須。
④推進すべき	角川の企業パワーを使えば、宣伝効果も高くなると思う。
④推進すべき	予算を抑え、工夫で勝負する取り組みだと思う。
⑤積極的に推進すべき	企業だけ、市だけ、市民だけ、どこかだけが突出して活動していると、空回りしているように見える危険があります。地に着いた企画を着実に進めているという印象を広く与えるためにも、連携は欠かせないと思います。自分のスキルを出品できる「ココナラ」や「クラウドワークス」といったサービスがありますが、それに近い場を市が設けてもいいと思います(掲示板のようなものでも構いません)。それぞれができることを提示し合って、お互いマッチングできるようなきっかけがほしいです。
⑤積極的に推進すべき	KADOKAWA 発信のアニメも楽しいし、何でもできることはやってみればよいと思う。そしたらご当地感あって面白い。
⑤積極的に推進すべき	ところん頑張れ。
⑤積極的に推進すべき	とてもいい広報ツールがあるので、あとは PR の仕方でしょうか。
⑤積極的に推進すべき	KADOKAWA のようなメディアに強い事業者と連携して市が取り組むゼロカーボン事業に関して発信していければと思います。

## 施策 26. 地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する

行政、事業者、自治会、市民が連携して、ゼロカーボンについて啓発・広報する。例えば、行政と出版社が協力してアニメを使ってゼロカーボン活動について啓発・広報したり、自治会やマンションごとの CO2 排出量が見えるように関係者や企業が連携する。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	啓発アニメが面白くなるビジョンが見えない
②あまり推進すべきでない	広告宣伝は楽しいので、安易に進めがちだが、お金がかかる割に効果がみえない。それなら街づくりにお金をかけてほしい。
③どちらでもよい	見える化は悪者を作り出します。気をつけなければならない思考です。
④推進すべき	CO2 の見える化はよいと思う
④推進すべき	今後は当たり前前にゼロカーボンを取り入れていくことであり、メディアの協力は必須。
④推進すべき	角川の企業パワーを使えば、宣伝効果も高くなると思う。
④推進すべき	予算を抑え、工夫で勝負する取り組みだと思う。
⑤積極的に推進すべき	企業だけ、市だけ、市民だけ、どこかだけが突出して活動していると、空回りしているように見える危険があります。地に着いた企画を着実に進めているという印象を広く与えるためにも、連携は欠かせないと思います。自分のスキルを出品できる「ココナラ」や「クラウドワークス」といったサービスがありますが、それに近い場を市が設けてもいいと思います(掲示板のようなものでも構いません)。それぞれができることを提示し合って、お互いマッチングできるようなきっかけがほしいです。
⑤積極的に推進すべき	KADOKAWA 発信のアニメも楽しいし、何でもできることはやってみればよいと思う。そしたらご当地感あって面白い。
⑤積極的に推進すべき	ところん頑張れ。
⑤積極的に推進すべき	とてもいい広報ツールがあるので、あとは PR の仕方でしょうか。
⑤積極的に推進すべき	KADOKAWA のようなメディアに強い事業者と連携して市が取り組むゼロカーボン事業に関して発信していければと思います。

## 施策 27. コミュニティでの取組を促進する

農家、地域の店舗、自治会、学校・学生、マンション管理組合などが協力し、ゼロカーボンに係る地域の活動を行っていく。例えば、多世代・多職種によるバザーでの衣類のリユースを行ったり、おしゃれなマルシェを立ち上げ、農産品の地産地消を進めるほか、自治会館等に移動販売車を招いての共同購入を進める。また、余った食品の分配を行い食品ロスを削減する。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	コミュニティのトラブルにつながらないか、十分な配慮がされなければならない
③どちらでもよい	地域との関わりが面倒。
④推進すべき	他県出身独身だと、コミュニティがないから推めてはいいと思うけど関わり合いがない気がする。
④推進すべき	自治会 PTA などの協力が必要
④推進すべき	所沢市は無人販売所のリーフレットを作るなど行っている。あとは周知の方法だと思う。
④推進すべき	地域コミュニティの活用
⑤積極的に推進すべき	今までも所沢市内で行われてきた地域参加の施策だとは思いますが、ぜひ世代別にプロモーションを打ったり、市の広報がエリアごとに特色をリサーチして発信したりと、市民像をより細分化して行なってほしいです。 「市のイベントが開催されているなあ」と思われているような状態だと、市のイベントに参加するのが好きな人たちが、連続で参加するだけになってしまいます。「このイベント行ってみたい」という気持ちを引き出すために、よりターゲットを絞って複数の施策を開催してほしいです。
⑤積極的に推進すべき	習志野市で地域住民が公園（ひろば）の集まった世代の交流をしながら楽しむ企画をしていると聞いたことがある。椿峰でも一時同じようなイベントを企画していたことがあったが、コロナのため続いていない。 コロナの様子を見ながらだが、そのような取り組みを紹介し、地域の人たちが集う場を設定する。お互いに知り合いになる。その中で、ゼロカーボンの視点を共有する。みたいな少しずつ段階を踏まえた取り組みをしていけるようになると良いと思う。やはり、広報が必要。
⑤積極的に推進すべき	今回のような市民会議をまた新たなメンバーで開催してみても良いのでは？
⑤積極的に推進すべき	オシャレなマルシェ。明るい街づくりにと楽しい体験がゼロカーボンにつながると最高です！
⑤積極的に推進すべき	みんながみんなコミュニケーションを取りたいわけではない。
⑤積極的に推進すべき	実現を強く望む。ただ、旗振り役がイメージできない。まずは、小さな成功体験をつくる手助けを行政に期待したい。

## 施策 28. マチごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る

高校生、大学生、高齢者といった複数の世代が参加・連携し、ゼロカーボンを進めやすいマチづくりを計画・実装するとともに、それを強化するため、ゼロカーボンに向けた取り組みを評価する機関・委員会を設置する。また、市民がゼロカーボンに取り組むために、事業者や行政に要望を伝えたり、地域の多様な主体が対話を通して一緒に活動を考えたりする場を作っていく。

選択	自由意見
①全く推進すべきでない	高校生の身から言わせてもらうなら、結構忙しいのであまり参加できる人はいないと思う。
③どちらでもよい	意見が発散しないようにするにはどうするのか？
④推進すべき	どういう方向で何をしたいのかっていうのをみんなで、共有するのは大事だと思う。で、各々何ができるかって問題は人や企業にもよるものだと思うから『指針』の明確化は必要かと。長期、短期、中期とかはあると思うけど。
④推進すべき	市民だけでなく専門的な知識も必要。建築家・行政・自治会・PTA そのかたたちの同席必要
④推進すべき	対話の場作りは重要？
④推進すべき	専門知識を持った委員会がPDCAを考えてそのサイクルを回すことが必要。
④推進すべき	恒久的な組織ができ、評価する取り組みができるといい。
⑤積極的に推進すべき	環境問題は誰がどれだけ寄与したか分かりづらいので(自分のおかげで地球温暖化がストップしたんだとは誰も言えないと思います)、どうしても「取り組んだ」→「頑張った」という感覚値での感想だけが残ってしまう気がします。 特に市民たちだけでスタートする企画は、数値のカウントなどが厳密にできず、感覚に寄ったものになっていく恐れがあります。 感覚にフォーカスした企画は感動を誘う演出や達成感を稼ぐ方向に迷走する心配があり、その手の企画がどれだけ盛んになっても、いまいち信頼できなくなってしまいます。 市の方で取り組みを評価する機関や委員会があれば、どれだけ市民が活動を行っても秩序が保たれ、安心して取り組みを行ったり、応援することができます。ぜひ設置してください。
⑤積極的に推進すべき	少しずつ、少しずつ進めないと、あまり頑張ってやるとやっている人が地域で浮いてしまう。だけもついてこないことにもなりかねない。これは実に難しい問題です。
⑤積極的に推進すべき	これこそ行政が主体となるべき施策。
⑥わからない	経済特区をつくり、実際に生産・販売・消費というサイクルを試行錯誤しながら(パイロット経済システムとして)かたち作っていくことと思う
⑥わからない	そういった場を作るのはいいことだと思うが、評価となると市民レベルでは限界がある



## テーマ6 『地域での連携から考えるゼロカーボン』の施策の優先度

選択	自由意見
24. 地域の連携をマチづくりに生かす	様々な人が力を合わせなければ改革は進まないだろうと思うため。
24. 地域の連携をマチづくりに生かす	直近の課題だと感じたから。
24. 地域の連携をマチづくりに生かす	どれもいい取り組みですが、緑の条例を策定するだけで満足するのではなく、どうやって活用し、恒久的に継続して取り組みを進めるために、あらゆる手段を市民、企業等と連携し活動することが大切だと思います。これが始まりで、長く続けることができますように。
24. 地域の連携をマチづくりに生かす	一部の人のみ会議で決定してしまうと、そうでない人にとって生きづらい街になってしまう恐れがある
25. 教育を通じた連携を促進する	それには、管理職の意識改革も必要です。 でも、これからの時代を生きていく子どもたちが自分事としてとらえなければ、「生きていくことが困難」な地球になるかもしれない。長い目で見た教育改革は必須だと思います。 頑張って書きました。疲れました。ふう。
25. 教育を通じた連携を促進する	駅にエコ・ドライブシュミレーターあったらやりたいなあ…と心のなかで盛り上がった。
25. 教育を通じた連携を促進する	ゼロカーボンについて正しい知識を知らないと実践へと移すことが難しいのではないかと考えたため
25. 教育を通じた連携を促進する	まずは未来を担っていく若者たちに今の現状を知ってもらい、改善するためにはどうしたらいいのか、ということを考える機会が必要だと思いました。 様々な施策を行うのはそれからののかな、と思いました。
25. 教育を通じた連携を促進する	どれも必要だと思います。が、未来のために考えると、ゼロカーボンを当たり前にしていく教育が早い段階で必要だと思いました。
25. 教育を通じた連携を促進する	子どもたちの認識を変えることが大切
25. 教育を通じた連携を促進する	子どもの意識を高め、現在ゼロカーボンの為にやっていることが、加速度的に広がることを期待する。
25. 教育を通じた連携を促進する	地域やコミュニティでは参加する人とならない人 ばらつきがでると思う、参加する人は元々意識が高いのでは？学校での活動なら興味の有無に関わらず皆が参加するので。
25. 教育を通じた連携を促進する	知らないのと知っているのでは、取り組みに違いが出ると思うので、教育は、大事
25. 教育を通じた連携を促進する	是非未来を生きる子供たちに知らせてあげたい。子供たちの新発想で色々な知恵を探り出して欲しいからです。

<p>26. 地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する</p>	<p>ゼロカーボンと直接は無関係ですが、地域連携とまちづくりという漠然としたテーマに関連して意見があるのでここに記述します。</p> <p>所沢市並木にある環境省の事業施設では、放射性物質の管理に関する実験を行うと聞きました。私が居住する、防衛医科大学校の学生舎の隣です。</p> <p>私はこれについて特に反対などはしませんが、詳しい説明もなくコソコソ実行に移されていることに若干の憤りを覚えます。もしこれが県内や市内の別の市街地付近であったなら、近隣住民の反発やマスメディアによる糾弾は避けられないでしょう。私たち防衛医科大の学生はナメられているのでしょうか？或いは逆に、その気があれば市が住民の意見を無視して事業を展開できるということも示しているように感じます。</p> <p>このアンケートを集計してくださっている職員の方を不快にしてしまったら大変申し訳ありません。私は誰を非難すべきか分かりません。ともあれ、所沢市の強力な公共事業実行力と誘致力、そして他の自治体に先んじるリーダーシップに最大限期待致します。</p>
<p>26. 地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する</p>	<p>ゼロカーボンを目指すならもっと多くの人に周知しないと達成できないと思います。</p>
<p>26. 地域連携でゼロカーボンへの取組や活動を広報する</p>	<p>アニメを使えば幅広い世代に知ってもらえるし、内容もずっと入ってくると思います。</p>
<p>27. コミュニティでの取組を促進する</p>	<p>繰り返しです。明るい街づくり+楽しい体験がゼロカーボンにつながるようにできると良いと思います。</p>
<p>28. マチごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る</p>	<p>企画そのものはやる気のある人が集まれば勝手にできてしましますが、体制づくりは市がやらねばならないことだと思ったので、28を選択しました。</p>
<p>28. マチごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る</p>	<p>もっと大きくまきこんでやっていきたい。大きい波をつくる。やがて国へ</p>
<p>28. マチごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る</p>	<p>市民への訴求効果が高そうだから</p>
<p>28. マチごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る</p>	<p>推進するには中心となる会議体や委員会が必要で。有識者だけではなく、アイデアを自由に出したり、市民感覚で考えたりする人達が加わる事が大切だと思います。</p> <p>是非、私は加わりたいと思っています。</p>
<p>28. マチごとゼロカーボンを協働で進める体制を作る</p>	<p>実現性が高く、柔軟な発想や施策の選択につながる取り組みにみえる。</p>





**ZERO**

**CARBON**

**CITY**

**TOKOROZAWA**